

昭和・平成時代

[Showa and Heisei Era]

1926年（大正15年） 12月25日大正天皇没，昭和元年となる。

1927年（昭和2年） 志岐郡内の旅館と旅行者について志岐郡勢要覧¹⁹⁾に次の如くある。

旅社	郷ノ浦	勝本	蘆辺	瀬戸	印通寺	湯ノ本	計
旅人宿	9	5	5	2	3	2	26
木賃宿	1	1	1	0	1	1	5

旅人数 8,503

また，名所古蹟の項にも湯ノ本温泉が掲げられている。

名称 湯ノ本 所在地 鯨伏村 説明 湾景佳趣ニ富ミ温泉アリ保養ノ地ニ適ス

1928年（昭和3年） 12月，昭和天皇即位の式典（御大典）を記念して，湯ノ本青年会は「御大典奉祝芝居」を催した。

写真32 御大典奉祝芝居 主催湯ノ本青年会



昭和3年12月，長谷川安一ほか俳優数28名，千石莊蔵

1929年（昭和4年） 熊野神社再建落成。ニューヨーク株式市場で株価が大暴落して世界大恐慌（経済不況）が始まった。

1930年（昭和5年） 鯨伏村駐在所建設。湯ノ本浦元農協煙草収納場（現保養温泉センター所在地）に9月起工，11月竣工した。工費1,400円，村費300円，残額は村内一般有志の寄付による。²⁰⁾ 辻川温泉が温泉分析を行った。泉温58.1℃，含鉄-食塩泉であった。

19) 長崎縣壹岐支廳：昭和貳年壹岐郡勢要覧（1枚もの），昭和3年5月刊，長崎図書館蔵

20) 長崎縣史談会：長崎縣郷土誌，全963p+318p，（1933年），長崎図書館蔵

1931年（昭和6年） 中国東北部で柳条溝事件が起こり満州事変となった。翌年3月1日に関東軍は「満州国」の成立を宣言、終戦まで続いた。日本の戦争体制は急速に強化されて行った。

1933年（昭和8年） 長崎縣郷土誌²⁹⁾が発行された。この中の名勝之部に「湯の本温泉」がある。

『湯の本は壹岐の西海岸にある。深く灣入し数多の小島を浮べ陸前の松島に似て其の風光は一幅の油絵の如く殊に夕陽波に漂ふの光景はまさに我を忘れる程で、眞に山紫水明の境とだゞへられ遊覧地であり又保養地である。温泉は三ヶ所で^{レイサンカン}燧泉館、^{カイコウカン}海老館、^{ツカミキセン}高峰温泉と云ひ。共に含塩鑛泉であって諸種の病氣に内服又は外用として特効がある。』

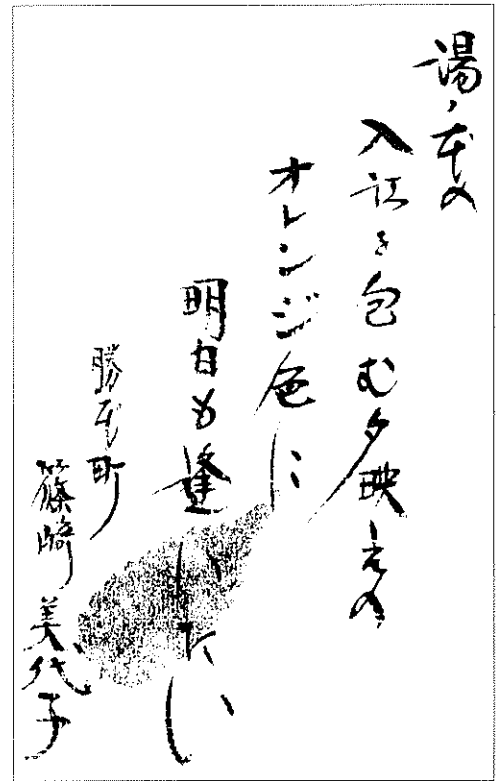
西に海と面する湯の本温泉の風光は落日時が最も美しく見る人々の心をうつ。この美しさは文章では表現出来ないものがあり、勝本町の篠崎美代子は右の如く詠んだ。

1934年（昭和9年） 旧湯を湯本の有志の共同経営としていたが、産業組合は昭和9年2月に新しく源泉を掘削し240尺（72.7m）、泉温67.5℃、湧出量1斗6升（28.8ℓ/分）を得た。しかし、この共同経営も順調には進まず、産業組合は旧湯を石田村の平山末継に売却した。

平山は3男長利に経営させる予定であったが、日中戦争に長利が出征したので山上依網に経営を委託した。（平山旅館資料）

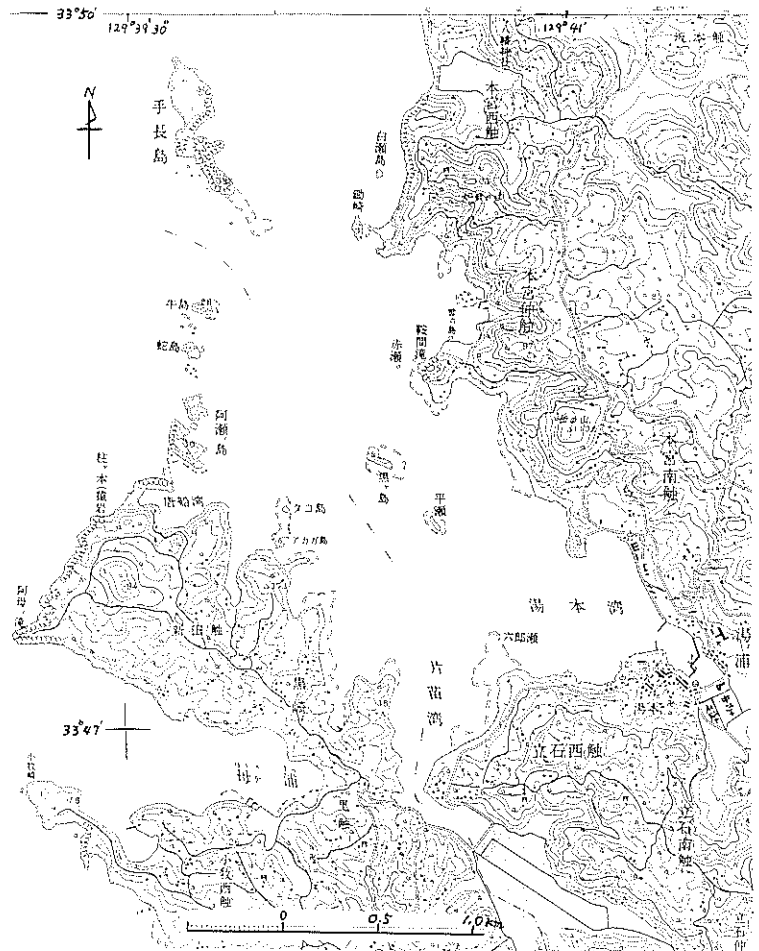
3月1日、湯本浦郵便局が電話交換業務開始。

1935年（昭和10年） 海老館が温泉分析を行った。泉温67.2℃、で含塩化土類、明ばん、緑ばんー食塩泉であった。湧出時は透明な温泉水であるが暫くすると鉄分（緑ばん）が酸化されて赤褐色の温泉水となる泉質である。



中上章代 書

図18 壹岐島・湯本湾の島々



旧湯の経過

明治初年頃、観世音寺住職の鉄印和尚が鯨伏村の土地割当の代償として旧湯温泉を貰い受けた。この当時は自然湧出のまゝで人々は利用していた。そのうち囲を設けて入浴する様になった。

原延一（1994年2月86才）によると旧湯は浴槽は1つで男女別に一応分けてはあったが仕切の下は子供が潜って行き来していた。霊泉館の入湯料は1銭であった。そのうち湯がぬるくなったのでボーリングした。

湯ノ本には自然湧出が3カ所あった。旧湯と現在のあずまや旅館うらの堺屋房太郎宅の所、海浜の方福荘あたり。海水浴のあと砂を掘り暖かい水溜りをつくり浴びていた。昔はあずまや、下石荘、白川重家の前が本通りであって、それから前は海浜であった。

観世音寺の養嗣子・長谷嘉助の代に旧湯・霊泉館を借金の抵当として鯨伏村産業組合（現在の農協の前身）から金を借りたが返済出来ず所有は同組合となった。同組合は湯ノ本の有志に経営を委託した。

1936年（昭和11年）『豊岐郡要覧』²¹⁾に島内の状況説明があり、名所舊蹟に次の如くある。

『湯ノ本温泉 鯨伏村湯ノ本

写真33 昭和初期の湯ノ本港と海老館

更正館、海老館、高峰温泉、辻川温泉の四ヶ所あり。速く神功皇后の頃より湧出せしものゝ如く附近一帯は風光明媚なり。』

これ以外の記述は、住吉神社、新城神社、老岐神社、嶽ノ辻、亀尾城跡、国分寺、安国寺ト大杉、鬼の岩屋、俳人曾良ノ墓、眞邊訓導殉職ノ碑、八幡屏風岩がある。

また、老岐島からの海上交通は現在とは比較にならない程に不便であった。但し釜山行がある。

『海上』

陸丸 博多行 毎日午前二時 厳原行
毎日午後五時半

博丸 長崎、佐世保行 毎月五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日、午後十一時

厳原、釜山行 毎月二日、七日、十二日、十七日、二十三日、二十七日、午後七時

太古丸 長崎行 毎日午前九時五十分出帆

壹岐丸 呼子唐津行 毎日午前八時出帆（一往復）』

老岐島では部落の形態に特徴があり次の如く述べている。

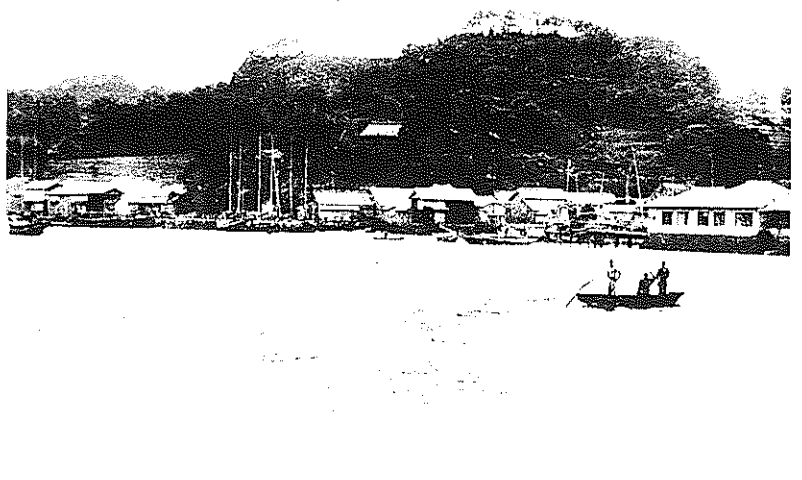
『戸口 戸数 七、八八七戸 人口 四二、一〇三人（昭和十年末現在）』

人口の密度は一方里に付四、六九五人に當り比較的稠密なるを以て郡外に轉出する者多く就中朝鮮方面に向ふ者最も多し。人家は在部（農村）と浦部（市街又は漁村）とは自ら其の趣を異にし、浦部は人家 頗る稠密にして、在部は總て人家點在し相近接せるもの稀なり。古來在部の宅地は南面に畑地、東北西の三面に山林を圍をすることを必要条件とし、斯る場所に非ざれば宅地と為さざりしと言ふ。』

厚生、福祉について述べている社会事業の中に医薬品購入について鯨伏村のみの説明がある。

『賣薬統制』

共同購入に依る價格の低下により庶民階級の醫藥費負擔軽減の必要を認め鯨伏村に於ては各賣薬業者と交渉の結果、奈良縣高布郡高取町宮本延壽堂と賣薬普通價格の七割減と不用薬一ヶ年毎に新薬との無料引替の契約を結び、昭和六年



21) 長崎県老岐支庁：老岐郡要覧，全31p，昭和11年4月発行，長崎図書館蔵

三月十三日以降同村信用組合をして実施せしめたるに其の成績極めて良好なり。普通價格 七三七、三〇〇円、契約價格二二一、一六〇円』

産業については沓岐島の商工業を次の如く述べている。

『商工業

郡内商業地としては郷ノ浦（武生水町）、勝本（勝本町）、芦邊（田河村）、瀬戸（箱崎村）、印通寺（石田村）、湯ノ本（鯨伏村）の六ヶ浦にして主として郡内の需用品を供給する外特記すべきものなく、郡外との取引は概ね博多にして、大阪、長崎之に次で、金融機関としては武生水に十八銀行武生水支店、長崎貯蓄銀行武生水代理店、鯨伏村に壹岐共済貯金株式会社、箱崎村に壹岐産業株式会社及平戸無盡株式会社壹岐代理店等あり。

工業としては、清酒、焼酎、醤油製造の外鮑罐詰製造及造船等にして、其他、椿油、晷表の製造等あるも極めて小規模に属す。』

1937年（昭和12年） 北京郊外の名勝盧溝橋で日本軍は戦闘を開始し、北京、天津を占領して日中戦争となった。そして国内は軍事一色となって行った。

1938年（昭和13年） 産業組合経営の鯨伏村健康保険組合立・更正医院が開設された。

1940年（昭和15年） 10月29日未明、九州郵船の睦丸（520 t）は湯ノ本沖で座礁し沈没。6名死亡。

特別寄稿

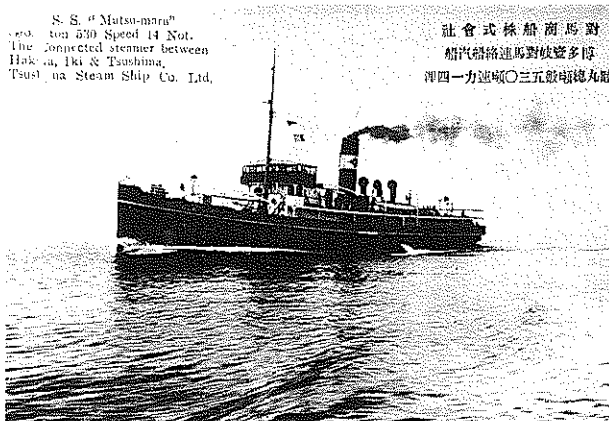
睦丸の遭難記

中上史行*

昭和15年（1940）といえば、太平洋戦争の前年である。日独伊三国同盟が結ばれ、戦時体制が強まるなかで、物価の上昇、物質の欠乏、さらには生活統制の強化などで、国民の不満が高まっていた時代である。

このようなとき、沓岐-対馬-博多の定期船が、湯の本港外で、座礁し沈没するという大事件がおきたのである。

写真34 睦丸



勝本町勝本浦 篠崎 勝 蔵

昭和15年（1940）10月28日、九州郵船所屬の睦丸（520.8トン）は、午後10時、対馬の厳原港を沓岐の郷ノ浦港にむけ出帆した。船内には27名の乗組員と、沓岐や博多へ行く船客67名が乗船していた。

29日午前1時頃、沓岐郡鯨伏村の湯の本港外にさしかかったとき、針路を誤り、手長島から西北200間の「三つ瀬」に座礁した。船底を大破したため、見る見るうちに海水が浸水し、約20分間で沈没した。

当時、海上は全くおだやかであっただけに、突然の重大事故に船内は一瞬にして阿鼻叫喚の修羅場と化した。暗夜の海中に投げだされた船客は、ブイや船体の破片にしがみついて漂流した。幸いなことに当夜は無風状態で、付近には多数の漁船が出漁していた。睦丸の非常汽笛を聞きつけて、遭難現場にきた漁船は、必死になって救助活動につとめた。

その結果、湯の本の漁船に収容された人は、乗客32名、船員16名、遺体3名、勝本の漁船に収容された人は、乗客28名、船員11名、遺体2名であった。行方不明1名は、厳原測候所長横谷寛氏であったが、手当のかいなく死亡した。死亡者は、嵯峨郡初山村初瀬・田内れい子（6）・田内とし子（3）ほか対馬の人4名である。つまりこの事故で、6名の犠牲者がでたことになる。

◎三宅船長の談話「実に申訳ないことをして、皆様に対し誠に相済まぬ次第です。会社と良く打ち合わせて最善の方法をつくしたいと思います。座礁当時、浸水がはなはだしく、応急処置も間にあわず、たちまちの間に沈没しはじめたので、ただちに人命の救助に全力をつくしました。私は、船客や乗組員全員が船から出るまで踏みとどまり、最後に海中に投げ出され、船の破片にすがって20人ばかりと共に漂流していたところを幸いにも救助をうけました。海上が凪いでいたのと、救助船が早くかけつけていただいたのは、不幸中の幸いでした。」（長崎日日新聞10月30日）

◎遭難した船客の談話「船室内で一同眠りについていましたが、突然ゴーという異様な物音と振動にびっくりして眼を覚しましたが、船の衝突だといひ、或いは座礁だという声で、一同デッキに上りましたが、たいしたことはないという声が聞えたので、また寝たりする人もいました。間もなく船内に浸水し、船は舳先から沈没しはじめました。危険が刻々と迫ってきますので、いよいよこれが最後とばかり、救命袋をもとめて身につけるやら、老人に付けてやるやらしているうちに15分か20分の間に船は全く沈没してしまいました。もうこの時ばかりは最期だと腹をきめて真暗い海中に投げ出され、死にもの狂いで海岸まで泳ぎつこうとがんばったのです。救いをもとめる声、すがりついてくる人たち、真に死魔の海とはこのことでしょう。30～40分漂流していると、幸いにも救助船がきてくださって、九死に一生をえたわけです。幸い生命は助りましたが、死んだお方は気の毒千万です。あの惨状は、思い出しても震へるばかりです。」（嵯峨日報11月1日）

◎救助者の松田格三郎氏（湯の本）の談話「湯の本に入る船だと思っていましたが、だんだん船は私共の漁場に近寄ってきますので、これは危いと、マッチを点ずるやら、船灯をさし上げたりして、私共の船の所在を示したのです。そうするうちに「ゴー」という音と共に、船の灯火が見えなくなると非常汽笛が鳴りだしたので、スワこそと馳せつけてみましたら、漂流中の人や、浅瀬に上っている人たちが、救いをもとめて泣き叫んでいました。私共は、無我夢中で救助に全力を傾けたのでした。」（長崎日日新聞10月30日）

平成6年（1994年）11月、次の人たちから睦丸事件について話を聞くことができた。

◎篠崎勝氏（勝本浦）の話「当時、私の家は勝本港の汽船問屋をしていました。10月29日の早朝から、漁船が続々と入港し、救助した船客を運んできました。なかには、人工呼吸をつけている人もいました。救助された船客や船員のお世話には、勝本警防団をはじめ女子青年学校、勝本小学校、婦人団体の人々が中心になって、塩水に浸った衣類の洗濯や炊出しなど、献身的に活動していました。収容先は、旅館のつたや、出雲屋、その他で休んでおられました。犠牲者となった初瀬の田内れい子さんとし子さん姉妹のお墓は、能満寺の境内につくられました。その後、今日まで身内の方がお参りにみえます。」

◎長峰豊子さん（布気触）の話「当時、私は長女の出生のため、厳原の実家に帰っていました。姑である長峰エキが、長女誕生のお祝いに厳原まできてくれました。1週間ほど滞在して、10月28日の夜の睦丸で帰りました。睦丸沈没の連絡は、私の家族にはあったそうですが、産後の私には教えてくれませんでした。姑のエキは暗夜の海上でブイにつかまって漂っていたところを漁船から救助され、湯の本の海老館に収容されたという話を後日聞かされました。長峰エキは、昭和44年に、84歳で亡くなりました。」

◎申上章代の話「今から二十数年前、東京の小金井郷土館に息子と二人で見学に行った時のことです。館内を見学していると、老人の方が息子（当時小学4年生）にどこからきたのか尋ねられました。長崎県の嵯峨からと答えますと、嵯峨といえば、

写真35 睦丸事件で遭難した田内姉妹の墓



田内れい子・とし子姉妹のお墓です。勝本の能満寺の境内にあります。

私には生涯忘れられない思い出があるという話をしてくれました。それが陸丸遭難の事件だったのです。その方は幸運にも救助されて、海老館という所に収容されたそうです。そして、湯の木の温泉に入ったとき、地獄から天国へきたとは、まさしくこのことだなと思ったこと。そして、あの時、它岐の方々から親切に介抱していただいたことは生涯忘れませんと、話をしてくれました。』

※このほか、陸丸遭難に関して数名の方から話を聞くことができたが、話の内容が重複するので、割愛した。』

昭和15年発行された「長崎縣案内」²²⁾に湯ノ本温泉について次の如くある。

『湯の本温泉

郷之浦より勝本に通ずる縣道の中間、鯨伏村の立石より左折すること一里弱にて、同村の湯の本と稱する海に臨んだ小邑に達するのである。此の地古來温泉が湧く、含塩質で胃腸病、肺結核、痔疾に特効があり、島内稀有の景勝地で、入浴者常に絶えないのである。』

1941年（昭和16年） 3月に「日本温泉大鑑」²¹⁾が出版された。長崎県内の温泉も記載されている。

丸田（鉦）、道之尾（鉦）（長興村）。入船（鉦）（時津村）。湯無田（上波佐見村）。與崎、田平（大村町）。小濱、雲仙（小濱町）。田の浦（鉦）（平戸町）。荒川（玉之浦町）

湯の元（本） 壹岐郡鯨伏村大字立石西觸、位置海岸、地質 玄武岩多孔質、源泉数 5、湧出量 51840、泉温 45~67.2℃、固形成分 15.8~21.7 g

湯の元湯（旧湯のことらしい）

固形成分總量 13.76

食 塩	7.136 g	硫酸第一鐵	0.096 g
塩化石灰	1.312	硫酸礬土	0.256
塩化苦土	0.64	遊離硫酸	1.1756
石 膏	1.024	硼酸（メタ）	0.5918

泉質 硼酸、塩化土類、食塩、石膏及び明礬緑礬含有酸性泉

高峰の湯

食 塩	11.5584 g	石 膏	1.1244 g
塩化石灰	0.8203	硫酸第一鐵	0.0355
塩化苦土	4.2934		

泉質 塩化土類、石膏及緑礬含有食塩泉

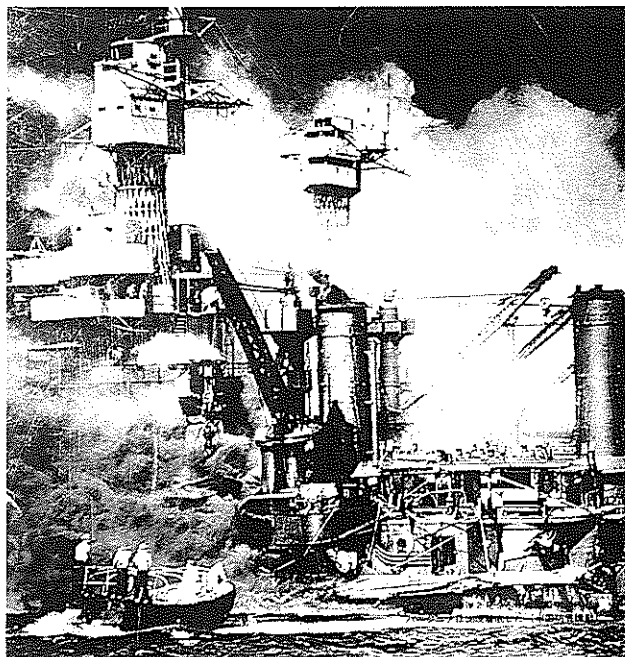
海老館の湯

食 塩	12.2579 g	硫酸第一鐵	0.2383 g
塩化石灰	1.7405	硫酸礬土	0.6501
塩化苦土	0.8423		

1941年（昭和16年）12月8日 我国は米・英に対して宣戦を布告し太平洋戦争へ突入した。この戦争は、国力が劣る我国が悲惨な敗戦へと向うのであった。

1942年（昭和17年） 長山旅館には公衆浴場と貸間の建築許可申請を1月30日に武生水警察署に提出した書類がある。

写真36 真珠湾攻撃



毎日新聞社「一億人の昭和史」第4巻 4p

※) 松山慎二：日本温泉大鑑，272~273p，(財)博文館，(1941年)，国会図書館蔵

22) 長崎県：長崎県案内，全376p，1940年（昭和15年），島原図書館蔵

昭和十七年一月二十九日

壱岐郡鯨伏村大字立石西触四八三番地

建築主 長山仁十郎

長崎縣知事殿 建築申請

敷地位置 壱岐郡鯨伏村大字立石湯野本浦四三番地一

工事種別 新築 用途 温泉浴場及貸間

申請理由 現在当地一般公衆用温泉浴場不足ニ付今回右建築場所ニ試掘致シタル処、高度ノ温泉湧出タルタメ公衆用温泉浴場及貸間建造スルモノナリ

設計ノ概要 木造瓦葺二階建テ一棟、浴場ハコンクリート仕上。階下間口10.99m奥行9.99m 階上間口10.99m
〔奥行4.95m〕

この申請は5月4日付 建第283号で許可證が出された。階下は男湯、女湯で階上は4.5畳×2間と6畳1間であった。
1944年（昭和19年） 太平洋戦争の最中であつたが、長山旅館は福岡化学試験所で温泉水の分析を行った。

『報告

長崎縣壱岐郡鯨伏村湯ノ本 依頼者 長山仁十郎

一、温泉 壹

本供試品ハ前記湯ノ本ニ湧出スル温泉ニシテ其泉源ニ於ケル温度ハ摂氏五八.二度ヲ示スト云フ

本所ニ送致サレタルモノハ無色澄明ニシテ殆ド臭氣ナク味ハ苦鹹ナリ比重ハ一.〇一二、反應ハ中性、其一リットルヲ蒸發スレバ約一五.ニグラムノ残渣ヲ留ム

今之レガ化學的分析ヲ行ヒ其成績ニ基キ每一リットルニ對スル含量ヲ算定スルコト左ノ如シ

カチオン		アニオン	
カリウムイオン	0.3260 g	クロールイオン	8.4877 g
ナトリウムイオン	4.6357	ヒドロ硫酸イオン	0.7683
カルチウムイオン	0.4707	ヒドロ炭酸イオン	0.1900
マグネシウムイオン	0.2466	ブロームイオン	0.0372
フェロイオン	0.0174		

其他

メタ硼酸 0.1408 メタ珪酸 0.0520 及痕跡、「ヨード」ヲ檢出ス

以上の成績ヲ綜合シ之レヲ考量スルニ本供試品ハ其1リットル中左記分量ノ諸成分ヲ溶解シタル水溶液ニ相當ス

臭化ナトリウム	0.0479	重炭酸鐵	0.0552
塩化ナトリウム	0.9098	重炭酸マグネシウム	0.1824
塩化カリウム	0.6247	硫酸カルチウム	1.0884
塩化マグネシウム	0.8518	其他	
塩化カルチウム	0.4194	メタ硼酸	0.1408
メタ珪酸	0.0520		
計	15.3724 g		

尚ヨードノ痕跡ヲ含有ス 以上

昭和十九年七月二十八日 福岡化学試験所』

1944年（昭和19年） 6月16日、在華米軍の爆撃機B24、B29の編隊20機余が壱岐上空を通り北九州を初めて爆撃した。8月20日、B29の80機が北九州を爆撃した。空襲後退避するB29の2機を日本の戦闘機が追撃し、午後5時頃壱岐上空で空中戦となり1機を撃墜した。乗員は落下傘で脱出、機体は初山村若松に墜落した。乗員2名は墜落死、6～7名は逮捕された。²³⁾

10月1日、武生水町に長崎県武生水保健所が設置された。(なお1955年3月8日に町村合併に伴い壱岐保健所と改称した。)

1945年(昭和20年) 旧湯(平山)は旅館と公衆浴場の改築計画をたて県の許可を昭和17年に得ていたが、太平洋戦争中で資材、労力がなく浴場のみを昭和19年3月から工事に着手、旧浴場を解体し昭和20年4月に完成、5月から営業を始めた。

戦争中の鯨伏村の様子については勝本町郷土史(鯨伏編)²³⁾に次の如く記している。

『鯨伏における戦時中の様相は他村と同じく、たゞ戦争に勝つため、お召しがくれば勇躍征途に向う。その人の武運長久祈願祭に、見送りにと走り、残った者で一粒でも多く食糧の増産、供出に協力し合った。

宮々では月の8日必勝祈願を行い、又、飛行機を飛ばすために松根を掘り、松根油の供出に努めた。一方、空襲に備えて老いも幼きも防火、避難訓練、防空壕掘りをした。更に婦人、学童まで戦意の昂揚と敵の奇襲に備え竹槍訓練が行われ戦そのものの生活が続いた。

昭和20年になると度々空襲警報が出るようになり密集部落の屋上高台には常時監視人が交代で立てられ、農・漁等本来の仕事は相間仕事になってしまった。

7月31日午前10時、六郎瀬を艦船と見あやまった米機数十機は東北方上空から急降下し機銃掃射を繰返した。布気上場から鯨伏小学校附近は葉莢が落下、人々の驚きは大変なものであった。丁度、学校は授業中で、すわ退避と平素の訓練通り壕や溝に走りこんだものゝ、いざ頭上に敵機が舞うと子供達は風切る爆音の下、泣き叫び筆舌に盡せぬ様相を呈した。』

日中戦争(昭和12年)以後に軍人軍属として出動した数は513名であった。戦死者は陸軍77名、海軍30名であった。

戦況は益々不利になり6月23日には沖縄が占領されて住民及び兵隊26万人が殺された。8月6日、広島市に原子爆弾が投下され、更に8月9日には長崎市にも投下され、8月15日に無条件降伏し太平洋戦争は終わった。約260万人の国民がこの戦争で殺された。終戦後は海外からの引揚、食糧その他物資不足、インフレが進み国民は苦難の道を進んだ。

1946年(昭和21年) 11月3日、日本国憲法が公布された。この憲法を基にして民主化が進められた。国内の食糧供給事情は悪く、栄養不良による病気、皮膚病が流行した。世情が落ち着につれて湯ノ本温泉には壱岐島内外からの療養客が来る様になった。

1947年(昭和22年) 長山旅館の営業許可書がある。

『長崎県指令食特第一八五三號

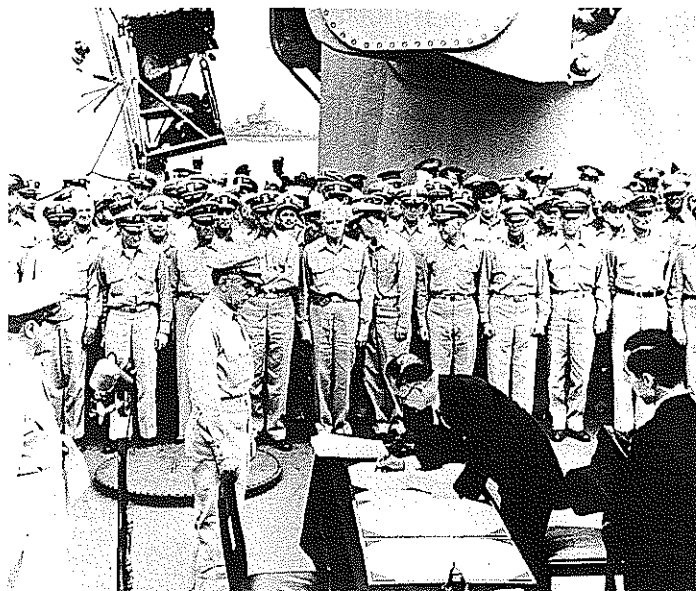
本籍 壱岐郡鯨伏村大字立石西触四八三番地

住所 同 大字立石湯ノ本浦四三番地ノイ

氏名 長山仁十郎

昭和二十二年七月二十九日申請された旅館営業は左記の条件を付けて許可する。

写真37 ミズーリ艦上の調印



毎日新聞社「一億人の昭和史」第4巻、234p

23) 郷ノ浦町役場：郷ノ浦町改史、195～197p、1975年(昭和50年)

24) 勝本町教育委員会：勝本町史(鯨伏編)、全220p、(1956年)

記

- 一、宿泊に伴う料理の外他の飲食物を客に提供してはならない
- 二、如何なる名義であっても、宿泊人以外のものに會食されてはならない
- 三、外食券による食事の提供を拒んではならない

昭和二十二年八月十二日 長崎縣知事印

終戦後の混乱期にも営業許可制度は機能していた。なお、許可手続はこの時までは戦前から引続いて警察署が担当していた。いわゆる警察衛生の時代であった。食糧不足はひどく旅行者は外食券を持ったり米を持ったりして出掛けねばならなかった。許可書に付記された条項は当時の様子を物語っている。しかし、現在の如く豊食の時代では理解することが難しい。12月24日 新憲法に基づいて食品衛生法が公布され衛生行政は武生水保健所へと引継がれた。

写真38 昔の長山旅館



長山旅館蔵

写真39 昭和30年頃の湯ノ本温泉（原延一撮影）



1948年（昭和23年） 7月10日に温泉法が公布された。更に7月12日に旅館業法が公布された。

海老館の温泉利用の継続届出書がある。

『温泉法第三十条第二項に依る届出

- 一、住所氏名職業及生年月日

壹岐郡鯨伏村大字立石西触白釘九十一番地五、湯屋業、旅館業 長谷川久吉（海老館）

二、浴用又は飲用の別 浴用並に飲用の両用

三、温泉湧出地 壹岐郡鯨伏村大字立石西触白釘九十一番地六

四、温泉を公共の浴用又は飲用に供しようとする場所 同右

五、温泉の温度並に成分及分析者名

温度 摂氏五八度

成分（1立中含存量） クロールナトリウム 12.257 g、クロールカルチウム 1.7405 g、クロールマグネシウム 0.8423 g、硫酸第一鉄 0.2883 g、硫酸アルミニウム 0.6501 g、分析者 不詳

右御届けします。

昭和二十三年十一月一日 長谷川久吉

長崎県知事殿』

同年11月1日付で平山温泉（公衆浴場）の男湯、女湯の温泉利用届が出されている。営業者は山上依網で、源泉所有者は平山長利となっている。源泉位置 勝本町立石西触77、源泉温度69℃、掘削許可は昭和9年6月26日である。

この届出は温泉法が新しく施行されるので従来から営業している者はそれぞれこの温泉利用届を出した。同日付のもののは次の3者である。

高峰温泉 白川キク 公衆浴場（男湯、女湯）簡易旅館の貸間に利用 源泉位置 勝本町立石西触200 所有者 同
源泉温度 56℃ 掘削許可 大正2年

辻川温泉 辻川徳衛 公衆浴場（男湯、女湯）簡易旅館の貸間の利用 源泉位置 勝本町立石西触121 所有者 同
源泉温度 56℃

長山旅館 長山仁十郎 公衆浴場（男湯、女湯） 源泉位置 勝本町湯ノ本浦43のイ
所有者 同 源泉温度 67℃

1949年（昭和24年） この届出に対して長崎県から次の温泉利用届済證が出された。

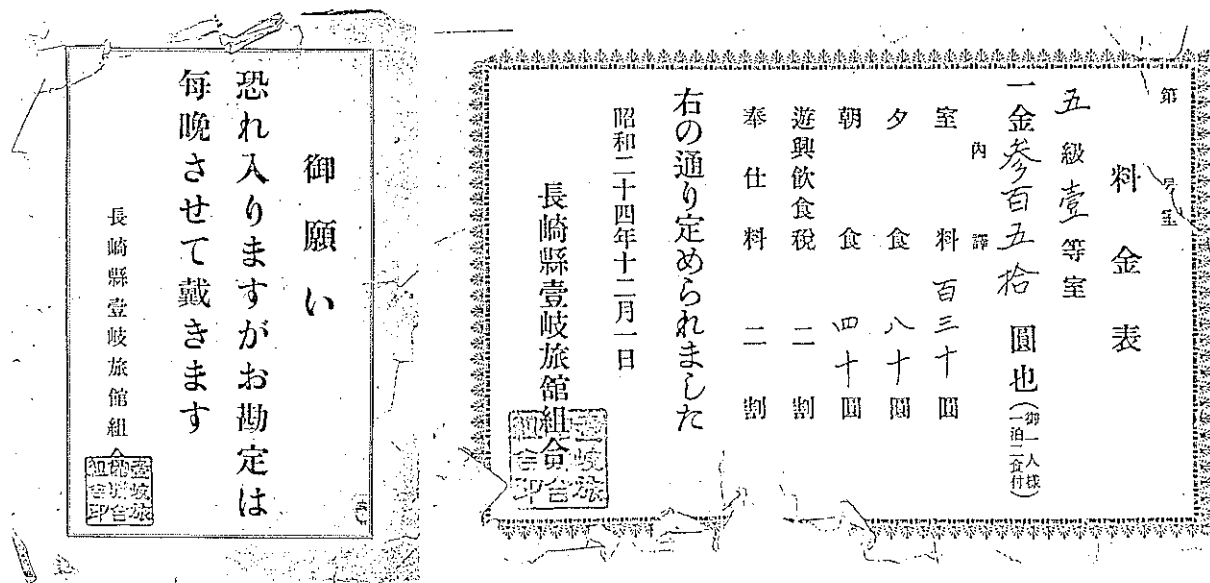
『公衆温第五〇號

温泉利用届済證

住所 壹岐郡鯨伏村大字立石西触白釘九一ノ五

氏名 長谷川久吉（海老館）

写真40 料金表と勘定のお願い（長山旅館蔵）



右の者は昭和二十三年十一月一日温泉利用（浴用飲用）営業届出済の者であることを証明する。

昭和二十四年九月十五日 長崎縣』

この当時の長山旅館の宿泊料金は次の如く1泊2食付350円（税込）であった。また、宿泊料金を毎晩支払ってもらった為の張紙がある。宿泊料の税金は20%であり遊興飲食税として課税されている。遊興飲食税は次の如であった。

遊興飲食税率（昭和24年8月1日改正）

1. 藝妓の花代 100分の150（附加税共）
2. 藝妓の花代を伴う遊興飲食又は宿泊の料金 100分の80（同）
3. 藝妓の花代を伴はない飲食店及び旅館における宿泊を伴はない飲食の料金 100分の50（同）
4. 宿泊及び寮、クラブ、その他これに類する場所の飲食料金 100分の20（同）

従って一般的にありうる税率の適用は次の通り。

(1) 飲食店（軽飲食店、土間飲食、喫茶店等）料金の100分の50

(2) 旅館の場合

イ、宿泊を伴はない特別料理（宴会）等については料金の100分の50（附加税共）

ロ、宿泊については料金の100分の20（同）

（備考）1994年（平成6年現在）県税としての遊興飲食税は廃止されており、宿泊・飲食には国税として消費税の3%が課税されている。なお、県税として特別地方消費税が1人1泊15,000円を超えるもの、食事代が7,500円を超えるものに3%課税されている。従って1泊料金15,001円以上と食事代7,501円以上のものには合計6%が課税される。

1950年（昭和25年）朝鮮戦争が始まり1953年（昭和28年）まで続いた。これによって国内は特需景気になり産業活動も活発化して戦後の復興へと進んで行った。長山旅館の等級認定書がある。この様に各旅館は等級分けをされていた。

『長崎縣指令物第二一八號

壹岐郡鯨伏村湯の本 長山仁二郎

昭和二十五年二月三日附旅館の級別客室等別の格上承認は左記の通り許可する。

昭和二十五年二月十一日 長崎縣知事

記

級 別	等 別			總 室 数	営 業 所 在 地	営 業 者 氏 名
	一	二	三			
五		三		三	壹岐郡鯨伏村湯ノ本	長 山 仁 二 郎

』

温泉法に基づき、7月21日に長崎県温泉審議会が設けられ、温泉に関する事で知事からの諮問に答へ、意見を述べることになった。この委員会の業者側委員として旧湯の山上依網が湯ノ本温泉から選任された。任期は2年間で1952年（昭和27年）の第10回温泉審議会まで委員名がある。

昭和20年代中頃

太平洋戦争で敗れた後の昭和20年代に作成されたガリ版刷りの「湯ノ本温泉概観」が高峰温泉に残されている。これを次に示した。

『壹岐湯ノ本温泉概観

1. 壹岐湯ノ本温泉ノ概観

湯ノ本温泉は九州の北西玄海灘の海上にある島、即ち壹岐島・長崎県壹岐郡鯨伏村の中央に位する海岸にあり湯ノ本港を握し沼津村、那賀村、勝本町と山岳を以て接し其の随所からの展望は絶佳である。

西方湯ノ本湾口に点在する島嶼と遙に模糊の間に望む対馬洋の景観は天空闊達、殊に夕陽の波間に没する絶景は壯観であり海洋美の極である。

自然に湧出する温泉はこんこんと盡くことなく、附近は釣や磯遊が出来、其の興趣はかりがたく、又近在する古

代文化の史蹟は其の発達を尋れば興味駭々として倦むことを知らず。

写真41 表紙

この大自然の風致に恵まれ、又空気清涼俗塵に遠ざかりし環境は休養に、慰安に、保健に、観光に理想的の遊覧地であり、避暑地であり、まことに唯一の安楽境である。

2. 湯ノ本温泉の沿革

神功皇后が三韓征伐の際お立寄りになり湯治せさせ給ひしとか、又聖武天皇の御代に僧の行基が国分寺を建立したとき発見し、屢々入浴したとかの傳説がある。

家康の頃、守護佛として薬師如来を勧請し後、家光の時温泉山医王院と称し、降って明治初年土地割当に際し時の観世音寺住職鉄印和尚が土地割当の代償として温泉を貰ひ経営した俗に旧温泉（現在の平山温泉）と称す。

近年、高峰、辻川、長山の各温泉相次いで開鑿して今日に及んで居る。温泉は学名・塩化土類明礬緑礬含有食塩泉と称し、温度は41～68℃まであり、神経痛、リュウマチス、打撲症、皮膚病、婦人病、胃腸病、火傷、虫毒に効能あり。



3. 湯ノ本への交通

イ. 汽船便 博多及巖原から郷ノ浦、芦辺、勝本の3港を交互に発着し。唐津から印通寺、郷ノ浦に発着す。

ロ. 自動車便 郷ノ浦を起点として沼津村横内經由湯ノ本から勝本間を午前午後2回往復する。

貨物は郵便車を利用することも出来る。団体は臨時に発車を申込むことも出来る。

4. 湯ノ本附近の産物 西瓜、干柿、夏蜜柑、干魚、ワカメ、フノリ

5. 湯ノ本附近の史蹟

- (1) 鯨伏村の名称の出典 昔鯨が鰐に追われて隠れ伏したゆゑ鯨伏と称し、鯨も鰐と共に石となりイカリ山の下の川端にあると傳へられる。
- (2) 藤原理忠公の碑 後一条天皇の三年（1,019年）刀伊の賊入寇した時、立石の布城と称する地で戦没した。
- (3) 元寇の遺跡 龜山天皇の時、元軍湯ノ本湾の本宮方面から上陸襲来し時の守護代平景隆は良く奮戦遂に勝本町新城で戦没し弘安四年には少貳資時大いに戦ひしも利あらず瀬戸に戦没せりと云ふ。
- (4) 観世音寺 湯ノ本の東南隅にあり。浄土宗であって唐土傳來の鐘及聖武帝の勅額を刻した梵鐘があると傳へらる。又運慶等の名工の佛像が現在も尚有り。
- (5) 熊野神社 湯ノ本の南方山中にあり。湯ノ本人の産神として敬仰する社で、境内にある蛇神は昔王子の五郎が養鶏をして居るとき蛇来りて卵を盗むので、王子怒りて木で偽卵を作り蛇に吞ましめたところ蛇は悶死し其のため祟あり。時の人が覺音寺の和尚に請ひて蛇霊を祀り、劍に蛇のからみつけた有様を石に刻んで建てたと云ふ。
- (6) 雪の島 湯ノ本湾、本宮の海岸にあり。白きこと雪の如く空気の乾燥に従って或は白く或は暗く、里人はこれより天気如何を予測するに当らぬことなく、古来靈島とし又壱岐の島名もこれから出たと云ふ。
- (7) 鬼の岩屋 学説では古墳といひ村内外各所に多数散在し劍、玉、金環、祭具等が出土して居る。那賀村国分にあるものが最大である。大石を以て築造したる力量と技術は驚くの外なし。
- (8) 唐人神 湯ノ本湾口に突出する沼津村黒崎にあり。昔から男女の生殖器の病を治する靈験があるとて、郡内人の信仰する神で日本武尊を祀るとも云ひ、恐らく唐医を祀ったものであろう。

昭和の初め近代的な而して東洋一を誇った要塞を築造するためこの神社は黒崎比賣神社に移された。

ここは西海に突出し翠を傾けて將に海に入らむとする勝景である。その要塞も終戦後爆破せられて今は出入も出来なくなった。昔、日蘭貿易盛んであった頃オランダ商船の人々の為に、ここに遊園地が設けられ寛永十年平戸の蘭人を長崎に移すまでは壱岐に来航して居たと傳へらる。』

千石荘の源泉掘削記録（長谷川栄による）

昭和25年4月30日、25公衛第1,147号で住所の湯本浦58番地に掘削許可を得た。

昭和25年9月2日掘削開始、この後の掘進月日は長谷川栄の掘進状況図を基に算出した。

月 日 掘進状況

9月2日 0～22.8尺（6.9m）。1日でここまで掘った。

3日 鉄管挿入。

7日 43尺（13.0m）に湯口あり。38℃

11～12日 55～65尺。掘進状況よりすると、この間岩質弱く崩れるおそれあり。

13日 72尺に湯口あり。43℃となる。

15日 76尺に湯口あり。47℃、湧出量4升（7.2ℓ）／分

16～17日 80～86尺、硫化鉄が出る。76～86尺位にセメント注入有効

20日 97尺（29.4m）に湯口あり。51℃となる。

21日 以後、湯口なく温度と湧出量も変化なし

28日 117～119尺 吸付の為掘りにくい。

10月1日 127.5尺（38.6m）

3日 130尺（39.4m）、玉盤にて掘進度少し。

7日 140尺（42.4m）

10～16日 142尺（43.0m）、堅盤にノミをはさまれ1週間を要した。142尺と144尺（43.6m）に湯口らしき点ありしも温度と湧出量は変わらず

17～20日 1日約1尺しか掘進出来ず。

21日 150尺、これより更に堅盤となる。この堅盤の下に湯口あり。

26日 152.3尺（46.1m）

27日 154尺、湯口あり。54℃

28日 155尺、湯口あり。59℃

30日 156尺、湯口あり。61℃

31日 157尺（47.6m）、湯口あり。62℃ 手掘はここまで。

157.3尺（47.6m）にて黒色の切子を噴出せし為中止す。温度63℃となり湧出量5斗2升（93.6ℓ）／分となり、其後配水の為に湧出口を2尺上げたところ湧出量2斗5升（45ℓ）／分に減量。100mのボーリング許可を得て掘進、約10尺掘進167尺（50.6m）に達せしも請負業者の要望により、41番地に新規掘削（製塩業目的として）をなさんとして掘進を中止せしも、温度も上り湧出量も5斗位（90ℓ）位に減量す。昭和38年迄に3回浚渫。

昭和40年10月ボーリングにて浚渫したが、崩込の為に掘進思うにまかせず。已むなく23mまでエスロン管を入れた。

アズ（石英粉粒）多く、且つ重さがある為に特別の器具（クラウン）を必要とす。1日14～15回位にて2～3日を要す。

昭和30年5月 『温泉増掘許可申請書』

1. 住所 勝本町湯本浦58番地 職業 旅館業 氏名 長谷川 榮
2. 増掘の目的 浴槽の増設、拡張
3. 増掘の場所 同住所
4. 温泉の湧出路の口径 3吋 深さ 160尺（52.8m） 湧出量 毎分3斗（54ℓ） 温度63℃ 成分 塩類及重碳酸類
5. 増掘後の口径 3吋 深さ 330尺（100m）
6. 着手期日 御許可の日より1ヶ月以内 完成期日 工事着手の日より100日以内

写真42 千石荘の自噴する源泉（年月不明）



左 長谷川栄, 右 原田謙三, 掘削完了時に撮影

昭和25年4月30日指令25公衛第1,147号で掘さくの許可を得ましたが湧出量不足と浴槽の増設拡張のため右の通り御許可下さる様温泉法第8条に基き御願ひいたします。

昭和30年5月1日 右 長谷川 栄

長崎県知事殿』

『長崎県指令30業第970号

壱岐郡勝本町湯本浦58番地 長谷川 栄

昭和30年5月20日付願出の温泉掘さくの件は、温泉法第3条の規定により、左記条件において許可する。

昭和30年8月24日 長崎県知事

許可条件

1. 掘さく地 壱岐郡勝本町湯本浦41番地2
2. 口径 3吋 深さ 100m』

昭和45年9月7日～9日、井戸掃除及び6.5mの増掘。横山機械店施工。

9月6日、小川、長島の2人で貯湯タンクを壊しに1日かかる。

0～51.5mまでの井戸掃除と51.5m～58mの増掘により、自噴量は掃除前20ℓ/分、65℃→掃除後40ℓ/分、65.1℃となった。

増掘では石英の大きな斑晶がある硬質岩を掘抜いた。スライムは全くなかった。工事費5万円。

1952年（昭和27年） 千石荘は今まで米蔵であった所を浴場に改築して旅館の開業をした。

1953年（昭和28年） 海老館の温泉掘削許可申請書がある。

『温泉掘さく許可申請書

一、住所 壱岐郡鯨伏村大字立石西触白釘九一ノ三 氏名 長谷川久吉 職業 温泉旅館

二、温泉利用の目的 旅館浴場用

三、掘さく地の地目及び番地 地目山林 番地 鯨伏村大字立石西触白釘九十一の二。附近の状況 旅館家屋より約拾間程離れた山のふもと。近接温泉との距離 旅館に現在使用中の温泉掘さく口より約拾間離れて居る。

四、掘さく口径 3吋、さの予定 140尺、掘さくの方法 人工ヘラつき掘、面積 1坪

五、工事着手期日 許可の日より七日以内

六、工事費の予算 総工費 八万円 内訳 櫓建設費 5,000円、温泉管代 5,000円、セメント代 10,000円、工事人件費 60,000円

七、申請者の土地所有権証明書 別紙

右の通り温泉を掘さくいたしたいから許可される様、温泉法第三條に基きお願いします。

昭和二十八年三月十八日 右 長谷川久吉

長崎縣知事殿】

この掘削申請に対して県当局は温泉審議会に諮問し答申を得て次の許可書を出した。

『長崎縣指令二八葉第七一八号

住所 壱岐郡鯨伏村大字立石西触白釘九一ノ五 長谷川久吉

温泉法第三條の規定により昭和二十八年三月十七日附願出の温泉掘さく許可の件を左記条件において許可する。

昭和二十八年十一月十九日 長崎縣知事 許可条件 本許可は掘さく後の口径三吋、深さ百四十尺までに限る。』

海老館の掘削工事は昭和29年2月1日に終り温泉掘さく工事完了届が昭和31年12月22日に提出された。温泉の湧出状況は次の如くであった。

湧出口の口径 3吋、深さ115尺(34.8m)、湧出量 10.9ℓ/分、温度 59℃

この年に東屋(あづまや)旅館が開業した。

1954年(昭和29年) 県税の遊興飲食税の關係から湯ノ本温泉の旅館は大衆旅館として指定された。

『第16號

大衆旅館の指定書

経営場所 壱岐郡鯨伏村湯之本

商號 長山温泉 特別徴収義務者 長山仁十郎 地方税法第百十四條の二第四項の適用を受ける大衆旅館として指定する。

昭和二十九年六月二十八日 壱岐支庁長

裏書の説明文

大衆旅館として指定したのは次の各号のすべてに該当するものとして認定されたものであるから、その一つでも欠いた場合はこの指定を取消され遊興飲食税を課税されます。

一、風俗営業取締法第二条第一項の規定による許可を受けなければならない営業でないこと。

二、一人一泊の宿泊料金(朝食及び夕食の料金を除いた室料)の額が七百円を超えないものであること。(朝食及び夕食の料金を含めて料金を定めている場合は、その六割に相当する額を宿泊料とみなされ、また一室でも七百円をこえる部屋を有しないものであること)

三、旅館の構造、設備、宿泊者、その他の状況から旅行者の宿泊を主たる目的とするものであると認められるものであること。

四、宿泊料金(朝食及び夕食の料金を含めて定めているものを含む)を明示するものであること。』

1955年(昭和30年) 2月11日、町村合併により鯨伏村は勝本町と合併した。また、壱岐郡内の武生水町・渡良村・柳田村・沼津村・志原村・初山村が合併して郷ノ浦町が誕生した。11月25日、湯ノ本温泉の觀世音寺が炎上焼失した。

旧湯は旅館の改築をして平山泰の名義で営業許可を受け平山旅館となった。アメリカ帰りの料理人を雇い西洋料理の旅館とした。11月に社員7名、資本金100万円の有限会社・平山旅館となった。(平山旅館資料)

長山温泉の増掘が行われた。

『温泉増掘許可申請書

一、住所 壱岐郡勝本町湯ノ本浦四三番地イ 職業 旅館及公衆浴場 長山仁十郎

二、増掘の目的 浴用として使用浴槽の増設拡張

三、増掘の場所 住所に同じ

四、温泉の湧出路の口径 3吋(7.5cm)、深さ100尺(30.3m)、湧出量 毎分1斗(18ℓ)、温度60℃、成分 塩類及重碳酸土類

五、増掘後の口径 3吋、深さ 150尺(45.5m)

六、着手期日 御許可の日より1ヶ月以内 完成期日 工事着手より2ヶ月以内

昭和15年3月の温泉法施行前に掘鑿しましたが湧出量不足のため浴槽増設拡張が出来兼ねますから右の通り御許可下さる様温泉法第8条に基き御願いたします。 昭和30年5月5日 長山仁十郎

長崎縣知事殿

付属提出資料

温泉増掘同意書

出願人 壱岐郡勝本町湯本浦四三番地 長山仁十郎

右の者の今般出願の温泉増掘許可申請に対し近接温泉として差支無きものとみとめ増掘の御許可に同意します。

昭和30年4月

近接温泉所有者 海老館 長谷川久吉 千石莊 長谷川 栄 東 屋 長谷川真美

『長崎県指令三〇業第九〇四号

壱岐郡勝本町湯本浦四三番地イ 長山仁十郎

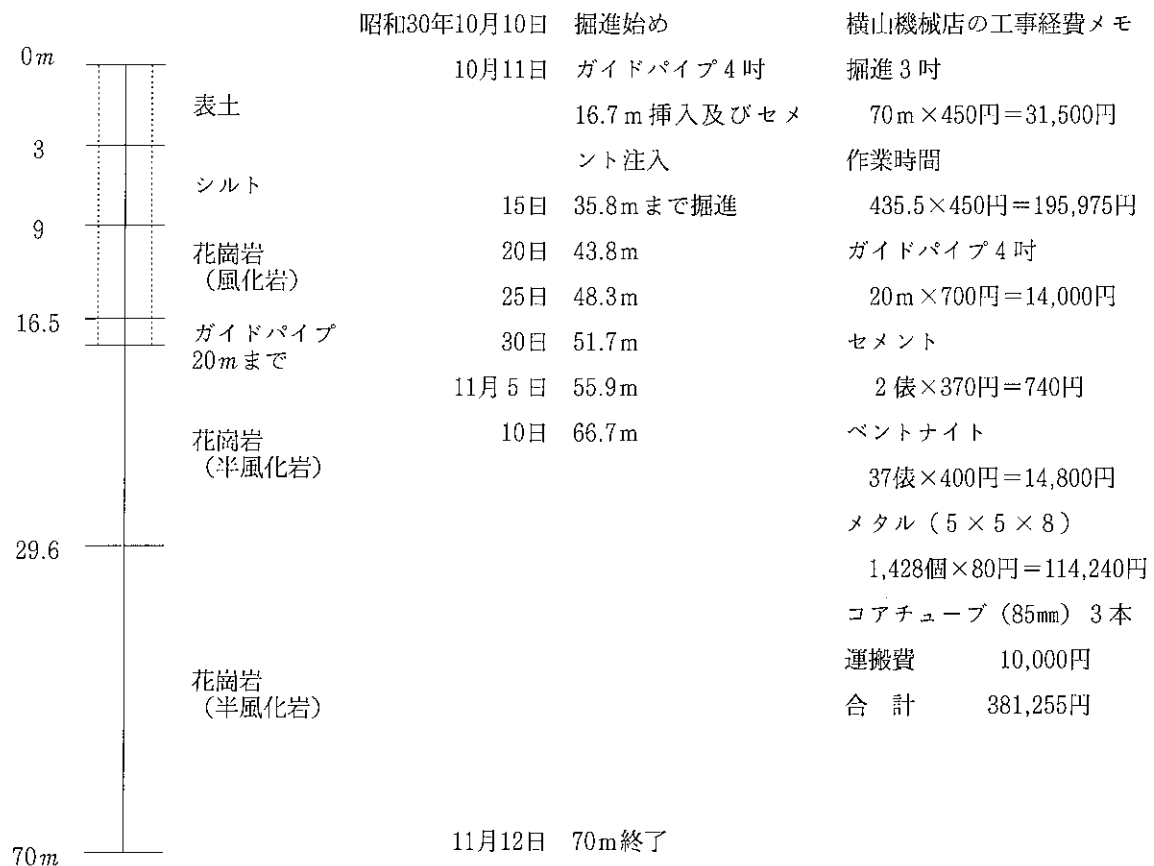
昭和三十年五月五日付願出の温泉増掘の件は、温泉法第八条の規定により、左記条件において許可する。

昭和三十年八月二十四日 長崎県知事

許可条件

一、増掘温泉地 壱岐郡勝本町湯本浦四三番地イ 一、増掘後の口径 3吋、全深さ 46米

図11 長山旅館源泉掘削状況



旅館の様子

千石荘の資料に、彦岐保健所が作成した各旅館の設備についてガリ版刷の記録がある。

表2 湯ノ本温泉の源泉の口径、深さ、湧出量の調査

(彦岐保健所)

旅館名	源泉数	口径	深さ	湧出量 / 分	温度
あづまや旅館	1	3吋	96尺	8升(14.4ℓ)	58℃
平山旅館	1	3	190	2斗(36ℓ)	68
海老館	1	3	115	6升(10.8ℓ)	59
海老館	1	3	130	4升(7.2ℓ)	59
長山旅館	1	3	120	2斗(36ℓ)	67
千石荘	1	3	70	4斗(72ℓ)	65
高峰温泉	1	3	200	7升(12.6ℓ)	56
辻川温泉	1	3	180	1斗2升(21.6ℓ)	62

表3 宿泊施設と浴場施設関係調

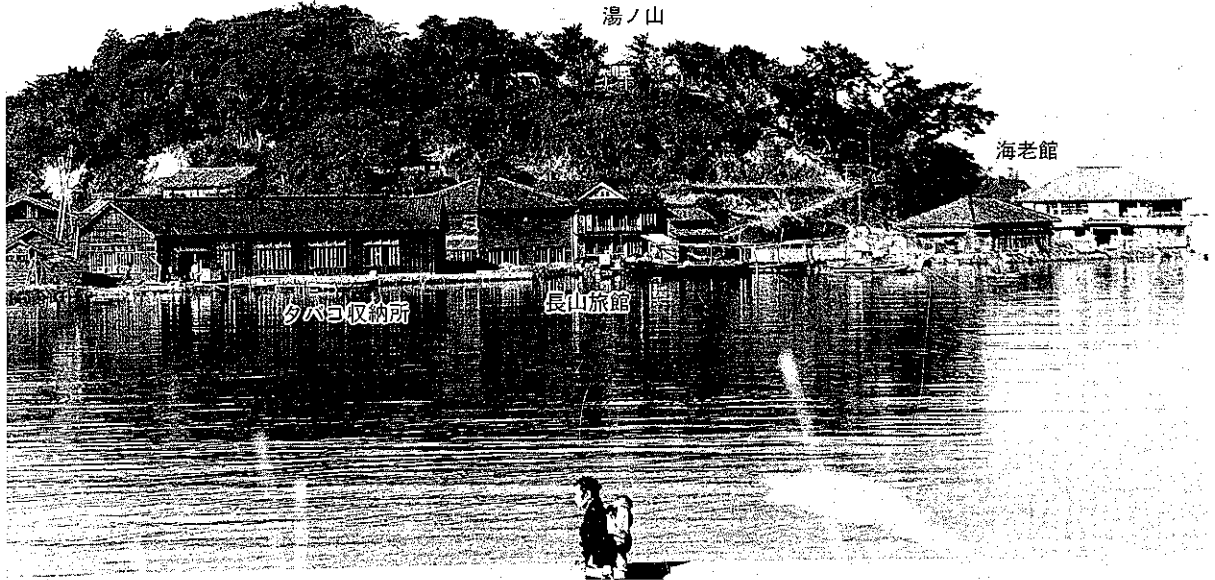
旅館名	和室	洋室	畳数	定員	浴場数	面積浴場	浴槽
あづまや旅館	6		38	21	2	3坪	1坪
平山旅館	7	1	52	28	5	5	4.5
海老館	8		52.5	28	4	2.2	2.8
長山旅館	17		87.5	41	2	3.0	3
千石荘	7		56	24	4	8	3
高峰温泉	22		102	50	2	1.8	3
辻川温泉	11		52.5	26	2	2.0	2

表4 浴場種類別

旅館名	家族湯	混浴	男湯	女湯	合計
あづまや旅館	2				2
平山旅館	3				3
海老館	2				2
千石荘	3	1			4
長山旅館	公衆浴場		1	1	2
辻川温泉	公衆浴場		1	1	2
高峰温泉	公衆浴場		1	1	2

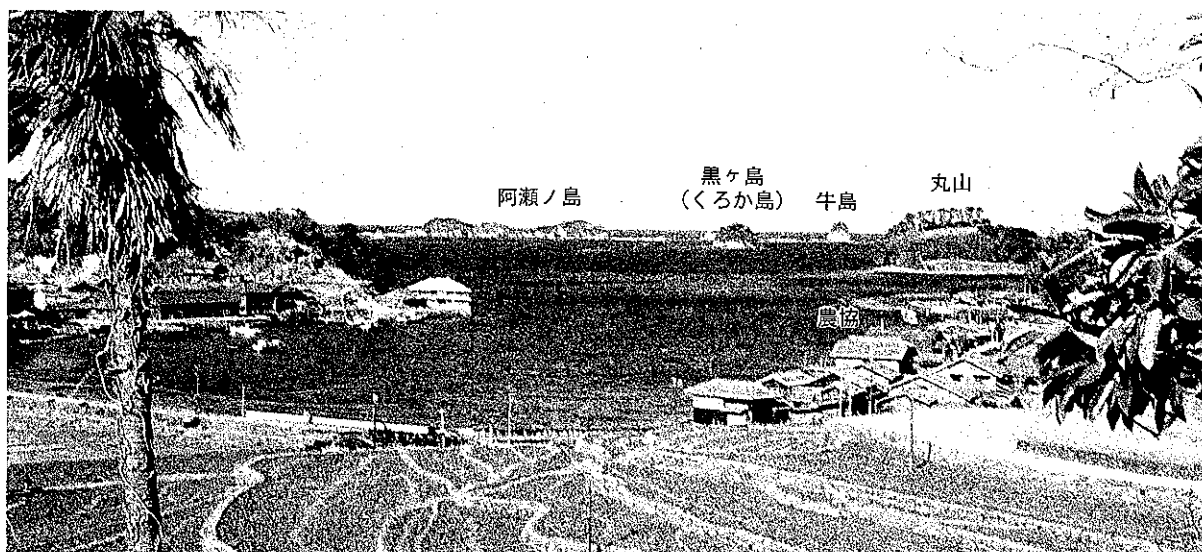
この当時は尺貫法が通用していた。メートル法の完全実施は1966年(昭和41年)からであった。

写真43 昭和30年頃の湯ノ本温泉街（原延一 撮影）その1



（旅館、住宅、島、その他は長谷川資洋による）

写真43 昭和30年頃の湯ノ本温泉街（原延一 撮影）その2



湯ノ本湾の島々と湯ノ本温泉（左）、木落（左）

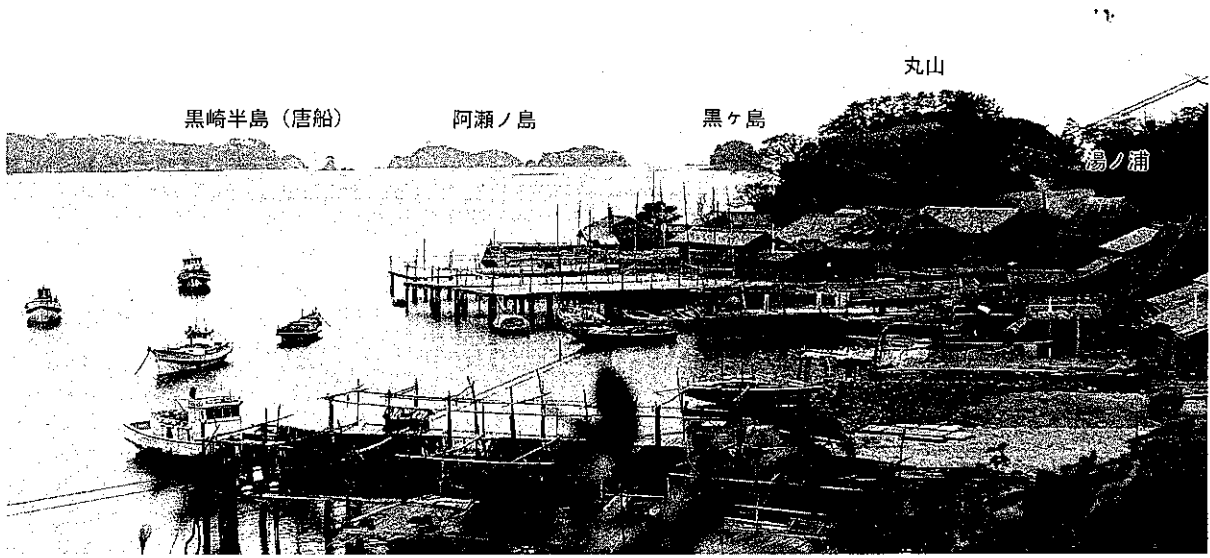


鯨伏村は昭和30年2月11日に勝本町と合併し、村役場は町湯ノ本支所となった。



湯ノ浦と木落（農協倉庫より右手が木落）

写真43 昭和30年頃の湯ノ本温泉街（原延一 撮影）その3



湯ノ浦と島々



鯨伏小学校（現在の鯨伏小学校は移転している。跡地は幼稚園とゲートボール場）



1956年（昭和31年） 勝本町教育委員会は勝本町郷土史²⁴⁾を編纂した。同史は勝本篇と鯨伏篇に分冊された。

鯨伏篇の「土地と人文との関係」の後半に次の如くある。温泉旅館は平山温泉、海老館、高峰温泉、辻川温泉、長山温泉、千石荘、あづまの7軒であった。

『現時の湯の本浦は湯の本湾の東南隅にある湯の浦と相對して海に臨んでいる。湯の浦は戸数約40戸、人口205人の小部落で、専ら漁業を営み、湯の本浦の戸数約74戸、人口291人で、商戸10戸に満たない。本郡と博多、巖原などとの交通は地の利に恵まれず、郷ノ浦、勝本、芦辺に任せられて、商港としては振わない。

然し、湯の本浦には天与の利宝すなわち、ここから湧出する温泉と湯の本湾の絶景とがあって、温泉は各種の疾病に効めがあり、郡内はもちろん対馬からの浴客の数が年を追うて増加している。

このための旅館その他入湯宿泊所の設備も近年よくなり、観光湯の本として名声を博している。現在経営されているものには、平山温泉（旧湯）、海老館（新湯）、高峰温泉、辻川温泉、長山温泉、千石荘、あづまや等がある。この中、高峰と辻川の両温泉^{*}をのぞいては内湯旅館として経営されている。旧湯は元祖温泉として由緒も深い。

なお、昭和29年立石仲触樋川を水源池として湯の本浦に水道を設置することに決定した。』

また、「河海と人文との関係」に「和布市」と「遊漁」について記している。

『古来、湯の本を中心とする物資の運送は、すべて船によって行われている。毎年陰曆四月八日、二十日、二十八日は和布市と称して、沼津村から和布などの海産物を小船で湯の本新田堤塘の附近に運び、本村人は主に薪を下して物々交換を行っていたが、今日では陰曆四月十日、二十日の二回、やはりこの場所でこうしたことが行われていて、往時の遺風をとどめている。

湾の内外には魚類が多く、湯の本、湯の浦の専漁者はこゝに生計の糧を求めている。近來は郡外からの観光湯客が小船で湾内を漕ぎ魚を釣って楽しむ風情もみられる。

海草類として最も豊富なものは、ほんだわらで、これは肥料として採集されてきたが、沃度及び塩化加里の製造原料として和布と共に購われる。河川、堤には養鯉、養鰻など行われている。』

温泉については次の如く記している。

『鉾 泉

本地区において最も特筆すべきは湯の本温泉であろう。同温泉は壱岐郡に於ける唯一の天然泉であって、古くから知られ、伝説では「神宮皇后が三韓征伐のため壱岐に立寄られた際発見されたものである」といい、「僧行基が因分寺を建立する時屢々入浴をした」など、伝えられている。徳川家康の頃守護神として薬師如来を勧請し、家光の時、温泉山医王院と呼んでいたが、明治初年、観世音寺の住職鉄印和尚が土地割の代償として温泉を貰い受け経営したといわれている。

この当時は自然湧出のまゝ利用されていたと思われ、泉井が掘進され始めたのは大正に入ってからで、温泉として実際的な経営が行われたのは大正七年からである。

更に昭和二十七年には近代科学の進歩に伴い温泉を熱源とする発電が考えられ、九大名誉教授小田二三男氏並びに長崎県電力協議会委員青木勇氏の両名による調査がなされたが、湧出量、湧出力共に十分でなく手はつけられないで終わっている。以下両氏の報告書に現われた全温泉の特質をさぐってみることにする。

「湯の本温泉は山陰地方に連繋する白山火山脈に連なる脈岩上にあり相当古くから湧出し来たものである。壱岐島を構成する基盤は第三紀古層であって、第三紀新層と生成時代を殆んど同じくする玄武岩が数回噴出して、殆んど全島を覆って居り、湯の本附近にはこの玄武岩中に噴出した石英粗粒面岩が随所に見られ、これが脈岩をなしている。その走

24) 前出、勝本町教育委員会：勝本町史（鯨伏篇），全220p，（1956年）

※ 高峰温泉と辻川温泉は湯治場として利用されている。

勝本町郷土史

勝本町郷土史 （鯨伏編）

編纂人 勝本町教育連絡協議会
発行所 勝本町教育委員会事務局
昭和31年9月1日

向方向は未だ調査不十分であるが、南北方向に近いものと思われる。

湯の本温泉は、この石英粗面岩中の亀裂及び他岩との接触面等に沿って湧出しているものと思われ、現在八本の泉井がある。その深度、温度に付いて実地に調べた結果は次表の通りである。

全地温泉の熱源については更に調査を要するが、以上の資料からすれば全部落中心地から北西に向う対岸線上に熱脈が流れているものと思われ、最も地表に近い熱源は、やはり現在温泉井が密集する湯の山を含めた部落中央部であろう。』(温泉分析値は大正7年の鯨伏村郷土史と同じ値を掲げているので省略した。)

表5 湯の本温泉一覧表

番号	位置	掘進深度 尺	測深度定 メートル	孔底温度 摂氏度	噴出口 温度 摂氏度	湧出量 (1分間)	掘進 年月日	主成分	浴客春を10として				
									夏	秋	冬	村	郡
1	海老館	130	9.8	61	58.8	約5升	昭和28年10月		3	6	6	外	又対馬よりの湯治客も少ない。 主として福岡、佐賀両縣が多い。
2	同上	130	9.05	60.4	58.6	同	大正5年		—	—	—	—	
3	長山	110		—	57.5	約10升	昭和20年	鉄分を含む	8	7	6		
4	平山	189	13.0	69	68.0	約16升	昭和9年10月	塩化土類明礬緑礬含有食塩泉	4	6	8	外	
5	千石荘	157	47.8	66	62.1	約35升	昭和27年4月	アルカリ塩類及び重炭酸土類泉	6	5	13	外	
6	東屋	94	28.5	61	57.2	—	—		—	—	—	—	
7	辻川	180	12.5	64	62.0	—	昭和元年		3	3	4	外	
8	高峰	298	—	—	52.8	—	大正2年		5	8	6	外	
9	街路	—	—	—	31.0	—							

註 ① 各泉井によって差異あるも時季的な変化はほとんどない。

② 温泉の水位は何れも海面7 m位。

また、湯本温泉街の様子については経済の項に次の如くある。

『本村は目下観光地として自然の風光と湧出温泉を宣伝の材料として、外客の誘致に努めているが、その活動は未だ活発とは云えない。商業従事者の数は接客業及び温泉旅館を含めて全戸数の約8% (約40戸) を占めているにすぎない。又漁業の面では漁網の所有者3戸、一本釣其の他少数あるも経済の主体はやはり農業にあると云える。』

商業の項にも次の如くある。

『旧鯨伏村湯の本浦は海陸交通の便利よく温泉町でもあり村外からの来客も多く、商業地帯となっているが雑貨商、その他の商売は需要者が少いためか至って小規模である。商業戸数 27戸』

種類	雑貨店	菓子店	薬屋	煙草屋	温泉業	温泉旅館	飲食店	魚屋	魚仲買
戸数	9	1	1	3	2	5	3	1	2

1957年(昭和32年) 県税である遊興飲食税の適用率について湯本温泉旅館から県当局へ陳情書が提出された。その中には当時の様子が物語られている。

『陳情書

縣を始め支庁の御当局が縣政のため、又私共のため直接間接御指導御鞭撻に努力されて居りますことは深く感銘いたして居ります。近時各温泉地が夫々観光に遊覧に客の誘致を計り発展を期して居ります様に湯本温泉地でも努力いたして居ります。何分玄海灘中の一孤島であり然も西北の僻地にありますため交通は至って不便であります。従って僅かに島内の人々の安価な療養所にすぎないのであります。島外からの観光客は誠に微々たるもので、たまたま予約を受持つ

でも天候によりては取消され折角の期待もお流れになって終わります。

今回七月一日から施行されました改正遊興飲食税法は湯本温泉地も温泉地なるが故に小浜や雲仙と同様に割烹旅館として高率を以て取扱ふ様になって居りますが私共の今日までの実情から考へますと区域のせまい島内丈の療養場所でありますので療養のためや農閑期の保養にやって来ます。これ等の人々が支拂ふ料金にまで十五%の税金がかかるのでは農家の人々は驚いて湯治に来てても旅館には来ませんでしょう。

折角知事さん始め皆さんの御助力で振興の徴がありますので湯本民が喜んで居ります。何卒湯本の事情御観察の上湯本温泉地旅館にも一般旅館と同様[※]の御取扱をいたゞきます様私共連署して陳情申し上げます。

昭和三十二年七月二十日

長崎県壱岐郡勝本町湯本 海老館 長谷川久吉 千石荘 長谷川 榮 あづま屋 長谷川眞澄
長山旅館 長山仁十郎 平山旅館 平山長利

長崎県知事、県議長、支庁長殿』（海老館資料）

この陳情書に対して県当局は理解を示し次の回答を行った。

『三二税号外 昭和三十二年八月十六日

長崎県総務部長

壱岐郡勝本町湯本 長谷川久吉他四人殿

遊興飲食税に対する陳情について（回答）

酷暑のみぎり益々御健勝の御事と拝察慶祝に存じ上げます。この度県下に亘る未曾有の水害も壱岐方面は幸いにして被害がない趣およろこびに堪えません。

遊興飲食税のことにつきましては、かねて格別の御協力を賜り心から感謝申し上げます。さて、客月二十日付連名で御提出になりました遊興飲食税についての御陳情に対し、次の通りお答え致します。

（答）

錦地の現状は主として島内の湯治客を対象とする旅館であるように考えられ、又県下各地との均衡を勘案しましても割烹旅館として取扱うことは適当でないと思われまますので従来通り普通旅館として取扱うことゝ致したいと存じます。

しかし、遊興行為があつた場合は当然十五%の課税となることは勿論でありますので、この点御含みの上御協力下さるようお願い申し上げます。

なお、このことにつきましては、壱岐支庁長あて通達済でありますから、念のため申し上げます。』（海老館資料）

表6 特別地方消費税（料理飲食等消費税、遊興飲食税）の変遷

年 度	内 訳
昭和25年	芸者等の花代100%、カフェ・バー等40%、上記以外の飲食20%
27年	カフェ・バー等20%、上記以外の飲食10%
29年	宿泊10%、非課税 大衆食堂等1人1回 100円以下、1品 50円以下
30年	非課税 大衆飲食店1人1回 120円、甘味喫茶店1人1回 100円、大衆旅館1人1回 700円
32年	芸者の花代30%、花代を伴う遊興飲食15%、カフェ・バー等15%、上記以外の飲食1人1回 500円以下5%、同500円超10%、宿泊1人1泊 1,000円以下5%、1,000円超10%
	芸者の花代及びカフェ・バー等15%、宿泊及び上記以外の飲食10%、 免税点 飲食店1人1回 300円以下、食券食堂1品の価格150円以下、宿泊1人1泊 800円以下

長崎県税務課 1994. 9. 調べ

※ 旅館は宿泊料金の10%の税金であった。

海老館は冬期の湯量不足を補うためエアリフトによる揚湯をす為に許可申請書を提出した。

温泉動力装置許可申請書

- 一、名称、所在地 有限会社 海老館 沓岐郡勝本町立石西触白釘九十一番地ノ五 住所 右に同じ 職業 旅館業
代表社員 長谷川久吉
- 二、動力装置の目的 冬期自十二月至翌年三月迄の四ヶ月間湧出量不足の為、浴槽内の温度低下を補ふため
- 三、動力装置の場所及び附近の状況 見取図添付
- 四、温泉湧出路の口径 3吋、深さ 115尺、湧出量 毎分間 6升、温度 59℃、成分 硫黄泉
- 五、動力装置の種類、出力、其他動力装置の詳細 3/4パイプ仕用空気圧縮機 壹台、1/6馬力電動機、1台
右動力により湧出口より吸揚げ直接浴槽へ送る。
- 六、着手期は御許可の日より五日間以内、完成期日 工事着手の日より三日間以内。右の通り動力装置をしたいから御許可下さる様、温泉法第八条に基き御願いたします。 昭和三十二年十一月 日 右 長谷川久吉
長崎県知事殿】

1958年（昭和33年） 8月1日、沓岐県立公園が指定された。更に10年後に国定公園として指定される。

1963年（昭和38年） 4月1日、前年から本宮南触の白滝温泉近くに建設していた公立沓岐老人ホームが開設された。温泉を利用した施設で定員60名である。更に1966年（昭和41年）には定員80名に増設された。この件については162pに詳述した。白滝の山口温泉と松本温泉が7月2日に開業した。

1966年（昭和41年） 7月10日、待望の沓岐空港が開港した。福岡～沓岐間に全日空のフレンドシップ機が12月22日から就航した。

勝本町湯ノ本浦57番地 長谷川美枝子自宅源泉の掘削許可がある。

温泉掘さく許可指令書

長崎県指令41葉第432号

住所 沓岐郡勝本町湯ノ本浦57番地 氏名 長谷川 純一（千石荘長谷川資洋の兄）

昭和41年4月19日付願出の温泉掘さくの件は、温泉法第3条の規定により下記条件を付して許可する。

昭和41年9月1日 長崎県知事

許可条件

1. 掘さく地 沓岐郡勝本町湯ノ本浦75番地 2. 口径 75mm 3. 深さ 70m

温泉掘削記録（昭和42年） 掘削業者 横山機械店（郷ノ浦）

月日	掘進状況	月日	掘進状況
11 28	機械搬入	10	60.1m クラウン使用回数6
11 29	機械据付	14	63.7m " 1
30	5.0m掘削開始 以下、温泉水の温度記録なし	19	68.0m " 5
12 2	25.0m, ガイドパイプ25m挿入, セメント注入	20	76.0m " 5
7	57.0m, 岩盤が堅くなる	21	80.0m " 4
		24	85.0m " 4

掘削費 28万円, 工事終了 12月29日, 温泉水の温度55℃。

沓岐対馬国定公園指定²⁵⁾

指定年月日 1968年（昭和43年）7月22日 面積 11,950ha（沓岐 791ha, 対馬 11,159ha）

指定内容の概要

25) 長崎県自然保護協会：美しい自然とのふれあい，50p（1991年）

玄海灘にポッカリ浮び、全体的に起伏がゆるやかで女性的な地形の壱岐島、朝鮮海峡にあり急峻な山が連なる男性的な地形を持つ対馬島の沿岸部と内陸部が指定された。

壱岐島は玄武岩の溶岩台地から成り、内陸部は比較的ゆるやかな起伏を持つ地形であり農業や住宅地等による開発が進んでいる。これに対して海岸部は屈曲が多く変化に富んでおり、特に赤瀬鼻の奇岩、左京鼻の柱状節理、牧崎の海食洞、黒崎の猿岩などが代表的である。また、筒城浜、塩樽、辰ノ島では美しい砂浜を形成し島外からの利用者が多い。

対馬島は南北に細長く緑に包まれた急峻な対州層群互層のケスタ地形と変化に富んだ海岸線で構成されている。浅茅湾に代表される複雑に入組んだ海岸線の溺れ谷地形はイシ・カシ林、コナラ・アベマキ林で被われ美しい景観である。また、島内では洲藻白原始林、竜良山に代表される自然林が残り名所に特徴ある植物群落が形成されている。棲息する動物もツシマヤマネコ、ツシマシカ等多彩である。

1969年（昭和44年） 2月、町営国民宿舎「壱岐島荘」が完成し3月1日から開業した。観光開発を目的とし総工費9,700万円、鉄筋コンクリート3階建、定員119名である。この事については140pに詳述した。

9月7日～10日、第24回国民体育大会夏季大会（水泳等）が佐世保市を中心に各地で開かれ、皇太子、妃殿下が7日の開会式に出席された。その後10日に壱岐に来島・視察され新装の壱岐島荘に宿泊された。これを記念して「湯ノ本温泉まつり」が翌年興された。

この壱岐島荘の開設は湯ノ本温泉に活気を与えた。入浴客、観光客も増えた。従来の温泉旅館との競合もあるが、新しい発展が見られた。後述する湯ノ本温泉入湯者数では前年の4,017人から本年は27,346人と約7倍と急増した。

1970年（昭和45年） 6月に第1回の「湯ノ本温泉まつり」が地元有志により始められた。これについては149pに詳述した。

1971年（昭和46年） 1月、立石西舂の「六郎瀬鼻」で「ステゴドン象化石」が発見された。155p参照。

3月23日に湯ノ本温泉は厚生省から「国民保養温泉地」に指定された。この時に温泉地の将来計画書が作成された。その概要を次に示した。

『壱岐湯本温泉 温泉地計画書』

1. 地域

この温泉地計画の地域は長崎県壱岐郡勝本町湯本温泉の別添図面に表示の地域とし、その面積は約9.2ヘクタールとする。

2. 地域の概要

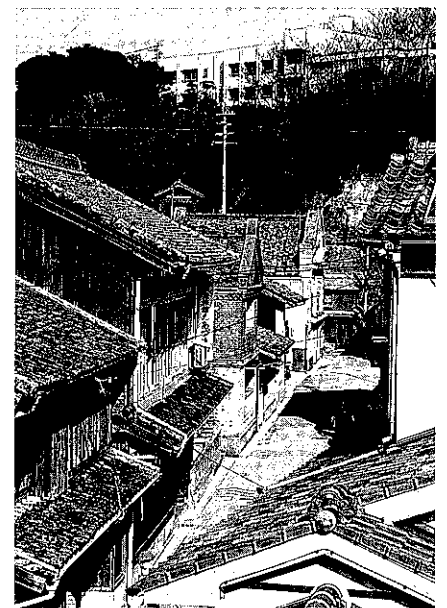
この地区は壱岐島の西北部湯本湾に囲まれ、ここから九州本土までは壱岐海峡を経て最短20km、対馬までは対馬海峡を経て50kmである。特に湯治温泉として有名で気候温暖、壱岐対馬国定公園の一画をなす風光明媚な海浜景観に恵まれた静かな温泉地である。

3. 計画の基本方針

開湯以来閑静な温泉地として開発され、これまで湯治温泉として利用されてきたが、今後もこれを基本として次の方針に基づいて開発整備する。

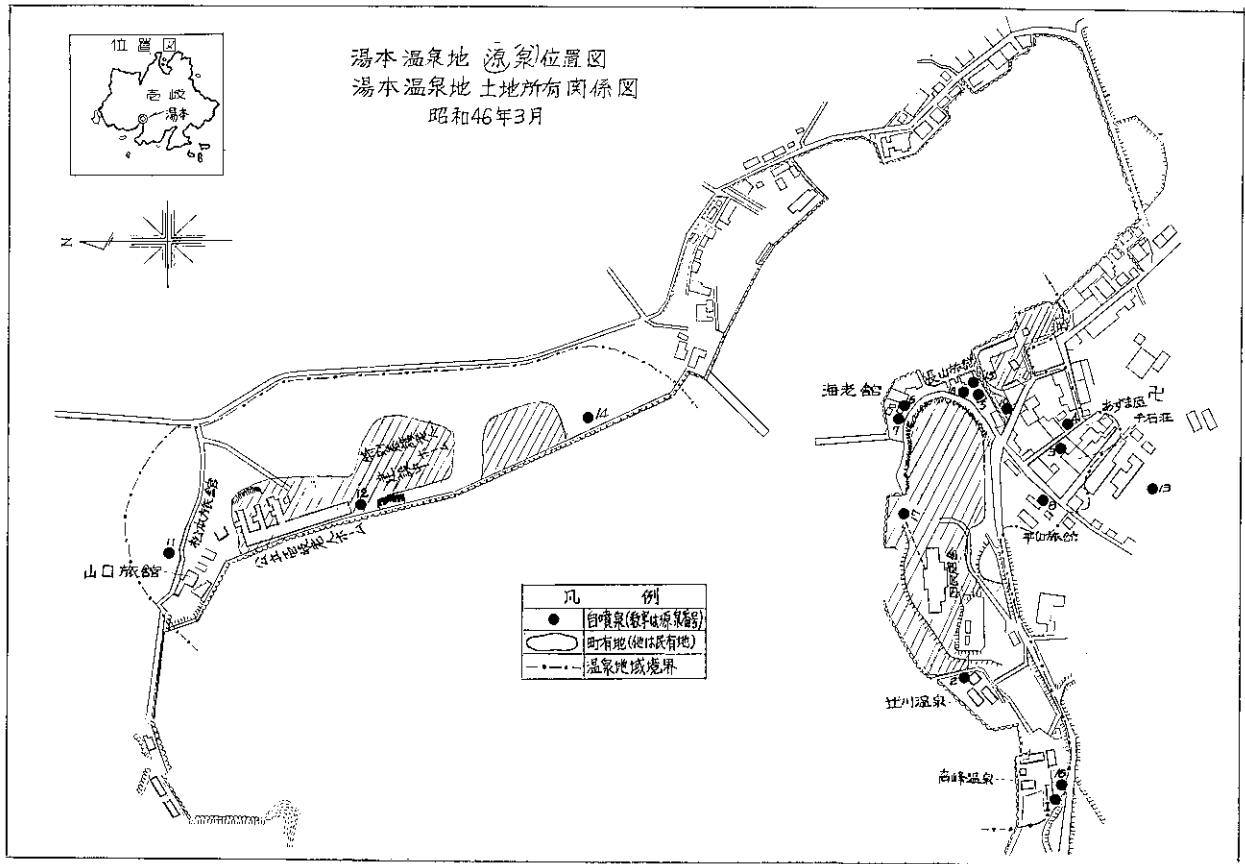
- (1) 源泉の保護をはかり、温泉の量及び質の確保並びに利用の増進をはかる。
- (2) 自然景観の保護をはかり、自然環境に調和した利用施設を整備する。
- (3) 公共施設の整備を図ると共に国民大衆の健全な利用の場として、歓楽地化することを防止する。
- (4) 環境衛生施設を整備改善し衛生管理を実施して環境衛生の改善向上を図る。

写真44 湯ノ山に建てられた壱岐島荘と旧道



下の通り（旧道）は白川酒店、千石荘、あづまや旅館が並ぶ

図19 湯本温泉地源泉位置図



4. 計画

(1) 計画の概要

ア 計画目標の達成時は昭和50年とする。

イ この温泉地における利用者の数を毎年約15%増と見込み、目標年度における年間利用者数を24万人と推計する。

ウ 地割計画については周辺の自然を保護しながら源泉保護旅館区、公立施設区、園地区、国民宿舎区を配置することとする。

エ 施設計画については各地区の主要施設のおおよその設備標準を示すものとする。

オ 環境整備計画については保護温泉地の趣旨にそって、風致および環境衛生等について、必要な施策が図られるように定めるものとする。(以下中略)

(4) 環境整備計画

イ 風紀維持

健全な国民保養温泉地としての家族利用、農漁民の湯治的利用等、大衆利用を図るため健全な雰囲気造成をはかり、いかがわしい営業は極力本地区に導入しないものとし、その健全性の保持につとめる。(以下中略)

5. その他

(1) 地区の状況

本地区の属する老岐島は長崎県の東北端、北松浦郡の北々東28km、九州本土は佐賀県から最短20km、対馬からは50kmの海上にある気候温暖な地域で島内はほぼ台地状地形で、車道が四通八達し、島の周囲は入江に富み風光明媚な海浜の景観はすばらしい。

この温泉地は遠く対馬を西方に望み、阿瀬島、手長島、牛島、照り島等、南国的な景観が遠近景を彩り、濃密な樹

相と農漁村の点描が絵画的な湯ノ本湾にいだかれ、一般大衆の健全利用に資する為の休養、保養地としては最適地である。

(2) 温泉

源泉については総て掘さくによったもので源泉数18（全部自噴）、個人、旅館業者、町村組合、勝本町がそれぞれ所有し、湧出量も豊富で充分その活用の余地が残されているが、今後は町が掘さくすることを原則とし、将来集中管理することによって源泉の確保を図るよう計画する。

なお、1分間における全源泉よりの湧出量は472.9ℓである。源泉の状況については表3のとおりである。（中略）

(5) 交通関係

本地区への交通機関は、島内に県道、町道が四通八達し、又島外よりは福岡博多港から九州郵船貨客船が毎日2往復（夏季は3往復）、佐賀県呼子間にはフェリーボート2往復あり。又福岡板付空港と壱岐空港間に航空便2往復、対馬とは貨客船1往復が就航している。

表7 湯本温泉・各源泉の状況及び浴用施設

源泉総数 17(総て自噴), 湧出総量 414.6ℓ/分, 泉質 含塩化土類食塩泉
温泉の利用施設延数 14, 各旅館の宿泊定数延数 443人

源泉番号	所在地	湧出量 ℓ/分	泉温 ℃	源泉地の所有者			温泉の所有者又は利用者			温泉分析		浴用施設		
				氏名	氏名	住所	氏名	住所	年月日	分析者	施設数	使用湯量 ℓ/分	宿泊定員数	
4	勝本町湯ノ本浦	27.0	58	長谷川 静子	長谷川 静子	勝本町	35. 7.23	長崎県	2		21			
6.7	〃	6号 7号 7.0 11.0	67 59 59	長谷川 久吉	長谷川 久吉	〃	〃	〃	4		32			
3	〃	72.0	65	長谷川 栄	長谷川 栄	〃	〃	〃	(1) 2		21			
5	〃	27.0	67	長山 仁十郎	長山 仁十郎	〃	42.11.14	〃	2		19			
8	〃	35.0	69	平山 泰	平山 泰	〃	〃	〃	5		44			
1.16	立石西触	1号 16号 21.6 15.0	1 16 56 51	白川 キク	白川 キク	〃	35. 7.23	〃	2		36			
2	〃	15.0	60	辻川 徳衛	辻川 徳衛	〃	〃	〃	2		22			
11	本宮南触	11.0	69	山口 英敏	山口 英敏	〃	〃	〃	2		16			
11	〃	11.0	69	〃	松本 国正	〃	〃	〃	1		13			
12	〃	停止	60	公立壱岐老人ホーム	公立壱岐老人ホーム	郷ノ浦町	41. 1.25	〃	4		80			
15.18	湯ノ本浦	15号 18号 20.0 27.0	15 18 67 67	長山 仁十郎	長山 仁十郎	勝本町	35. 7.23	〃	2		20			
10	〃	15.0	66	立石 光美	立石 光美	〃	〃	〃	1		自家用			
13	〃	20.0	60	長谷川 純一	長谷川 純一	〃	〃	〃	1		〃			
14	本宮南触	25.0	65	前田 礼子	前田 礼子	芦辺町	42.11.14	〃	1		〃			
17	立石西触	55.0	68	勝本町	国民宿舎	勝本町	44. 4.24	〃	大2 小3		119			

(6) 利用者の状況

昭和44年、勝本町営国民宿舎「壱岐島荘」が建設され、既設旅館は7軒が営業し、また長期湯治者宿泊施設専用2ヵ所、併設3ヵ所が開設され、その年間利用者は昭和43年約8万人、昭和44年10万人に達している。なお、既設旅館は収容力増加とサービス向上のため鋭意努力している。

(7) 観光文化財

イ 名所旧蹟 鬼の岩屋（二塚、布城、軍場、布気、掛木、生池、道元）。火箭野と軍場千人塚（本宮西）。城山

公園（亀丘城跡、勝本）

□ 年中行事 聖母神社大祭（10月14日）

勝本港祭（10月15日）

湯本港祭（10月29日）

ハ 特産品 海産物、みかん

表8 昭和44年（1969年）湯本温泉利用者数

月	宿泊者	日帰者	計
1	4,391	4,709	9,100
2	3,015	4,669	7,084
3	4,505	4,772	9,277
4	4,640	5,413	10,053
5	4,971	5,434	10,403
6	3,019	3,454	6,473
7	5,202	3,091	8,293
8	7,836	3,286	11,122
9	4,425	3,801	8,226
10	4,915	4,207	9,122
11	4,504	4,980	9,484
12	4,119	4,862	8,981
	55,542	52,078	107,620

表9 湯本温泉・旅館の規模と宿泊料金（昭和44年8月31日現在）

旅館名	電話	総坪数	宿泊料金				客室数	収容人員			浴場数	浴槽容積の総合計	備考
			一般	高校生	中学生	小学生		一般	高校	小中校			
あづまや	6	97	1,000~1,500	1,000	800	600	6	21	32	42	2	3.1㎡	温泉旅館
海老館	12	88	1,200~2,000	1,000	800	600	15	32	48	64	4	6.6	温泉旅館
千石荘	4	188	1,200~1,500	1,000	800	600	8	21	32	42	3	6.1	温泉旅館
長山	33	142	1,000~1,200	800	700	600	6	19	30	38	2	7.4	温泉旅館, 公衆浴場
平山	16	67	1,200~1,500	1,000	800	600	12	44	66	88	5	9.8	温泉旅館, 公衆浴場
山口	40	118	700~1,000	800	700	600	12	26	15	20	2	6.0	温泉, 簡易宿所, 公衆浴場
高峰	8		300	300	300	150	25	36			2	3.95	簡易宿所（自炊）
辻川	32		300	300	300	150	22	26			2	3.3	簡易宿所（自炊）
松本	なし	75	800				4	13			3	6.0	簡易宿所
壹岐島荘	64 65	524	1,200	1,200	900	800	大1 中2 小24	119	130	150	5	15.4	国民宿舎

1972年（昭和47年） 4月、勝本町保養温泉センターが開設された。町民の保健増進のために設けられたもので気軽に利用される。また、福岡～杵岐空港間全日空のYS11型機（定員64名）が就航して空の足が充実して来た。

1973年（昭和48年） 湯ノ本地区開発のために湯ノ本新田を買収する件が町議会で可決された。

1976年（昭和51年） 鯨伏小学校の郷土クラブ（担当・中上史行）では9年間にわたるクラブ活動をまとめて「鯨伏のむかし話²⁶⁾」を出版した。この中で湯ノ本地区の話を2篇次に示した。

『湯の本』

ここは、大むかしから温泉がわき出ていたようです。けれども、壱岐の島で永仁二年（1294年）大地震がおきてから、しばらく湯が出なかったようです。

ところが、温泉山医王院で十五体の仏像をかざっておいのりをしたところ、たちまち、もとのように温泉がわき出たということです。

けれども、まだ人家はほとんどありませんでした。ようやく寛文二年（1662年）になって、家がたちならび、はじめました。それは、役人の山本甚左衛門清方という人が、湯の本の海をうめたてさせて土地を広げ、その湯の浦や浦海浦や黒崎浦から、人々をよんできて、家をたてさせたからだといわれています。

江戸時代の湯の本浦には、家七十戸、人三百五十人（男百七十一人、女百七十九人）、船十艘、それから、江戸時代のはじめまで、千六百石をつむ観音丸という大きな運ばん船がいました。この船は、江戸幕府のご用船で北海道から長崎までを往復していました。また千石をつむ往徳丸という、米や麦の運ばんをする船もいました。

明治時代になると温泉は観世音寺がゆずりうけ、その経営をしていたこともあります。明治三十三年（1900年）のころの湯の本港は、つぎのようでした。

- ・定期船がなかったので、木造船でいきましていました。博多まで十二時間、対馬まで十四時間、唐津まで十一時間、朝鮮の馬関まで二十四時間。

- ・商店は六軒で、旅館は一軒だけでした。

大正七年（1918年）になると温泉にはいりに来る人も多くなり島の人々だけでなく、対馬や福岡県、佐賀県の人たちからも利用されるようになりました。』

『観世音寺の新地蔵』

この話は、湯ノ本浦の観世音寺のことです。正徳五年（1715年）に不伯和尚と長谷川氏地蔵講中の信者の人々がそうだんして、寄附のお金を集めました。そして京都の仏師にたのんで、新しく地蔵像を作ってもらうことになりました。

やがて新しい地蔵さまができました。さっそく長谷川家の船にのせて、川をくだってきたところ、大風がふいて、船は岩につきあたってこわれてしまいました。ようやく岸の近くまでできましたが、なかなか上陸できずに困っていました。

すると、だれかはわかりませんが、岸の方から竿をだして、ひっぱり上げてくれました。おかげで、みんな無事に上陸できました。ところが、ふしぎなことに渚には、新しい地蔵さまがたっているのです。しかも少しも、傷がついていません。その上、竿をだして助けてくれた人は、どこにも姿は見えません。これは、きっと新しい地蔵さまのおかげでしょう。岸でさしだされた竿は、地蔵さまの錫杖にちがいないと、助かった人々は、みんなありがたく何度もおがんだということです。』

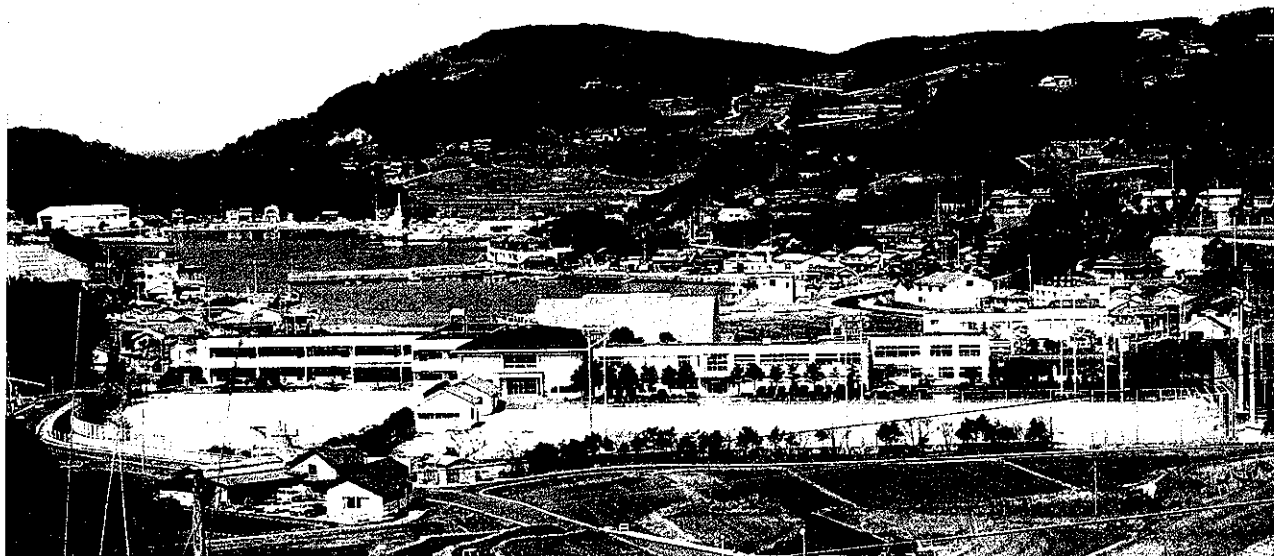
写真45 勝本町保養温泉センターの源泉



（壱岐保健所、村崎卓見撮影）

26) 鯨伏小学校郷土クラブ：鯨のむかし話，27～34p，昭和51年，勝本町教育委員会

写真46 鯨伏小学校（左）と鯨伏中学校（右）



小学校は1984年、中学校は1974年に湯ノ本新田埋立地に造られた。

1979年（昭和54年） 勝本町は湯ノ本温泉の枯渇を未然に防止する為に財団法人、中央温泉研究所へ温泉の集中管理計画を策定してもらった。その内容は温泉の泉質と利用状況及び集中管理計画であり、概要を次に示す。

「勝本町湯ノ本温泉集中管理基本計画書²⁷⁾」

昭和54年7月 勸中央温泉研究所

この基本計画書は、勝本町湯ノ本温泉地の温泉利用状況を調査し、その結果を基に他の温泉地が大きく問題としている温泉枯渇現象を未然に防止し、且つ利用施設への安定供給を果せる試案をまとめたものである。

源泉

町より提供された資料によれば、温泉地内にある源泉数は17井で、この内現在利用されているのは14井である。（昭和54年3月調査時）又は、全源泉とも自然湧出である。

1. 泉質

現地調査によって採取した14井の温泉水の主成分は第1表に示す。

泉温は52～69℃の範囲で、最高温は国民宿舎峯岐島荘である。pHは5.9～6.7で、液性は弱酸性を示す。これは殆どどの源泉が遊離の炭酸ガスを含むためである。化学成分的には溶存固形物が多いのが特徴で、蒸発残留物として16～22g/lの範囲を示す。陽イオンの主要成分はナトリウムイオン、陰イオンの主要成分は塩素イオンである。副成分としてカルシウム及びヒドロ炭酸イオンを含む。なお、鉄を最高7.1mg/l（ Fe^{2+} として）含むが、この鉄は酸化されて赤褐色の水酸化鉄、 $Fe_2O_3 \cdot nH_2O$ となるため、温泉水は湧出直後赤褐色に混濁し、また鉄の沈殿物（いわゆる湯あか）が浴槽内に浮遊、浴槽内壁に付着している。温泉水の泉質は食塩泉である。その化学組成は源泉間であまり大きな差異がないため、同じ起源のものであると考えられる。また、主要成分がナトリウム及び塩素イオンであり、溶存成分が多いことから化学成分の起源は海水とされている。ただし、海水とは次の点で若干化学組成が相異なる。

- (1) カルシウムイオンが海水の400mg/lよりも多い。
- (2) 海水では $Mg > Ca$ であるが温泉は $Ca > Mg$ である。
- (3) 鉄イオン、ヒドロ炭酸イオン及び CO_2 が海水よりも多い。

このような相異は、海水が温泉水化する過程における岩石鉱物との熱水反応によるものと考えられる。

普通の海水は加熱しても沈殿物はあまり生成しない。しかし、この温泉水は流れている間に鉄の沈殿が生成するが、

27) 中央温泉研究所：勝本町湯ノ本温泉集中管理基本計画書、全35p、1979年（昭和54年）、勝本町役場蔵

鉄以外にも炭酸カルシウム質の沈澱物が生成する。これは、流れている間に CO_2 を失って、温泉水が中性ないし弱アルカリ性側に変わるためである。石灰質の沈澱物が生成するかどうかを判定するために、温泉水の飽和指数を計算した結果を表10最後の欄に示した。

同指数が+1.0以上の場合は温泉沈澱物が生成する。

計算の結果は指数が+0.14～+1.34の範囲で、+1.0以上の場合が4例存在する。この計算は湧出口でのpHと温度を基準にしているため、温泉が流れている間にpH値が上昇すれば、飽和指数は大きな値となり、沈澱物が生成する傾向が強まる。したがって、全体的にみれば、本地域の温泉は沈澱物が生成するものと考えた方がよい。

なお、溶存成分量が多いこと、pHが弱酸性で CO_2 を含むことなどから、温泉水は金属材料に対して腐食性を示す。温泉水については昔時の分析成績が既存する。

それと今回の分析値を比較した結果を表11に示す。これから大きくいえば化学組成の経年変化はほとんどみられない。ヒドロ炭酸イオンに増加がみられること、硫酸イオンが若干変動していることなどを除けば、大きな変化は起きていない。これは温泉水の大部分が自然湧出の状態に保持されてきたためである。したがって、ポンプその他で現在の採取量以上に汲み上げた場合は湧水の侵入による塩水化をまねく恐れが充分考えられる。

ちなみに、源泉によっては、泉温、湧出量等潮汐の影響を大きく受けるといわれているので、本温泉と湧水の関係泉質保全上注意すべきことがらである。

以上述べた点を要約すると次の如である。

- (1) 泉質は食塩泉で、その起源は海水と考えられるが、海水とは化学組成が若干ちがっている。
- (2) 鉄、カルシウム及びヒドロ炭酸を含むために、鉄質及び石灰質の温泉沈澱物が生成する。
- (3) 塩分含量が多く、 CO_2 を含み、弱酸性であるため金属材料に対して腐食性がある。
- (4) ポンプ揚湯などで温泉水を大量に汲み上げると海水浸入により塩水化が起こる。これは泉温の低下、泉質の劣化につながる。

表10 湯ノ本温泉の主要化学成分

源泉記号	源泉名	泉温 ℃	pH	揚湯量 ℓ/min	蒸発残留物 mg/ℓ	K ⁺	Na ⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	Fe ²⁺	Cl ⁻	SO ₄ ²⁻	HCO ₃ ⁻	H ₂ SiO ₃	飽和指数
N	山口温泉	69.8	6.6	46.1	18,555	185	5,000	746.4	275.2	3.9	9,866	711.1	518.1	87.1	+0.82
M	公立老 人ホーム	58.8	6.4		17,210	160	4,789	647.6	308.4	7.1	9,148	591.3	460.0	104	+0.82
L	品川クリニック	54.8	6.5		21,387	179	5,001	695.2	350.6	3.1	9,738	750.6	518.1	88.4	+0.97
K	あずまや	59.0	6.1	40	17,900	175	5,050	658.6	310.7	4.2	9,547	663.3	556.1	85.8	+0.63
J	長谷川純一	53	5.9	7.6	14,770	114	3,600	497.6	381.7	1.1	9,411	553.1	480.2	85.8	+0.14
I	千石荘	64	6.0	27.5	21,182	183	5,008	658.6	268.5	3.6	9,563	745.6	558.6	130.0	+0.6
H	平山温泉	66.5	6.5	13.7	21,075	185	4,985	622.0	277.4	3.6	9,515	691.3	556.1	110.5	+1.14
G	勝本町保 養セン ター	60.9	6.2	24.0	19,812	180	5,010	680.6	253.0	4.1	9,563	730.8	546.0	91.0	+0.76
F	万福荘	63.5	6.2	6.5	21,225	190	5,015	673.3	290.7	4.0	9,579	683.1	556.1	84.5	+0.83
E	長山温泉	67	6.4	15.7	19,774	185	4,995	680.6	270.7	3.9	9,595	753.9	551.0	46.8	+1.09
D	海老館	67	6.6		20,667	190	5,200	709.8	279.6	3.7	9,882	772.0	533.3	113.1	+1.34
C	国民宿 舎岐 島荘	69	6.2		22,301	171.0	5,000	731.8	264.1	3.8	9,802	767	530.8	65.0	+0.92
B	辻川温泉	63.8	6.7	8.7	18,770	160	4,925	698.9	275.2	4.4	9,531	714.4	543.4	53.3	+1.34
A	高峰温泉	52.0	6.2	4.1	16,353	148.0	4,500	585.4	244.1	4.0	8,288	688	530.9	66.3	+0.57

表11 湯ノ本温泉主成分経年変化

源泉記号	源泉名	年度	泉温(°C)	Cl ⁻ (mg/l)	SO ₄ ²⁻ (mg/l)	HCO ₃ ⁻ (mg/l)	pH
M	公立 嵯岐老人ホーム	昭和41	59.5	9,240	541.0	189.0	6.1
		46		4,659	768.0	404.6	5.8
		54	58.5	9,148	691.3	460.0	6.4
L	品川クリニック	42	60.5	9,771	871.1	438.3	6.4
		52	62.8	8,780	800	512.7	6.2
		54	54.8	9,738	750.6	518.1	6.5
K	あずまや	34	54.0	9,309	650.3	283.0	6.1
		54	59.0	9,547	663.3	556.1	6.1
I	千石荘	34	61.0	9,382	661	277.0	6.2
		54	64	9,563	745.6	558.6	6.0
H	平山温泉	34	66	9,455	673.1	230.0	6.2
		42	67.5	9,416	716.8	400.9	6.2
		54	66.5	9,515	591.3	556.1	6.5
G	勝本町保養センター	47	59.0	9,003	826	539.5	6.2
		54	60.9	9,563	730.8	546.0	6.2
E	長山温泉	34	66	9,563	575.5	300	6.3
		54	67	9,595	753.9	551.0	6.4
D	海老館1号 海老館2号	34	56.2	9,671	673.1	288.0	6.2
		34	57	9,766	700	369	6.4
		54	67	9,882	772.0	533.3	6.6
C	国民宿舎嵯岐島荘	44	69.2	11,740	875.5	408.9	6.0
		54	69	9,802	767	530.8	6.1
B	辻川温泉	34	62	9,688	700.8	353.0	6.6
		54	63.8	9,531	714.4	543.4	6.7
A	高峰温泉	大正2	?	8,655.4	953.6		
		昭和34	51	8,312	586.0	344.0	6.4
		54	52	8,288	688.0	530.8	6.2

2 泉温、湧出量及有効熱量

過去において各源泉の泉温、湧出量の定期的な測定結果が少ないので、これ等の経年変化の過程はつかめなかった。そこで、昭和44年8月31日の資料と今回の表12に示す昭和54年3月調査時の結果とを照合し、泉温、湧出量及有効熱量の経年変化の傾向を検討した。

昭和44年8月31日の資料によれば当時17源泉で、その総湧出量は472.9l/minであり、平均泉温は63.7°Cである。一方今回調査時に利用されている源泉は14井で、各源泉の泉温、湧出量は第3表に示すようなものであった。即ち、総湧出量は337.7l/min(満潮時373.5l/min)で、その平均泉温は62.6°Cである。

この2つの資料よりすれば、泉温の変化は過去10年間に於いて約1°C程度の低下があったことになる。

又、昭和44年次の1井当りの平均湧出量は27.82l/minであり、現在のそれは、24.12l/minとなっている。従って、1井当りの平均湧出量は昭和44年次に対し現在は約13.4%程度の減少を示している。更に、昭和44年より現在迄利用されている源泉、13源泉(第3表54年3月測定源泉の中、勝本町保養センター源泉を除いた源泉群)について総湧出量の変化を求めた。

昭和44年次の13源泉の総湧出量は403.9l/minであるが、昭和54年次のそれは313.7l/minとなっており、昭和44年次に対し54年次は約13.5%の減少となっている。この値はさきにも述べた一井当りの平均湧出量の減少等と同じ値を示している。

このことは湯ノ本温泉地内に現在程度の源泉数を保っているかぎり、個々の源泉の湧出量について変動があったとしても総湧出量においては、10年間に1割強の減少ですんでいる。

次に、これ等13源泉の有効熱量の変化を計算した。

有効熱量とは温泉水を浴用とする場合に浴槽運転に使用出来る熱量で次式で示されるものである。

$$\text{有効熱量 (kcal/hr)} = (\text{泉温} - \text{浴槽運転温度}) \times \text{湧出量 (l/hr)} \dots\dots(1)$$

通常浴槽運転温度は43~41℃であるが、今回の調査において測定した浴槽運転温度の平均値も41℃強であった。しかし、本報の有効熱量は浴槽運転温度を42℃として計算する。結果は表13に示す。即ち、昭和44年次の13井の有効熱量合計は530,100kcal/hrであったのが、昭和54年次には391,600kcal/hrとなり、約26.2%という大きな減少を示している。中でも有効熱量の減少は充分気を付けなければならない点である。なお、現在利用している14井の有効熱量は表13に記したごとく総計418,839kcal/hrである。

3 利用施設の現況とその浴槽運転必要熱量

今回の調査時に於ける利用施設数は16軒でその内訳は

- 旅館 8軒 公衆浴場を持つ旅館 2軒
- 病院 1軒 公衆浴場 2軒 個人 1軒
- 福祉施設 2軒 計 16軒

である。これ等の浴槽と規模と収容定員又利用者数の詳細は、表14にまとめてある。この内、長山温泉旅館は収容定員のみで公衆浴場の浴客数（1日平均）は含まれていない。

この表より公衆浴場、公衆浴場を持つ旅館、個人等を除く利用施設の定員1名当りに対する浴槽面積を計算すると0.17㎡となり、全国平均0.16㎡/定員1名よりやや大きい。

従って、湯ノ本温泉地の浴槽規模はこれ以上広くする必要はない。又、各利用施設の浴槽をすべて運転するのに必要な熱量を計算したものが表15に記してある。計算に際しての条件は、

- i 浴槽運転温度は現地調査の結果より42℃とする。
- ii 浴室温度を冬期20℃とする。
- iii 上り湯は1人15ℓとする。

等である。

即ち、浴槽運転するのに必要な熱量は合計164,000kcal/hrとなる。一方源泉群の総有効熱量は418,800kcal/hrであるから、差引き254,000kcal/hrの余剰熱量を持っている。

利用施設の最大必要湯量

次に既設利用施設の浴槽運転に必要な最大湯量を計算する。計算に際しての条件は若し将来源泉の保護と利用者の安定供給のために集中管理設備を建設したと仮定すると、源泉群の現況をもってすれば、冬期にて58℃以上の温度で利用施設に給湯できる。そこでこの条件と(2)項の条件とを総合して算出すると表15の如き結果となる。

即ち、最大必要湯量は175.7ℓ/minである。一方源泉群の湧出量は337.7ℓ/minであるから、差引き162ℓ/minの余剰湯量となる。

表12 湯ノ本温泉源泉の泉温及湧出量

昭和54年3月27日~29日調査

源泉記号	源泉名	泉温(℃)	湧出量(l/min)
A	高峰温泉	52.0	4.1
B	辻川温泉	63.8	8.7
C	国民宿舎壱岐島荘	69.0	18.0 (23.6)
D	海老館	67.0	30.8 (37.0)
E	長山温泉	67.0	15.7
F	万福荘	63.5	6.5
G	勝本町保養センター	60.9	24.0
H	平山温泉	66.5	13.7
I	千石荘	64.0	27.5
J	長谷川純一	53.0	7.6
K	東屋	59.0	40.0
L	品川クリニック	54.8	9.2 (17.2)
M	公立壱岐老人ホーム	58.8	85.8 (101.6)
N	山口温泉	69.0	46.1
		平均温度 62.6℃	337.7ℓ/min (373.5ℓ/min)

()内は満潮時の湧出量である。

表13 湯ノ本温泉源泉有効熱量

浴槽運転温度42℃

源泉記号	源泉名	昭和44年7月31日			昭和54年3月28日		
		源泉		源泉有効熱量 (kaal/hr)	源泉		源泉有効熱量 (kaal/hr)
		温度(℃)	湧出量(l/min)		温度(℃)	湧出量(l/min)	
A	高峰温度	56	21.6	18,144	52	4.1	2,460
B	辻川温泉	60	15	16,200	63.8	8.7	11,380
C	壺岐鳥荘	67	55	85,800	69	18	29,160
D	海老館	59	11	11,220	67	30.8	46,200
E	長山温泉	67	27	40,500	67	15.7	23,550
F	万福荘	66	15	21,600	63.5	6.5	8,325
G	勝本町保養センター	—	—	—	60.9	24.0	27,216
H	平山温泉	69	35	56,700	66.5	13.7	20,139
I	千石荘	65	72	99,360	64	27.5	36,300
J	長谷川純一	60	20	21,600	53*	7.6*	5,016
K	東屋	58	27	25,920	59	40	40,800
L	品川クリニック	65	25	34,500	54.8*	9.2*	7,065
M	公立壺岐老人ホーム	60	—58.3	62,964	58.8	85.8	86,486
N	山口温泉	69	22	35,640	69	46.1	74,682
		平均泉温 63.8℃	403.9 (l/min)	530,148 (kcal/hr)	平均泉温 62.7℃	313.7 (l/min)	418,839 (kcal/hr)

※印は源泉で測定したものでない。

以上述べたことをまとめると、湯ノ本温泉地は現況の利用施設の浴槽を運転するために必要な熱量も湯量も十分に持合せているということになる。そこで若し、源泉所有者の合意が成り立ち、温泉資源の保護と安定供給及び湯ノ本温泉の合理的な温泉利用の観点より集中管理を行なう場合のシステムについて言及する。

4. 集中管理設備計画

湯ノ本温泉地内の源泉群は総べて自噴であるから、集中管理設備内には全部の源泉を集湯することを建前として設備計画をしなければならない。従って、そのシステムは源泉を集湯しつつ、且つ利用者に配湯するという仕組みをとる。集中管理設備の心臓部とも言えるべき配湯所の位置は、町よりの指示にしたがい仮に湯ノ本支所駐車場とする。

給湯地域は配湯所の位置、各源泉の位置及利用施設のばらつき等より検討し、温泉の利用効率を高くするため、給湯地域を老人ホームのある地区（以後第1地区と呼ぶ）と湯の山公園のある南地区（以後第2地区と呼ぶ）に分ける。

設備系統図は下に示す。即ち、配湯所に設ける貯湯槽に集められた温泉水はポンプにて圧送し、第1地区配湯管、第2地区配管をかえして各利用施設に給湯する。又配湯管は集湯管の役目も同時におこなうような役目をする仕組みをとる。設備は次の様なものよりよる。（以下中略）

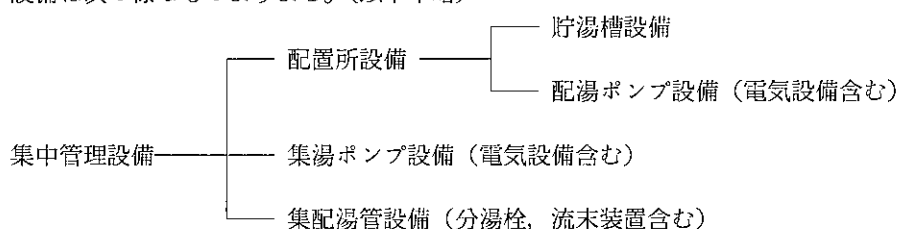


表14 湯ノ本温泉の収容人員と入浴施設の状況

No.	利用施設	収容定員 又 利用者数 (人)	大風呂		家族風呂		特殊浴槽及バス		浴槽合計		備考
			面積 (㎡)	容積 (㎡)	面積 (㎡)	容積 (㎡)	面積 (㎡)	容積 (㎡)	面積 (㎡)	容積 (㎡)	
1	高峰温泉	20	7.3	3.4	—	—	—	—	7.3	3.4	公衆浴場を持つ旅館
2	辻川温泉	5	6.0	3.0					6.0	3.0	公衆浴場
3	国民宿舎壱岐島荘	120	17.6	10.3	3.2	2.0	—	—	20.6	12.3	旅館
4	海老館	30	7.0	3.9	—	—	—	—	7.0	3.9	旅館
5	長山温泉	50	11.0	6.5					11.0	6.5	公衆浴場を持つ旅館
6	万福荘	15	4.9	2.8					4.9	2.8	旅館
7	勝本町保養センター	40	24.1	11.1					24.1	11.1	公衆浴場
8	平山温泉	40	11.6	6.3					11.6	6.3	旅館
9	千石荘	31	6.3	2.9	3.1	1.5			9.4	4.4	旅館
10	長谷川純一	—	—	—	1.4	0.6			1.4	0.6	一般住宅
11	東屋	35	5.4	2.5					5.4	2.5	旅館
12	品川クリニック	30	7.1	4.1					7.1	4.1	病院
13	公立壱岐老人ホーム	104	6.1	3.1					6.1	3.1	福祉施設
14	特別養護老人ホーム	116	4.6	2.1	0.5	0.3	2.2	1.2	7.3	3.6	福祉施設
15	山口温泉	10	8.5	4.8					8.5	4.8	旅館
16	松本温泉	10	7.0	4.0					7.0	4.0	旅館
	合計	655	134.5	70.8	8.2	4.4	2.2	1.2	144.9	76.4	

表15 湯ノ本温泉の施設運転必要熱量

期間 施設 番号	利用施設名	浴槽運転 必要熱量 (B) (kcal/h)	上り湯必要 熱量 (A) (kcal/h)	(A)+(B) (kcal/h)	浴槽必要 湯量 (D) (ℓ/min)	上り湯必要 湯量 (C) (ℓ/min)	最大使用量 (C+D) (ℓ/min)
1	高峰温泉	8,030	192	8,155	8.4	0.2	8.6
2	辻川温泉	6,600	96	6,670	6.9	0.1	7.0
3	国民宿舎壱岐島荘	22,880	1,248	24,905	23.8	1.3	25.1
4	海老館	7,700	288	8,170	8.0	0.3	8.3
5	長山温泉	12,100	480	12,880	12.6	0.5	13.1
6	万福荘	5,390	192	5,590	5.6	1.2	5.8
7	勝本町保養センター	26,510	384	26,990	27.6	0.4	30.0
8	平山温泉	12,760	384	13,370	13.3	0.4	13.7
9	千石荘	10,340	288	10,760	10.8	0.3	11.1
10	長谷川純一	1,540	—	1,540	1.6	—	1.6
11	東屋	5,940	284	6,310	6.2	0.4	6.6
12	品川クリニック	7,810	288	8,050	8.1	0.3	8.4
13	公立壱岐老人ホーム	6,710	1,054	7,810	7.0	1.1	8.9
14	特別養護老人ホーム	6,090	1,152	7,310	8.4	1.2	9.6
15	山口温泉	9,350	96	9,520	9.7	0.1	9.8
16	松本温泉	7,700	96	7,870	8	0.1	9.1
	計	157,450	6,624	164,074	168.8	6.9	175.7

5. 運転維持費

この計画の設備を建設し、これを運転した時の月当りの維持費を算出すると、下のごときものとなる。

但し、この維持費には資本費（返済金及金利）及び事務費は含まない。

表14より温泉 1 m³当りの実費を算出してみる。3項で述べたように最大必要湯量は175.7ℓ/minであるので、月当りに直すと

$$\frac{175.7 \ell / \text{min} \times 1.44 \times 365 \text{日}}{12} = 7.695 \text{m}^3 \text{となる。}$$

従って温泉 1 m³当りの実費は

$$713,300 \text{円} \div 7.695 \text{m}^3 = 92 \text{円} 69 \text{銭} \text{となる。}$$

湯ノ本温泉集中管理設備運転維持費

名称	金額	備考
償却費	384,100	定額法による。耐用年数貯湯槽30年、その他設備15年
電力費	251,500	低圧受電24kw（集湯ポンプ含む）
修理費	65,200	
消耗品費	12,500	スケール防止対策剤
人件費		技師1人
合計	713,300	

表16 湯ノ本温泉集中管理総工事費概算

名 稱	数量	金 額
配湯所設備		
配湯 ポンプ設備工事	1式	5,713,000
貯湯槽設備工事	1式	2,719,000
合 計		8,432,000
集湯ポンプ設備		
第1地区集湯ポンプ設備工事	1式	2,183,000
第2地区集湯ポンプ設備工事	1式	8,007,000
合 計		10,190,000
集配湯管設備		
第1地区集湯配管設備工事	1式	1,636,000
第2地区集湯配管設備工事	1式	8,408,000
第1地区配湯配管設備工事	1式	29,007,000
第2地区配湯配管設備工事	1式	20,498,000
合 計		59,549,000
総 合 計		78,171,000

1983年（昭和58年） 勝本町役場が作成した湯ノ本温泉の案内は次の如であった。

『壱岐 湯ノ本（いきゆのもと）

〔長崎県壱岐郡勝本町 国民保養温泉地指定

昭和46年3月23日〕

〔交通〕 鹿児島本線 博多駅下車、築港本町より九州郵船の定期旅客船で3時間（490円）。佐賀県呼子港より九州郵船のフェリーボートで壱岐・印通寺港まで1時間20分（420円）。壱岐上陸後、湯ノ本まで島内交通バス30分（100円）

〔ガイド〕 伝説によれば神功皇后、三韓征伐の帰路、壱岐勝本へお立寄りになり湯ノ本の路傍に温泉自噴を聞かれ引湯し入湯されたとかで歴史は古い。

記録では行基菩薩が壱岐の国分寺建立で来島の折、開基入湯されたことが続・万葉集に記されてある。

温泉としての開発は寛文二年十一月（1662年）321年前より始まり、第1回の温泉分析は明治20年12月2日、当時の長崎病院薬局長、瀧戸先生によるもので薬効泉として余りにも有名である。

湯ノ本湯泉は壱岐対馬国定公園の特別区に属し湾頭に点在する小島の景観は恰も写し絵のようで湾頭島影の落日は百万ドルの夕陽として旅情を慰めている。

詩人曰く「湯ノ本温泉にて旅中の汗を流し、車にて鏡の如き担途を徐行するなれば男性的な海上遥かに対馬見え、陸前松島よりも雄大な風景はおそらく天下の絶勝というに誇大でない。車の動くにつれて 汀去り 岸来り 洋々たる楽しみ亦格別、

〔泉 質〕 含塩化土類食塩泉（緩和性高張温泉）、温度 56～70℃、源泉数 17（自噴）、湧出量 毎分420ℓ

〔効 能〕 リウマチ性疾患、運動器障害、創傷、慢性湿疹および角化症、虚弱児童、婦人科疾患、更年期障害

〔公共施設〕 国民宿舎壱岐島荘、遊園地、公立壱岐老人ホーム、公立壱岐特別養護老人ホーム

〔医療施設〕 町立湯ノ本診療所

〔利用状況〕 多客期 3～4、7～9月、中間期 1、5、10～12月、閑散期 2、6月

〔名産〕 味覚 さゞえの壺焼、うにめし。生鮮魚料理 あわび、生うに。土産品 するめ、わかめ、焼酎、貝細工、鬼凧。

〔行事〕 湯ノ本温泉まつり（10月下旬）：漁船パレード、仮装行列、演芸会

〔旅館〕

旅館名	電話	人員	料金
国民宿舎壱岐島荘	092043 64, 65	119	1,500円
海老館	12	32	1,800
平山旅館	16	40	1,600
千石荘	4	22	1,800
長山旅館	33	20	1,500
あづまや	6	25	1,500
山口旅館	40	15	1,200

1988年（昭和63年） 正確ではないが、この年に白滝の松本温泉と民宿の千鳥が廃業した。

1989年（昭和64年） 1月6日 昭和天皇没、1月7日から平成元年となる。

1989年（平成元年） 諸国いで湯案内²⁸⁾に「長崎の島の湯」としてグラビア付で湯ノ本温泉が紹介されている。筆者は国民宿舎に宿泊した。次にその文を示す。

『長崎の島の湯』

西九州佐賀県から長崎県の海岸にかけて温泉のある公営国民宿舎が点在する。東京駅6時の「ひかり」で博多着12時04分。博多港壱岐対馬航路乗船場から九州郵船フェリーつしま丸に乗船。1,575 tの船は少々揺れたがまずは快適な玄海灘の船旅、約2時間30分を甲板上で過し郷ノ浦港着。乗り継いだバスは長汀曲浦をうねうねと上ったり下ったり、約30分で勝本町営国民宿舎壱岐島荘着18時20分であった。東京駅から壱岐島まで12時間20分であつた。

バスは海岸線に沿って忠実に走り島の景観を十分に眺めさせてくれた。沿道の竹藪や樹林など葉っぱが殆んどないのは8ヵ月前に吹き荒れた強風でみなちぎれて飛んでしまったのだそうだ。民家の瓦もちろん飛散したという。生木の葉を吹飛ばす余程強烈な風なのであろう。驚いた。

湯ノ本温泉は壱岐島北西岸、複雑に入り組んだ湯ノ本湾に面した浜辺、69℃の塩化土類食塩泉が湧出し国民保養温泉地に指定されている。背後に山が迫り湾内には平瀬島、黒カ島、阿瀬島など無数の岩礁や島が浮び温泉場からの眺が良い。湾頭島影の落日は百万ドルの名景といふ、シーズンにはイカ釣り船の漁火が美しいという。

国民宿舎は湾に臨む高台に聳える鉄筋3階建。旅館街は高台の陰に木造の湯治宿が並ぶ。勝本町保養温泉センターの大浴槽には薄茶色の湯が大量に注ぐ。鉄筋3階建の海老館の裏庭に露天の岩風呂がある。

国民宿舎の大浴室は大きなひょうたん形浴槽に透明な湯を湛える。熱くて塩鹹い。待望の島の湯にのんびり浸る。この湯は濾過しているという。家族湯が3つあり何れも小判形浴槽。19時以後は家族湯を使用する。翌朝入ってみると表面に白い析出物がいっぱい浮んでいてまるで薄氷が張ったよう。これは温泉の薬物でそれほど成分濃厚なのであろう。外傷やマムシの傷に特効があるといわれる。

その昔、神功皇后は三韓出兵の帰路この島勝本に立寄り路傍の温泉自噴を発見、引湯して入湯したと伝え、行基上人

28) 美坂哲男：諸国いで湯案内（九州編），21～22p，山と溪谷社，（1989年）

写真47 1983年（昭和58年）3月の湯ノ本温泉



左端は船上げ場、中央に保養温泉センター、湯の山に壱岐島荘、右に長山旅館と海老館。未だ海岸は現在の様に埋立されていない様子がわかる。

は壱岐国分寺建立のため来島入湯したと伝える。

温泉場としての開発は寛文二年（1662年）からという。旅館街の反対側海岸に民宿辻川温泉とか高峰温泉がある。何れも別棟は破風付屋根の浴舎で男女別の共同湯形式の素朴な浴槽に薄茶色の湯を湛える。おのおの源泉を所有する。辻川温泉に浸る。古いコンクリート浴槽のへりには含有成分が固まって付いている。塩鹹い味。天井には神棚を備える。湯は熱いが開け放した窓からは涼しい海風が入って快い。そして母屋の休憩室や自炊部屋を利用する。すべて開放的でのんびり湯治出来そうだ。

国民宿舎の夕食は新鮮な海の幸でうまい。

タイ刺身五切、タイのかぶと煮がうまい。私は煮魚大好き。それにアジのから揚げと鍋物。大瓶のビール3本もむべなるかな。

写真48 辻川温泉



入口の様子



男湯の浴室

（壱岐保健所 園田清秋撮影）

島の最高点「岳ノ辻」へ登る。標高213cm。展望台屋上で裸になって大瓶ビールを飲む。壱岐島全体が一望の下に見渡せるが無線通信塔の林立は興冷め。島の東南にある印通寺港から佐賀県呼子港に船が出ている。530tの九州郵船フェリー呼子丸に乗って九州本土に渡る。おだやかな船旅であった。

湯ノ本温泉 壱岐郡勝本町湯ノ本

泉質 食塩泉。泉温 69℃。交通 九州郵船郷ノ浦港からバス20分湯ノ本温泉下車。

宿泊 旅館5軒、公共の宿1軒。 問合せ 勝本町観光協会 09204-2-1156。

壱岐島北西岸で風光明媚な湯ノ本湾入江の奥に自噴する温泉、臭素を含む食塩泉が1日40万ℓ（400㎡）湧出し、旅館や国民宿舎のほか町営温泉センターや3ヵ所の共同浴場に注がれる。湾内の小島では釣りや磯遊びが楽しみ、ゴルフや

テニスなどのレジャー施設も近い。』

1990年（平成2年）3月に勝本町が調査委託した「勝本町温泉空中探査及び既存源泉現況調査報告書」²⁹⁾が完成した。調査実施は朝日航洋株式会社であった。

調査結果の概要

経年変化と新規温泉源の必要性

湯ノ本温泉の湧出量は長期的にみると減少傾向にあり、新規開発によって増大しつつある需要に対応する必要がある。

湯ノ本温泉の1源泉当りの平均温度、湧出量、放熱量を経年的に図1で比較した。

現時点では山口温泉における増掘（1984年に口径を3インチから大きくし、深さ70mであったものを140mまで増掘した。）により湧出量が90ℓ/分増加しているが、他の源泉は減少している。山口温泉では電気伝導度が他よりも高く、海水の混入率が高いと予想される。既存源泉の増掘は温泉水の塩水化を高める可能性がある。

また、その測定値を表6に示した。1源泉当りの平均湧出量は1969年（昭和44年）に27.8ℓ/分であったが、10年後の1979年（昭和54年）は24.1ℓ/分で約13%減少した。更に10年後の1989年～90年には25.9～35.8ℓ/分と増加したが、これは1984年（昭和59年）に山口温泉の増掘で湧出量46.1→136.7ℓ/分、泉温69.0→71.3℃となった為であった。この増掘がないと仮定すると平均湧出量は23.0ℓ/分となり、1979年（昭和54年）よりも4.6%の減少となる。従って、従来どおりの湧出量は少しずつ減少傾向にあった。

泉温の変化は1969年（昭和44年）から1979年（昭和54年）まで1.1℃、更にこれから10年後の1989年（平成元年）までに1.1～2.5℃低下した。この年には夏季と冬季に測定し1.4℃の差があったので平均1.8℃の低下であった。

1源泉当りの平均放熱量は 平均泉温×平均湧出量 で算出した。これも増掘がなければ減少傾向にあった。

湧出量への潮汐の影響

湯ノ本温泉は海岸ぞいにあり潮汐の影響を受けている。その実態を知る為13源泉で泉温、電気伝導度、湧出量の調査を3回行った。

図21 湯ノ本温泉湧出量等の経年変化

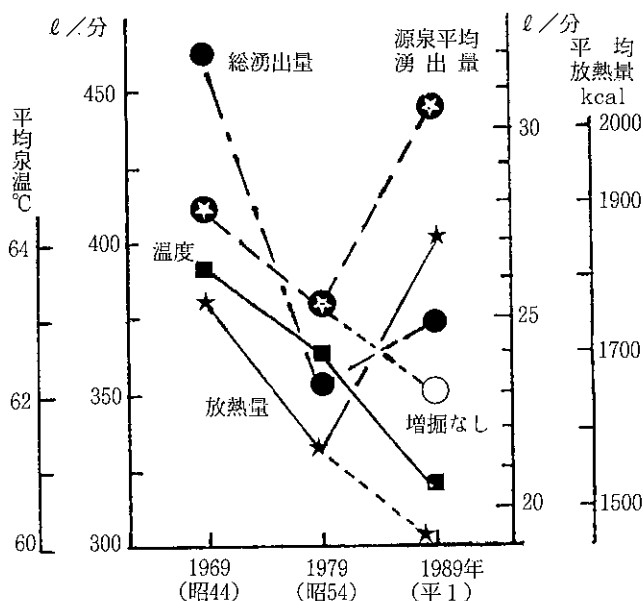


表17 湯ノ本温泉湧出量、その他の経年変化

測定年月	総湧出量/源泉数	平均湧出量	平均泉温	潮汐
1969 (昭44)	472.9 ℓ/分 / 17	27.8 ℓ/分	63.7℃	
1979 (昭54)	337.7 ℓ/分 / 14	24.1 ℓ/分	62.6℃	
〃	373.5 ℓ/分 / 14	26.7 ℓ/分	62.6℃	満潮
1989, 8	311.3 ℓ/分 / 12	25.9 ℓ/分	61.5℃	小潮
(平成1), 11	429.4 ℓ/分 / 12	35.8 ℓ/分	60.5℃	大潮
1990, 1	417.3 ℓ/分 / 12	34.8 ℓ/分	60.1℃	大潮

29) 勝本町温泉空中探査及び既存源泉現況調査報告書、全48p、平成2年3月、朝日航洋株式会社、勝本町役場蔵

第1回 夏季 1989年8月24～25日（小潮時），第2回秋季 1989年11月15～16日（大潮時），第3回 冬季 1990年1月29～30日（大潮時）。

第3回目の調査では勝本町保養センターで潮位と湧出量との関係を見る為に9時間連続して測定を行った。その結果は表7～8、図14に示した。

表18 湯ノ本温泉調査結果（その1）

源 泉 名	掘削深度 (m) [1979 現在]	調査日時, 気温, (降雨なし)					
		第1回 (1989. 8)		第2回 (1989. 11)		第3回 (1990. 1)	
		日 時	気温 °C	日 時	気温 °C	日 時	気温 °C
A. 高 峰 温 泉	100.0	24.11:35	29.5	16. 9:15	19.0	30.10:40	12.0
C. 国民宿舍老岐島荘	75.0	25.14:10	27.0	16. 9:45	16.5	30.10:00	8.5
D. 海 老 館	34.8	25. 8:55	26.0	16.13:45	17.0	29.13:45	14.0
E. 長 山 温 泉	65.0	24.17:30	27.0	16.13:15	19.0	29.14:20	15.0
F. 万 福 荘	32.0	24. 9:40	29.0	15.16:15	20.0	29.15:10	15.0
G. 勝本町保養センター	90.0	24.17:40	27.0	16.13:00	17.0	30.13:30	11.0
H. 平 山 温 泉	80.0	25.11:00	29.0	16.16:30	17.0	30.15:55	9.0
I. 千 石 荘	51.5	24.12:00	29.0	16.10:30	21.0	30.11:10	11.0
J. 長 谷 川 純 一	70.0	24.16:40	28.0	16.13:25	18.0	30.14:00	10.0
K. あ ず ま や	29.0	24.10:45	29.0	16.17:00	17.0	29.15:30	14.0
L. 品川クリニック	81.0	25.11:40	31.0	16.15:00	18.0	29.14:30	15.0
M. 公立老岐老人ホーム	105.0	25.13:00	31.0	16.10:45	20.0	30.10:15	11.0
N. 山 口 温 泉	140.0 [※]	25.16:20	31.0	16.11:10	19.0	31.11:40	11.0
B. 辻 川 温 泉	60.0						

※ 山口温泉は1984年に増掘し、径を大きく深さ70m→140m。

表18 湯ノ本温泉調査結果（その2）

源 泉 名	海 象						湧 出 量 (ℓ/min)				
	第1回(1989.8)		第2回(1989.11)		第3回(1990.1)		1979.3	1989.8.24 8.25	1989.11.15 11.16	1990.1.29 1.30	平 均
	潮位(m)	潮	潮位(m)	潮	潮位(m)	潮					
A. 高 峰 温 泉	1.1	上	1.0	上	1.4	上	4.1	13.5	7.2	8.9	9.9
C. 国民宿舍老岐島荘	1.2	上	1.3	上	1.3	上	—	13.4	19.3	18.6	17.1
D. 海 老 館	1.0	下	1.6	下	1.5	下	30.0	12.5	17.1	16.0	15.2
E. 長 山 温 泉	1.5	下	1.6	下	1.4	下	15.7	16.7	18.2	17.9	17.6
F. 万 福 荘	0.8	下	0.8	下	0.8	下	6.5	46.7	43.9	43.1	44.6
G. 勝本町保養センター	1.4	下	1.7	下	1.6	下	24.0	39.0	43.6	42.8	41.8
H. 平 山 温 泉	0.8	下	0.8	下	0.6	下	13.7	27.2	27.8	21.8	25.6
I. 千 石 荘	1.2	上	1.6	上	1.6	上	27.5	29.2	27.4	30.2	28.9
J. 長 谷 川 純 一	1.5	下	1.8	下	1.5	下	7.6	9.2	11.9	11.4	10.8
K. あ ず ま や	0.8	下	0.8	下	1.0	下	40.0	30.4	32.3	37.3	33.3
L. 品川クリニック	0.9	下	1.2	下	1.0	下	22.0	—	—	—	—
M. 公立老岐老人ホーム	0.9	上	1.8	上	1.5	上	—	56.8	52.0	54.9	54.6
N. 山 口 温 泉	1.5	上	1.8	上	1.7	上	46.1	167.0	128.7	114.4	136.7
B. 辻 川 温 泉							8.7	—	—	—	—

※ 潮位は唐津港潮位を使用。

潮位差は1.65mであった。高潮位と低潮位時の湧出量の差は10.2ℓ/mと大きく影響を受けていた。この場合平均の38.3ℓ±5.1ℓ/minとなる。

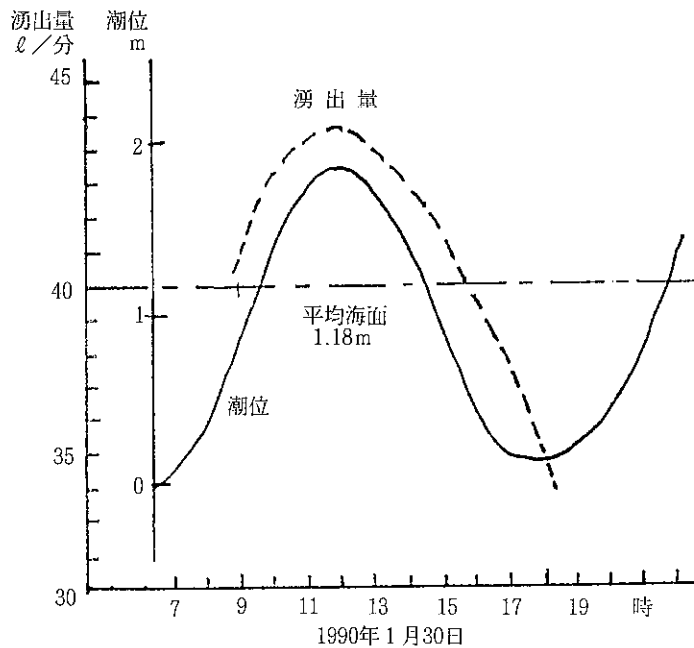
表18 湯ノ本温泉調査結果 (その3)

源 泉 名	泉 温 (°C)					pH	電 気 伝 導 度 (μΩ/cm)				
	1979. 3	1989. 8.24 8.25	1989.11.15 11.16	1990. 1.29 1.30	平 均		1979. 3	1989. 8.24 8.25	1989.11.15 11.16	1990. 1.29 1.30	平 均
A. 高 峰 温 泉	52.0	51.5	51.0	49.5	50.7	6.2	24,000	23,500	23,700	23,700	
C. 国民宿舍壹岐島荘	69.0	65.0	62.0	63.0	63.3	6.2	29,500	29,200	29,100	29,300	
D. 海 老 館	67.0	65.0	63.0	64.0	64.0	6.6	29,000	29,600	29,000	29,200	
E. 長 山 温 泉	67.0	67.5	65.0	66.0	66.2	6.4	28,000	28,900	28,800	28,600	
F. 万 福 荘	63.5	65.5	65.5	64.0	65.0	6.2	28,700	28,700	28,500	28,600	
G. 勝本町保養センター	60.9	61.0	61.0	58.5	60.2	6.2	27,200	28,100	27,900	27,700	
H. 平 山 温 泉	66.5	67.0	68.0	67.2	67.4	6.5	28,700	29,100	28,800	28,900	
I. 千 石 荘	64.0	59.0	60.0	59.0	59.3	6.0	26,800	28,100	28,000	27,600	
J. 長 谷 川 純 一	53.0	53.2	51.0	50.0	51.4	5.9	22,000	21,400	21,500	21,600	
K. あ づ ま や	59.0	58.0	56.0	55.0	56.3	6.1	26,200	27,700	27,600	27,200	
L. 品川クリニック	54.8	55.2	54.0	55.0	54.7	6.5	28,600	28,700	28,800	28,700	
M. 公立老岐老人ホーム	58.8	60.8	59.0	58.5	59.4	6.4	27,600	27,400	27,200	27,400	
N. 山 口 温 泉	69.0	72.0	71.0	71.0	71.3	6.6	29,600	30,500	30,000	30,000	
B. 辻 川 温 泉	63.8	—	—	—	—	6.7	—	—	—	—	
番外 海 水								49,500	50,200		

表19 湧出量と潮位との関係 (勝本町保養センター, 1990. 1. 30)

時 刻	9 : 00	10 : 00	11 : 00	12 : 00	13 : 00	14 : 00	15 : 00	16 : 00	17 : 00	18 : 00
湧出量 ℓ/min	40.7	42.3	42.9	43.4	42.8	41.9	40.3	38.4	36.5	33.2
潮 位 m	0.9	1.4	1.7	1.8	1.7	1.4	0.9	0.4	0.2	0.15

図 22 勝本町保養センターの湧出量と潮位の関係



1991年（平成3年）7月18日付で環境庁長官により「国民保健温泉地」に湯ノ本温泉が選定され「壱岐湯本温泉 国民保健温泉地計画書³⁰⁾」が作成された。次にその概要を示した。

『壱岐湯本温泉 国民保健温泉地計画書』

平成3年7月 環境庁

目次 1. 区域 2. 計画の基本方針 3. 地割計画 4. 施設整備計画 5. 環境整備計画 6. 管理運営計画

1. 区域

(1) 本温泉地計画の区域は長崎県勝本町の湯本温泉及びその周辺を含めた別添図面に表示する地域としその面積は46 ha（図上測定）である。

(2) 自然環境、温泉、利用性等の概要 別紙のとおり（17～18p）

2. 計画の基本方針

壱岐島は九州本土と大陸との間に浮かぶ面積約139km²の島で海岸景観や独特の歴史を今に伝える数々の遺跡、史跡があり年間延べ60万人の観光客が訪れている。

湯本温泉は壱岐島の北西部勝本町湯本に位置する。一帯は壱岐八浦の一つである湯本湾の最奥部にあり近海に浮かぶ手長島、蛇島、牛島等小島に落とす湾頭の夕景は丘巻で壱岐三景の一つに数えられる。

本温泉地は、壱岐対馬国定公園内で唯一の温泉地で神経痛、リュウマチ、外傷、特にマムシの傷に特効があるとされ古来より湯治客が絶えない。

地形的には湯本湾をとりまく形で丘陵がせり出し平坦地は少ない。湯本湾内には漁港が整備され背後の丘陵地には古くからの田畑が段々に見られる。主な産業は農林水産業でいつでも新鮮な野菜や魚貝類が豊富に享受できる。又、周辺には壱岐対馬国定公園内では唯一の特別保護地区である「辰ノ島」等の遺跡、史跡がある他、朝市が開かれ、保養、休養に適した温泉地になっている。

このため湯本温泉における計画のテーマを“豊かな自然に囲まれた保健的レクリエーション温泉地”として壱岐、九州における観光レクリエーションの“宿泊拠点”として位置づけ整備を進める。

今後、本温泉地の開発にあたっては地域の住民の意向をふまえ核となる施設としてコミニティールーム、トレーニングルーム等を備えた多目的温泉館を建設し周辺には体育館、温水プール、運動広場等のスポーツ施設を設け温泉を楽しみながら健康づくりができ若者から高齢者までが利用できる温泉施設の整備を進める。

現在温泉利用者の殆どが高齢者であるため今後保健温泉地にふさわしい施設整備を進め将来年間利用者を50%増の年間延べ15万人を目標とする。

（基本方針）

本温泉地の位置づけをふまえ基本方針を以下の3項目に設定する。

① 保健的温泉利用形態の確立

温泉本来の保健的効用を最大限に活かすため各種温泉、運動施設を導入するとともに温泉利用形態の確立を図り温泉活用を主体としたレクリエーション拠点として地元住民をはじめ島内外の利用者の健康維持、回復に供する。

② 温泉地における再生意識の醸成

湯本地域の住民の共有財産ともいえる温泉に対する住民の関心、意識を高めることにより連帯感の創出、地域活動の活性化を図る。

③ 温泉資源の保護、安定供給

温泉資源の確保は本計画の前提条件となるものであり温泉資源の保護、安定供給を図ることにより無駄のない効率的な温泉の利用を可能とする。

30) 環境庁：壱岐湯本温泉国民保健温泉地計画書、全18p、(1991年)、勝本町役場及び長崎県自然環境課蔵

3. 地割計画

地割は別添国民保健温泉地計画図のとおり。

区域の現況と整備方針は次表のとおりとする。

地 割	区 域 の 現 況 と 整 備 方 針	面 積
泉 源 保 護 区	温泉の安定供給を図るため、新規泉源の確保を行うとともに集配湯を一体的に行い湯のたれ流し等無駄を排除し効率的利用を図る。	ha 0.1
保 健 施 設 区	近年における若者の健康づくり体力づくり等の志向をふまえ更には高齢化社会への適応を充分配慮し多目的温泉センター、温水プール、体育館等スポーツ施設を建設し各施設との連携を図る。 現在ゲートボール場（4面）、海洋センタープール等があるが温泉浴とともにスポーツを楽しみながら健康の増進を図れるよう体育館、温水プール、テニスコート、ゲートボール場を設ける。 走ることは全ての健康づくりの基本であり湯本湾岸沿いに約4kmのジョギングコースを設定するとともに丘陵地に散策路を整備する。 また、湯本から黒崎半島までの約6kmはサイクリングやハイキングコースとして整備する。	12.8
宿 泊 施 設 区	現在町営国民宿舎1軒、旅館5軒、民宿3軒、湯治温泉宿4軒で約370名の宿泊収容能力があるが、温泉をはじめ恵まれた自然環境のなかで保護と健康づくりを兼ねながら長期滞在できるように宿泊施設の整備を進める。 また、泉源の確保によっては民間企業等の保養宿泊施設を誘致する。	8.7
商 店 区	区域の現況は、9店舗と3軒の飲食店がある程度である。このため民家の空家対策、幹線道路の立替等により商業用地を確保し民間活力により整備を図る。	2.2
住 宅 区	本温泉地はこれまでの過疎化によりかなりの家が廃家もしくは空家となっている。この空家対策を講ずるとともに住宅用地の確保を図る	7.7
産 業 施 設 区	現在分散している農協、漁協施設を埋立地の一角に集約するとともに漁民の作業を湯治客や観光客が見学や体験できる作業棟等を整備する。 また、周辺で生産される野菜、魚貝類等地場特産物を販売するため物産館を建設し地場産業の振興を図る。	3.3
公 共 施 設 区	現在勝本町役場湯本支所、湯本診療所、鯨伏小、中学校、海洋センタープールがある。	4.4
園 地 区	現在ある湯山公園の整備 拡充を図るとともに市街地にある空地を利用し園地整備を行うとともに植栽等により町並景観づくりを進める。 また、湯本周辺の休耕している田畑を活用し長期滞在湯治客が観光客のための体験農場や温泉熱を利用した花、果物、椎茸等の温室栽培の実験を婦人団体等により進める。又、恵まれた海の自然を活かし漁港整備により防波堤、護岸が整備されているので海釣り公園にするとともに国民宿舎嵯岐島荘一帯の海岸及び湯本湾内の小島を観光磯場として利用できるように漁民の理解と協力を得ることに努める。	1.1
療 養 施 設 区	現在公立嵯岐老人ホーム、同特別養護老人ホームの外民間診療所がある。老人ホームは平成3年度に拡張新築される。	6.0
計		46.0 (うち重磯0.1ha)

4. 施設整備計画

施設の配置は別添国民保健温泉地計画図のとおりである。

(1) 既設施設

地割	施設名	規模・構造	概要	数量	単位	整備主体	整備年度	備考
商店区	勝本町保養温泉センター	鉄筋コンクリート造平家建 162㎡ 木造平家建 82㎡	収容人員 60名 個室 5部屋 大広間 1部屋	1		勝本町	S.47	H.7 移転予定 跡地は商店区 に変更
宿泊施設区	宿泊施設		定員延 370名	10		勝本町 民間	S.44	町の整備 国民宿舎嵯岐 島荘
園地区	湯山公園	園地 4,000㎡	園路 80m 遊具設置 東屋 1棟, 動物小屋 2棟	1		勝本町	S.35	
公共施設区	海洋センター プール	鉄骨平家建 135.35㎡	25m×6コース	1		〃	H.元	
	湯本診療所	鉄筋コンクリート平家 建 201.6㎡	診察室, 事務室他	1		〃	S.53	
	鯨伏地区 ゲートボール	5,000㎡	4面(簡易)	1		〃	S.59	
療養施設区	嵯岐老人 ホーム	ブロック平家建 1,386.5㎡	収容人員 80名 居室 24室 集会室, 娯楽室(職員20名) 診察室, 他	1		嵯岐広 域圏町 村組合	S.37	
	嵯岐特別養護 老人ホーム	鉄筋コンクリート平家 建 2,006.4㎡	収容人員 100名 居室 23室 集会室, 娯楽室(職員23名) 診察室, 他	1		〃	S.46	
	嵯岐デイサー ビスセンター	鉄筋コンクリート平家 建 376.5㎡	収容人員 15名(1日)	1		〃	H.2	

S = 昭和, H = 平成

(2) 整備計画

地割	施設の種別	規模・構造	工種	概 要	数量	単位	整備主体	整備年度	備 考
園地区	湯山公園整備	園地整備 1,150㎡	新	園地整備 植栽 フェニックスほか 遊具 一式 ベンチ 街路灯	1		勝本町	H. 3	海岸ジョギングコース沿いを整備する。
泉源保護区	泉源掘削	深さ 約50m φ=150mm	新	新規掘削	1		〃	H. 4	
	送湯管理設	L=600m φ=65mm	新		1		〃	H. 5	新規泉源から多目的温泉センター迄
保健施設区	ゲートボール場	全天候型 5,000㎡	改	休憩棟 1棟 コート 6面	1		〃	H. 4	整備運営は第3セクター
	テニスコート	全天候型 3,900㎡	新	4面	6		〃	H. 5	〃
	環境整備(植栽)	A=3,000㎡	新	植栽	1		〃	H. 4 H. 5	〃
	イベント広場	A=1,000㎡	新	遊具設置	1		〃	H. 5	〃
施設区	多目的保護温泉センター	鉄筋コンクリート造平家建 2,400㎡	新	大浴場, サウナ, トレーニングルーム, 研修室, 休憩室, 娯楽室	1		〃	H. 6 H. 7	〃
	温水プール, 体育館	鉄筋コンクリート2階建 2,400㎡	新	1階 25m×8コース 2階体育館, 武道場	1		〃	H. 8	
商店区	共同店舗	A=1,500㎡	新改	食堂, 土産品, 食料品	5		民間	H. 8	温泉センター, 農協移転跡地

5. 環境整備計画

① 風致維持

- (ア) 壱岐対馬国定公園の特別地域にあって特に風光明媚な本温泉地の自然的な風致及び景観を維持する。
- (イ) 保健温泉地としての環境を維持するため工作物の設置は本計画の地割計画に基づき行うものとし無統制な建設を防止する。
- (ウ) 本計画に定める施設は温泉地一帯の自然景観と調和した構造とする。

② 風紀の維持

健全な保健温泉地として大衆の利用を図るため風紀を損ねるような不健全な施設や営業の導入を避け健全な環境保持に努める。

③ 環境衛生

(ア) 簡易水道施設

本温泉地の簡易水道は昭和56年度勝本ダムの竣工により貯水量108万トンの水源をもって良質の水が安定して給水できる状況にある。

(イ) 下水道施設

下水道施設は整備されておらず本温泉地の雑排水は各施設の浄化槽等で処理している。将来構想では公共下水道を整備し快適な生活環境を確保する計画である。

(ウ) し尿、ゴミ処理施設

本町におけるし尿処理は民間委託により海洋投機の方法で処理している。またゴミ処理については町営塵芥焼却場、不燃焼物捨場を設置し処理しているがますます多様化するゴミ処理に対応するため現在新たに焼却場建設の計画を進めている。又、し尿処理場建設についても検討中である。

清掃については地域住民と一帯となり地区を分担して定期的実施をし快適な生活環境を保持する。

(エ) 防災対策

本町には災害時の情報システムとして全町に対応できる防災行政無線が平成3年4月1日より開局した。

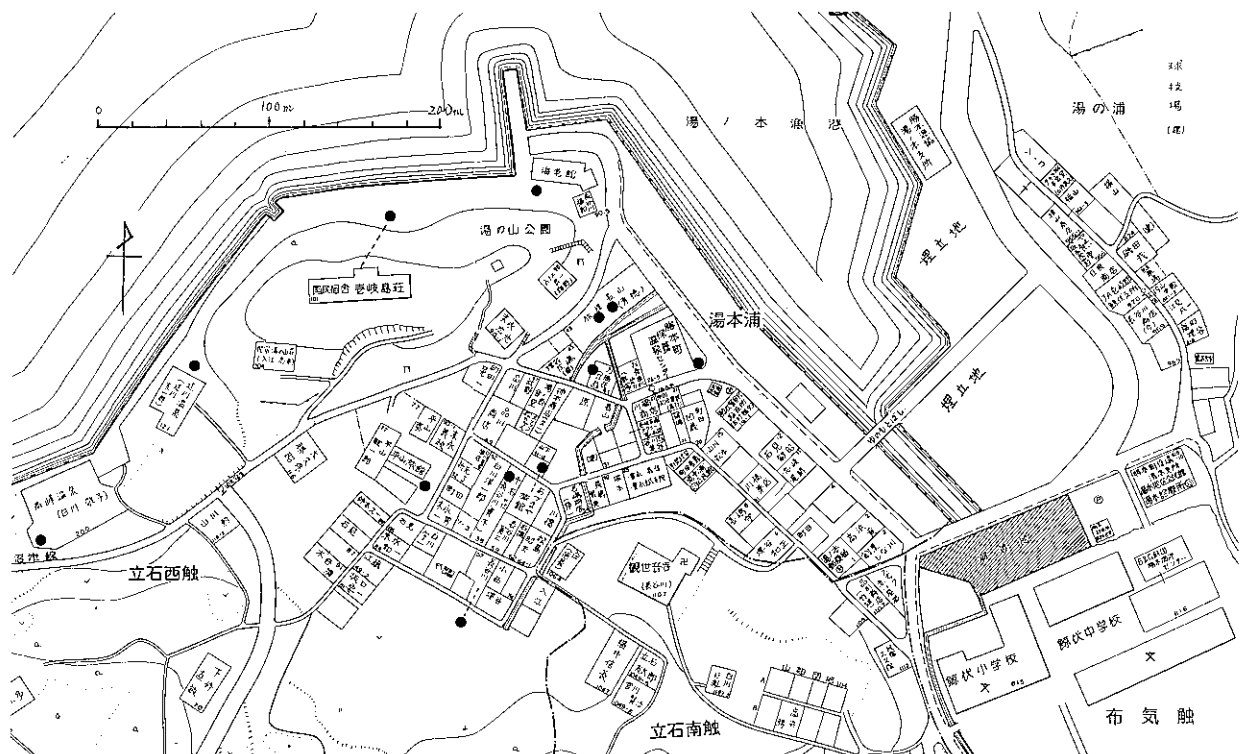
町内全域に41の子局と22台の移動無線が設置されている。

本温泉地から5kmには常設の荻岐広域圏消防署が設置され、また本町消防団機動隊も配備され利用者の安全確保が迅速に対応できる。特に、宿泊施設の防火対策については消防署の指導を得ながら設備の設置をしており防火体制も整備されている。

また、本温泉地内の道路5m以上と広く海岸埋立地や学校、地区公民館等避難場所も多い。

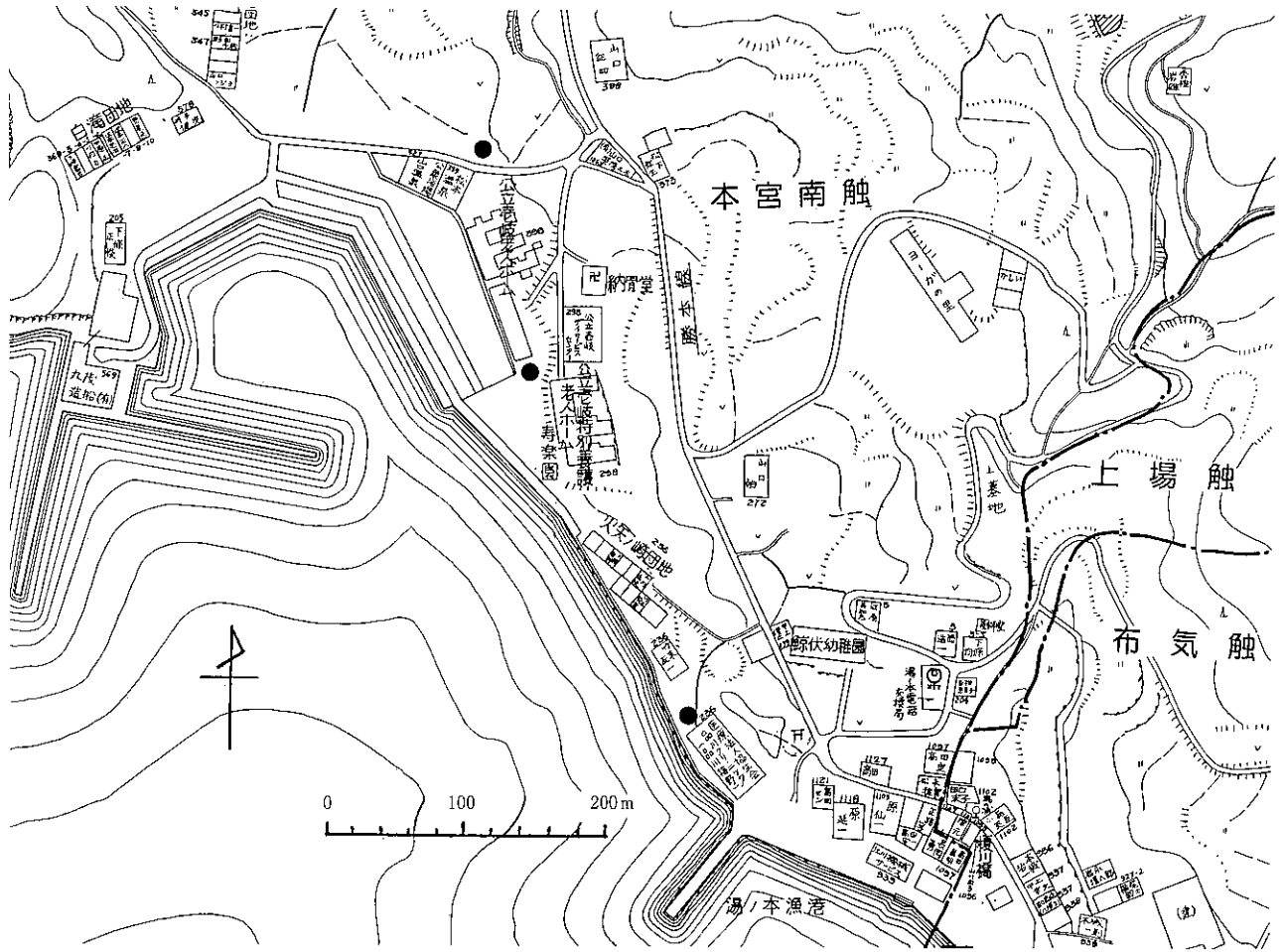
なお、今後計画されている施設についても十分な防災体制づくりに努める。

6. 管理運営計画（省略）



自然環境・温泉・利用性棟の概要

1	土地所有関係 (面積 ha)	国 有 地	公 有 地	私 有 地	合 計	3 町 政 状 況	農業振興地域								
		0	16	30	46										
2	権利制限関係	壱岐対馬国定公園													
4	自然環境	本温泉地は壱岐島の北西部にあって壱岐島唯一の温泉地である。壱岐対馬国定公園の特別地域にも指定され小島の点在する湯本湾の景観と島影の夕景は圧巻である。近くには海水浴場、朝市、ゴルフ場等のほか史跡遺跡もあり年間多くの観光客が訪れている。													
5	(1)平均温度 (°C)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	
		5.3	9.1	10.5	13.1	17.2	21.5	22.5	27.6	23.6	18.4	15.2	8.4	16.3	
	(2)雨量等	平均降雨量 1,880mm				雨期 6月～7月			最高積雪量 0.1m						
6	温 度	自 噴 公 有 3本 私 有 11本			動 力 公 有 0本 私 有 0本			合 計 公 有 3本 私 有 11本							
		湧出量 337.7ℓ/分, 486m ³ /日						温度 62.6°C							
		泉 質 含塩化土類食塩泉													
		適応症 リュウマチ性疾患, 運動器障害, 創傷慢性湿疹, 角化症, 婦人科疾患 他													
7	協力医療機関	名 称	勝本町国民健康保険 湯本診療所				所 在 地	壱岐郡勝本町布気触818-10							
		医 師 数	1名				顧 問 医 数	1人							
		国民保険温泉地における役割	本温泉地内にあり赤木良寛師を嘱託医として依頼しているが救急時のもとより保護者の健康診断や健康講話も行う。												
8 環 境 整 備	簡易水道 下水道	本温泉地は昭和57年より勝本ダムを水源とする簡易水道事業により良質の水が安定して供給できる。 なし													
9 利 便 性	(1)周辺の町	町 名	郷 ノ 浦 町			芦 辺 町			石 田 町						
		人口 (万人)	1.4			1.1			0.5						
	(2)到達性	方 法	車			車			車						
		時 間	20分			15分			20分						
	(3)宿泊施設	施設数	公 営 1軒 民 営 7軒			収容人員 370人									
(4)利用実績	年間利用者	100千人 (内宿泊25千人)				最盛期 7月, 8月			利用期 年間						
10	災害関係	なし													
11	そ の 他	施設整備後はヘルスケアトレーナー, スポーツ指導員等を配置する。													



1992年（平成4年）3月末の湯ノ本温泉の旅館等の温泉利用施設の状況を表8～9に示した。源泉数15，年間利用延宿泊者数16,610人であった。

この年の6月5日付で1926年（大正15年）創業の辻川温泉（湯治場）が廃業した。後継者がなかった為であった。その後は自家用として使用している。

平山旅館が11月に従来の源泉（昭和41年8月許可）の湧出量が減少した為に、前年源泉の掃除をしていたが更に増掘許可申請をした。深さ80m，口径10.5～13cmであった。この増掘許可は翌年（1993年）3月に出された。

表20 旅館等と源泉の状況（1992年3月末現在）

施設名	種別	源泉番号	湧出	宿泊定員	施設名	種別	源泉番号	湧出	宿泊定員
高峰温泉湯治場		1	動力	38	万福荘	民宿（廃業）	10	自噴	(15)
辻川温泉	〃	2	自噴	19	町保養温泉センター	公衆浴場	11	〃	—
壱岐島荘	国民宿舎	3	〃	86	山口温泉湯治場		12	〃	20
海老館	旅館	4	〃		松本温泉	〃	12	〃	13
平山旅館	〃	5	〃	53	長谷川純一	自宅用	13	〃	—
千石荘	〃	6	〃	19	公立老人ホーム施設		14	〃	80
あずまや	〃	7	〃	18	特別養護老人ホーム	〃	14	〃	100
長山旅館	〃	8.9	〃	47	品川クリニック	病院	15	〃	50

表21 平成3年度湯ノ本温泉利用状況

(1992年3月末現在)

	源泉数	利用中		未利用		湧出量 ㎥/分		宿泊施設	定員	年度延 宿泊者	温泉利用 公衆浴場
		自噴	動力	自噴	動力						
旅館	13	10	1	2	440	4	10	362	16,610	5	
老人ホーム	2	2			110		3	230	43,130		
合計	15	12	1	2	550	4	13	592	59,740	5	

1993年(平成5年) 1月, 芸術新潮³¹⁾に湯ノ本温泉が紹介された。新連載記事で「千年湯に行く」の第1回に取上げられた。筆者は旅館長山, 平山旅館に宿泊した。神功皇后, 大和朝廷, 河合曾良, 聖母祭り, 天手長男神社, 壱岐風土記の丘, その他について詳しく述べており, グラビアも美しい。以下, 編集目的と温泉の様子を引用した。

『千年湯に行く』

神功皇后が応神天皇に産湯をつかわせた 壱岐島・湯本温泉

日本にはなんと二千カ所以上の温泉地がある。これは世界一の数だそうだが, 温泉の湧出する場所ならば世界中にそれこそ無数にあるはずだから, 特筆すべきは, この狭い国土で, 温泉地として人の集まる場を二千カ所以上もつって来た日本人の風呂好き, 温泉好きということではないかと思う。当然, その歴史は古い。すでに「日本書紀」(720年完成)には有馬, 伊予, 牟婁(紀伊白浜)などの温泉名が見え, 「万葉集」や「続日本紀」なども含めて, 歴代天皇が温泉地に行幸したという記述がみられる。

また, 各温泉地の歴史伝承をちょっと調べても, 目につくのは行基や弘法大師などの高僧によって開かれた温泉数の多いこと。さらに日本武尊や坂上田村麻呂などのいわゆる英雄たちの開湯になるもの, 熊や鷲, 鶴, 鹿, 猪などの鳥類が傷を癒しているところから発見されたものまで, 日本の温泉地は古代にさかのぼって多彩な起源をもっていることがわかる。いずれにしても, この国に生を得たものは, 古くから温泉の効能を知り, 上は天皇皇后から, 下は鳥獣の類まで, あまねく温泉の効用に浴してきたといえよう。

もっとも, 先に二千カ所以上と述べたが, 戦前まではその数も八百を上回る程度だったという。つまり半分以上が, 戦後, 観光資源として開発された新しい温泉地ということになる。

ましてその開湯が千年をさかのぼる伝承をもつ温泉地となると, ずっと数が減って, ざっと百余りということになってしまう。その数を多とみるか少ないとみるか, ともあれ千年の歴史はただごとではない。温泉を楽しみながら, 千年という長々しい時間の程の積み重ねなりに思いを馳せる。この連載でそんな温泉の旅を紹介していきたい。

第一回は玄海灘の壱岐島に湯本温泉を訪ねた。古代「三韓征伐」で知られる神功皇后が朝鮮半島からの帰途, この島で応神天皇を産み, 産湯をつかわせたという伝承をもつ温泉である。そしてここは離島の温泉のなかで, 千年の伝承をもつ, おそらく唯一の温泉である。

産湯は赤かった

十月中旬, 穏かな晴天の日に博多湾からフェリーで壱岐に向った。空の便もあるが, 古代から, 壱岐・対馬は大陸・朝鮮半島との交通路であった。

写真49 千年湯に行く³¹⁾

31) 千年湯に行く, 芸術新潮: 44巻(1号), 122~131p, 新潮社: (1993年)

遣隋使も遣唐使も、遣新羅使も、みな“那津”博多の港から旅立った。(中略)

湯本温泉は島の北西、深く切れこんだ湯本湾の静かな港に面してあった。温泉地とはいっても、それ特有のざわめきはまったくといっていいほど、ない。数十軒の家々に混じって、こぢんまりとした五、六軒の温泉宿と民宿が営業しているだけだから、ふつうの集落と思って湯本を通り過ぎてしまっても不思議でないほど、温泉地としての自己主張をまったくしていない温泉地なのである。

最初に宿をとった旅館長山で、さっそく露天風呂に行く。一瞬ギョッとした。小さな露天風呂にたたえられたお湯が、真っ赤なのだ。赤いだけではない。油のようなものが浮いて見える……。

「これは湯の花なんですよ。よくお客さんから油が浮いてるよって文句を言われるんですけどね」。

こちらの怯んだ様子を察して宿の人が説明する。いやぁ、そうでしょう。いくらなんでも油が浮いている風呂に客を入れるわけないもんねえと納得しながらも、湯に入るのをしばしためらう。でもここで産湯をつかわせてだっ!? 夕刻前の陽がキラッと赤味をます時刻だったせいもあって、身体をつけると赤く染まってしまうそうじゃないか……。

ここのお湯は湧き出してくるときは透明なのだが、空気に触れたとたん、含まれている鉄分が酸化して赤くなるのだそうだ。だからこの旅館の屋内の風呂などは、浴槽に切り石を使っているが、鉄分の赤錆が付着して、一見錆びた鉄骨の浴槽かと思紛うほどである。つまり、けっして見栄えはよくない。よくはないのだが、それゆえに、効きそうだなという印象はある。昔はマムシに噛まれたら湯本に行けというのが島の常識だったというほどである。ともかく湯そのものに原始的な力を感じさせる。たとえば、出羽三山(山形県)のひとつ、湯殿山のご神体のことを思い出した。大岩の頂から鉄分を多く含んだ熱泉が湧出し、その赤い鉄分が大岩全体を包むように幾重にも沈澱して真っ赤な異様な姿をつくりだしているあの御神体は、たしかに見る者を畏怖させるような、原始的ともいえる神々しさがあった。

湧き出ると同時に真っ赤に変わっていく熱湯…壱岐湯本の湯は、湯殿山と同じような、湯そのものが崇められるような性格のものだったかもしれない。

そういえばここ伊伎嶋は、津嶋(対馬)や筑紫嶋(九州)、大倭豊秋津嶋(本州)などと共に、伊邪那岐命と伊邪那美命が淤能碁呂嶋で正常位に交わって産んだ大八州の一つである。神話に直結した太古の温泉のイメージがふくらむ。そのような有難いお湯に身体を浸してみると、意外や、見た目のドロドロした感じと異って、肌にサラサラとやさしい。ちょっと口に含んでみるとしょっぱかった。(神功皇后の足跡 略)

タイぞうめんとウニめし

さて、温泉宿のもうひとつの楽しみは、やはり料理だろう。海に囲まれた土地だけに、玄海の荒波にもまれたイシダイ、アカバナ(カンパチ)の生造り、アワビ、トコブシ、イカの刺身、イサキの塩焼にサザエの壺焼、ワタリガニ、珍しいところではカキを小さくしたようなセッカ(石花)と十分に堪能したところで、さてイセエビの生造りが出てきて、身のしまった新鮮な材料の良さをこれでもか、これでもかと味わせてくれる。翌日の朝食には、前夜のイセエビの残りを味噌汁仕立にして出してくれ、出汁がきいてこれが本当に味い。

旅館長山につづいて三泊した平山旅館でも、料理は実に楽しめた。見た目にもうれしくなってしまうミズイカの姿造りは、ゲソとハネの部分をほんのりあぶってもらって香ばしい。ホタテに似たツキヒ貝のバタ焼き、アラカブ(カサゴ)の空揚げなどにも目を奪われたが、壱岐の名物ということではまずタイぞうめん。鍋のなかにタイが一匹まるごと入っていて、野菜とともに煮込む。生ウニを炊き込むウニめし、ニガリを使わず海水で寄せてつくる巨大な豆腐も珍しい。が、毎食、量の多いのには少々困った。なにしろどれも美味しいので残せない。「残すともったいないから、少し量を減して」と頼んでも、ここでは通じない(後略)。(聖母宮の祭り 略)

湯本温泉ガイド

〔交通〕 福岡空港～壱岐空港 30分 博多～壱岐郷ノ浦 フェリーで2時間20分・ジェットフォイルで1時間

〔宿〕 旅館長山 8,000～18,000円。平山旅館10,000～20,000円。他に国民宿舎壱岐島荘などがある。

〔効能〕 鉄塩泉 神経痛、リュウマチ、胃腸病など。』

写真50 湯ノ本温泉の露天風呂



旅館長山



平山旅館



海老館 (老岐保健所 磯田親男撮影)

1993年3月末の旅館等の温泉利用施設を表10～11に示した。辻川温泉と万福荘の廃業が目立つ。年間延宿泊者数は16,320人でほぼ前年並であった。

表22 旅館等と源泉の状況

(1993年3月末現在)

施設名	種別	源泉番号	湧出	宿泊定員	施設名	種別	源泉番号	湧出	宿泊定員
高峰温泉	湯治場	1	動力	38	万福荘	民宿(廃業)	10	自噴	(15)
辻川温泉	"	2	自噴	(19)	町保養温泉	公衆浴場	11	"	-
壱岐島荘	国民宿舎	3	"	86	山口温泉	湯治場	12	"	20
海老館	旅館	4	"	53	松本温泉	"	12	"	13
平山旅館	"	5	"	53	長谷川純一	自宅用	13	"	-
千石荘	"	6	"	19	公立老人ホーム	施設	14	"	80
あずまや	"	7	"	18	特別養護老人ホーム	"	14	"	100
長山旅館	"	8.9	"	47	品川クリニック	病院	15	"	50

表23 平成4年度湯ノ本温泉利用状況

(1992年3月末現在)

	源泉数	利用中		未利用	湧出量 l/分		宿泊施設 定員		年度延 宿泊者	温泉利用 公衆浴場
		自噴	動力	自噴	自噴	動力				
旅館	13	9	1	3	440	4	9	347	16,320	4
老人ホーム	2	2			110		3	230	43,130	
合計	15	11	1	3	550	4	12	577	59,450	4

異常気象 冷夏・多雨

梅雨の時期が過ぎても雨の日が多く太平洋高気圧の勢力が弱く冷夏となった。この為に稲作は日照不足、低温で悪く、特に東北、北海道では収穫皆無の所もあった。この年の年間降水量は長崎海洋気象台の測定で2,842mmで例年の150%であった。この年の国内産米の不足量は200万トンとも言われ、タイ、中国、オーストラリア、アメリカ米の輸入が始められた。従って秋の新米は高価で取引され、終戦後の「ヤミ米」の流通と同じ様な状態となり「平成の米騒動」となった。

国産米の平年作は1,000万トンであるが、不足量は200万トンとも言われタイ、中国、オーストラリア、アメリカ産米の輸入が始められた。輸入米は1トン当り4.1～6.7万円(1kg当り41～67円)で輸入されたが消費者への売渡価格は1kg当り250円であった。国産米は1kg当たり400～500円、ヤミ米は1000円とも言われた。

緊急輸入米は4国から259万トンを買付た。しかし、1995年(平成7年)4月までに売れ残った外米は84万トンに達した。この米は飼料用等に安く売渡される予定。135p参照

湯ノ本温泉の新源泉掘削 (勝本町)

湯ノ本地区は壱岐島唯一の温泉資源を有しながらも高齢化過疎化現象の波により空地、空屋が下駄の歯状に発生している。地域に活力が無く寂れる一方の有様となった。此の寂れ行く湯ノ本温泉を何かと活力のある町にしようと地域住民による「湯ノ本地域開発委員会」が1981年(昭和56年)2月19日に設置され検討が行われた。

その結果湯ノ本地区は、先ず大型観光バスの乗入れが出来る道路整備が必要である。次いで湯ノ本は壱岐島唯一の温泉地であるので此の資源を活かした「地域おこし」をする為に温泉の施設整備が必要と提示された。

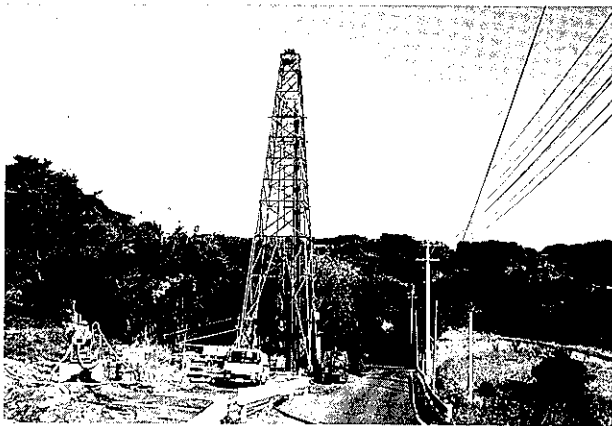
然し、当地域の町部は背後が急傾斜地であり道路整備用地及び公共施設用地のまとまった土地がないため、湯ノ本湾奥の埋立を行い県道の立替及び温泉施設用地の確保に努めることが結論付けられた。そこで、1987年度（昭和62年）より勝本町単独事業による埋立を行い1991年度（平成3年）に約2万㎡の用地を造成し1993年度（平成5年）に湯ノ本から木落^{キナトシ}に通づる県道の立替道が完成した。

また、温泉開発については従来の源泉の湧出量では新しい施設整備は不可能であることから、新源泉の確保について模索していたところへ幸にも「ふるさと創生資金」を国が設置し1億円が全国の各町村へ与えられた。1988年（平成元年）にこの資金を活用して新源泉探査の為に空中探査を行い5ヶ所の候補地を選定した。その中から温泉施設整備計画の埋立地に一番近い立石南触字八水903番地1：田島勲氏の土地を購入し、1992年（平成4年）9月に掘削を開始し翌年2月に温泉水を確保することが出来た。

源泉深度 600m, 湧出量 50l/分, 泉温 59℃（動力揚湯）

総事業費 8,041.6万円 空中探査費 2,000万円, 掘削費 4,861.6万円, 動力装置費 1,184.5万円

写真51 勝本町による新源泉掘削工事



掘削用機



温泉水の湧出

温泉分析結果

調査年月日 1993年（平成5年）6月1日

泉温 59.0℃ 湧出量 53l/分（動力揚湯）

性状 無色透明，無臭，塩味 pH 6.6

密度 1.0044（20℃） 蒸発残留物 5,534 g/kg（180℃）

成分（温泉水1kg中）

陽イオン			陰イオン		
リチウムイオン	Li ⁺	2.4mg	ふっ素イオン	F ⁻	1.8mg
ナトリウムイオン	Na ⁺	1,892	塩素イオン	Cl ⁻	2,742
カリウムイオン	K ⁺	99.6	臭素イオン	Br ⁻	8.2
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	12.5	沃素イオン	I ⁻	0.4
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	45.5	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	59.1
カルシウムイオン	Ca ²⁺	92.6	炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	1,000
ストロンチウムイオン	Sr ²⁺	5.0	陰イオン計		3,814mg
鉄（I，II）イオン	Fe ^{2+,3+}	1.0	非解離成分		
陽イオン計		2,151mg	メタケイ酸	H ₂ SiO ₃	43.6
その他			メタホウ酸	HBO ₂	12.4
水銀，ひ素，カドミウム，鉛，亜鉛，銅は検出しな			溶存ガス成分		
い。			二酸化炭素	CO ₂	277.3
			硫化水素	H ₂ S	0.6

旧泉質名 食塩泉

新泉質名 ナトリウム塩化物泉（低張性，中性，高温泉）

食塩泉（ナトリウム－塩化物泉）の効能

温泉水は塩味がして食塩（塩化ナトリウム）が1 g/kg以上含まれるものを言う。海岸近くの温泉が多く、全国的に見ても単純温泉と同じように温泉数の多い泉質である。

食塩泉は含有する食塩量によって区分されて14 g/kg（240mval）以上を強食塩泉といい、ゾーン泉とも言われていた。海水中の食塩は29.5 g/kg含まれているから強食塩泉は海水の約半分の濃さ以上ということになる。鉍泉分析法指針が改定される前までは食塩が1～5 g/kgのものを弱食塩泉と称していた。

温泉の湧出温度は高～低あり、塩類が多く含まれると保温力が優れてくる。石鹸は効かない。本県では小浜や湯ノ本温泉が高温泉であり、唐比、諫早市松里、矢上、高浜は冷泉である。食塩泉の効用は食塩1 g/kg前後のものは入浴しても皮膚からの刺激もなく温泉の温度作用だけで単純温泉と大差ない。5 g/kgになると食塩泉の作用も現われてくる。そして体液と浸透圧が同じ等張の9 g/kgで37～38℃の微温浴は皮膚粘膜や創傷に刺激が少なく淡水浴よりも効果が大きい。

創傷への治療効果は石膏泉、重曹泉、土類泉に次ぐものである。

食塩泉に入浴すると食塩の作用で皮膚刺激を受けて表面の血液循環が盛んとなり、身体は浴後も温感を感じ良く暖まる。入浴後、体を拭いても尚微量の食塩が体に付着しており、体温の発散を防ぎ皮膚に軽い刺激を与えて全身の新陳代謝を高めて尿中の尿素量を増す。また、皮膚の抵抗力も強める。

飲用は5～10 g/kgの食塩泉が胃液の分泌を高め吸収を促進する。吸収された食塩は全身に適度の刺激を与え栄養状態を良くする。従って慢性消化器疾患に効用がある。

適 応 症

浴用はリュウマチ、運動器障害、創傷、慢性湿疹及び角化症、婦人科疾患、更年期障害であり、飲用では慢性消化器疾患、慢性便秘である。吸入は慢性気管支炎、咽頭炎、灌注療法では女性々器慢性炎症、下腿潰瘍である。

食塩泉にマグネシウム、カルシウムが含まれると含塩化土類食塩泉となる。本県でこれに該当するのは湯ノ本温泉、五島の荒川温泉（高温泉）と島原半島の加津佐鉍泉である。

図23 湯ノ本温泉井地質柱状図

所在地：長崎県壱岐郡勝本町石南触字八水

工事目的：温泉掘さく工事

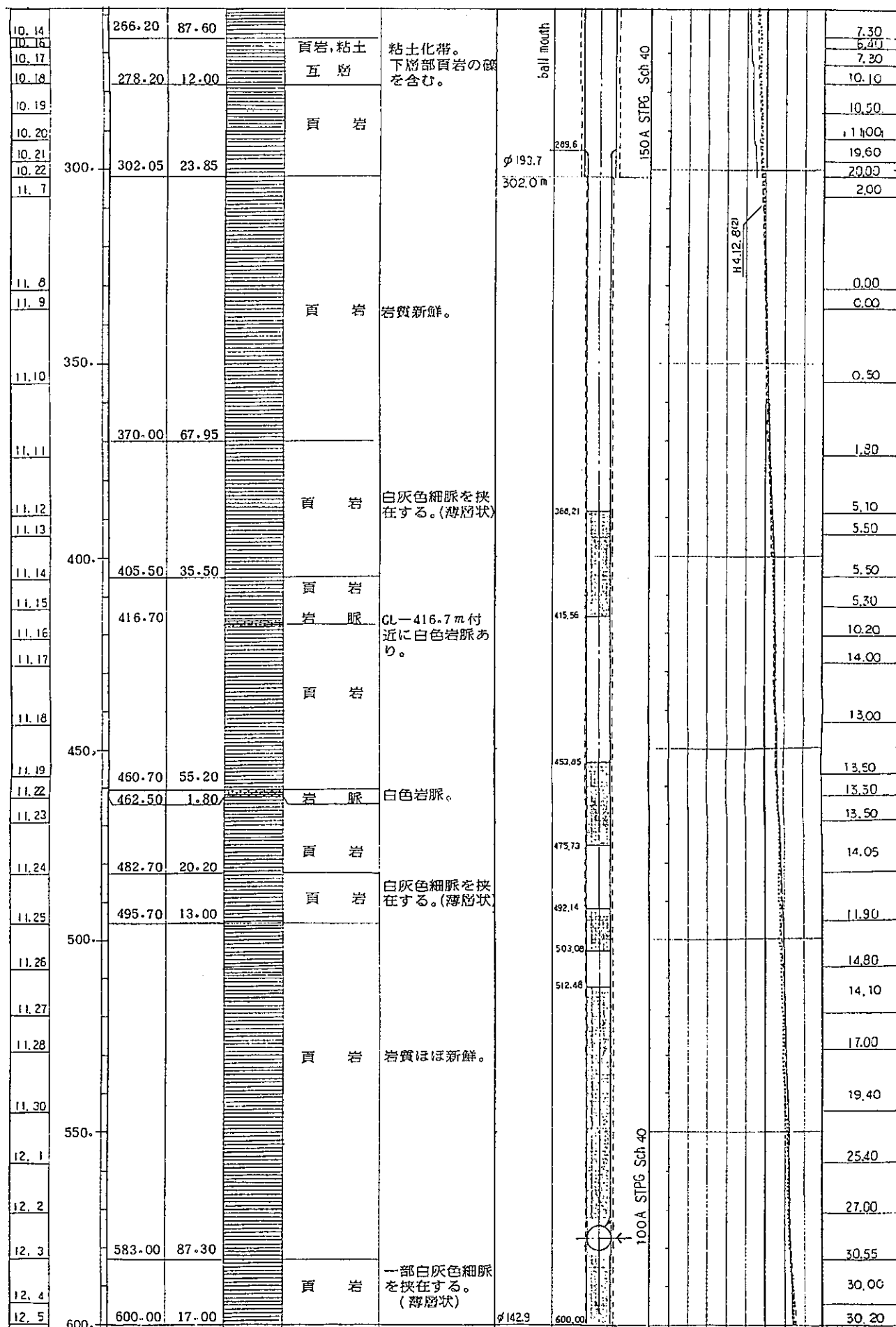
工事期間：着手 平成4年9月3日

終了 平成5年2月 日

発注者：長崎県勝本町

施工者：朝日航洋株式会社

地 質 状 況							温 泉 井 状 況		温 度 変 化		孔内水位
月日	機 尺 m	深 度 m	層 厚 m	記 号	地 質	観 察 記 事	作 業 掘削口径 mm	孔井仕上図	0.	50.	(-m)
9.15	0.	2.50	2.50		埋 土	風化した凝灰岩 の大・小礫を含む 土砂。	full hole cementing	φ250.8 30.0m	200A SGP	H 4.10.23 (1)	
		7.50	5.00		凝灰質粘土						
		9.60	2.10		凝 灰 岩						
9.16	50.				凝 灰 岩	一部礫(角礫状) を含む。	12/25 GL-47.6m				1.00
9.22											0.00
9.23											2.20
9.24	100.	90.90	81.30		凝 灰 岩	一部小角礫状。 粘土分多い。	12/8 GL-72.0m				4.30
9.25		100.70	9.80		凝 灰 岩 (角礫凝灰岩)						3.50
9.26		114.10	13.40		頁 岩						4.10
9.27	150.				凝灰質粘土	一部礫を含む。					4.00
9.28											3.80
9.29											4.10
9.30	200.				逸泥なし。						4.40
10.3											4.60
10.4											4.50
10.5	250.				GL-192.6mよ り硬質となる。 ほぼ新鮮。						4.70
10.7											4.50
10.8											4.90
10.9					頁 岩						6.80
10.10											7.40
10.13											6.30



湯庵ひらやま（ユートピアランド平山）の温泉掘削許可申請

申請年月日 平成5年1月27日
 申請者 平山宏美 住所 勝本町立石西触77番地
 掘削地 勝本町立石西触字白釘119の2
 掘削予定 深さ500m, 口径 10~20cm
 掘削工事費予定 3,050万円, 内訳 機械運搬 250万円, ケーシングパイプ及び足場等 300万円
 掘削単価 5万円×500m=2,500万円
 掘削許可年月日 平成5年6月14日 長崎県知事
 掘削完了年月日 平成5年9月4日
 深さ 180m, 口径 10~20cm, 温度 68℃, 湧出量 60ℓ/分。 総工事費 1,800万円

温泉分析結果

調査年月日 1994年（平成6年）1月24日 泉温 64.0度 湧出量 39ℓ/分（自噴）

性状 無色透明, 微硫化水素臭, 塩味, 苦味 pH 6.2 密度 1.0126 (20℃)

蒸発残留物 16.02 g/kg (180℃)

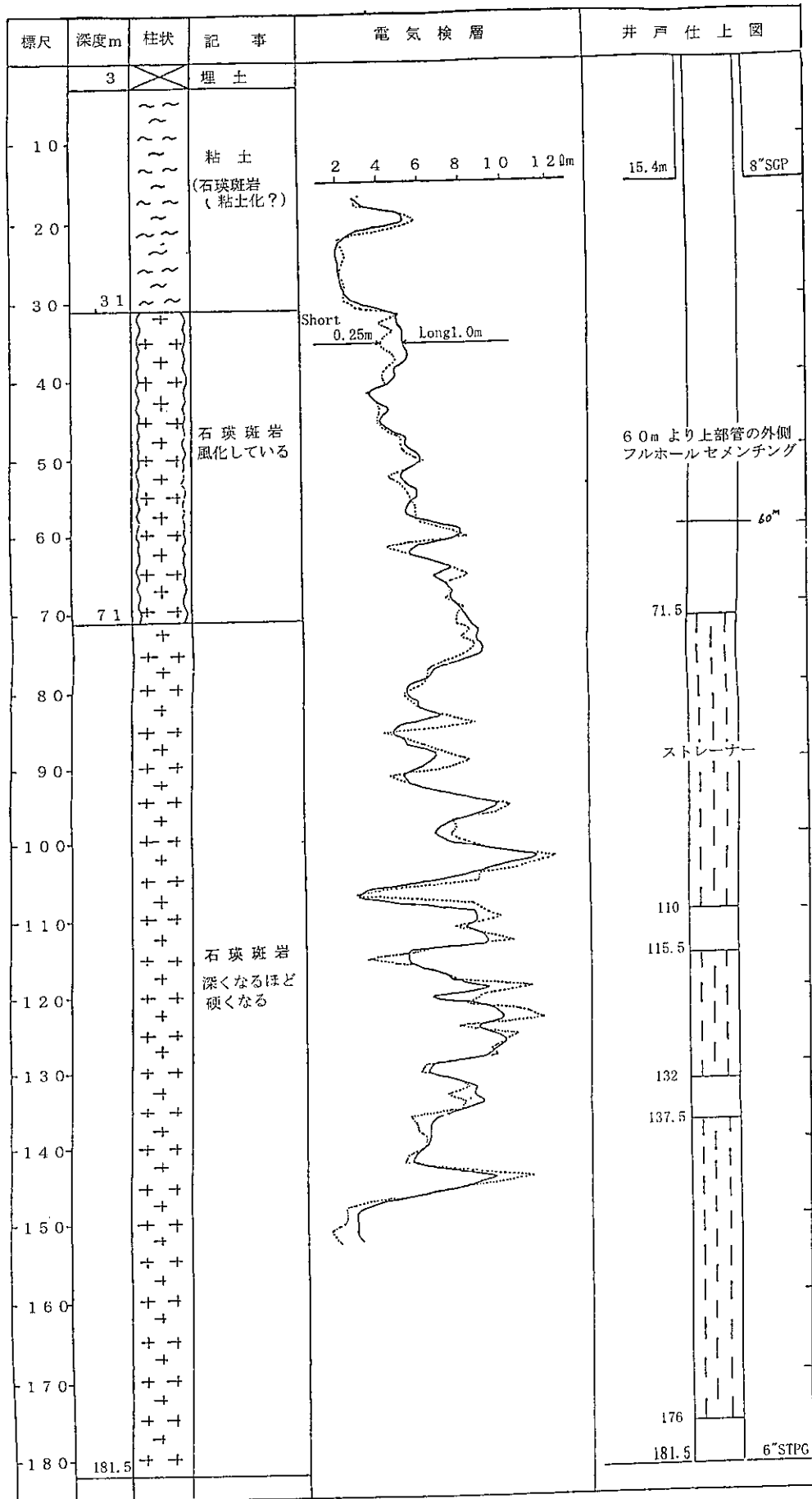
成分（温泉水1kg中）

陽イオン			陰イオン		
リチウムイオン	Li ⁺	5.8mg	ふっ素イオン	F ⁻	1.2mg
ナトリウムイオン	Na ⁺	5,135	塩素イオン	Cl ⁻	9,225
カリウムイオン	K ⁺	264.7	臭素イオン	Br ⁻	27.9
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	16.7	沃素イオン	I ⁻	0.3
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	242.5	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	688.0
カルシウムイオン	Ca ²⁺	589.6	炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	584.5
ストロンチウムイオン	Str ²⁺	29.6	陰イオン計		10,530 mg
鉄（I, II）イオン	Fe ^{2+,3+}	10.7	非解離成分		
マンガンイオン	Mn ²⁺	0.7	メタケイ酸	H ₂ SiO ₃	67.0
陽イオン計		6,295 mg	メタホウ酸	HBO ₂	15.4
その他			溶存ガス成分		
水銀, ひ素, カドミウム, 鉛, 亜鉛, 銅は検出しない。			二酸化炭素	CO ₂	65.2
			硫化水素	H ₂ S	0.2mg

旧泉質名 含塩化土類・緑ばんー食塩泉

新泉質名 ナトリウム塩化物泉（高張性, 中性, 高温泉）

図24 湯庵ひらやま (ユートピアランド平山) の地質柱状・井戸仕上図



1994年（平成6年） 安國寺に納められていた国指定重要文化財の高麗版大般若経典493巻が盗まれた。事件を伝える7月24日付の長崎新聞記事を下に示す。

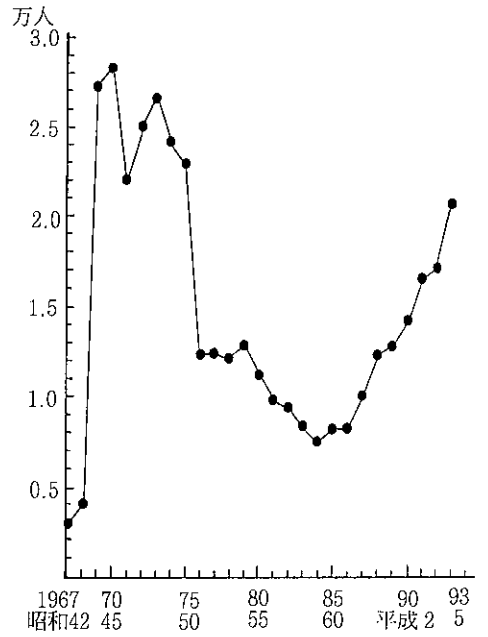
1994年（平成6年） 現在までの温泉入湯者の推移をみると、町税の入湯税からその概要を知ることが出来る。

1967年（昭和42年）からの統計が町役場にあり、この年は3,000人であった。翌1968年（昭和43年）は4,000人と増加はしている。1969年（昭和44年）は町営国民宿舎杵岐島荘の開設により入湯者は急激に増加した。国民宿舎は全国的に設けられたもので、一般の人々が気軽に泊れる宿として人気があった。観光旅行する人は高級ホテル好みの人ばかりではない。入湯者は7倍の27,000人となった。

現在までの最高は杵岐島荘開設の翌年の1970年（昭和45年）であり28,000人に達した。当時の入湯税は20円で1泊2食付宿泊料1,100円であった。

更に、1972年（昭和47年）に町営保養温泉センターが開設された。これで入湯者は前年より3,000人増え、翌年は更に1,700人増え2番目のピーク26,733人となった。

図25 湯ノ本温泉入湯者の推移 (入湯税より算出)



長崎新聞 1994年(平成6年)7月24日 日曜日

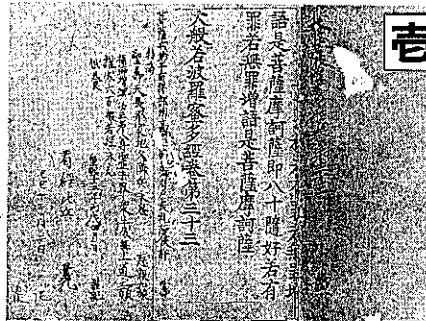
重文の高麗版大般若経 盗難

杵岐・安国寺

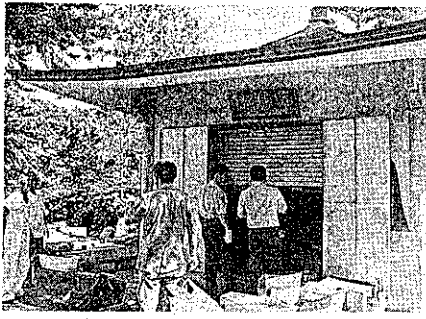
宝財殿から493巻

錠とシヤッター壊し侵入

二十三年前十一時前、杵岐町深江の安国寺(大浦安道住持)から、経典が盗まれたとの一〇番通報があった。宝財殿が調べたところ、境内の宝財殿から国指定重要文化財の高麗版大般若(つぎら)といばんだいはんに、経典四百九十三巻が盗まれていた。同署は窃盗事件として捜査している。



盗難にあった国重要文化財の高麗版大般若経



高麗版大般若経が保管されていた宝財殿を検証する捜査員ら

調べでは、観光客案内していたタクシー運転手(全)が、宝財殿の南京錠が落ちていたのを気づき、分かった。宝財殿の開錠音の南京錠が切断された上、内側のシヤッターも壊されていた。宝財殿には経典、古道具類などが保管されていたが、あらかたなくなっていた。

宝財殿は二十三年前に建築。広さは約十五平方、本堂の文化財などは含まれていない。安国寺には全部で五百九十一巻の経典が保管されていたが、残りの経典九十八巻は境内から約十メートル離れた宝物展示館に保管していたため無事だった。経典の二巻の大きさは縦二十五、横十一センチ、厚さ二センチ。本堂の文化財などは含まれていない。

高麗版大般若経(文相十といわれる。日本に渡ったのは八(四八)年(徳和二年)河内(今河内郡)の長谷寺(今長谷寺)で、少く、計四巻と推定されている。昭和五十年(一九七五)に、国の重要文化財となった。五十二年(一九七九)に、約一千万円で修復された。

観光客の二、大浦住職は、経典は歴史的価値が高く、国の研究者も訪れるほどだった。本堂に欲しい人なら億単位の金でも積むだろう。国の文化財という大罪を犯すか、物なにとすればいいか分からぬ」と話している。

この後は第1次オイルショック（石油危機）が1973年（昭和48年）に起り石油製品は急騰した。国内の景気は下降気味となり入湯者は減少の一途をたどった。

1975年（昭和50年）3月に博多まで新幹線が乗入れて、5月には長崎空港が開港した。

県内の観光客の推移を見ると1970年（昭和45年）は1,600万人であったが、その後順調に増加し1975年（昭和50年）には1,900万人、1976年（昭和51年）には2,000万人に達した。また、壱岐島の観光客の推移を見ても年々増加の傾向にあった。

しかし、湯ノ本温泉ではこれと反対に入湯者が減少し続け1975年（昭和50年）に2.3万人が翌年1976年（昭和51年）に1.2万人と1万人も減少した。これは入湯税が40円から100円に値上されての入湯者算出であったものゝ以後数年間1979年（昭和54年）まで同じ値が続いた。

この原因として次の様に考えられた。オイルショックによる全国的な景気低迷により昭和50年代に入り宿泊客の減少と湯ノ本温泉の旅館業経営者の高齢化により2業者が経営の縮小（宿泊部の休業）があった。更に1業者が経営者の交代に伴う入湯税の未納付が発生し、入湯者数の減少が生じた。

入湯者の最低は1984年（昭和59年）の7,531人である。国民宿舎壱岐島荘も経営不振が続き町特別委員会から答申が出され第3セクター方式にすべきとされた時であった。この時の入浴者数は最高時の1/4に近い。

表24 湯ノ本温泉入湯税収入（勝本町役場資料）

年 度	金 額 (円)	年 度	金 額 (円)	年 度	金 額 (円)	年 度	金 額 (円)
昭和42年	61,500	昭和49年	967,960	昭和56年	1,481,400	昭和63年	1,848,600
43	80,340	50	915,560	57	1,402,500	平成元年	1,910,250
44	546,920	51	1,247,400	58	1,255,350	2	2,120,550
45	568,500	52	1,247,700	59	1,129,650	3	2,491,650
46	885,900	53	1,214,300	60	1,222,000	4	2,608,050
47	1,000,480	54	1,286,000	61	1,232,700	5	3,124,050
48	1,069,320	55	1,704,200	62	1,512,300		

表25 湯ノ本温泉入湯者数（入湯税より算出）

年 度	入 湯 者	年 度	入 湯 者	年 度	入 湯 者	年 度	入 湯 者
昭和42年	3,075	昭和49年	24,199	昭和56年	9,876	昭和63年	12,324
43	4,017	50	22,889	57	9,350	平成元年	12,735
44	27,346	51	12,474	58	8,369	2	14,137
45	28,425	52	12,477	59	7,531	3	16,611
46	22,148	53	12,143	60	8,147	4	17,387
47	25,012	54	12,860	61	8,218	5	20,827
48	26,733	55	11,362	62	10,082		

入湯税の金額

1967年（昭和42年）7月から20円

1971年（昭和46年）4月1日から40円

1976年（昭和51年）4月1日から100円

1980年（昭和55年）4月1日から150円 1995年（平成7年）現在も続いている。

この後、温泉旅館の努力、温泉ブーム、離島ブームにより入湯者も増加に転じ、旅館業経営者も若い人に代替りした所もあり施設整備等経営に意欲的となり宿泊者数の増加につながって来ている。

平成の不況と言われる円高不況にも拘らず1993年（平成5年）には入湯者は2万人台まで回復して来た。

山口温泉の山口由隆（本宮南触字白瀧、公衆浴場）は既存源泉の孔内崩壊により湧出量が減少した為に隣地に新しく温泉掘削申請書を1994年（平成6年）11月に提出した。

掘削場所 勝本町本宮南触400（住所も同じ）

掘削計画 深さ200m 口径 深さ50mまで14cm、それ以深8.5cm 総工事費1,300万円。

なお、この掘削工事に対して湯本温泉の源泉所有者13名の同意書が付けられた。

有限会社 旅館長山	長山 秀徳	万福荘立石光義	自宅用源泉 長谷川 三枝子
有限会社 海老館	長谷川 福和	勝本町下條町長	
有限会社 平山旅館	平山 敏一郎	品川クリニック 品川 晃一郎	
高峰温泉	白川 敬子	老岐広域町村組合 管理者 大皿川	
千石荘	長谷川 節子	株式会社ユートピアランド平山 平山 宏美	
あづま屋旅館	長谷川 静子	辻川温泉 辻川 徳次	

副 申 書

最近特に高齢化社会を迎えている我国は、豊かな社会福祉国家を目指すため各種施策が設けられています。本町では、65才以上の高齢者人口比は24.2%と老岐郡内でも最も高く、総人口の1/4を占め、また75才以上のいわゆる後期高齢者も820人（10.6%）と年々増加をしております。

このような社会情勢の中で、本町における町民の保健福祉的施設の整備は立ち遅れている状況にありますが、本町には幸いにして、老岐島唯一の温泉源を持ち更に「国民保養温泉地」の指定を受けており、町民を始め島民の保養の場として官民一体となって整備を図っています。

山口温泉は公衆浴場を整備し多くの方の「憩いと健康づくり」の場として提供してきましたが、既存源泉の孔内崩壊により温泉水の湧出不良となり浴場の継続が困難となりました。従って今回新たに掘削することは最も必要とする事柄であると考えられますので、本申請は特別の御詮議を以て御許可下さいますよう御高配たまわりたくことに副申致します。

平成6年11月17日

勝本町長 下 條 昭 五

異常気象 大旱魃

この年の梅雨は2週間も早く明け、その後降雨が極端に少なく稲作など農作物に大きな被害を与えた。更に各地の水道水源も涸渇し特に都市部の佐世保、長崎、福岡市で制限給水、断水が行われた。この制限給水は佐世保、長崎市では年を越えた。幸にして勝本町では制限給水はせずに過ごすことが出来た。長崎海洋気象台での測定で障害降水量は922mmと例年の50%であった。135p参照

1995年（平成7年） 阪神、淡路島大震災

1月17日午前5時46分過に神戸、淡島を中心として大地震が発生した。震度7の激震でビル、高架道路、住宅が一瞬にして倒壊し、大火災が発生した。住民5,500人が死亡し、約30万人の人々が避難した。

毒ガス・サリンによる無差別殺人

3月20日午前8時過に東京の地下鉄日比谷、丸ノ内、千代田の3路線5車輦で車内にサリン入りビニール袋が故意に

置かれ、発生したサリンガスにより乗客及び駅員が中毒し、12人が死亡し5,500人以上が被害を受け重症者は病院で手当を受けた。3月22日から警察庁はオーム真理教の全国一斉摘発に入った。3月30日朝警察庁長官が何者かに銃撃されて頻死の重傷を負った。

ユートピアランド平山(株)が建設していたホテルが完成し「湯庵ひらやま」として4月に開業した。従来の湯ノ本温泉になかった高級ホテルで、総工費9.36億円(うち建築費7.5億円)、鉄筋コンクリート4階建、延面積3,130㎡、大宴会場、客室数21室、定員105人、大浴場、露天風呂、家族風呂等が設けられている。

前年11月に提出していた山口温泉の温泉掘削許可が3月に出された。

長指令 6 自保第468号

住所 彦岐郡勝本町本宮南触423番地 氏名 山口温泉 山口由隆

平成6年11月25日付で申請のあった下記の温泉掘削については、温泉法第3条の規定により許可する。

記

掘削場所 彦岐郡勝本町南触白瀧399番地

深度 140m, 口径 85~140mm 平成7年3月28日 長崎県知事

温泉分析結果(平成7年6月7日 当所採水)

深さ 100m, 口径 10cm

泉温 74.0℃, 湧出量 150ℓ/分 自噴, 色調 黄褐色を帯びている。臭気 硫化水素臭, 味 塩味
pH 6.97, 塩素イオン 9,800ppm, 泉質 食塩泉(分析結果は189p参照)

7月19日付 長崎新聞

重文仏像など盗難

対馬 峰町の宝物館、計4点



【対馬】十八日午後一時 委職員が見つけ、上原署に鑑(かぎ)下(くだ)さい(し)通しの短剣の二丁(にぢょう)が掛か(か)つていたが、発見時、シリンドラ(シリンドラ)の海神社宝物館から、国(くに) 調べによると、被害品は指定重要文化財の銅造如来(どうぞうにょらい)像(よう)のほか、町有(ちゆういう)立像(たつざう)を四角(しやうかく)が盗み出され、形文化財(かたちぶんかざい)の琥珀盃(こはくすべ)は壊(こわ)れているのを、訪れた同町教(どうちやうきやう) さかすき、銅造如来像(どうぞうにょらいざう) 宝物館には南宗錠(なんしゆじやう)とシリ

盗まれた重文、銅造如来立像

十四日午前十一時ごろ町教(じゆじやう)委職員が確認した時点では異状(いじやう)はなかった。盗まれた銅造如来立像(どうぞうにょらいたつざう)は、昭和四十九年に国の重要文化財(じゆうわうぶんかざい)に指定。統一新羅(とういつしんら)時代(はちせうじ)の創作(さくしゆ)とみられる。高さ三八・三センチ、光背(くわうはい)や台座(たいざ)は失(うしな)われているが、唐(たう)や新羅(しんら)の作風(さくふう)を示す出色(しきしゆ)の出来(うまれ)えといわれる。重文の盗難(たうなん)は、昨年七月二十三日、彦岐(ひのき)彦辺(ひのへ)町の安国寺(あんこくじ)の高麗版(こうらいばん)大般若(だいぱんげ)経(きやう)四(よ)百(ひやく)九(く)十(じゆ)三(さん)巻(まき)、同年(ごんねん)六月(じくご)十七(じち)日(にち)にかけ福岡(ふくおか)県(けん)太宰府(たざいふ)市の観世音寺(くわんぜおんじ)の経典(きやうてん)一(いつ)巻(まき)と古文書(こぶんしよ)が盗まれる事件(じけん)が続(つづ)いている。

7月18日に対馬・峰町の海神神社の国指定重要文化財「銅造如来立像」が盗まれていたことが判明した。

湯ノ本温泉の旅館・ホテル案内 (1995年)

旅館・ホテル	電話	客室	定員	料金	特色 (彦岐観光協会刊「彦岐」より)
国民宿舎彦岐島荘	(09204) ③-0124	23	120	大人5,700円 小人5,100円	温泉に入って新鮮な魚貝類を満喫, 宿舎からの眺望は絶品。
旅館海老館	③-0012	11	53	10,000~15,000	海の見える露天風呂, 真心からのおもてなし郷土料理。
平山旅館	③-0016	14	50	8,000~18,000	活魚・カモ料理 露天風呂・むし風呂 (温泉)。
旅館長山	③-0033	14	60	8,000~18,000	露天風呂, 家族風呂, 活魚料理好評季節料理, 70℃の自噴温泉 (天然) 全館川に面し一部の客室より海を眺望。
あづまや旅館	③-0006	9	35	5,500~10,000	活魚料理 (温泉)。
千石荘	③-0004	6	20	6,000~9,000	古風で家庭的温泉宿。
湯庵ひらやま	③-0770	21	105	23,500~30,500	1泊3食料金, 高級ホテル, 団体割引あり

定期観光バス (予約制, 彦岐交通 09204-7-1161)

一周コース 午前: 郷ノ浦港~城山公園~勝本朝市~掛枯墳~亀石~焼酎工場~昼食

(9~17時)

午後: 郷ノ浦港~岳の辻~猿岩~湯ノ本~鬼の岩屋~芦辺港~左京鼻~はらほげ地藏~安国寺~筒城浜
~印通寺港~ウニ工場~郷ノ浦

料金, 1周コース (昼食付) 4,980円, 午前コース 1,350円, 午後コース 2,730円

海 路

フェリー (ニューつしま, フェリーはかた)

博多~彦岐 1日4便, 彦岐~対馬 (厳原) 1便, 博多~対馬 (厳原) 2便

ジェットfoil (ヴィーナス)

博多~彦岐 1日3便, 博多~対馬 (厳原) 1便

フェリー (フェリー: げんかい, フェリーあずさ)

呼子~彦岐 (印通寺) 1日6便

運賃表 (九州郵船)

航 路	博多・彦岐	博多・厳原	彦岐・厳原	呼子・印通寺
1 等	3,800円	7,030円	3,650円	—
2 等 指 定 室	2,670円	5,140円	2,640円	—
2 等	1,890円	3,520円	1,830円	1,290円
ジェットfoil	4,600円	6,500円	4,450円	

空 路

福岡~彦岐 1日3便 (エアーニッポン, YS11 64人乗) 片道 5,210円, 往復 9,380円

長崎~彦岐 1日4便 (長崎航空, アイランダー 9人乗) 片道 8,830円, 往復 15,890円

写真52 湯ノ本温泉街の様子 その1 (1994~1995年)



湯ノ本湾と温泉街



建設中の湯庵ひらやま (ユートピアランド平山)

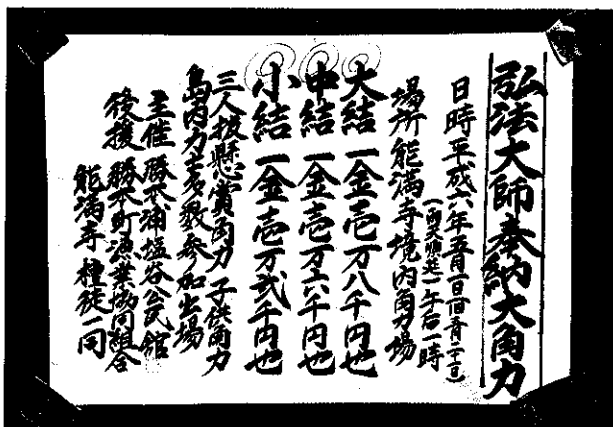


白川重家の鬼瓦

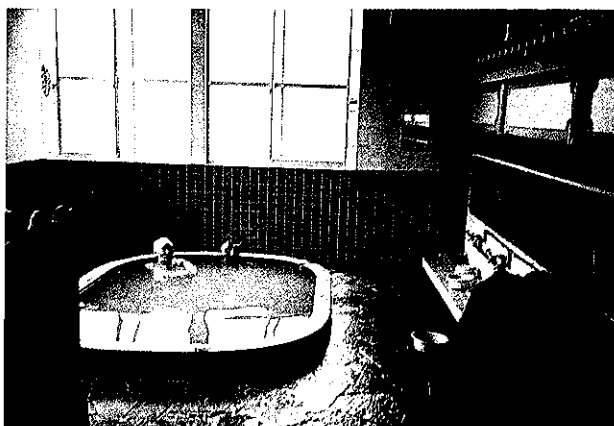
千石荘の鬼瓦



港, おさかなセンター



看板



赤い湯の公衆浴場 (山口温泉)



赤い湯の源泉 (海老館)

写真52 湯ノ本温泉街の様子 その2



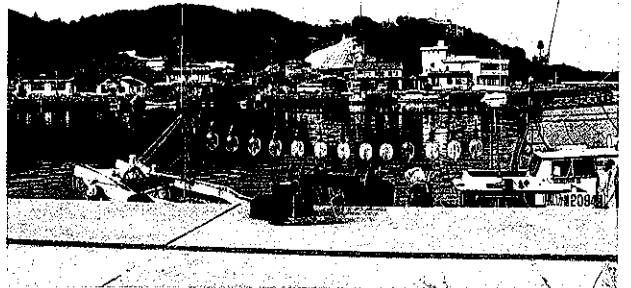
バス通り



旧道と土蔵



バス通り



イカ釣船と街



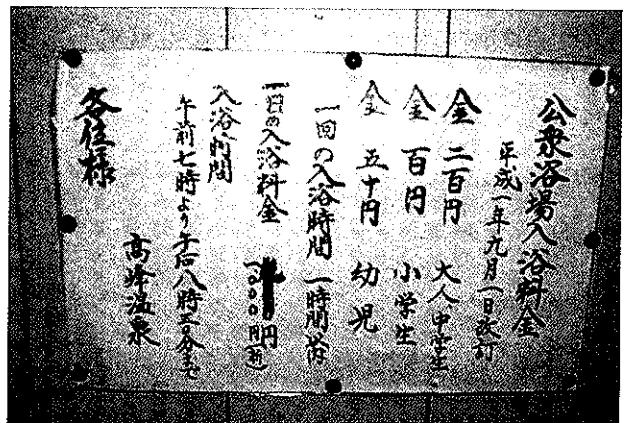
バス通り



木落としバス停



バス通り



料金表

公衆浴場入浴料金
 平成二年九月一日改訂
 全 二百円 大人中学生
 全 百円 小学生
 全 五十円 幼児
 一回の入浴時間一時間迄
 一百の入浴料金 津の湯
 入浴時間
 午前七時より午後八時迄
 各庄様
 高野温泉

1993年(平成5年)と1994年(平成6年)の異常気象

担当 濱野 敏一

1993年の冷夏、1994年の大旱魃は農業はもとより社会経済、市民生活にも多大の影響を与えた。各年の異常気象は次のとおりであった。

1993年(平成5年)の冷夏

平成5年夏(6～8月)は全国的に低温、日照不足、多雨でいわゆる冷夏(気温がかなり、またはやや低い)でありそれぞれ長期間続いたことが特徴であった。

気温は九州南部では0.5℃低い程度であったが北日本では平年より20℃以上低かった。月平均気温は7、8月が特に低く「月平均気温の低い方の局値・順位」は多くの地点で更新した。最も顕著であった8月の平均気温は仙台では1927年(昭和2年)以来の、また、東京では1954年(昭和29年)以来の低温であった。

日照時間は気温と並んで全国で平年を下回り、特に東北南部から日本海側にかけて少なかった。

降水量の3ヵ月合計は北海道を除いて全国的に平年より多く、特に瀬戸内海から九州にかけて平年の200%を越え、九州南部の宮崎で平年比277.8%、鹿児島で268.4%であった。特に7月末から8月上旬にかけて九州南部を中心に日雨量100mm～200mmを超える大雨が連日のように降り、土砂崩れなどの大規模災害が発生した。(気象庁は7月31日～8月7日の九州南部地方を中心とする大雨を「平成5年8月豪雨」と命名)

梅雨入りは平年に比べ全国的に10日前後早く、特に九州南部は16日も早かった。梅雨明けは沖縄と奄美で6月25日であったが、その他の地方は8月上旬まで曇雨天がつづいており、“梅雨明けがはっきりしないまま季節が進んでいる”状態と判断して、梅雨明けの日は特定しなかった。1951年以降、梅雨入りの日が決まらなかった例はあるが、梅雨明けが決まらなかったのはこの年が初めてであった。

この年の冷夏の原因として、偏西風の蛇行が大きく、極東地域では南よりの流れと北よりの流れに分流し、南よりの流れが日本付近まで何かしたため寒気が入りやすかった。北よりの流れが地上のオホーツク海高気圧をしばしば発達させた。一方、太平洋の亜熱帯高気圧は本州付近まで北上することはほとんどなかった。このため、オホーツク海高気圧は例年、梅雨の期間に現れ北日本を中心に低温をもたらすことが多いが、この年は6月上旬からしばしば現れ、特に7月中旬から8月上旬まで約1ヵ月間続いて現れた。また、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが極端に弱く、日本付近で前線の活動が活発で東・西日本を中心に曇りや雨の日が続いた。更に、7月下旬から8月下旬にかけて台風が接近・上陸し、九州などで大雨・強風による被害が多発した。^{32,33)} この冷夏によって米作は大凶作となり日本国中で米不足、ヤミ米騒ぎ、外米の200万t緊急の輸入、となった。

1994年(平成6年)の大旱魃

冬の平均気温は西日本を除いた地域で平年より高く、東日本は1986/87年冬から8年連続、北日本は1988/89年冬から6年連続で暖冬となった。

春は4月と5月の気温がかなり高く、多くの気象台や測候所で月平均気温の高い記録を更新した。

夏(6～8月)の特徴は日本全国の広い範囲で長い期間にわたって高温の状態が続いたこと、日最高気温として極端に高い気温が現れたことである。空梅雨、小雨のため琵琶湖の水位は8月末に明治7年以来最低(-104cm)を記録した。さらに、記録的な高温小雨は農作物の枯死、家畜の熱死、工業用水不足による操業短縮、山火事多発、発射病・日射病の急増等産業や社会生活に大きな影響を与えた。夏の3ヵ月平均の気温は全国で平年を上回り、南西諸島を除く全国で1℃以上高く、特に札幌から徳島まで気象官署の20観測点では平年より2℃以上高かった。札幌の2℃高い値の出現頻度は約140年に1回の頻度、長野の2.3℃高い値は約2000年に1回の頻度と計算された。

7月には東・西日本を中心に全国気象官署の55%にあたる79地点で月平均気温の高い記録を更新し、8月には北日本にも記録的な高温が及び80地点で月平均気温の高い記録を更新した。

降水量はほぼ全国で平年を大きく下回り、北陸～九州北部の広い範囲で40%以下であり、特に松山、福岡、長崎等12観測点では30%以下であった。

日照時間はほぼ全国で平年を上回り東南北部から九州にかけて120%を上回り、特に大分、佐賀等7地点では140%以上であった。

夏の大気の流れは、偏西風（ジェット気流）が平年は東北地方北部くらいに位置しているのに対してこの年は北海道の北の方まで北上していた。一方、1993年の冷夏の7月は東日本から西日本まで南下しており、緯度にして10度の差があった。また、1994年の太平洋の高気圧は日本付近に強く張り出し、日本をすっぽり覆っていた。しかも、対流圏の下層から上層まで連なった非常にしっかりした高気圧であった。

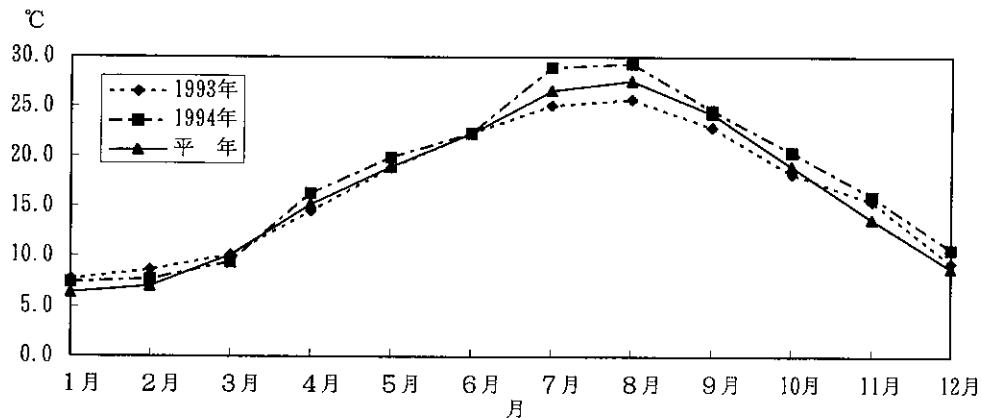
秋も北日本から西日本にかけて平均気温が平年より1.4～1.7℃高い状態が続き、記録的な高温となった。^{34,35,36)}

長崎県の状況

長崎海洋気象台における気象データも全国と同様の傾向を示していた。1993年、1994年及び平年の月平均気温、月間日照時間、月降水量の月変化を図26～28に、また、各年の顕著現象を表26、27にまとめた。

月平均気温については、1、2月は1993年、1994年ともに平均よりも高く暖冬であった。4、5月は1993年が平均より低い温度で推移したのに対し、1994年は平年より高い気温を記録し、雲仙岳では4月に「月平均気温の高い値」を、平戸では5月24日に「日最高気温の高い値」を更新した。その後、1993年は7月から10月にかけて平年より低い温度で推移し、7月には雲仙岳で、8月には長崎、雲仙岳において「月平均気温の低い値」を更新した。一方、1994年は7月以降12月まで平年より高い温度であった。特に7月は長崎において1878年（明治11年）以来の「日最高気温」を更新した他、福江、厳原、平戸、佐世保、雲仙岳で「日最高気温」「月平均気温の高い値」を更新した。また、8月にも長崎、厳原、平戸、佐世保で「月平均気温の高い値」を更新し、その後11月においても長崎、福江、厳原、雲仙岳で記録を更新するなど異常高温が長期間継続した。

図26 月平均気温の月変化

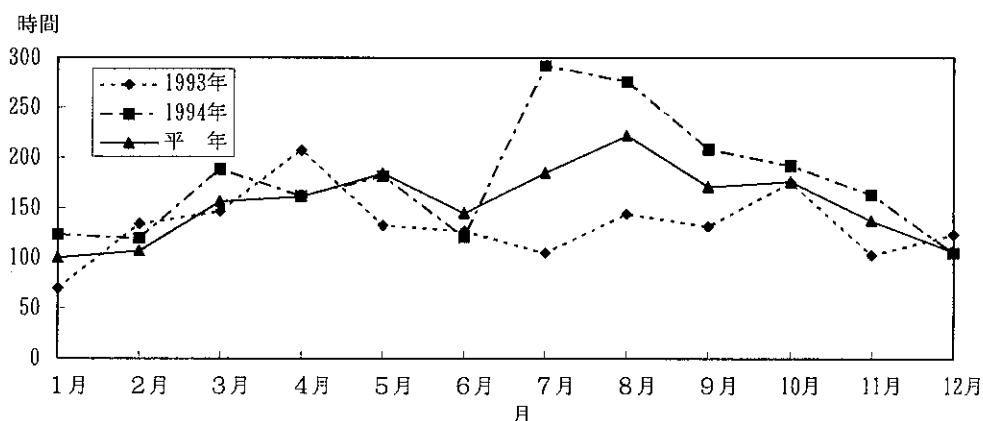


月間日照時間は変動はあるものの4月までは平年なみで推移したが、1993年の場合は5月から9月にかけて平年よりかなり少なくなり、特に長崎海洋気象台の7、8月の「月間日照時間」はそれぞれ平均の57%、65%であった。一方、1994年は7月から11月にかけて日照時間が多くなり、特に7月は長崎、福江、平戸、佐世保、雲仙岳で「月間日照時間の多い値」を更新した。長崎海洋気象台の7月の日照時間は平年の158%であった。

月間降水量は1993年は6月から8月にかけて多く、毎月500mmを超える雨が降り、6月には雲仙岳で、8月には長崎、厳原、佐世保、雲仙岳で「月降水量の多い値」の記録を更新した。長崎海洋気象台における8月の月降水量は平年の358%の668mmであった。また、8月末の累積降水量は2,340mmとなり、平年の年間降水量（1,945mm）を400mm上回り、さらに年間の降水量では平年の146%にあたる2,842mmとなった。一方、1994年の月降水量は5月から11月まで平年を下回り、7月には長崎、福江、佐世保、雲仙岳で、8月と9月には雲仙岳で「月降水量の少ない値」の記録を更新した。特に7月の長崎海洋気象台における月降水量（5.5mm）は平年の1.6%で1878年以来の記録更新であった。年間降水量は922mmで平年の47%であった。長崎、福江、佐世保では「年降水量の少ない値」で累計1位を更新した。

1993年の九州北部の梅雨入りは5月29日であったが、8月に入っても前線が日本付近に停滞することが多く、梅雨明

図27 月間日照時間の月変化



けといえる明確な境目がないまま季節が進み、この状態が平年の夏の盛りを過ぎる頃まで続いたため、梅雨明けの日は特定されなかった。1994年は梅雨期間（九州北部は6月7日入り7月1日明け）が短く、その後の夏の晴天、猛暑、小雨、そして秋の晴天、高温、小雨と続き、農作物、家畜、水産業など多方面に多額の被害がでた。また、制限給水を実施する市町村が増え、1995年春も続いている。³⁷⁾

図28 月降水量の月変化

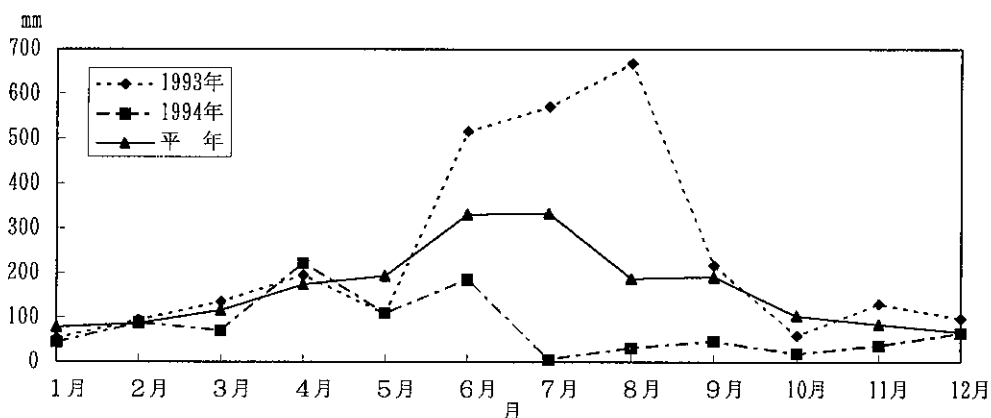


表26 顕著現象 (1993年, 平成5年)

地点名	項目	観測値	観測月日	統計期間
福江	日最高気温	21.1℃	2月6日	1962年～
〃	日最大瞬間風速	27.2m/s	2月23日	1962年～
福江	24時間降水量	100.0mm	～3月15日 18時	1971年～
長崎	24時間降水量	161.0mm	～4月29日 8時	1971年～
佐世保	〃	136.0mm	〃	〃
雲仙岳	日最低気温	-1.7℃	4月10日	1977年～
〃	日最大1時間降水量	43.0mm	～4月28日 13時57分	〃
〃	日降水量	275.0mm	4月28日	〃
〃	月降水量の多い値	401.0mm	4月	〃
〃	月平均気温の低い値	10.2℃	〃	〃
〃	月間日照時間の多い値	182.6h	〃	〃

表26 顕著現象（1993年，平成5年）のつづき

地点名	項目	観測値	観測月日	統計期間
雲仙岳	月間日照時間の少ない値	102.3h	5月	1977年～
福江	日最大瞬間風速	30.1m/s	6月2日 2時23分	1962年～
佐世保	〃	23.6m/s	6月2日 7時23分	1952年～
雲仙岳	日最大10分間降水量	23.5mm	～6月18日 6時44分	1977年～
〃	月降水量の多い値	1164.5mm	6月	〃
雲仙岳	月平均気温の低い値	21.0℃	7月	1977年～
〃	月間日照時間の少ない値	47.9h	〃	〃
〃	日最大瞬間風速	26.3m/s	7月29日 23時51分	〃
〃	日最大風速	8.8m/s	7月29日 23時50分	〃
長崎	日最大瞬間風速	39.1m/s	8月10日 4時19分	1953年～
〃	24時間降水量	176.5mm	～8月19日 21時	1971年～
〃	月平均気温の低い値	25.7℃	8月	1951年～
福江	日最低気温	17.4℃	8月24日	1962年～
巖原	月降水量の多い値	992.0mm	8月	1987年～
佐世保	日最大瞬間風速	41.4mm	8月10日 5時22分	1952年～
〃	月降水量の多い値	671.0mm	8月	1946年～
雲仙岳	月平均気温の低い値	21.5℃	8月	1977年～
〃	月降水量の多い値	772.0mm	8月	〃
雲仙岳	月平均気温の低い値	18.6℃	9月	1977年～
〃	日最大瞬間風速	32.9m/s	9月3日 21時26分	〃
巖原	日最小相対湿度	17%	10月22日	1950年～
雲仙岳	日最大1時間降水量	27.0mm	～11月30日 23時26分	1977年～
〃	月平均気温の高い値	11.5℃	11月	〃
雲仙岳	日最大10分間降水量	9.0mm	12月31日 3時43分	1977年～

表27 顕著現象（1994年，平成6年）

地点名	項目	観測値	観測月日	統計期間
巖原	日最小相対湿度	16%	2月14日	1950年～
雲仙岳	月平均気温の高い値	12.9℃	4月	1977年～
平戸	日最高気温の高い値	27.5℃	5月24日	1940年～
長崎	日最高気温	37.7℃	7月23日	1878年～
〃	月平均気温の高い値	28.9℃	7月	1951年～
〃	月間日照時間の多い値	291.9h	〃	1897年～
〃	月降水量の少ない値	5.5mm	〃	1878年～
福江	日最高気温	35.4℃	7月20日	1962年～
〃	月平均気温の高い値	28.0℃	7月	〃
〃	月間日照時間の多い値	266.5h	〃	〃
〃	月降水量の少ない値	29.5mm	〃	〃
巖原	月平均気温の高い値	28.0℃	7月	1992年～

表27 顕著現象（1994年，平成6年）のつづき

地点名	項目	観測値	観測月日	統計期間
平戸	日最高気温	33.8℃	7月20日	1940年～
〃	日最小相対湿度	42%	〃	1950年～
〃	月平均気温の高い値	26.8℃	7月	1940年～
〃	月間日照時間の多い値	278.3h	〃	〃
佐世保	日最高気温	37.6℃	7月19日	1952年～
〃	日最小相対湿度	33%	〃	1950年～
〃	月平均気温の高い値	29.0℃	7月	1952年～
〃	月間日照時間の多い値	305.6h	〃	1947年～
〃	月降水量の少ない値	14.0mm	〃	〃
雲仙岳	日最高気温	32.8℃	7月16日	1977年～
〃	日最小相対湿度	33%	7月19日	〃
〃	月平均気温の高い値	24.3℃	7月	〃
〃	月間日照時間の多い値	206.4h	〃	〃
〃	月降水量の少ない値	32.5mm	〃	〃
長崎	月平均気温の高い値	29.3℃	8月	1951年～
巖原	月平均気温の高い値	28.1℃	〃	1992年～
平戸	月平均気温の高い値	27.8℃	〃	1940年～
佐世保	月平均気温の高い値	29.1℃	8月	1952年～
雲仙岳	月間日照時間の多い値	188.7h	8月	1977年～
〃	月降水量の少ない値	58.5mm	8月	〃
雲仙岳	月降水量の少ない値	64.0mm	9月	1977年～
長崎	日最大瞬間風速	26.1m/s SW	10月12日 6時34分	1953年～
巖原	日最大瞬間風速	34.3m/s S	10月12日 5時55分	1991年～
長崎	月平均気温の高い値	16.0℃	11月	1951年～
福江	月平均気温の高い値	15.9℃	〃	1962年～
巖原	月平均気温の高い値	15.0℃	〃	1991年～
平戸	日最小相対湿度	22%	11月	1950年～
雲仙岳	月平均気温の高い値	11.5℃	〃	1977年～
雲仙岳	日降水量	83.5mm	12月9日	1977年～
〃	月降水量の多い値	132.5mm	12月	〃

参考文献

- 32) 気象庁統計室：1993年夏の天候の特徴，気象，439，4～8，（1993）
33) 栗原 弘一：日本の天候 夏（1993年夏），気象，439，34～37，（1993）
34) 気象庁統計室：1994年の猛暑 ―観測史上最も暑い夏―，気象，451，14～19，（1994）
35) 渡部 文雄：日本の天候 夏（1994年6月～8月），気象，451，32～35，（1994）
36) 酒井 重典：暖冬，猛暑・小雨，暖秋，気象，455，16～19，（1995）
37) 財団法人日本気象協会長崎支部：長崎県気象月報，（1993. 1～1994.12）

国民宿舎 壱岐島荘¹⁾・勝本町保養温泉センター

[Ikijimaso Hotel and Hot Spring Center]

勝本町の観光開発の見地から湯本温泉に国民宿舎の建設を計画、1967年（昭和42年）に起工し、1969年（昭和44年）2月竣工、「壱岐島荘」と命名した。

所在地 勝本町立石西触101番地 宿舎

名 勝本町営 国民宿舎「壱岐島荘」

自然公園名 壱岐・対馬国定公園

温泉地名 湯ノ本温泉、泉質 食塩泉、源

泉 深度 75m、口径 8cm、泉温 69℃

総事業費 96,968,000円、営業開始 昭和44年3月1日、収容人員 119名（部屋数27）

敷地面積 2,423.11㎡（734.2坪）

建物 鉄筋コンクリート3階 地下1階

総面積1,730.48㎡（524.3坪）設備 冷暖房

完備 鉄分除去（濾過）送湯設備

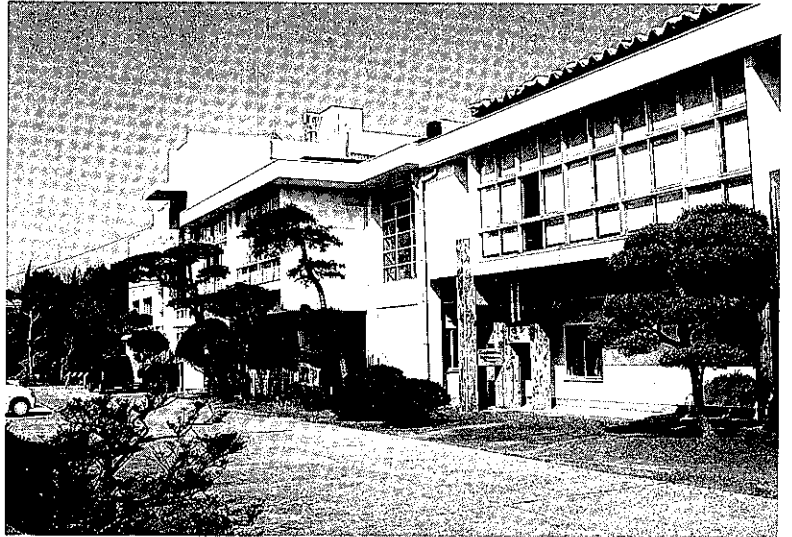
設計者 北九州市 篠崎設計事務所 施工

者 本体工事福岡市 寿工務店 空調冷暖

房工事 九州新菱冷熱工事(株)電気工事 九州電気工事(株)福岡支店

当所の利用料

写真53 国民宿舎 壱岐島荘



(1994年3月)

表28 宿 泊 料

利用者区分	利用料区分	宿 泊 料	食 事 料			計	夏期、冬期の 冷・暖房料
			朝 食 料	夕 食 料	計		
大 人		600円	150円	350円	500円	1,100円	100円
中 学 生		400円	150円	350円	500円	900円	100円
小 学 生		300円	150円	350円	500円	800円	100円
幼 児		無 料	実 費				無 料

1 宿泊利用時間は、午後4時より、翌日の10時までとする。

2 以後引き続き客室を利用する場合は休けい料を加算します。

3 2日以上継続滞在の場合は滞在中は加算しない。

表29 休 け い 料

利用者区分	利用料区分	大 広 間	個 室 (含、中広間)	広 間 専 用 料	
				大広間	中広間
大 人		130円	170円	4,000円	
中 学 生		70円	100円	2,000円	
小 学 生		50円	70円	但し、会議場として使用する場合に限る。	

1 休けい及び専用利用時間は午前9時より午後6時まで

2 会食の場合は休けい、宿泊を問わず配膳料50円（1人につき）いただきます。

表30 貸与及び持込料

貸		与		持 込 料	
寝 具 一 式	丹 前 一 式	浴 衣 一 式	マージャン一式	酒 類 1 本	ビ ー ル 1 本
1 0 0 円	8 0 円	5 0 円	1 5 0 円	1 5 0 円	3 0 円

注……宿泊、休けいを問わず地方税法による入湯税が1人に20円加算されます。

壱岐島荘は開館後、比較的順調な経営状況を継続していたが全国的な観光関係産業の不振により1980年（昭和55年）頃より宿泊客の減少が顕著となり、遂に1981年度（昭和56年度）には経営内容が赤字に転じ爾後3ヶ年依然として好転していない。

勝本町議会においては「宿泊利用者の減少は全国的な傾向であるにしても、これを打開し、好転させる方途はないものか」との趣旨により特別委員会を設置して検討を進めた。

名称 国民宿舎「壱岐島荘」調査特別委員会

設置年月日 昭和58年9月19日

委員会開催年月日 昭和58年10月5日、12月5日、昭和59年1月18日、2月21日

委員会廃止年月日 昭和59年3月12日

昭和59年3月5日、委員長名をもって議長宛に結論として調査報告書が提出されているが、その要旨は次のとおりである。

- 1 1日も早く民営化（第3セクター方式）にすること
- 2 経費（人件費）の適正化を図ること
- 3 サービス面の向上と積極的な誘致宣伝に努めること

※壱岐ゴルフ場がオープンするとセットパックにして宿舎の成績が上がる事が予想される。

昭和58年度勝本町国民宿舎事業報告書

総括事項

(1) 利用状況について

昭和58年度国民宿舎事業については前年度に引き続き景気は好転の兆しを見せず、増々深刻の度合いを深めている。従って、宿泊客の減少傾向は更に進み、宿泊客で7,954名（前年比1,023名減）で観光を目的とする団体客の減少が目される。

休憩客についても地場産業の低迷からか、13,746名（前年比2,049名減）で個室休憩客の減少が目につく。又、町内休憩客の減少に反して郡内他三町の休憩客は若干年ら増加して来たと思われる。

その他、利用人員に含まれない各種会議及び宴会利用等については横ばいの状況にある。然し乍ら前年度増加した結婚披露宴については本年度は大幅に減少しており、営業収益に大きな影響を与えている。

(2) 損益収支について

本年度の損益収支については、総収益で85,336,449円（前年比19,765,287円減）、総費用で95,953,908円（前年比15,782,746円減）で、差引では9,091,332円の赤字決算である。

収益面から見ると、食堂収益で45,640,909円で前年対比9,085,497円の減であり、宿泊休憩客の減少と共に結婚披露宴の大幅な減少がその主たる原因であろうと考える。

宿泊及び休憩収益についてはそれぞれ昨年対比若干の増である。宿泊休憩共に来客は減少したものの58年4月1日より利用料金が改訂された事によるものである。又、売店収益で約177万円、その他、遊具及び備品の貸与料で若干のそれぞれ減、冷暖房料で少額ではあるが増加している。他、雑収入では預金利息等で約100万円の減収である。

次に費用について、先ず人件費で前年度比、約50万円の減である、58年度当初予算と比較すると約360万円の減少であり、職員の移動も含めて節減に努めたつもりである、本年度人件費率は49%と高率を示している。

飲食材料費は、売上減に比例しまして650万円の減、売店についても同様理由により118万円の減であり、飲食材料費率は50%である。

又、経費については大きな金額は例年同様、動力費及び燃料費であるが、動力費で若干の増、燃料費は前年度と大差ない。

昨年度と比較して備・消耗品費が増加している。理由は保健所の指導により厨房に設置しましたクーラー代50万円による。

経費全体についての全年度対比は745万円の減であるが、前年度は防火設備工事の実施分も含めたものであり、実質的には前年度とほぼ同額である。

以上が昭和58年度の経営状況の概要であり、経営収支の悪化から本年度中町に支払うべき借上料6,327,440円を未払金として翌年度支払う様に対処致している。

宿舎事業経営の悪化については、支配人始め従業員一同責任を感じ今後も努力を重ねるつもりであるが、3月定例議会において議会特別委員会より今後の運営についての提言があり、充分部内でも検討をし、又、議会とも協議して対応策を定め、なるべく早い機会に実施出来るよう対処したい。

表31 国民宿舎壱岐島荘宿泊・休憩者数

年 度	宿 泊	休 憩	年 度	宿 泊	休 憩	年 度	宿 泊	休 憩
1969年(昭44)	8,640	17,226	1978年(昭53)	11,380	14,929	1987年(昭62)	7,694	10,397
70 (45)	12,274	10,379	79 (54)	12,290	16,760	88 (63)	7,991	10,206
71 (46)	12,835	13,617	80 (55)	11,044	16,847	89 (平1)	8,300	9,158
72 (47)	14,013	13,778	81 (56)	9,886	15,375	90 (2)	8,601	8,351
73 (48)	14,314	14,091	82 (57)	8,977	15,795	91 (3)	9,919	8,432
74 (49)	13,117	12,867	83 (58)	7,954	13,746	92 (4)	10,385	8,520
75 (50)	12,721	12,578	84 (59)	7,495	12,760	93 (5)	10,354	8,121
76 (51)	11,265	13,529	85 (60)	8,003	14,476	94 (6)	11,077	9,373
77 (52)	11,084	14,598	86 (61)	7,677	12,977			

1985年(昭和60年) 10月28日付で勝本町行財政改革推進委員会(会長山本隆夫)から答申書が町長あて出された。

『勝本町行政改革に関する答申書³⁸⁾』

当委員会は昭和60年8月6日発足以来3ヶ月間、本町の行財政改革について先に町長より諮問をうけた事項を中心に調査、審議を重ねてまいりました。

各委員は行財政改革究極の目的を「地域社会の活性化及び住民福祉の増進をはかること」としてとらえ、鋭意精力的に審議してきたところであります。以下委員会での意見や審議の概要等をまじえて諮問事項の7項目について答申いたします。(中略)

会館等、公共施設の設置及び管理運営について

国民宿舎「壱岐島荘」と「勝本町保養温泉センター」

壱岐島荘及び勝本町保養温泉センターの利用者は年々減少傾向にある。住民福祉を目的とする公共施設ではあるが、やはり正常な経営形態をもつことが望ましい。よってこれを好転させるには唯単に両施設のみ利用者をふやすのでは

38) 山本隆夫 資料(勝本町抜本触822, 壱岐文化社)

なく、湯本地区全体の温泉業を対象とした利用客の増大を図る必要がある。

今、壱岐島荘の昭和58年度決算書をみると欠損金が726万7,258円であり、昭和59年度もほぼ同じような経営状況である。

温泉センターの昭和59年度決算状況は約300万円不足している。毎年のことではあるが町は委託料をもってこの不足金を補填している。

先に壱岐島荘については町議会「国民宿舎壱岐島荘調査特別委員会」が検討をすゝめ報告書をまとめた(59. 3. 5)。それによると「1日も早く民営化(第3セクター方式)にすること」としている。仄聞する処によれば前記の壱岐島荘に保養温泉センターを加えて公社設立の構想があり、昭和61年度発足の予定をもって検討中であるとの事であり大いに期待している。

然しながら当面、或いは公社発足後も次の諸点について改善し、浴客の増大を図り、もって入湯料の増収と湯本地区振興の方策とすることが望ましい。

1. 営業時間とバス運行時間を関連させ、利用時間の調整をはかる。(勝本地区民の不满、地元業者への対応、職員の勤務時間)
 2. 施設、設備の改善、整備によっイメージの一新をはかる。(遊具類の整備、改装等)
 3. 公衆衛生を重視し、浴槽内外の清潔、浴客マナーの確立
 4. 従業員の身分の確立とサービス意識の徹底。(各種社会保険、退職金制度、従業員教育)
 5. 共同又は単独による施設の設置。(例、ゲートボール場、テニスコート、水泳プール、釣り場、活魚施設)
 6. 郡内3町発行入湯券の枚数を当面6枚とする。
 - (1) 対象者の拡大、60才以上の人と身障者全員とする。
 - (2) 利用制限の撤廃、個人の自由使用とし利用先を勝本町と同一の温泉業者とする。(現在は郷ノ浦町、石田町は団体のみとなっている。又、利用先も壱岐島荘と保養温泉センターに限られている)
- 前記のように発行枚数を増し、利用方法を改善するよう各町に働きかけて実現を図る。

昭和59年度優待入湯券の発行及び利用状況

表32 勝本町保養温泉センター利用状況

町 別	勝 本 町		郷ノ浦町	芦 辺 町	石 田 町	計
	老 人	身 障				
利 用 人 員	3,856	226	697	912	122	5,813
利 用 料 金		1,836,900	313,650	410,400	54,900	2,615,850
年 令	60以上全員		60以上	65以上全	60以上全	
身 障 者	全 員		50以上	50以上全		
枚 数	各12枚		各2枚	各6枚	各1枚	
利 用 限 定	な し		あ り	な し	あ り	

石田町については一部平山旅館の利用あり

写真54 勝本町保養温泉センター

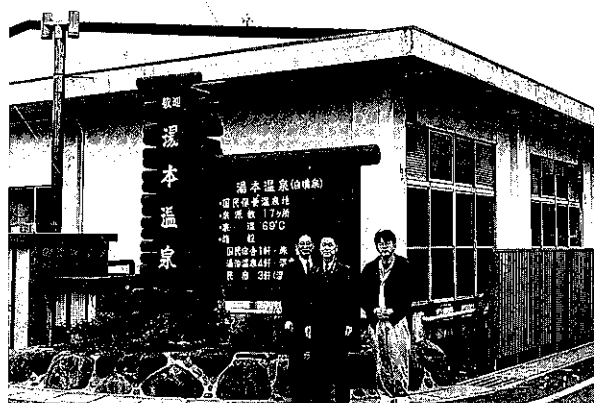


表33 壱岐島荘利用状況

町 別	勝 本 町		郷ノ浦町	芦 辺 町	石 田 町	計
	老 人	身 障				
利 用 人 員	3,265	105	831	131	195	4,527
利 用 料 金	1,516,500円		373,950	45,850	87,750	2,024,050

7. 温泉の源泉については協同組合方式をもって、濾過、共同配管等を実施して湯本地区全体の事業とすることはできないか検討されたい。』著者注：湯ノ本温泉の温泉水は鉄分を多く含み、湧出時は透明であるがその後酸化され、みそ汁の様に赤褐色となり外見上汚れて見え、浴客に不快感を与えるので濾過し集中管理をしてはどうかの提案である。1986年（昭和61年）3月1日、財団法人・勝本町開発公社が設立され、4月1日から壱岐島荘の運営を担当することになった。

勝本町国民宿舎の設置及び管理に関する条例（昭和61年3月26日 条例第11号）

改正 昭和63年6月20日 条例第9号 平成2年9月26日 条例第18号
平成元年3月24日 条例第15号 平成5年12月22日 条例第16号

（趣 旨）

第1条 この条例は地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき勝本町国民宿舎の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（設 置）

第2条 勝本町住民並びに国民の保護及び健康の増進をはかり、併せて勝本町観光産業等の振興に寄与するため、勝本町国民宿舎（以下「国民宿舎」という。）を設置する。

2 国民宿舎の名称及び位置は次のとおりとする。

（利用の承認）

第3条 国民宿舎を利用しようとする者は、あらかじめ町長の承認を受けなければならない。

2 町長は次の各号の一に該当する場合には、国民宿舎の利用を承認しないことができる。

- 一 公の秩序を乱し、又は善良な風紀を害するおそれがあると認められるとき。
- 二 国民宿舎の施設又は設備を損傷するおそれがあると認められるとき。
- 三 前各号に掲げるもののほか国民宿舎の管理上支障があると認められるとき。

（利用料）

第4条 国民宿舎を利用する者（以下「利用者」という。）は、別表に定める額及び当該額に消費税法（昭和63年法律第108号）第29条に規定する税率を乗じて得た額（拾円未満の端数が生じた時は、これを切り捨てた額）を合算した利用料を納付しなければならない。

2 前項に規定する利用料は、国民宿舎の利用を終るまでに納付しなければならない。ただし、町長が特別の理由があると認めるときはこの限りでない。

（予約金）

第11類 公営企業 勝本町国民宿舎の設置及び管理に関する条例

第5条 町長は利用の予約をした者から利用料の一部を予約金として徴収することができる。

（利用料の還付）

第6条 すでに納付された利用料は還付しない。ただし、規則の定めるところにより利用料の全部又は一部を還付する

ことができる。

(利用料の減免)

第7条 町長は特に必要があるときは利用料を減免することができる。

(遵守事項)

第8条 利用者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 火災の原因となるような行為をしないこと。
- 二 利用の承諾を得ず施設又は設備を利用しないこと。
- 三 施設内で承諾を得ず物品の販売又はこれに類する行為をしないこと。
- 四 その他国民宿舎の運営及び管理を阻害する行為をしないこと。

(損害賠償)

第9条 利用者は、その責任に帰すべき理由により国民宿舎の施設若しくは設備を損傷し、又は滅失したときは、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(利用の承認の取消し又は利用の中止)

第10条 町長は利用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反すると認めるときは利用の承認を取り消し又は利用を中止させることができる。

(管理の委託)

第11条 町長は地方自治法第244条の2項第3項の規定に基づき財団法人勝本町開発公社に国民宿舎の管理を委託することができる。

(委 任)

第12条 この条例に定めるもののほか国民宿舎の管理に関し必要な事項は規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 勝本町休養宿泊施設事業の設置等に関する条例（昭和44年条例第9号）は廃止する。

附 則（昭和63年6月20日条例第9号）

この条例は、昭和63年7月1日から施行する。

附 則（平成元年3月24日条例第15号）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日の午前10時までの宿泊に係わる利用料については、従来のおりとする。

附 則（平成2年9月26日条例第18号）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成6年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の日の午前10時までの、宿泊に係わる利用料については、従来のおりとする。

国民宿舎「壱岐島荘」並びに保養温泉センターの管理及び運営委託契約書

勝本町長と財団法人勝本町開発公社との間に、国民宿舎「壱岐島荘」並びに保養温泉センターの管理運営に関し、勝本国民宿舎の設置及び、管理に関する条例第11条及び勝本町保養温泉センター設置条例第3条の規定に基づき、次のとおり締結する。

第1条 甲は、乙に対し、次に掲げる業務を委託し乙はこれを受託する。

- (1) 勝本町国民宿舎の設置及び、管理に関する条例第4条及び勝本町保養温泉センター設置条例第5条（以下「条例」という。）の徴収及び収納に関すること。
- (2) 宿舎及び温泉センターに係る地方税法（昭和25年法律第226号）による料理飲食等消費税として、徴収する現金の取り扱いに関すること。
- (3) 宿舎、及び温泉センターの管理運営にかんすること。

2. 前項の業務委託の対象となる物件は、別表のとおりとする。

第2条 乙は、その業務執行に関して、関係法令、条例、規則等を遵守し、善良な受託者の責任と注意をもって、一切の管理運営に努めなければならない。

第3条 宿舎、及び温泉センターの運営管理に要する経費は、全て乙の負担とし、第1条の業務に係る収入相当額の範囲内に於いて、運営管理する。

第4条～第15条 省略

昭和61年4月1日 契約締結

業務委託物件

1. 建造物

名称	所在	構造等	規模	数量	備考
国民宿舎 壱岐島荘	勝本町立石西触字 白釘101番地	本館 鉄筋コンクリート 3階建	1730㎡	1	
同上	同上	車庫 鉄骨 スレート葺	30㎡	1	
保養温泉 センター	勝本町湯ノ本浦字 潮川26-5番地	鉄筋コンクリート 平家建 161㎡ 木造平家建 385	546㎡	1	

2. 附属設備等

前記建物に附属する電気、水道、ガス、冷暖房施設及び温泉設備、厨房、衛生設備等附属設備、並びに車両。

1994年（平成6年）

国民宿舎の管理運営委託に関する理由（勝本町）

町営国民宿舎は開業後17年余りが経過し、その間地域住民はもとより広く国民の保養と憩いの場として利用されてきたが、昨今における景気の低迷と国民の消費嗜好の変化にともない、施設の利用（宿泊者及び結婚披露宴の減少）が50年代に入り減少の一途を辿っており、献身的な経営努力にもかかわらず国民宿舎において3年連続しての赤字経営を余儀なくされた。（人件費の増加）そこで、これら施設の経営管理の内容を分析し根本的な改善策を構ることが急務とされ、行財政改革と相まって、これらの公共施設全体を統合しての管理運営を成すことにより、経営の改善、合理化による人件費の削減等を図ることにより、健全で安定した経営を目指すことが最大の目的として、昭和61年3月に「財団法人 勝本町開発公社」を設立し管理運営を委託した。

設立当初は支配人を役場より派遣していたが、平成5年度より民間人を支配人に雇い完全な公社職員での経営管理に

当たり現在順調な運営が行われている。

利用区分 利用者区分	宿 泊 利 用 者					休 憩 利 用 者			
	宿 泊 料	食 事 料		入 湯 税	消 費 税	合 計	ロビー 休 憩	大広間 休 憩	個 室 休 憩
		朝 食	夕 食						
一 般 中学生	3,400	800	2,000	150	186	6,386	300	450	950
小学生	2,900	800	2,000	0	171	5,871	200	300	550
幼 児	無 料	実 費		0	0	-			

客室 6帖 6, 7.5帖 14, 10帖 4, 12.5帖 2, 大広間1 宿泊定員 120名, 休憩 200名

勝本町保養温泉センター

1968年（昭和43年）3月に町営国民宿舎「壱岐島荘」がオープンされ、多くの人々に宿舎と憩いの場として利用されて来た。湯ノ本温泉を保養の拠点として整備を計画していたところ1971年（昭和46年）3月23日付で「国民保養温泉地」の指定を受けた。

この指定により湯ノ本温泉を町民の健康で明るい温泉保養地として更に整備を進めることになった。1972年「勝本町保療温泉センター」の建設に着手し、翌年の1973年（昭和48年）にオープンした。それ以後は町民及び壱岐島民の保養センターとして利用されている。また、町のディケアセンターとしても活用されている。

建設内容

敷地面積 1,177㎡ (356.6坪) 延床面積 244㎡ (73.9坪) 鉄骨平屋建
 総事業費 1,000万円 県補助金 400万円, 起債 450万円, 一般財源 150万円

利用状況

勝本町保養温泉センター利用状況一覧表

年 度	利 用 者 数	摘 要
昭和47年度	5,920	6月オープン 町直営
48	10,129	
49	9,894	
50	9,710	町社会福祉協議会委託
51	13,283	
52	15,404	
53	15,820	
54	16,604	
55	17,603	
56	14,876	
57	12,606	
58	10,095	
59	8,850	
60	7,605	
61	7,018	勝本町開発公社管理委託
62	9,640	
63	10,553	
平成元年度	11,362	
2	12,047	内デイサービス利用者 3,050
3	13,944	3,114
4	16,490	3,380
5	18,133	3,179
6	11,006	

勝本町B & G海洋センター

1986年（昭和61年） 海洋性スポーツ・レクリエーションを通じて住民の福祉の増進及びたくましい精神力と豊かな人間性、英知みなぎる青少年の育成を図るため、勝本町温ノ本温泉に同センタープールが設けられた。この施設は日本船舶振興会から贈られた。

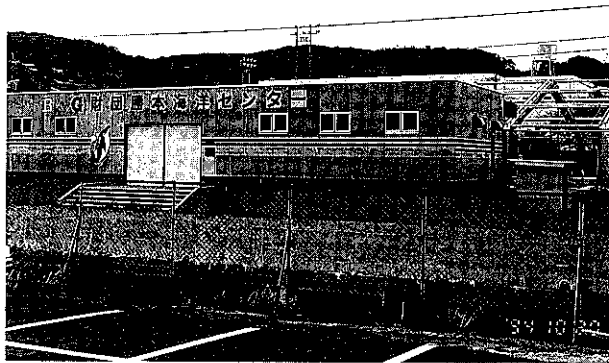
施設

1. 勝本海洋センター体育館 新城西触1694番地
2. 勝本海洋センタープール 布気触818番地 6

利用状況

昭和61年	13,607人	昭和63年	11,807人	昭和2年	17,711人	平成4年	12,407人
昭和62年	11,212人	平成元年	12,283人	昭和3年	11,149人	平成5年	12,665人

写真55 勝本町B & G海洋センター



勝本町湯本支所のそばにある

湯ノ本温泉港まつり

〔Yunomoto Onsen Minato Festival〕

1969年（昭和44年） 9月7～10日に第24回国民体育大会・夏季大会（水泳、ヨット等）が佐世保市総合グラウンド競泳場を主会場として開会された。この開会式には皇太子、妃殿下が出席された。両殿下は壱岐視察のため9月10日、大村空港12：00発の全日本空輸特別便フレンドシップで壱岐空港へ12：30着かれた。壱岐観光文化会館、岳ノ辻園地、益科小学校、壱岐支庁を経て国民宿舎壱岐島荘着17：23、宿泊された。翌日9月11日は公立壱岐老人ホーム、勝本町中央公民館、壱岐農業センター、箱崎漁業組合、芦辺町八幡海岸を経て壱岐空港16：00発全日本空輸（184便）で福岡経由帰京された。³⁹⁾

1970年（昭和45年）

湯ノ本温泉には従来から温泉町としての催物がなかったので、この皇太子、妃殿下の御来島を記念して「第1回湯ノ本温泉まつり」を6月に開催した。この祭について発起人、幹事役をしている白川洋一郎（49才）、川橋健（49才）に1994年（平成6年）3月30日に発足当時からの様子を尋ねた。（敬称略）

『祭をやるよと呼び掛けて集った主なものは商工会、公民館、漁業関係者であった。第1回の6月当日は大雨であり、仮装行列を出し物としていたのでタバコ収納所（現在の勝本町保養温泉センター）の中で湯ノ本の皆さんが思い思いの姿で参加した。初回なので簡単なものではあった。この時の幹事役は白川、斉藤、辻野であり、25年前で皆若かった。』

第2回目以後は開催日を10月29日とした。その理由は、漁業者は勝本の若宮祭で29日が沖留め（休業日）であること、熊野神社の祭礼が同日であることの為であった。

現在行っている29日昼の漁船パレードは船主会の協力を得て第7～8回目から入り、祭の名に「港」を入れて「湯ノ本温泉港まつり」とした。

第2回目からは勝本町商工会から資金援助を受けた。

10月29日は11時に熊野神社からお下りの神輿が出発し、お旅所の海老館の浜へ向う。お旅所では神楽が奉納される。その後、漁船パレードが湾内で行われ漁業者の海上安全と大漁祈願が行われる。

各旅館は見物人に昼間は浴場を開放した。朝鮮通信使のパレードは昭和59～62年に行った。このパレードには100人以上の人々が必要であり、他の部落から応援してもらった。現在の湯ノ本は57戸であるから単独では出来ないパレードであった。

朝鮮通信使の衣裳は福岡市役所から借り出した。現在も役場支所にそのまま保管している。昭和63年は天皇陛下重病のため祭は中止した。

現在は朝鮮通信使のパレードはなく夜の部・演芸大会を鯨伏小学校体育館で開いている。湯ノ本も他所と同様に若者が少なく過疎化して来ている。』

昭和59年の温泉まつり打合せ会（青年部）の記録があるので次に示した。

「品川部長宅で打合：仮装行列、日程、衣裳借り、プログラム、寄付の件」

1. 朝鮮通信使行列の衣裳借用の件

日時 10月19日 6：40のフェリー、12：30発で帰島予定

人員 中野課長（観光協会）、徳力、白川。 車 福田工務店のダンプ。 経費 商工会親の方から。

連絡は品川（洋）（毅）。

2. ポスターはり

商工会は20日まで書いてもらうように連絡済み。布気地区：正路。勝本浦・在部・本宮地区：山口、久月、和光、福田。立石・国分・石田地区：平山、海老館。沼津地区：糸瀬。郷ノ浦地区：徳力、品川（ケ）。湯ノ本地区：品川（洋）、川橋。

39) 第24回国民体育大会報告書（全703p）、長崎県実行委員会、昭45. 2. 15発行、長崎県教育庁体育保健課蔵

23日までにポスター掲示，寄付と一緒に回る。

3. 寄附集め（総員）

23日に実施するので，名簿と金額を親商工会よりもらう。領収帖を商工会よりもらってくる。（長谷川）。タオルを用意する。

4. 提灯はり

28日，10：00 総員集合，品川宅。漁業者へは13時より協力願いに行く。商校より照明を借りる（長谷川）。離島センターの照明（品川洋）。会場準備は夕方から。会場（鯨伏小体育館）の交渉（オモヤ）

5. 夜の部

(1) カラオケ・踊り・民謡教室 (2) 子供劇場 (3) 在部青年団 (4) 商工会青年部 (5) 福引の賞品は自転車。

寄附者各位殿

謹啓 菊花かおる頃 貴台には益々御健勝のことと、およろこび申し上げます。

今回は出費多難の折、湯ノ本温泉港まつりに対しまして多額の御寄附をいただき誠にありがとうございました。温泉港まつりも回を重ねること16回少しづつではありますが皆様に御理解いただき盛大になってまいりました。この事は、ひとえに皆様の御協力のたまものと会員一同感謝いたしております。今年も下記のとおり、昼夜と催し物を計画いたしております。また、商店、食堂も店々にて割引セールを実施いたしておりますので、秋の一日、湯ノ本温泉港まつりの見物においで下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 昭和59年10月29日（月）

2. 催し物

(イ) 昼の部

漁船パレード 11時頃 みこしのお下り 11時頃（海老館の裏）

仮装行列季朝通信使行列 14時 老人ホーム発

(ロ) 夜の部

演芸会 18時 鯨伏小学校体育館 内 容 カラオケ，踊り，子供劇，その他

最後に福引があります。今年は婦人用最高級自転車があたります。その他、商店の商品が多数あります。

協賛 湯ノ本商工会湯ノ本船主会湯ノ本公民館

朝鮮通信使⁴⁰⁾

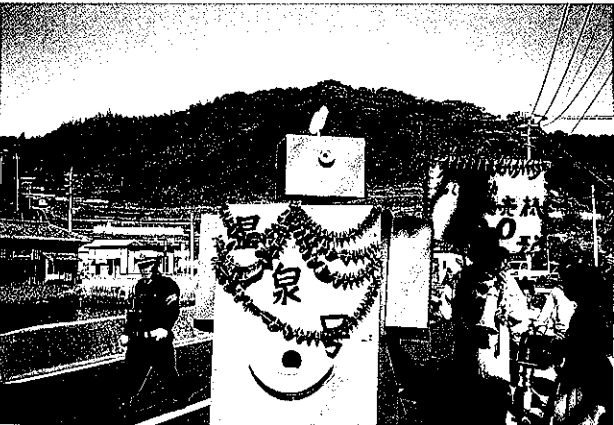
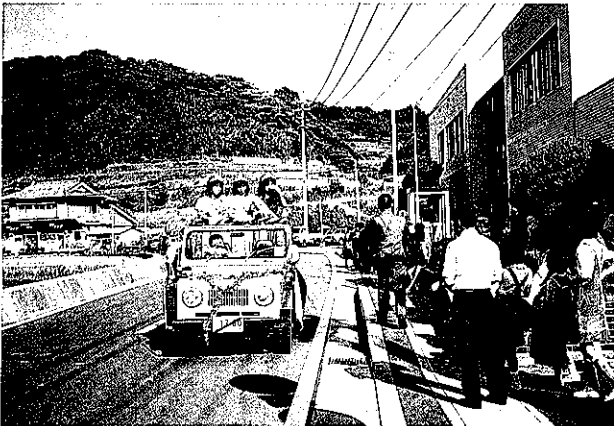
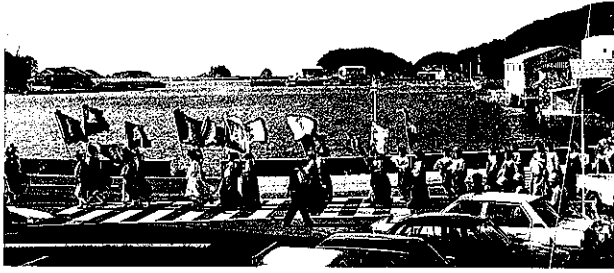
豊臣秀吉の朝鮮侵略の後、徳川幕府による国交回復工作は朝鮮側の厳しい対日感情のため容易に実現しなかった。1601年（慶長六年）に対馬藩主・宗義智が国交回復の糸口をつかみ、徳川家康の厳命もあり積極的な働きもあって1606年（慶長十一年）朝鮮の救国に活動した高僧の洞溟堂（松雲大師）が我国に派遣された。

次いで翌1607年（慶長十二年）徳川家康が派遣した和平使に対する回礼兼副還使として呂祐吉を正使とする使節が派遣された。一行は467名で4船に分乗し対馬に向い、対馬藩主の宗義智の案内で江戸に着き、徳川秀忠との間で国書が交換され親善関係が回復した。使節一行は往復で7ヶ月余を要した。そして、各地で朝鮮から拉致されていた者を探し出し1400名余をつれて帰った。この後、1811年（文化八年）まで対馬、壱岐勝本を経て総数12回朝鮮通信使が来日した。

1986年（昭和61年） 祭を催すには運営資金を必要とする。この年の寄附の願を次に示すが、実行委員会の苦衷がしのばれる文章である。

40) 原田元右衛門：壱岐勝本と朝鮮通信使，島の科学，No.21，47～74p，昭和59年3月，島の科学研究会発行

写真56 志岐・湯ノ本温泉 港まつり 朝鮮通信使のパレード (山本隆夫撮影)



『(1) 湯の本温泉港まつりについてお願い』

昭和61年10月15日

湯の本温泉港まつり実行委員会々長

中秋の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より商工会の諸行事にご理解、ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。先般、商工会湯の本支部総会におきまして本年も恒例の湯の本温泉港まつりを、10月29日に実施いたすことに決議されました。

まつりも今回で18回目となりますが、町内外の寄付のお願いも限度があり毎回のよう経費の捻出に苦慮いたしており、昨年60年度はついに赤字決算となりました。支部総会において、赤字を出してまでまつりを実施すべきか議論もありましたが、地域の振興、融和、親睦、連帯の為にも伝統行事を継承することは住民の義務であるとの認識の下、本年も実施することに決定されました。

つきましては、10年前頃までご協力いただいておりますまつり協力金を本年から、止む得ず再度お願いすることに支部総会で決定されましたので出費多端の折誠に申し訳ございませんが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

1. まつり協力金 1会員 800円（10年前500円）
2. 募 金 11月中

(2) 湯の本温泉港まつりについてお願い

昭和61年10月15日

湯の本温泉港まつり実行委員会々長

錦秋の候、貴台におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。例年、温泉港まつりには特段のお力添えを賜わり、厚くお礼申し上げます。

お蔭様をもちまして、今年で第18回を迎えるに到りました。毎年、まつりの実施にあたりさまざまな諸問題が山積し、関係者一同1ヶ月にわたり東奔西走、力を合わせてどうにか伝統を守り続けてまいりました。これもひとえに皆様のご厚情の賜ものと、関係者一同心より感謝申し上げます。

今年も下記の通り、恒例の湯の本温泉港まつり（李朝通信使行列）を実施いたすことになりました。つきましては不況、出費多端の折誠に心苦しい次第ですが、格別のご芳情を賜わりたく後日お伺いいたしますので、何卒よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

〔湯の本温泉港まつり〕

日 時 昭和61年10月29日（水）

場 所 湯の本港内及び浦部道路（老人ホーム～壱岐島荘）

1. 海上パレード
2. 陸上パレード（仮装行列）李朝通信使行列
3. 祝賀会
4. 演芸会、隠し芸大会』

李朝通信使行列は昭和62年まで続けられたが、その後は中止となった。

表34 湯ノ本温泉の旅館、商店、船主会等

1. 公衆浴場	高峰温泉	44. 美 容	タカラ美容室
2. 公衆浴場	辻川温泉(廃)	45. 勝本漁協鯨伏支所	
3. ホ テ ル	ユートピアランド平山	46. 鯨伏幼稚園	
4. 民 宿	湯ノ山荘	47. 雑 貨	田口商店
5. 国民宿舎	壱岐島荘	48. 江川機械サービス	
6. 旅 館	平山旅館	49. 豆 腐	正路豆腐店
7. 旅 館	海老館	50. 病 院	品川クリニック
8. 旅 館	旅館長山	51. 特別養護老人ホーム	寿楽園
9. 理 容	庄 嶋	52. 壱岐デイサービスセンター	
10. 雑 貨	品川商店	53. 壱岐養護老人ホーム	
11. 酒 店	白川重家	54. 公衆浴場	山口温泉
12. 旅 館	千石荘	55. 湯ノ本浦公民館	
13. 旅 館	あづまや	56. 観世音寺	
14. 雑 貨	長嶋商店	57. 船主会(31隻)	
15. 居 酒 屋	リキ	畑 原 豊 寛	幸 政 丸
16. 鍼 灸	豊永鍼灸院	高 浜 勝	純 勝 丸
17. かまぼこ	長山かまぼこ店	石 見 一 美	神 幸 丸
18. 雑 貨	柿本商店	石 見 勝 広	神 幸 丸
19. 食 堂	湯ノ香食堂	石 見 敏 昭	福 昭 丸
20. 民 宿	万福荘(廃)	下 條 茂 市	丸 茂 丸
21. 食 堂	徳 力	中 上 幸 夫	海 栄 丸
22. 公衆浴場	勝本町保養温泉センター	原 仙 一	曙 丸
23. バス停雑貨	川橋商店	山 口 久 美	順 洋 丸
24. 壱岐交通タクシー湯本営業所		田 嶋 勇	金 比 羅 丸
25. 美 容 院	スター美容室	林 田 誠	〃
26. 鍼 灸	原田はり灸療院	末 永 広 光	富 士 丸
27. 薬 店	川橋薬店	安 永 義 広	和 秀 丸
28. 鯨伏警察官駐在所		町 田 春 義	祥 洋 丸
29. 鮮 魚	お魚センター(漁協)	末 永 義 政	伸 栄 丸
30. 割 烹	しな川	竹 原 福 徳	正 紀 丸
31. 湯本郵便局		赤 星 史 郎	叶 丸
32. 雑 貨	品川商店	中 原 正	正 栄 丸
33. 鯨伏小, 中学校		坂 本 忠 治	金 比 羅 丸
34. B & G勝本海洋センタープール		高 浜 貢	勝 丸
35. 勝本町役場湯本支所, 湯本地区公民館 町立・湯本診療所		川 村 喜 一	金 比 羅 丸
36. 鮮魚食料品	品川マート	小 嶋 英 臣	金 比 羅 丸
37. ガソリン	J A給油所	本 城 学	玄 洋 丸
38. 理 容	福田理容室	永 田 正 人	金 比 羅 丸
39. 雑 貨	長谷川商店	坂 口 要 一	と き め き
40. J A壱岐郡鯨伏支所		下 條 健 治	剛 洋 丸
41. 米 穀	内山米穀店	川 谷 直	金 比 羅 丸
42. 酒, 文房具	目良商店	川 谷 力	〃
43. 雑 貨	横山商店	西 川 龍 雄	〃
		川 村 登	〃
		中 上 俊 二	豊 漁 丸

オンダケ
 芦辺町箱崎江角触の温泉「男岳温泉」
 〔Ondake Onsen〕

湯ノ本温泉以外の地でも温泉掘削が行われている。

芦辺町箱崎江角触の山本義人は郷ノ浦町坪触字中尾で1977年（昭和52年）より温泉掘削を行い、1991年（平成3年）に完成した。

湧出温度 30.6℃，湧出量 92ℓ/分，掘削深度 550m，湧出口径 7.5cm。掘削方法：50mまでロータリー工法，50m以下はワイヤーライン工法であった。この源泉は温泉として利用されなかった。

1992年（平成4年）7月 山本は自宅近くの芦辺町箱崎江角触字江角1545に温泉掘削を始めた。当初の計画は深さ500mであったが同年10月に増掘計画で1,000mとした。掘削申請者は山本澄子。

掘削方法，深さ50mまではロータリー工法，50m以下はワイヤーライン工法。口径7.6～16.8cm，工事費5,200万円。

1993年（平成5年）6月 待望の温泉が湧出した。深さ800mまで掘削し，湧出量300ℓ/分，温度65℃であった。

温泉水の泉質はカルシウム 1,817mg，マグネシウム 620mg，鉄 12mgを含む強食塩泉であり（旧泉質名は含塩化土類食塩泉）外観は湯ノ本温泉と同じ赤褐色の湯であるが，湧出直後は無色の食塩泉で時間がたつに従って鉄分が酸化され赤褐色となる。色相は湯ノ本温泉よりも鉄分が多いので濃い。

療養効能 飲用では慢性胃腸病，便秘，浴用では神経痛，リュウマチ，湿疹，婦人病，運動障害，吸入は慢性気管支炎などである。

入浴料金 大人300円，中学生200円，小学生100円，幼児無料（1995年現在）

温泉分析値は資料参照192p。

写真57 掘削中の男岳温泉

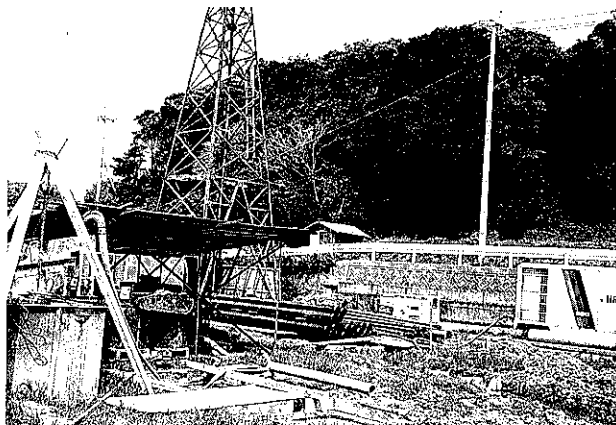
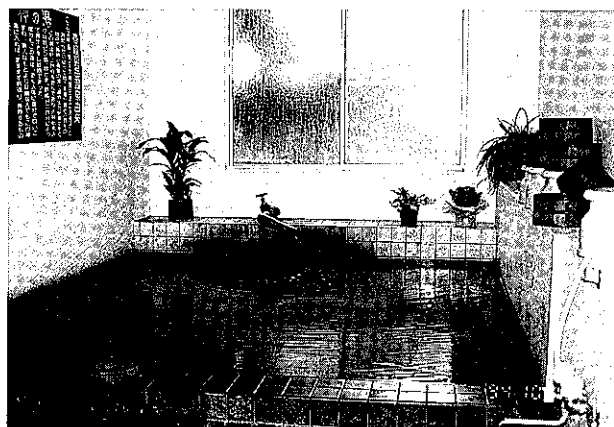


写真58 浴室（湯は鉄分が強いので赤褐色である）



壱岐島の地質と温泉，ステゴドン象化石の発見

[Excavation of Fossil Stegodon Elephant]

地質概要^{41), 25)}

壱岐島は日本列島孤形成の過程で大陸との接点にあたり、早くから多くの地質学者が注目した地域である。

壱岐島の基盤は勝本層と呼ばれる砂岩、泥岩であり、対馬の対州層群に相当するといわれている。この堆積層は第三紀前半（1500万年前）、日本列島が沈降、堆積、火山活動の時代、即ちグリーンタフ変動と呼ばれる地殻の大変動があった頃、湯ノ本西海岸～住吉山信～深江を結ぶ東西の構造線を境にして、南側が沈降が大傾斜によって断裂し、その後の火山活動によって形成されている。北部の勝本町、箱崎地区の勝本層の上にも、その後の火山活動で溶岩が流れ覆っている地域が多い。

この島の地質を単純に表現すれば第三紀層を基盤として、その上を噴出した玄武岩の溶岩が覆っている火山の島といえる。

壱岐の最高峰の岳の辻（212.9m）は壱岐島での最後の火山活動（第四紀）で噴出した火山砕屑物によってできた噴石丘である。玄武岩の溶岩流の上に噴石が堆積してできた丘で、津ノ上山も同様にしてできたものである。

玄武岩の火山活動は、流れやすい溶岩を何度も何度も流出させ広い範囲に溶岩台地をつくるが、その溶岩と溶岩の重なるの境に挟まれた数10センチの厚さの赤土が各所でみられる。壱岐のゆるやかな丘陵地はほとんどこの玄武岩と、玄武岩類が風化をうけてできた赤っぽい土からできている。

玄武岩は第四紀に噴出しただけでなく、第三紀鮮新世の芦辺層群、第三紀中新世の壱岐層群とともに玄武岩の火山活動があったことを示している。

中新世（1000万年前）という時代は日本列島の各地で火山活動の激しかった時代で、壱岐でも、玄武岩、安山岩、流紋岩の溶岩が噴出している。郷ノ浦町初瀬には県指定天然記念物「初瀬の岩脈」がある。これは、白い流紋岩の溶岩を貫いて玄武岩が地下から上ってきた玄武岩の通路である。壱岐島の海岸は急崖が多く、独特な景観をつくっているが、そのほとんどは火山岩の重なりなどによるもので、船上から溶岩流の重なるの見えるところもある。

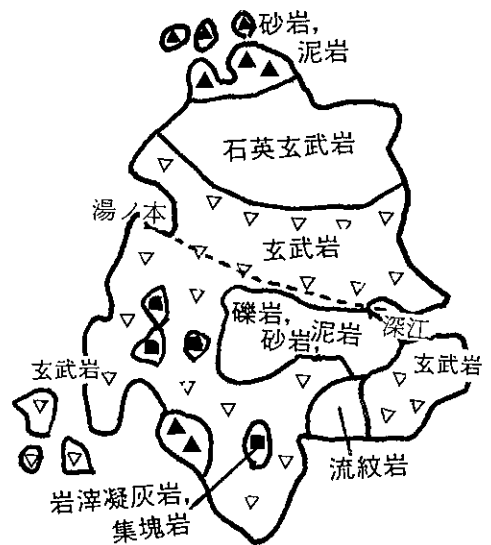
芦辺町八幡の半島の丘陵は玄武岩台地であるが、その先端の左京鼻は玄武岩の柱状節理が波食に抵抗して立っている。左京鼻を南下した海岸、長者原崎の珪藻土層は「壱岐長者原化石層」として県の天然記念物に指定されている。コイ科やギギ科、スズキ科など十数種類の魚類のほか植物、昆虫、ヘビなどの化石が発見されている。化石は二度とできるものではないので、地層とともに将来へ大事に残すべき本当の天然の記念物といえる。

勝本町立石西岬海岸（湯の本層）からはステゴドン象の化石が発見され、郷の浦町壱岐郷土館に保存されている化石と、化石産地は県の天然記念物に指定されている。第三紀中新世（約1200万年前）から第四紀更新世（約100万年前）には壱岐にも象が生息していたわけである。

壱岐島の基盤である砂岩、泥岩の勝本層は勝本港付近の崖で見ることができる。この地層から海生の貝化石が産出しているので海成層ということになる。

壱岐対馬と一括してよばれるが、地質と地形は全く異なり、山岳地の対馬に対して、丘陵地の壱岐であり農業にも恵まれた地質と地形の島といえる。

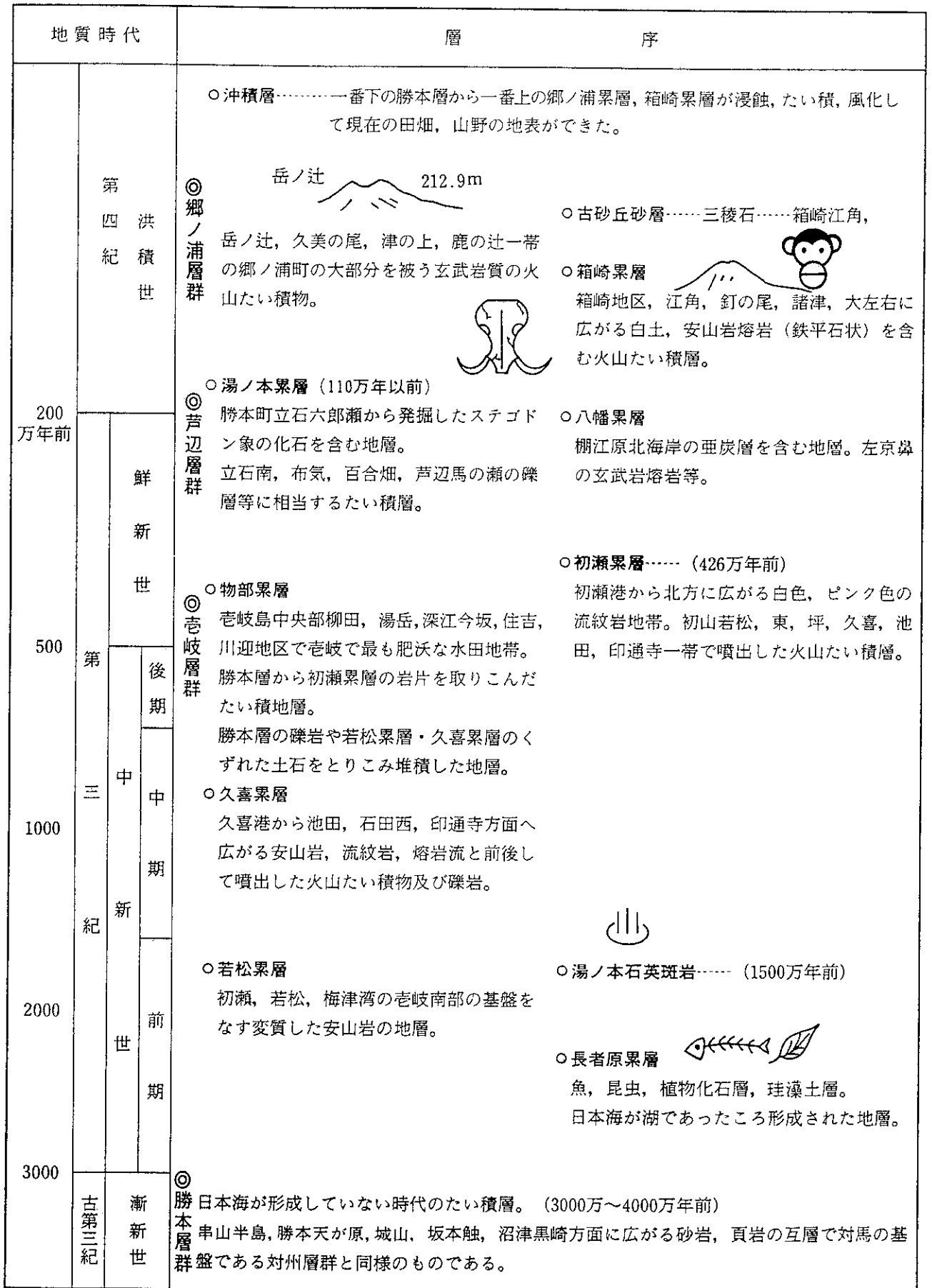
図29 壱岐島地質略図



41) 壱岐支庁：昭和63年度壱岐島勢要覧 壱岐，10～11p，（1988年）

25) 前出，長崎県自然保護協会：美しい自然とのふれあい（西海国立公園五島列島地区，壱岐対馬国立公園），52～53p，（1991年）

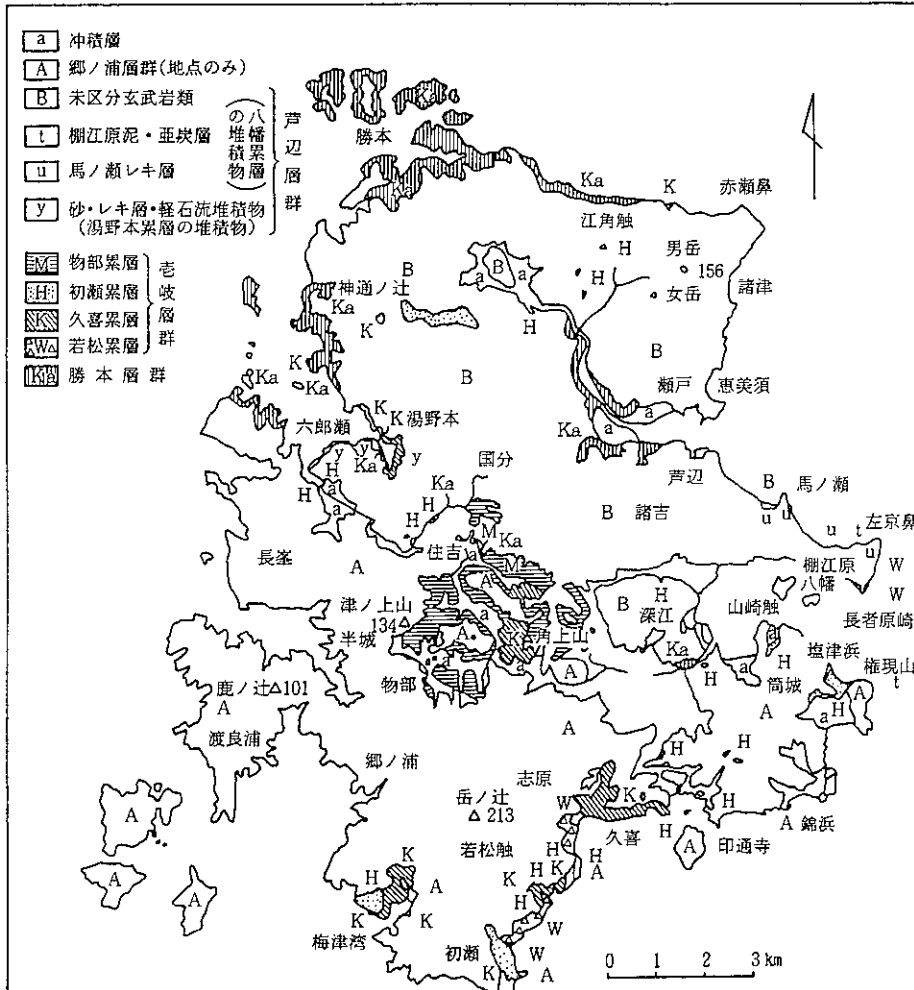
図30 老岐の土地形成の過程（代表的な地層のたい積順序）⁴¹⁾



勝本町の地質と温泉の起源¹⁾

勝本町の地質は第三紀（漸新世（約3500万年前）～中新世（約2500万年前））の勝本層を基盤として、その上に安山岩質ないし玄武岩質溶岩類の火山岩が広く覆いかぶさっている。

図31 壱岐島の地質¹⁾



1. 勝本層

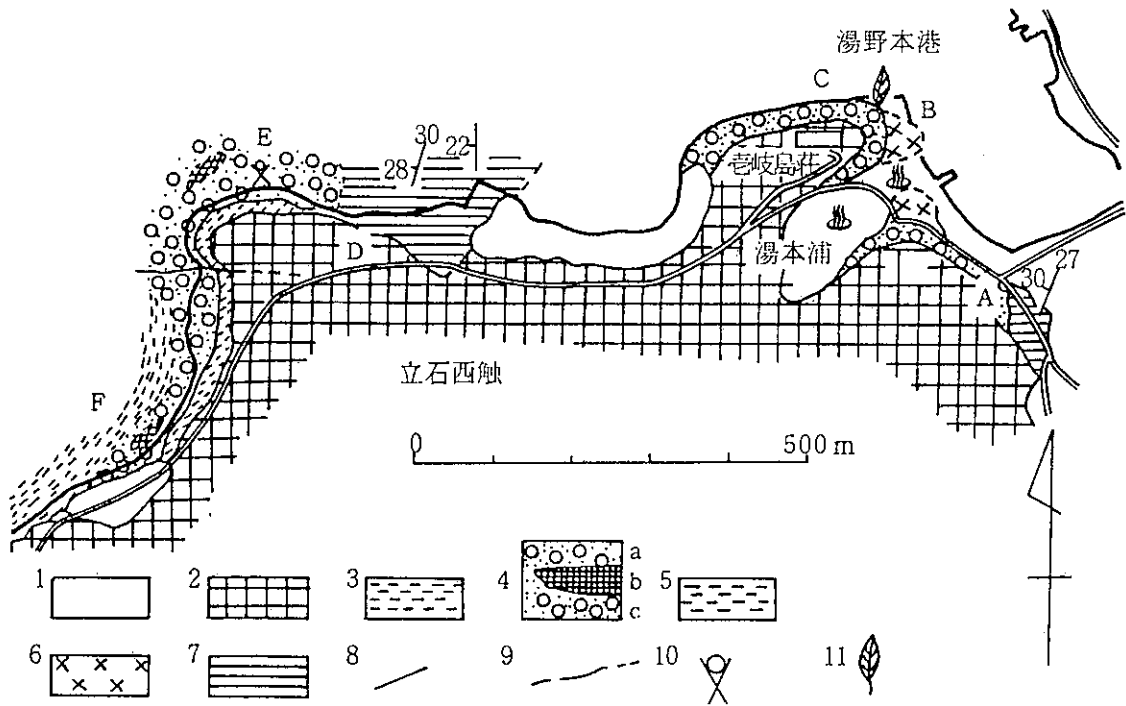
勝本層は壱岐島の基盤をなす層で、砂岩・頁岩及びその互層から成る。黒崎～筒城を結ぶ北西～南東線に推定される「南落ちの断層」（松井，1958年）以北に分布する。本町では勝本港周辺・名鳥島・若宮島・辰ノ島・北部海岸一帯・湯ノ本港沿岸に多く露出しており、美しい海岸線を形成したり、険しい海食崖となっている。また、本層は芦辺町箱崎の北部海岸・和合の浜・谷江川下流・当田・松崎・住吉東・深江・郷ノ浦町黒崎半島にも分布する。

この勝本層からは保存のあまり良くないウニ・貝・植物等の化石を産し、ソールマークがみられる海成層である。城山公園（県指定天然記念物）入口や天か原では横臥摺曲地層の一部が観察されるが、規模も小さく、崩れ易いので保存が難しい。層の厚さはおおよそ1,000mで層相と古流系から対州層群に対比されている（長浜・1967年）。

本層は勝本町湯ノ本において、石英斑岩（1,500万年前，西島ほか，1972年）により貫かれており、この石英斑岩が壱岐唯一の温泉である湯ノ本温泉の熱源となっている。温泉は湯ノ本湾の東西両面から湧出し、臭素を含む食塩泉である。温度は平均69℃，1日の湧出量は約400m³である。

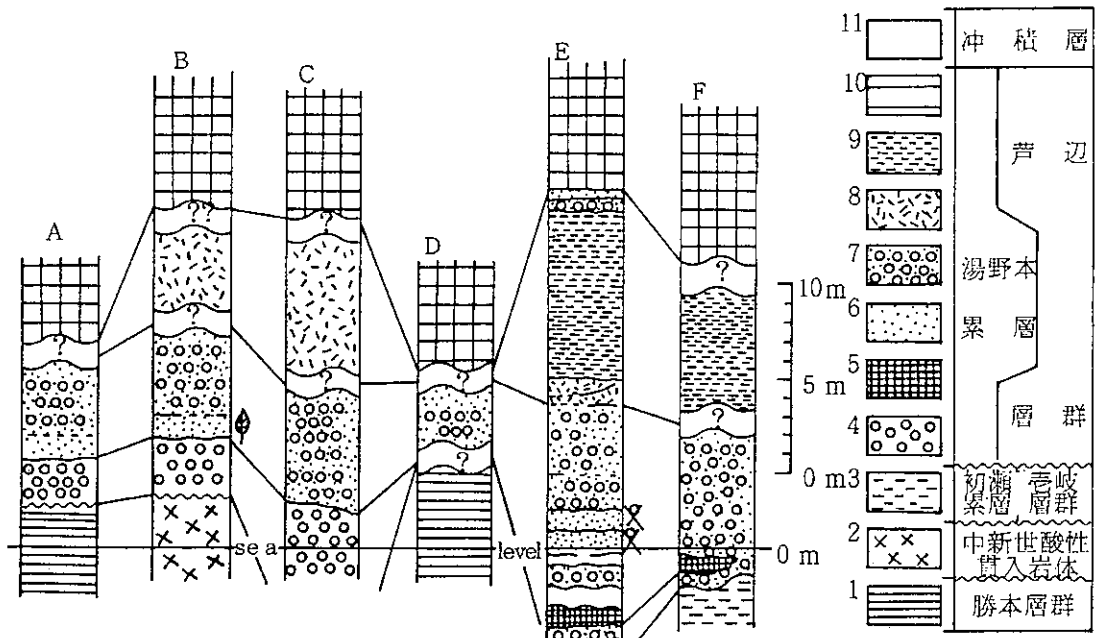
1) 前出，勝本町史（上巻），7p～13p，地質

図32 湯ノ本温泉付近の地質¹⁾ (立石西触~湯ノ本)



- 1 沖積層ならびに崖錐堆積物, 2 未区分上部玄武岩類, 3 湯ノ本累層中の軽石流堆積物,
 4 湯野本累層 (a 含化石層, b 未区分下部玄武岩類, c 礫岩), 5 初瀬累層中の火砕流堆積物,
 6 石英斑岩, 7 勝本層, 8 走向・傾斜, 9 断層, 10 象化石産地, 11 植物化石産地
 A 湯野本郵便局, B 老岐島荘東部海岸, C 老岐島荘北部海岸, D 立石西触北部海岸, E 象化石産地, F 立石西触西部海岸。

図33 湯ノ本温泉付近の地質柱状図¹⁾ (立石西触~湯ノ本)



- 1 勝本層, 2 石英斑岩, 3 初瀬累層中の火砕流堆積物, 4 基底礫岩, 5 未区分下部玄武岩類, 6 泥岩~砂岩,
 7 礫岩, 8 凝灰岩, 9 湯ノ本累層中の軽石流堆積物, 10 未区分上部玄武岩類, 11 沖積層および崖錐堆積物。
 本柱状図のA B C D E Fの各地点は図3に示してある。また柱状図の中の?は、沖積層および崖錐堆積物、藪などにおおわれて直接
 の関係が観察できない部分。

2. 芦辺層群

芦辺層群は壱岐島全域を覆うアルカリかんらん石玄武岩類である。第四系の玄武岩類は殆んどこれに相当する。湯ノ本付近の堆積物と玄武岩溶岩類をまとめて「湯ノ本累層」と称し、八幡付近の二層の堆積物と三層以上の玄武岩類をまとめて「八幡累層」と呼ぶ（壱岐団研，1973年）。

(1) 湯ノ本累層とステゴドン象化石

湯ノ本累層は湯ノ本西方海岸の六郎瀬鼻付近の小範囲に分布する。火山角礫岩・砂・礫・シルト・薄い玄武岩溶岩・軽石質火山灰から成り、この上に軽石流堆積物が載っている。1971年（昭和46年）1月、この層の海食崖に露出する厚さ約2mの礫質砂岩層から、鮮新世中期のステゴドン（旧象）の化石が田島俊彦教諭により発見された。門歯・臼歯をはじめ2頭分と推定される多数の骨化石が発掘され、化石、発掘場所とも県の天然記念物に1977年（昭和52年）に指定され、化石は郷ノ浦町壱岐郷土館に収蔵されている。

(2) 火山岩類

勝本層の上には下部溶岩類が載っているが、神岳の北麓の谷から神通ノ辻にかけて、白色の流紋岩がこの溶岩中に貫入し地窓状に露出している。また、勝本ダム周辺にも白い崖を見ることができる。神通ノ辻の南側では、礫・粘土・シルト層が見られ、時には勝本層・流紋岩の砂岩・頁岩の礫を含む。この礫層は継続して本宮西触の海岸に達し、更に谷江にも相当層があることから、「谷江・本宮層」と呼ぶ。ステゴドン象化石を産する層もこの層に相当する。

上部の玄武岩溶岩類は下部より、かんらん石普通輝石玄武岩・石英玄武岩であり、これによって広く覆われている（松井，1958年）。これらの火山岩類については、現在、壱岐島地学研究グループによって詳しい研究が進められている。

ステゴドン象の化石発見⁴²⁾

1971年（昭和46年）1月6日 田島俊彦教諭が勝本町の湯ノ本温泉西の立石西触北海岸を歩いている時に海岸近くまで迫った崖の下部に奇妙なものが顔をのぞかせているのに気付いた。その周囲を掘くずしてみると色こそ地層と同じ様な茶褐色であったが形は正に動物の化石であった。注意して付近を観察すると点々と骨らしいものがあった。

さっそく長崎大学教養学部地学教室松本征夫教授、高橋清教授らに急報し、地元の応援を得て1月9日仮発掘した。田島教諭が最初発見したのは象の肋骨であることが分った。更に臼歯、牙などを発掘し、本格的発掘は総合調査に待つことになった。

壱岐島から象の化石が出たことは島が大陸と地続であった証拠であり、調査団に古生物に詳しい亀井京都大学教授を迎えた。発掘は1月26日から3日間行われた。この結果、新たに肋骨数片の他脊椎骨、下顎骨、それと前に発見されたのと一対のものと思われるもう一本の牙など、合計約30点が採取された。

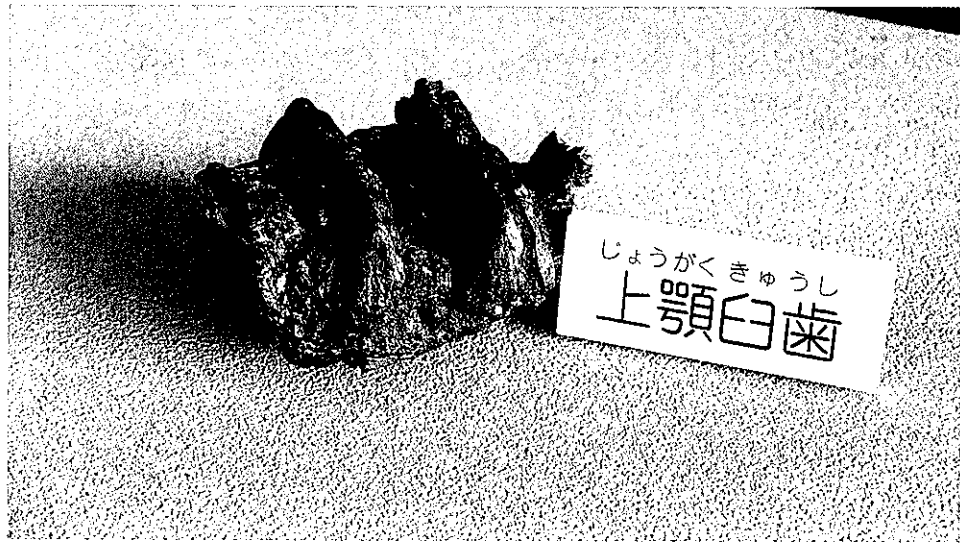
これらの象化石の大部分は崖の下部に堆積する砂泥層の中に埋もれており、一本の牙だけが、やゝ離れた所の砂泥層の上に重なる礫層中から発見された。

亀井教授が象の臼歯を鑑定したところ地質時代で第三紀鮮新世の中頃（500万年前）、中国大陸に棲んでいたステゴドン・ユーシェンシスに近縁のもの分った。臼歯の黒く盛り上った稜板の数が少ない、間隔も離れているのが特徴である。ユーシェンシスとは中国北部の河北省にある榆社（ユーシェン）という所で発掘されたので地名をとって名付けられたものである。ステゴドン象は現在の象の祖先型とされ、アジア大陸に広く棲んでいたのがアジアの象ともいわれている。アメリカ大陸ではマストドン象が繁栄していた。

このステゴドン象は繁栄しただけに種類も多く、我国でも既に明石、滋賀、東洋象などの化石が発見されているが、この象はそれより古いものとなる。

42) 読売新聞，昭和46年4月10日付，島の科学主宰・林徳衛 蔵

写真59 ステゴドン象の化石（沓岐郷土館蔵）



牙の長さは約1.2m。写真は1本の牙を2列に納めているところ。

1985年（昭和60年）に発行された勝本町史には次の如くまとめてある。

沓岐のステゴドン象化石産出地（天然記念物）¹⁾

所在地 勝本町立石西触字大柳419番地

土地所有者 高田正之ほか9名

管理責任者 勝本町

産出年月日 昭和46年1月6日

指 定 昭和52年7月29日

ステゴドン象の化石産出地は、立石西触の通称「六郎瀬鼻」と呼ばれる海岸にある。化石を含む層（湯野本層、新第三紀の鮮新世）は約10mの海食崖に露出し、化石は海食崖の下部（約2mの礫質砂岩の地層）から産出された。象化石含有層の中部と上部には炭酸質物を含む泥岩があり、この地層は海岸線にそって約30mにわたって露出している。化石含有象含有層の上部は下から2mの玄武岩の礫岩1.5mの凝灰岩、4mの白色軽石凝灰岩があり、その上は柱状節理の発達した玄武岩の厚い溶岩流に覆われている。

ステゴドン象は、鮮新世、洪積世（1,200万年～200万年前）に東南アジア、中国、日本、及び中近東にかけてのみ分布していた大型化石象である。屋根型の低い稜をもつ臼歯を特徴としており、ステゴドンという名は「屋根型の歯をもつもの」という意味がある。日本でもアケボノ象（長野県）、エレファントイデス象（三重県）、アカシ象（兵庫県）、

東洋象（滋賀県と有明海々底）などで同種の化石が産出されている。

壱岐産出のステゴドン象は、前記の日本産のステゴドン象とは歯冠の高低や稜の頻度、形、エナメル質の厚さなどが異なり、中国北部の榆社統（鮮新地中期、約500万年前）から産出された *stegodon yūshensis* Young に類似する点が多いことから *Stegodon yūshensis* sp. (cf. *yūshensis*) として扱われている。なお、門歯（牙）の大きさの違いから産出した壱岐のステゴドン象は2頭以上と考えられている。

当地よりのステゴドン象化石の産出は現在の日本列島がアジア大陸と陸つづきであったことを証明する。出土化石は20点で、その内訳は、上顎左大臼歯1、門歯（牙）7（2頭分）、右第3中指骨1、右第2または第3中足骨1、肋骨2（破片）、大腿骨4、大腿骨頭1、尾椎骨1、脊椎骨1、同棘状突起してあった。

官公署，事業所等

[Public and Business Offices]

鯨伏村役場¹⁾

- 1880年（明治13年）戸長区域改正の際、立石村と本宮村にそれぞれ戸長を置き、戸長役場は立石村に設置された。
- 1889年（明治22年）市町村制実施により立石村と本宮村は合併し鯨伏村と改称された。村役場は上場触940番地（下條仙三郎宅）に置かれた。
- 1899年（明治32年）4月 鯨伏村役場は布気触823番地の2に新築移転した。
- 1955年（昭和30年）2月11日、町村合併により勝本町と鯨伏村は合併し勝本町となった。従来の鯨伏村役場は勝本町湯ノ本支所となった。
- 1978年（昭和53年）4月1日、布気触818番地の10に湯本公民館を新築し、この中に湯本支所、湯本診療所を設けた。

湯本郵便局

設置経過

- 1901年（明治34年）3月20日、湯ノ本郵便受取所として開局。
- 1905年（明治38年）4月1日、3等郵便局となる。
- 1909年（明治42年）3月21日、郵便集配開始。
- 1911年（明治44年）2月21日、電信業務開始。
- 1916年（大正5年）10月1日、簡易保険業務開始。
- 1921年（大正10年）4月1日、電話通事事務開始。
- 1926年（大正15年）10月1日、郵便年金業務開始。
- 1934年（昭和9年）3月1日、電話交換各業務開始。
- 1937年（昭和12年）官制改正により特定郵便局となる。
- 1962年（昭和37年）2月15日、国営により局舎新築（湯ノ本浦1番地）。木造平屋建セメント瓦葺、44.65坪、261.5万円、附属舎・木造平屋建大波スレート葺、5.59坪、23.5万円。

郵便料金の変遷

	明治4年	6年	32年	昭和6年	20年	26年	41年	56年	平成5年
葉書	—	半銭	1.5銭	1.5銭	5銭	5円	7円	40円	50円
封書	百文	1銭	3銭	3銭	10銭	10円	15円	60円	80円

鯨伏警察官駐在所¹⁾

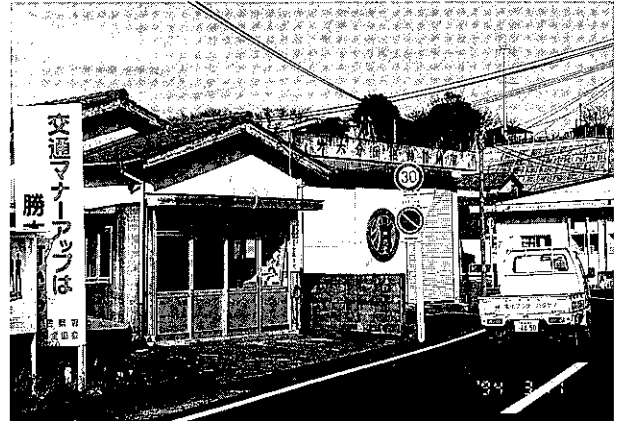
設置経過

- 1885年（明治18年）頃、鯨伏村湯野本浦温泉地駐在所が設置された。以後、1930年（昭和5年）までの41年間、民家を借受け利用していた。同年9月に元農協煙草収納場（現在の温泉センター）に建設起工、11月に竣工、工費1,400円（内村費300円、残額は村内一般有志寄附）
- 1951年（昭和26年）6月、布気触966番地（現在の木落バス停近く）に庁舎移転、敷地30坪（民有地）、建坪19.5坪（官有）。1970年（昭和45年）7月24日、沼津警察官駐在所廃止により管轄区域となる。
- 1972年（昭和47年）12月25日、現在地に駐在所を新築し移転した。湯本浦19番地の1。建坪59.62㎡、工費198万6,600円

写真60 湯本郵便局と旧道



写真61 鯨伏駐在所



(壱岐保健所 磯田親男撮影)

公立壱岐老人ホーム¹⁾

設置者 壱岐広域圏町村組合

施設の種類 養護老人ホーム

所在地 勝本町本宮南触399番地

創業認可年月日 昭和38年4月1日

納骨堂経営認可年月日 昭和44年3月25日

沿革

昭和26年 勝本町では生活保護法による養護施設々置の認可を受け、木造平屋建107坪、定員30名の施設を勝本町仲触1989番地に建設、翌年6月1日より勝本町養老院の名称で事業を開始した。

昭和37年12月 収容者が常時超過の状態であったので、壱岐郡町村組合営として新設することになり現在地に敷地768坪を勝本町が特別負担して、鉄筋ブロック平屋建225坪を建設した。

昭和38年4月1日 勝本町養老院を廃止し、公立壱岐老人ホームの名称とし旧養老院の在籍者33名を移し事業を開始した。同年6月1日、新設工事完了に伴い定員50名の施設として事業を開始した。

昭和40年4月 収容者が激増し、且つ郡内に措置を要する者が多くなったので増設拡張を計画し、隣接地441坪を購入、鉄筋ブロック平屋建135坪、30名収容の施設を増設、同年12月完成した。

昭和41年1月1日 定員80名の施設として許可を受け事業開始した。

昭和44年3月25日 県知事より納骨堂経営を許可された。

施設の概要

敷地面積 3,221.3㎡、建物 1,386.5㎡(倉庫、機械室別棟)、構造 鉄筋コンクリートブロック一部2階平屋建

職員数 13名、他に嘱託員7名 浴室 3槽3室、自家温泉、泉温58℃

公立壱岐特別養護老人ホーム・寿楽園

設置者 壱岐広域圏町村組合

所在地 勝本町本宮南触298番地

創業認可年月日 昭和46年6月1日

設置目的 老人福祉法に基づき身体的、または精神的な障害のために寝たきりになっている老人や日常生活(食事、入

浴，用便など）の大半を人の助けに頼らなければ
ならない老人で，自宅では適切な介護を受けられ
ない方々が，安らかな老後を過すのに利用し生活
するための施設である。

沿革

昭和46年6月1日 壱岐郡町村組合立として定員50名による
設置認可を得て事業開始した。

総工費 5,939.4万円

昭和50年5月1日 増築により定員80名となる。

総工費 8,028.6万円

施設の概要

敷地面積 6,361㎡，建物 1,684㎡，鉄筋コンクリート平
屋建（全館冷暖房）。

定員 80名

職員数 24名，他に嘱託員7名

浴室 1室，自家温泉，泉温58℃

公立「壱岐デイサービスセンター」

壱岐島内の4町（勝本，芦辺，石田，郷ノ浦町）による
壱岐広域圏町村組合では，高齢化社会を迎えた今日，老人
福祉施設が不足している壱岐郡の状況の中で老人ホーム等
に入所できない人や住民の要望に対応する為「デイサー
ビスセンターを勝本町本宮南触の公立「壱岐老人ホーム」
隣に1990年（平成2年）4月設置した。

総事業費 6,982.3万円

写真64 老人ホームの源泉

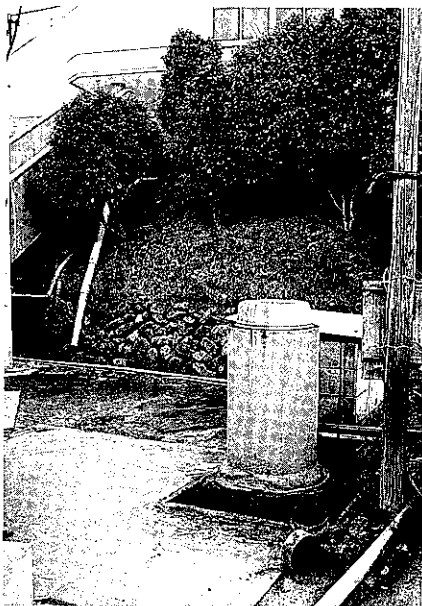


写真62 公立壱岐老人ホーム

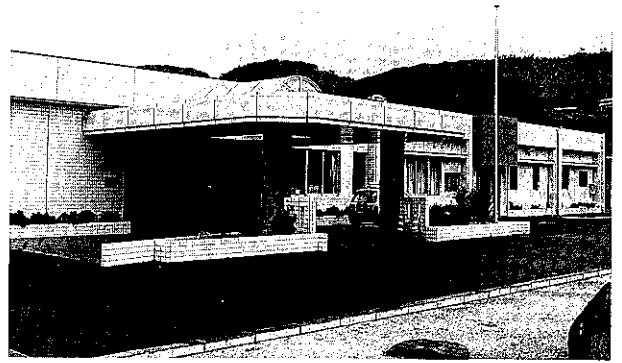


写真63 特別養護老人ホーム・寿楽園

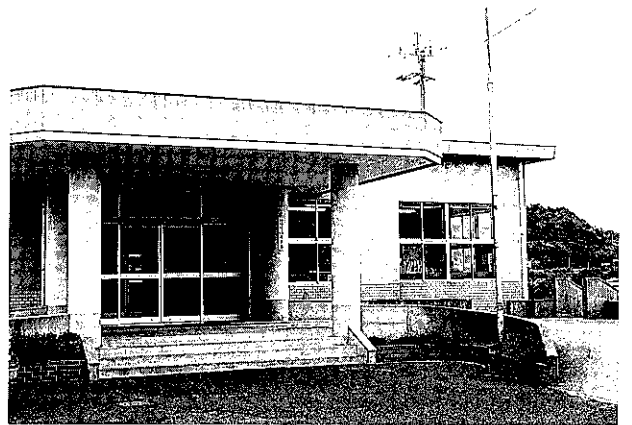
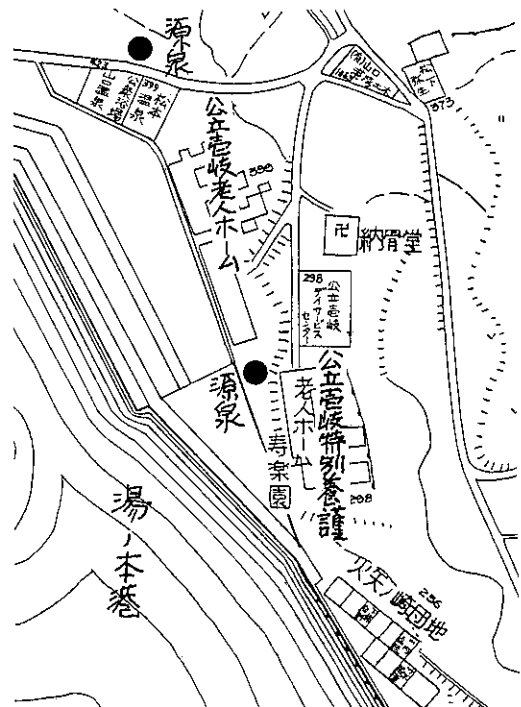


図34 山口温泉と壱岐老人ホームの源泉位置

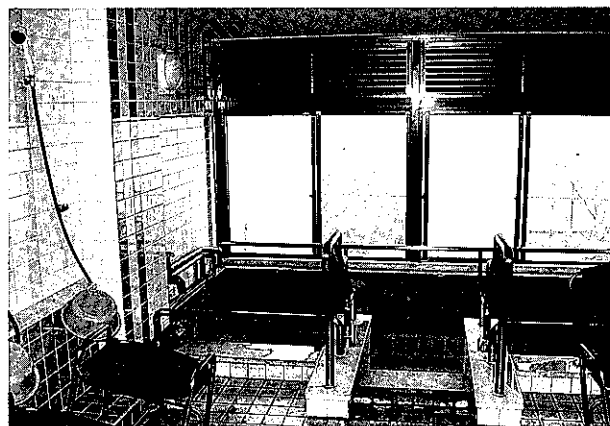


国庫補助 2,400万円, 起債 2,620万円, 一般財源 662万円

県支出金 1,233.4万円

建 物 376.55㎡ (114.1坪)

写真65 壱岐デイサービスセンター



勝本町漁業協同組合^{イサフシ}鯨伏支所¹⁾

沿 革

1908年(明治41年)従来、鯨伏の漁業は沿岸漁民の自給自足程度であったが、湯ノ本と湯ノ浦に網漁業が行われて地域の住民が集団で漁業に従事することもあった。この年に県の示達に基づいて原周藏が发起人となり鯨伏村漁業組合を結成し専用漁業権を申請し認可された。

1944年(昭和19年)太平洋戦争中、同組合は鯨伏村漁業会と改組された。

1949年(昭和24年)鯨伏村漁業協同組合と改組された。この時から隣の沼津村漁業協同組合と漁業権の全面入会協定を結んだ。

1955年(昭和30年)鯨伏村と勝本町の合併に伴い鯨伏村漁業協同組合から鯨伏漁業協同組合と改称した。

昭和30年代に入ると全国的に沿岸から沖合にかけての資源の減少により沿岸漁業は不振となり、経済団体である漁協を強化する為に合併が進められた。壱岐郡に於ても12組合を5組合に合併する方針が出された。勝本と鯨伏の両漁業協同組合は昭和33年から合併を勧奨されていた。昭和37年に両組合役員により合併委員会をつくり同年10月8日に合併調印となった。

1963年(昭和38年)1月、鯨伏漁業協同組合は勝本町漁業協同組合と合併し、勝本漁業協同組合鯨伏支所となった。鯨伏支所の正組合員108名、準組合員10名

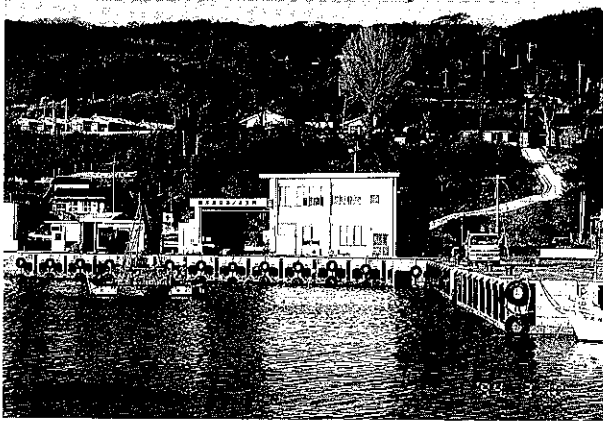
1964年(昭和39年)湯ノ浦を埋立て荷捌所、事務所を建設、昭和40年12月完成

1966年(昭和41年)石油タンク(20kl)1基を建設。

1992年(平成4年)4月、2階建のコンクリート建鯨伏支所が完成した。建築費約8,000万円

1994年(平成6年)4月、町保養温泉センターそばに「お魚センター」完成。漁協直売店として活魚、加工品等の販売を始めた。正組合員64人、準組合員131人、イカ釣船5隻、1本釣20隻、採海草40隻、出荷は大阪・東京相場により動く、小型定置あみ2組を25人で出資して設けた。観光用として活用を考えている。

写真66 勝本町漁協鯨伏支所



湯ノ本おさかなセンター

伊サフシ 沓岐郡農業協同組合鯨伏支所⁴³⁾

沿革

1922年（大正12年）9月，産業組合法に基づき鯨伏村信用購買販賣利用組合設立。

1938年（昭和13年）更生医院開設。木造平屋建83坪，昭和12年6月8日建築，総経費8,374円。

1944年（昭和19年）4月，農業団体法に依り鯨伏村農業会設立。

1948年（昭和23年）4月，鯨伏村農業会解散。8月農業協同組合法が制定され鯨伏村農業協同組合設立。

1. 事務所 木造2階建5.5坪，昭和11年8月12日建築，総経費2,600円53銭。
2. 農業倉庫 木造平屋建75坪，昭和10年12月建築，総経費6,300円63銭
3. 農産物加工場 木造平屋建，昭和12年6月8日建築，総経費1,584円。昭和19年焼失したが，翌20年再建，30坪，総経費9,795円。
4. 共同集荷場（肥料倉庫） 木造平屋建28坪，昭和12年6月8日建築，総経費1,500円

1961年（昭和36年）農協合併について県知事から勧告。

1963年（昭和38年）沓岐郡農協組合員代表者大会で沓岐郡内を一体とした農協合併構想がまとまった。

1964年（昭和39年）沓岐郡内の12農協を合併する合併促進協議会が結成された。

1965年（昭和40年）1月20日，郡内の各農協は一斉に合併の為の臨時総会を開き合併を決議した。3月31日，郡内の12農協は解散し鯨伏農業協同組合も解散となった。4月1日に沓岐農業協同組合が誕生した。4月1日，沓岐郡農業組合鯨伏支所となった。8月，鯨伏支所事務所竣工（勝本町布気触967番地），鉄筋コンクリート2階建，345㎡，事業費927万円。購買資材倉庫竣工，65.3㎡，事業費58.1万円

なお，3月に組合所有の更生医院は勝本町に売却され勝本町営診療所となった。

1982年（昭和57年）事業成績 貸出金8億2,958万円，貯金高15億9,514万円，購買品売上高1億7,916万円，販売品売上高3億6,048万円。

1984年（昭和59年）11月 飼料倉庫新築

1985年（昭和60年）事業成績 貸出金7億950万円，貯金高18億7,722万円，販売品売上高3億280万円，購買品売上高1億7,722万円

1990年（平成2年）事業成績 貸付金5億5,266万円，貯金高21億796万円，購買品売上高2億1,368万円，販売品売上高3億8,725万円

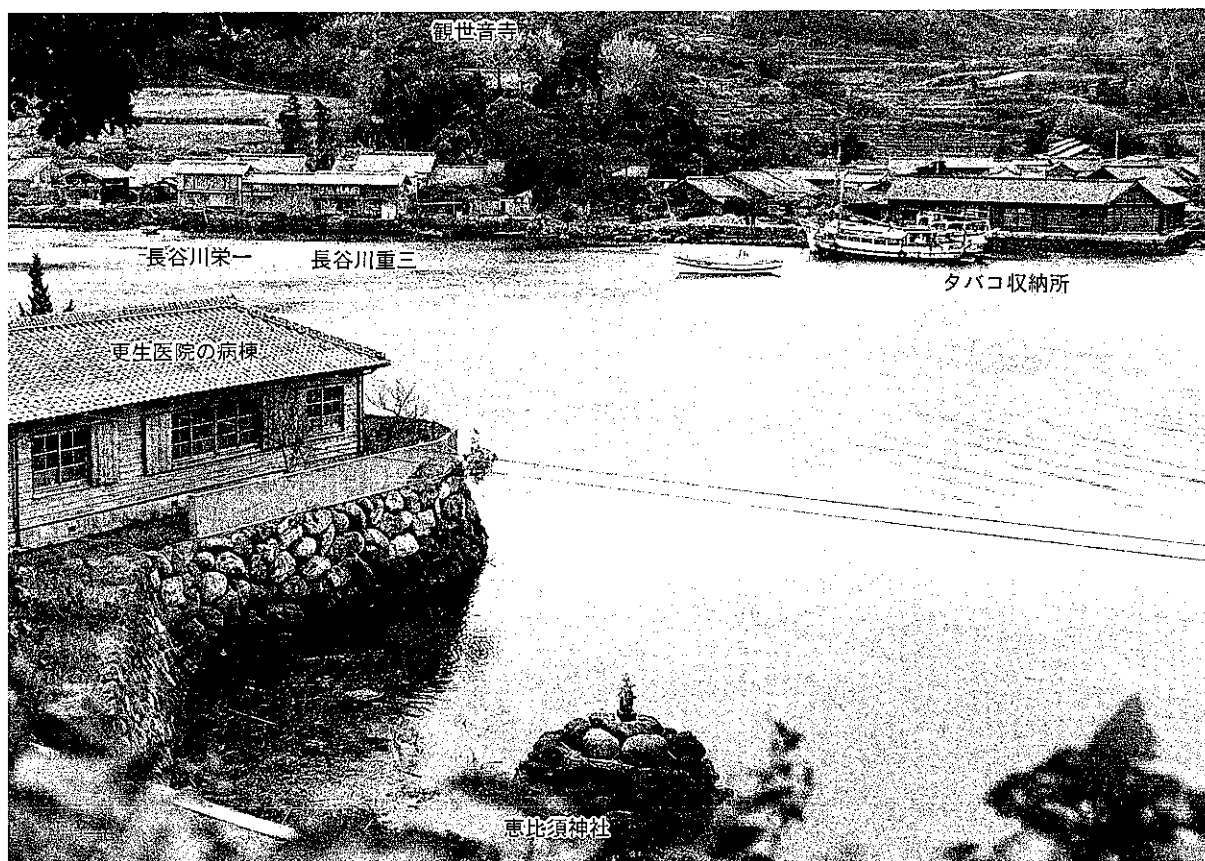
43) 勝本町：勝本町史下巻，全802p，1985年（昭和60年）

1991年（平成3年）9月 簡易給油所を本格的な給油所として開設した。JA鯨伏スタンド。

写真67 沓岐郡農業協同組合鯨伏支所と木落バス停^{キオトシ}



鯨伏産業組合（鯨伏農業協同組合）の更生医院（昭和30年頃）



（原延一撮影）

湯ノ本温泉周辺の神社佛閣

[Shrine and Temple in and around Yunomoto Spa]

熊野神社

勝本町史（下巻）⁴³には次の如くある。

旧称 熊野権現 熊野神宮 位置 勝本町立石南舩584番地

祭神 イザナミノミコト伊弉册尊、スサノヲノミコト素戔嗚尊、フツサカノヲノミコト事解男命、ハヤタマノミコト速玉男命

相殿 アマテラスオホミカミ天照大神、クニノトコタチノミコト国常立尊、マサカミ正哉吾勝々、アキノオンシノミコト速日天忍穗耳尊、アマツヒコヒコホノニ天津彦々火瓊々杵尊、ヒコキホ彦火々出見尊、カグツチノミコト軻遇突知命、ハニヤマヒメノミコト埴山姫命、ミヅハノメノカミ岡家女神、ワカスビノカミ稚産霊神、スサノヲノカミ進雄神

祭日 10月29日（旧藩時代は九月二九日）

現宮司 吉野六男（1917年・大正6年生まれ、主務社は水神社）

『壹岐国神名記（延宝七年・1679年）に「熊野権現宮、小、改める以前は式内」。『壹岐国神社帳（元禄五年・1692年）に「峰、熊野権現、本社、古来勧請年数知らず、宝殿あり、神主堤主水」。『壹岐国神社考（安永元年・1772年）に「立石村の海辺に温泉あり、よって昔の代には地名をアタミといへり。今は湯野本といふ。伊豆国にも熱海という温泉あり、すなわち村の宗廟熊野権現は温泉に近ければ湯屋権現にして、紀州熊野の湯の如し之を以て熊野権現は式内の阿多弥神社なるべし。』寛政十一年巳未改壹岐国中人別帳（1799年）に「社領高壹石、熊野権現、立石村、祠宮十八神道、松永丹宮、年四十七才」。

『壹岐国惣図打添』（弘化二年・1845年）に「同（立石）村、宗社、熊野権現、國中五十座之内、祭日九月廿九日、祭神 伊弉册尊、事解男命、速玉男命、勧請年月知ず、神宝靈劍一振、元禄九年（1696年）以来社領一石、毎年祭日御代拝御社参」。

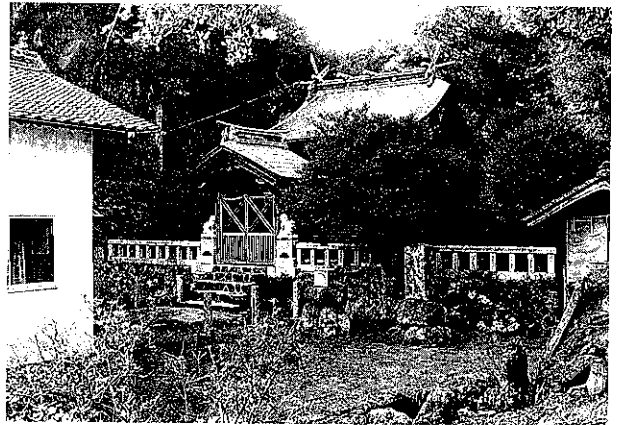
『壹岐名勝図誌』（文久元年・1861年）に壹岐国統風土記からの引用として、当社は紀州熊野大神と同体で天神七代の神であるとし、古老の説として、昔、熊野大神が垂水に御着船になり、まず浜石（権現石とか腰掛石と呼ばれていた）に腰をお掛になり、そこから今の社地に向われたと云う。また、一説では、紀伊国熊野山より熊野権現が鯨伏郷の足海にお着になった時、本宮和泉守橘貞兼がお祭りしたと云う。一説では、橘貞兼が高麗出陣の折、戦勝を熊野に祈り無事帰朝のち熊野より勧請して立石村の宗社としたと云う。一説には布城の主が勧請したとも云い。また、上川に住んでいた立石氏の勧請とも云う。（明治三年・1870年）

『壹岐嶋式社沿革考』（明治三年・1870年）に「立石村宗社熊野権現は海浜の温泉に近きをもって、温泉の温かなる泉の意による阿多弥の義なるべく熊野神社は式の阿多弥神社なるべし」。

『壹岐神社明細帖』（明治8年・1875年）に「長崎県第三大区三之小区壹岐国壹岐郡立石村鎮座、熊野神社、旧平戸藩代殊更被為崇敬壹岐国十八社之内之其一社之、但式外、立石村及湯之本港之内二百五十三戸氏子（中略）、但由緒勧請年月不詳、社地四反五畝十三歩半、但無税、勅願所無之、宸翰額無之、造営民費旧平戸藩ヨリ金二百十五匁寄附、旧社領玄米三斗五升三合、旧平戸藩廩米ニテ、式内阿多弥神社、撰社伊志呂神社、末社今宮神社、天満神社、恵美須神社」。『壹岐神社誌』に聖武天皇の七年（天平二年・730年）多治比広域が官命によって鎮座した。とも記録している。

以上のように鎮座には他の神社と同じように諸説があるが、平戸藩主の崇敬の厚い神社で正保四年（1647年）八月に

写真68 熊野神社



43) 勝本町史（下巻），685～733p，（1985年）

※ 相殿：祭神の後から隣に祭られた神様 ※ 神様のフリガナは吉野六男宮司による。「尊」は神代の神様に使われる。

写真69 熊野神社のお祭り（昭和初期）



前列中央に駐在さん、左上列に神官11人、中央右に国旗と米俵の積み上げ。千石荘藏

藩主松浦鎮信によって正殿の造替が行われ、また、寛文二年（1662年）十一月に同じく松浦鎮信による宝殿の再建がなされている。

寛政五年（1793年）一月には松浦清によって宝殿が再建された。当社の建物の造作ごとに平戸藩主より白銀五枚が奉納されており、例祭には彦岐域代を代参させている。

当社の神幸に、離宮を湯之崎の浜地に構え、旧暦の九月二十九日の干潮時に渡御して儀式が行われた（明治初年頃まで）と云い、当社と温泉との縁故を伝えるものであった。

神宝として、古伝の霊鈴（中広銅鈴）が伝えられ、境内には立花社、蛇神などがある。明治9年（1876年）村社に列せられ、同47年（1914年）7月に神饗幣帛料供進神社に指定された。（以上町史より）

壹岐國續風土記（1744年、延享元年）¹⁰には次の如くある。

熊野大権現

祈祭 伊弉冉尊 事解男命 速玉男命也東帯 三座長可心八寸内一座長可七寸鏡
蘇志座長可六寸五分以上五座

内殿 板葺 梁行二尺五寸 正殿 卯辰向 柿葺 梁行二間三尺五寸
葺行二間三尺三寸

廊下 同向 板葺 梁行六尺五寸 拜殿 同向 茅葺 梁行二間 御供殿 茅葺 梁行一丈五寸 祇園社 板葺 梁行一尺八寸
葺行四尺三寸五分 荒

人社 板葺 梁行二尺八寸 北山社 板葺 梁行二尺八寸五分 正八幡宮 石祠 梁行四寸九分 稻荷社 梁行三尺八寸
葺行四尺

立花社 石祠 梁行一尺二寸五分
葺行二尺二寸五分

石手水盥 一基 高三尺余 石段 六十二段 内上段六十一去拜殿二間 浮殿 梁一間横一間 浜殿 東西六間半南北二間二尺
葺行四間半 去石段四間半 去石鳥居北中軒三十二間二尺

一基 元禄二年（1689年）四月建立
高一丈一尺五寸去石階東廿九間

当社ハ紀州熊野大神御同林にして天津七代神なり古老説云く むかし熊野大神足海御着船の時浜石に御腰をかけ給ひ其より今の社地に到給ひて瑞御舎大敷立てしつまり鎮ります。今案するに苅田院新田の封疆より彦町三十間東に堅

四尺八寸七分横式尺三寸周辺老丈老尺七寸高六尺式寸の石あり 俗呼て権現石といふ

又云熊野権現紀伊国熊野山より当國鯨伏郷足海に着せ給ひし時本宮和泉守橋貞兼斎奉る

立石家譜云 本宮和泉守橋貞兼迄ハ紀州熊野本宮を領す 又云老州本宮村立石村と名付たるも和泉守下着して境を分しよってなり且目立石権現に神領を寄附置といへとも立石家亡ひし時没留せらる 又権現の神主は立石兵部老州三分一領主の時記ありて筑前にまいる 又云立石兵部大輔ハ甚内親圖書と伯父姪のよし いつれ伯父か兵部大輔ハ圖書より討れり 今平戸老州の立石其苗裔也又云橋貞兼高麗征伐の時熊野にいのり当邑の惣廟とす

又云布城城主勸請とも上川の居立石氏の勸請ともいふ 今案るに布城の主の称号詳ならず若立石にやいふかし

後光明天皇正保四年(1647年)丁亥八月御殿造替あり其上棟の文云 奉再建一岐郡 鯨伏郷今上天皇玉躰安全 熊野十二所権現宮御宝殿 天下泰平国土豊樂一字之事伏者
 一字之事伏者武運長久子孫繁昌 領内安全萬事吉詳 正保四年 松浦肥前守源朝臣鎮信押字 大工辻市樂門 裏書云 神主立石刑部卿 小工以上五人 大宮司熊之助 丁亥八月吉日

後西天皇寛文二年(1662年)壬寅十一月御造替あり其上棟文云

无上靈宝 三元神道天津祝詞大祝詞事以延命息災武運長久子孫繁昌 諸殃散去幸福悉曇 寛文二壬寅 奉再建立熊野大権現御宝殿一字 大壇那松浦肥前守源朝臣鎮信花押 波羅伊玉意喜餘日出祈願感應当所安全諸人快楽 一切求望満足加守護給 陰陽復大吉祥日
 社司堤主馬 大工 藤田太郎左エ門 裏書云 左青龍權 天津社地津社 後立武神 齋藤三太左エ門 前朱雀神 石白佛神

靈元天皇寛文十一年辛酉十一月国司鎮信上古傳來の靈劍を修葺す其内箱の蓋のうらに金泥の文字あり寛文十一年十一月十五日 老岐国老岐郡立石村熊野神社之靈劍者 依為上古傳來之宝物修復之畢 神官等慎勿怠矣 從五位下松浦肥前守源鎮信 延宝五年(1677年)丁巳御殿葺替 祠官主馬

東山天皇元禄二年(1689年)己巳五月朔日石鳥居造立鳥居あり 其柱の銘云 時清国治無為武運自長久道泰人安納税家門 浦水昌于時元禄二己巳天四月吉日 祠官神坂主水願主産子中敬白

宮帳云 当社石鳥居建立之事鳥居あり 但當山の杉老本代銀百五十目拂ひ其銀を以て元禄二己巳年五月朔日老丈老尺五寸の鳥居を立屹 祠官神坂主水代庄屋塚本太左エ門石工平戸太左エ門小工二人

三年庚午九月廿八日立石村湯本浦産子中神輿を建立 祠官神坂主水 代村甲塚本太左エ門

八年(1695年)乙亥二月三日御殿葺替はしまり四月十二日成 祠官神坂主水 土口日高左平次 率領布氣数右エ門 長山園右エ門 堤平左エ門 品川彌兵衛 護持立石村布氣村住吉村長嶺村湯之本浦湯野浦産子中

九年丙子九月廿八日 国司鈴二口寄進

十年丁丑三月 湯本より杉五百五拾本

十一年戊寅三月 武生水城代 長村三左エ門杉百本寄進

十二年辛卯二月 祠官神坂主水杉二百十本寄進

十四年(1701年)辛巳四月五日 石階造立其碑銘云 奉寄進石階願主日高三郎左エ門布屋清右エ門産子中 石工白石本左エ門 小工式人 祠官神坂主水敬白

宝永元年(1704年)甲申四月十日 御供殿再興 大工豊増安兵衛 祠官神坂主水 七月七日矢大神ニ軀貊ニ疋彩色其矢大神の銘云 于時文明九月(1477年)丁酉吉日 願主同作者頼兼花押

中御門天皇享保二年(1717年)丁酉七月十七日より御殿葺替はしまり八月廿八日成 祠官神坂式部 首民坂口三右エ門 大工豊増甚右エ門 蓋屋匠堤権兵衛

熊野権現攝社

祇園社 在熊野山 所祭 素盞鳴尊 御宇形木長可 小祠 板葺 梁行一八八寸桁行四尺三寸五分 当社ハ立石神社帳に本社去本社式册の社地に ます祇園宮古来にて勸請年数しれす小社あり祭なし正保四丁亥年再建としるせり

北山権現 在同所 所祭 天照太神也 小祠 板葺 去本社之正殿

※ 時に中国の清朝は特別に為すこともなく国が治まり隆盛期に当り、人倫の道が良く守られ人の心を泰め、納税は安く家々は水が涌き出づる様に榮えつゝあるこの当元禄二年……。 (瑞穂町教育委員 高木繁幸)

荒人社 在同所 所祭大己貴神也オホナムチノカミ（大国主命の別名）石躰長七寸 小祠板葺 葺葺ツツミ 当社ハ立石神社帳に同所荒人神右に同じとしるせり關説のこと

正八幡 在同所 所祭 誉田別天皇也 石祠 葺葺ツツミ四寸九分葺葺五寸去 本社四五間

稻荷社 在同所 所祭 倉稻魂也 小祠 葺葺ツツミ三寸八分葺葺四尺

立花社 在同所 所祭 天照太神、一本知海靈神、立花市賣靈神、宗原靈大神、金宝靈神、道寿靈神、小祇靈神也、
石祠 葺葺ツツミ一尺葺葺一尺二寸五分 去本社二間四尺 当社ハ延宝四年丙辰十月十三日橋三喜勸請木鏡ノ銘日 宗原靈宗原靈 一本知海靈一本知海靈 道寿靈道寿靈
母方祖父母

裏書云 妙 伊賀女寛永十八年辛巳八月三日 六十六歳死去 道 吉原三郎兵衛寛永十四年丁未七月吉日六十五歳死去 立 千代鳥三十九歳向終 慶安二年己丑九月十日

立石利部橋廣貞 行齡七十四延宝三年乙卯四月十三日 美津与志押字 金 被留女 元和六年庚申十月一日 宗 堤利兵衛信宗 元和八年壬戌三月十四日

臺銘云 奉安置 太知波奈靈社 御正躰之木鏡一面 延宝四丙辰十月十三日 宗源神道五十六傳 唯一修行者 為證庵橋三喜花押 以上六社者社地の内 神社帳（追記か、山口麻太郎）

峰 一、熊野権現本社 古來仁天勸請年數不知有 正保四丁亥年宝殿再建棟札一字鎮信公御判至元禄五壬申年四十六年 寛文二壬子年宝殿再建棟札一字鎮信公御判 熊野神社藏本ニヨリ書写 昭和十年二月十九日 山口麻太郎

沓岐名勝図誌（1861年、文久元年）¹¹⁾には次の如くある。

熊野神社 在熊野山中の産神なり。 例祭九月廿九日

祭神 伊弉册尊・事解男命・速玉男命

正殿 辰巳向 桁一丈四尺二寸五分 母屋梁八尺三寸、廂五尺七寸 三間社 柿葺、祝詞屋 桁一間 瓦葺 拜殿 桁三間 瓦葺 御炊屋 桁三間 拜殿西 廂也 瓦葺、石鳥居 至拜殿辰巳十九間半、高一丈一尺五寸 元禄一己巳年五月朔日建之

続風土記云、当社ハ紀州熊野大神同体にし、天神七代の神なり。古老人説云、むかし熊野大神垂水御着船の時、浜石に御腰をかけ給ひ、其所より今の社地に到給ひて、瑞の御舎太敷立て鎮りす。

秀正云、酒長江新田の封疆より一町三十一間東に、竪四尺八寸七分、横二尺三寸、周匝一丈一尺七寸、高六尺二寸の石あり。俗呼て権現石といふ。以上 今度此石を量るに、東西四尺五寸、南北二尺、高九寸、但水上。田の傍にあり。これを腰掛石といふ。○又云、熊野権現、紀伊国熊野山より当国鯨伏郷足海に着せ給ひし時、本宮和泉

図35 熊野神社¹¹⁾



図中の説明：末社，蛇神，御饌舎，阿弥陀，祠官とある。

11) 沓岐名勝図誌（下），1070～1071p（西曆年）は著者挿入

守橋貞兼斎奉る。立石家諸云、本宮和泉守橋貞兼まで紀州熊野本宮を領す。又云、沓州本宮村立石村と名付たるも和泉守下着して界を分しに依てなり。且立石権現に神領を寄附置といへども、立石家亡びし時没留せらる。又権現の神主ハ立石兵部大輔ハ葛内親國云、伯父孫のよしといつれ伯父が兵部大輔ハ因書より討れり。今平戸沓州の立石其苗裔なり。

又云、橋貞兼高麗征伐の時、熊野にいのり、帰朝の後、熊野より迎來りて当村の宗社とす。亦云、布城の主勧請とも、上川の居立石氏の勧請ともいふ。令接するに布城の主称号詳ならず。もし立石においふかし。○後光明天皇正保四年（1647年）亥八月、正殿造替あり。其上棟の文云、奉再建一岐郡懸伏之郷 瀬崎村熊野十二所権現宮、御宝殿一字之事、伏願者専祈大旦那松浦肥前守源朝臣鎮信押字、正保四年丁亥八月吉日、神主立石形部卿、大宮司熊之助以上。此棟札に瀬崎村とするせれハ、正保のころハ然いひけるならし。後に又古名に復せしなるへし。

後西院寛文二年（1662年）壬寅十一月、宝殿再建、国主同君、社司堤主馬。

光格天皇寛政五（1793年）癸丑正月、宝殿再建あり、国守清朝臣也。再建毎度国主より白銀五枚宛奉納せらる。

宝 物

古伝の靈鉢 一口

寛文年中、国主鎮信朝臣、武州江府に被遣之、本並（阿弥）に見せ給ひしかと、時世作者知よし、或記にのししたり。同君宮一合寄附せらる。竪二尺四寸五分、横三寸六分五厘、筥高一寸六分、中心六尺、蓋高一寸、内外共ニ黒漆塗にして金焼付の紐通しの環あり。座金同じく焼付、唐草けほりあり。

蓋裏銘云、文字金粉

寛文十一年（1671年）十一月十五日 沓岐国沓岐郡立石村熊野神社之靈劍者、依為上古伝來之宝物、修復之畢。神官等慎勿念矣。從五位下松浦肥前守源鎮信。

○柳園古器略考 この項は略す。

門守隨身二軀、狛犬二疋、隨身裏銘云、文明九年丁酉三月吉日 願主同作者橋貞兼判

山 東西一町一十四間、南北一町半 馬場 竪二十八間半 横一丈三尺五寸。浮殿 五石島居 稻荷祠 在堺内正殿北 小祠拝殿 辰巳向桁五尺四寸 梁六尺 荒人祠 在同所 石祠坤向祭神大己貴神。祇園祠 在同所。正八幡宮同上。立花祠同上石祠・木鏡あり。延宝四（1676年）丙辰十月十三日橋三喜創建なり。蛇神同所 是ハ玉子五郎家に鶏を多く飼たるに、蛇來りて玉子を呑り。惜きことに思ひて木を以て卵子のこつくしらへ置り。蛇それをいえしらて呑、顛倒すれとも木卵きへす。七日憂難儀して死たりしか、深くたゞりをなす。故に石に蛇の劍にまとへる形を彫て、能野権限の境内に安置する所なりと云。北山社 在本社下 石祠 知行一石寄附狀三通 元禄九年正月廿六日 任朝臣、享保七年四月一日 告文二通 諸社に同じ。阿弥陀堂 在境内 堂主源長寺 本尊座像、長一尺一分、脇土立像、長九寸四分。堂 貝向 一間方 瓦葺。

塩釜神社

勝本町史 下巻⁴³⁾には次の如くある。

旧称 塩釜大明社 位置 勝本町本宮南触233番地
祭神 塩土老翁 祭日 10月29日（以前9月21日）
現宮司 吉野六男

『沓岐名勝図誌』に「塩釜大明神、在湯浦波戸崎、祭神塩土老翁、例祭九月二十一日、瓦祠、境内東西十一間、南北十二間」。

『沓岐神社明細帖』に「立石村湯之本字波戸寄鎮坐、塩釜神社、但式外、無氏子、本殿小祠、祭神塩土老翁、石体、但勧請年月不詳、社地反別三畝十歩、無税（中略）、造営民費」とある。勧請年など不詳であるが、一説では下條、一族が奥州の塩釜大明神を勧請したともいう。

写真70 塩釜神社



アタミ 阿多弥神社（式内社）

勝本町史 下巻⁴³⁾には次の如くある。

旧称 事ノ坂山石神 位置 勝本町立石東触360番地
祭神 大己貴神 少彦名神 祭日 四月十九日（以前九月十九日）
現宮司 吉野六男

『壹岐国神名記』（1679年）に「立石村、阿多弥神社、小、改以前は山神と言、式外」。『壹岐国神社帳』（1692年）に「コトノサカ阿多弥神社、小神、二十四座内、定祭九月十九日、古來鎮座年数知らず。延宝四年（1676年）不鏡御正体一面、石額を献ぜらる」。

『壹岐国神社考』（1772年）に立石村の琴之坂山で石神、山神と云われていた。社殿も定例の祭典もなかったが、近くにアタミ畑という地名があり、この地名から式内の阿多弥神社とされたとある。

『壹岐国惣打添』（1845年）に「立石村、阿多弥神社、式内二十四座之内、祭日九月十九日、祠官松永石見、祭神大己貴命、少彦名命、嵯峨天皇草創、神宝木鏡一面、石祠延宝四年六月源鎮信公御奉納」。

『壹岐名勝図誌』（1861年）に当社は事の坂山石神と称して社も祭る事もなかったが、延宝四年の式社改の時、北の方には「はたみ島」という地名があることから「あたみ」とされたが、どうだろうかとある。

『壹岐神社明細帖』（1875年）に「立石村事坂鎮座、阿多弥神社、但式内、無氏子（中略）、社地七畝九歩半、無税（後略）」と記録されている。

文政八年（1825年）、祠官松永石見の時代に茅葺の上屋を造営し、大正10年（1921年）社殿境内を整備した。

壹岐國史（1982年・昭和57年）⁹⁾には次の如くある。

この阿多弥神社と熊野神社の名称について山口麻太郎は次の様に述べている。

阿多弥神社 旧号山の神、石神

「神名記」に「立石村阿多弥神社、小、改以前は山神と云、式外」。改というのは延宝四年（1676年）の調査のことである。これは平戸藩の国学者橋三喜が平素の念願であった全国の一ノ宮巡詣を果す為に壹岐対馬へ渡った。しかし式内社の荒廃は甚だしく橋三喜の調査も困難を究め、査定にも多くの誤があった。

「神社考」に立石村琴之坂山に石神として（又は山の神と云）社殿もなく定例の祭典もなかりしを、其南百余間の地にアタミ畑あり、依て此地名に因みて石神を式内社の阿多弥神社とせり。而して祭神を大己貴神、少彦名神とせるには此二神が力を合せて天下を経営し蒼生及畜産の為に療病の法を定め鳥獸昆虫の災異を掃はむがために、禁厭の法を定めしに由るものなるべし」としている。

「神社帳」に「コトノサカ阿多弥神社は小神二十四座之内、定祭九月十九日、古來鎮座年数不知。延宝四年（1676年）国主松浦鎮信公木鏡御正体一面、石額を献ぜらる。明治九年村社に列せられ、四十七年七月神饌幣帛料供進神社に指定せられる」。

延宝四年の橋三喜の査定の誤っていることは前述の通りである。「神名記」に「アタミ畑」は昔薊の群生せし所の地にして、「アザミ」が「アタミ」となれるのみ、社號に縁故なし。村の宗廟熊野権現は湯之本温泉に近き故湯屋権現なるべき理なり。阿多弥は地名を以て社號とせしものと見ゆ。峰の熊野権現はそれなるべし（中略）

文政八年（1825年）茅葺の上屋造営あり。祠官松永石見と見ゆ」とある。

阿多弥神社が湯ノ本温泉の神であったろうことは想像される。しかし、それが熊野権現となったことは例はあるにしてもユヤ（湯屋）権現からユヤ（熊野）権現に移したとは簡単に片付けるわけにはいかぬ。この熊野権現と地方豪族橋氏は事実ではあるけれども、伝説的な資料のみで史実として取上げがたい。

大正十五年（1925年）郷土史家の後藤正足は「壹岐神社誌」に社記曰として次の如く記した。

イ. 当社は紀伊熊野大神と同体なり。往昔本宮和泉守橋貞兼熊野より迎え奉りて勸請せり。

ロ. 昔熊野大神垂海に着給いしを本宮和泉守橋貞兼迎えて齋き奉る。

ハ、布代城の主之を勧請し奉るとも、亦上川の居立石氏これを勧請すとも云えり。

ニ、橋貞兼高麗征伐の勅命を承りしが、元來公卿たりしも此時武家となり、熊野大神に祈りて帰朝の後熊野より迎え奉る。

ホ、聖武天皇の七年、遣唐使多治比廣成官命に依りて御鎮座なし奉る。後年社領を武門の手に奪われ、当時十二人の神人を有せし当社の偉観は見る影もなくなれり。(この項は「壹岐國續風土記」)

たゞ「左右矢大臣の銘に文明九年(1477年)丁酉三月吉日願主同作者橋頼兼と記せり」とあるによって、この頃橋氏と熊野神社との関係があったことが分り、その為の後次第に同社の存在が顕著になったことを示している。

熊野大神は樽見に着津されたと伝えているけれども、浜殿は湯ノ本浦湯崎にあって、年々の例祭にはここに神幸された。前身が阿多弥神社であったことを示唆する。

阿多弥神社が権現として再出発される為には別当等が必要である。それが湯ノ本温泉の上方隣地に温泉山医王院として存在した。今日も小堂として残っている。本尊は薬師如来で文明三年(1471年)蘭室秀和和尚の再興と「壹岐國續風土記」は記している。

別当寺の再興が文明三年、熊野神社に狛犬が寄進されたのが文明九年(1477年)、式内社の制定からすればはるかに新しい事実であったことが分る。零細な資料ではあるが丁寧に併列してみると、或程度ありし口の姿が想像できるようである。「大宰管内志」に「阿多弥は阿曇也」とあるが問題とはなるまい。

熊野神社の所在地は勝本町立石南舩

祭神は、伊弉冉尊、素盞鳴尊、コトサカオノミコト事解男命、速玉男命、天照大神、クニノコトサチノミコト國常立尊、マサキ正哉吾勝々速日天忍穗耳尊、アマツヒコヒコ天津彦彦火瓊々杵尊、ヒコナ彦火々出見尊、カグツチ軻遇突智命、ハコヤマヒメノミコト埴山姫命、ミズハメノミコト罔象女命、ウラムスビノミコト稚彦靈命、オホヤマズメノミコト大山祇命、となっている。

ミズ 水神社(旧式内社)

勝本町史 下巻⁴⁹⁾には次の如くある。

旧称 布気天神、天満天神 位置 勝本町布気觸432番地
祭神 ハヤアキツヒノミコト速秋津日命(延宝年間以前は罔象女神) アイトノ相殿 菅贈相国(菅原道真)
祭日 11月25日(以前は8月25日)
境内社 サルタヒコノヤシロ庚申社 稻荷社 金毘羅社 若宮社 山神 岬宮
現宮司 吉野六男(主務社)

鎮座の年は不明であるが、仁寿元年(851年)正月に正六位上に叙され、以後神階を進められた。

壹岐神社明細帖に「立石村、湯之本之内百三十九戸氏子、社地、二反四畝二十二歩、無税地、造営民費」とある。壹岐名勝図誌に「当社元ハ天神と称せしを、延宝四年(1676年)の式社改の節、水木という地名に依て神名式の水神社なりとす」とあり、橋三喜は壹岐島の式内社を調査して本社を壹岐郡小社水神社とした。平戸藩主・松浦鎮信は御正体(木鏡一面)と石額を献進した。

明治9年(1876年)村社に列せられ、同43年10月、神饌

写真71 阿多弥神社



写真72 水神社拜殿



幣帛料供進神社に指定された。

延喜神名帳に「壹伎島壹伎郡水神社小社、壹岐国神名記に布気村水神社、小、改以前は天神と云う。式外」。壹岐国神社帳に「水の本、水神社、小神、二十四座之内」。神社書上帳に「布気村の産神也、祠官並に長寿院の僧一同に初祈禱相勤候事」。太宰管内誌に「神體の銘に云う奉講再興天満天神御神體之事、于時大永七年（1527年）丁亥八月日、本願主右京助同宮方主各々等、七条之末流宗久、之は相殿にます御靈形也」とあり、靈形を再興したことがわかる。

伊能忠敬の壹岐嶋図説に「水神社布気村水の本、所祭速秋津日命」。寛政十一年己未正月改壹岐国中人別帳に「水神社、布気村、祠官十八神道 吉野右近、年五十六才」。壹岐国惣図打添に布気村宗社、水神社、式内二十四座之内、祭日八月二十五日、祠官吉野右近、祭神速秋津日命、嵯峨天皇草創、神宝木鏡一面、石額一双、延宝四年六月源鎮信公御奉納」とある。

壹岐名勝圖誌¹⁰⁾には次の如くある。

水ノ神社 在水元

祭神 速秋津日命、内殿 板葺、正殿 木申向 桁式間 梁九尺 茅葺、廊下 方窓間 瓦葺、拝殿 桁三間 梁三間 茅葺、若宮 在境内、庚申祠 同
石鳥居 去拜殿地三十間、元禄二年巳八月建立、
竪七丈五寸 横九尺
境内 竪町四間 横三十四間、馬場 竪四十間
周開四町四十間半

当社元ハ天神と称せしを、延宝四年式社改の節、水本といふ地名に依て、神名式の水神社なりとす。然しより以来官社とハなれり。すへて当国式社の考、地里に違へる社ありて、既に先師たちも然りし也。里俗伝云、此神、村の末木落浜に著船し給ひて、石に御腰をかけさせ給ひ、御鬘を搔給ひ、其石前に出たり。其所より風早岡に到まして休み給ひ、此岡鬘搔瀬を去り、それよりいてまして小川の渡にて夜更たりとの給。故時の人其所を名付てふけ川といふ。夫より巽射辻といふ所に至りまして、下津岩根に瑞御殿大敷建てしつまります。

其風早辻より更川まで、一百七十四間、夫より、射辻の影向松まで一百二十間はかり、夫より古社の礎まで七間、其地東西廿八間、南北八間余。其山東西三十六間、南北二十二間、周開一百零間余。今に山中に古瓦多し。

然るにいちやくして、海上の通船帆を下、敬せされハ神崇り給。故に今の水本山に遷し奉るとそ。神託に吉野氏をして社務たらしむとあり。故吉野氏を以て神主として仕へまつらしむ云々。

後奈良天皇大永七年^{丁亥}八月、御靈形再興し奉る。其銘云、奉再興天満天神御身体之事、于時大永^{丁亥}八月日、本願主右京助、同宮方主各々等、七条末流宗久云々。案に正しく天満天神なるへし。

毎歳八月廿四日夜大神楽、廿五日祭なり。木鏡石額 延宝四辰年国主奉納。

補陀山観世音寺

勝本町史 下巻⁴⁰⁾には次の如くある。

宗派 曹洞宗 位置 勝本町立石南舳1070番地

本尊 聖観世音菩薩坐像 開山 猶山石隨

現住職 長谷川実留（第十六世）

永禄元年（1558年）、当地の長谷川一族の出であった慈観が宇治の黄檗山萬福寺での修業を終え、筑前太宰府の観世音寺にいた時、故郷に観音堂を建立することを発願した。その観音堂は文翁永訓を開基として立石の軍場に建てられ梅香庵と称されていた。その後、不伯和尚の時代に梅香庵は現在の補陀山観世音寺の地に移され、梅香庵という庵室となっていた。その後、立石の清水谷にあった観世音寺を梅香庵に移し、補陀山観世音寺と称し現在に至っている。

明治になって立石村に1村1寺となった為に幻の中国寺と言われた白華山覚音寺を合併し、8尺をこえる木造阿弥陀如來坐像、木造不動明王坐像を始めとする平安～鎌倉時代の佛像24体などを受つのだが、昭和30年11月25日焼失した。

『壹岐名勝図誌』（1861年）によると享保七年（1722年）に開発新田の5石1斗を寺領として平戸藩主・松浦篤信より寄付され、寛延二年（1749年）にも松浦誠信により同額が認められている。同書によると、本堂（桁5間、梁4間半）、廊下（桁2間半、梁9尺）、庫裏（桁6間、梁4間半）、方丈（桁3間、梁2間）、位牌堂（桁3間2尺2寸、梁9尺）とあり、総てが瓦葺の建物であったと記されている。

境内1反20歩、寺地たて20間、横10間の6畝20歩、山たて40間、横3間の4畝とも記録され、本堂の9間前には門(桁7尺、梁6尺)が建っていた。

『寛政十一年巳未正月改老岐国中人別帳』によると「花(華)光寺末寺、寺領高五石一斗、立石村観世音寺、月船和尚、年四十三才、隠居月丈和尚、年六十才」とある。

弘化十二年(1727年)に掛けられた梵鐘(高さ2尺5寸、直径1尺7寸五分)は太平洋戦争の折に金属回収の為に供出された。現在、もと覚音寺に伝っていた至元四年(1267年・日本の文永四年)銘の双竜文鏡が寺宝となっている。昭和28年(1953年)1月8日、宗教法人に認証された。

老岐名勝圖誌¹⁾には次の如くある。

補陀山観世音寺 在平尾

本尊聖観音座像、長一尺三分。脇土財二童子各立像、長六寸五分。

本堂 已向 桁五間半 瓦葺 廊下 桁二間半 梁九尺 庫裡 桁六間半 方丈 桁三間 位牌堂 桁三間二尺二寸 梁九尺 門 去本堂九間 桁七尺
鐘 高二尺五寸 直径一尺七寸五分
享保十二年未年掛

境内 一反二十歩 内寺地 縦二十間 横十間 四畝廿歩 同山 縦四十間 横三間 四畝

寺領、新田高五石一斗、其寄附状二通あり。

高五斛老斗開発新田之事、依先規寄附之。永可寺納者也。 享保七年四月朔日 篤信押花

老岐国立石村 観世音寺

同寛延二年十一月十八日誠信朝臣より

海香奄の額、本堂の正面に掛。元此所に梅香庵といふ庵室ありしを、観世音寺を清水より移して以來、観世音寺を称すと云。されとも其額ハむかしのまゝ掛しハ、元の名を失ハんとてなるへし。

梅香庵 在境内

本尊地藏座像、長九寸七分 堂 木向 桁八尺六寸 梁二間五寸 瓦葺 焰魔王座像、長一尺六寸

千手観音座像、長六寸 是ハ清水谷観音にて、國中順札十六番にして、今ここに移したり。 当寺は元軍場^{イクラバ}にありしを、前住不伯の時、今の地に移すとそ。

写真73 補陀山観世音寺

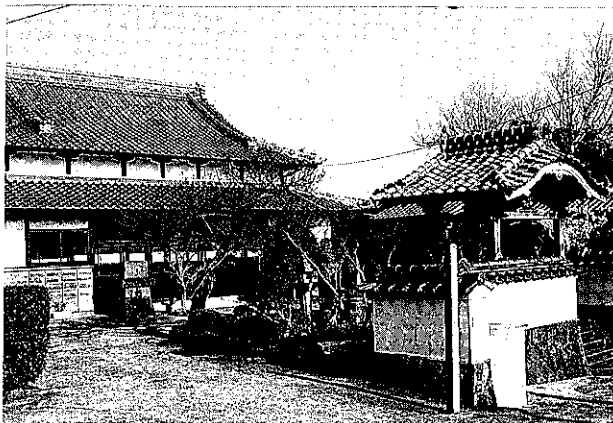


写真74 観世音寺山門と境内



温泉分析結果

Analytical Results of Hot Spring Waters

湯ノ本温泉 Yunomoto Onsen	178~189p
郷ノ浦温泉 Gounoura Onsen.....	190~191p
男岳温泉（芦辺町） Ondake Onsen	192p

湯ノ本温泉分析結果 (その1)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町	沓岐郡勝本町	沓岐郡鯨伏村大字 立石字白釘	沓岐郡鯨伏村
泉質	食塩泉 (Na-Cl温泉)	食塩泉 (Na-Cl温泉)	塩化土類明礬・緑礬含有硫酸 (酸性含Fe(II,III)-Na-Cl 温泉)	含ホウ素食塩泉 (Na-Cl温泉)
採水年月日 外観	T2.8.25	S5.2.10	S10.5.15	S19.7.28
pH				
泉温(気温) °C	58.5	58.1	67.2	58.2
湧出量 l/min				
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg			13.775	1.520
H ⁺ mg/kg			12.2	
K ⁺ mg/kg	190.3		336.0	327.4
Na ⁺ mg/kg	4544.0	5225.0	2812.0	4693.0
NH ₄ ⁺ mg/kg			21.4	
Ca ²⁺ mg/kg	626.3	86.5	775.7	151.1
Mg ²⁺ mg/kg	329.8	224.1	163.8	437.1
Fe ²⁺ mg/kg	13.1(T)	49.6(T)	35.2(T)	17.3(T)
Mn ²⁺ mg/kg				
Al ³⁺ mg/kg	25.9		40.3	
小計	5729.4	5585.2	4196.6	5625.9
Cl ⁻ mg/kg	8675.0	8218.0	5986.0	8428.0
Br ⁻ mg/kg				37.2
I ⁻ mg/kg				
HSO ₄ ⁻ mg/kg			1164.0	
SO ₄ ²⁻ mg/kg	954.4		998.4	868.5
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg				37.9
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
HSiO ₃ ⁻ mg/kg				
小計	9629.4	8218.0	8148.4	9371.6
通計	15358.8	13803.2	12345.0	14997.5
HAsO ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	60.0	70.2	54.0	52.0
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg				
H ₂ S mg/kg				
総計	15418.8	13873.4	12399.0	15049.5
利用施設 又は依頼者	高峰温泉 白川長次平	辻川温泉 辻川徳衛	海老館 長谷川久吉	長山温泉 長山仁十郎

湯ノ本温泉分析結果 (その2)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡鯨伏村大字石湯野本浦58	沓岐郡勝本町湯野本浦	沓岐郡勝本町湯野本浦41	沓岐郡勝本町湯野本浦77
泉質	食塩泉 (Na-Cl強塩温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)
採水年月日	S27.5.6	S34.12.16	S34.12.15	S34.12.15
外観				
pH	6.65	6.3	6.3	6.2
泉温(気温)°C	62.0	66.0	60.0	66.0
湧出量 l/min			15 l/min(自噴)	21.6 l/min
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	17.931	16.970	16.90	16.830
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	307.5	246.5	248.7	250.9
Na ⁺ mg/kg	6582.0	5235.0	5173.0	5209.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	19.6	13.2	13.0	12.8
Ca ²⁺ mg/kg	677.4	624.6	635.2	585.8
Mg ²⁺ mg/kg	172.4	259.6	240.3	239.7
Fe ²⁺ mg/kg	2.8(T)	5.0(T)	3.9(T)	3.8(T)
Mn ²⁺ mg/kg		0.2	0.2	0.1
Al ³⁺ mg/kg	3.7	tr	tr	tr
小計	7765.4	6384.1	6314.3	6302.1
Cl ⁻ mg/kg	9384.0	9563.0	9455.0	9455.0
Br ⁻ mg/kg	0.1	34.6	31.6	31.6
I ⁻ mg/kg	0.2	0.4	0.4	0.4
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	663.2	675.5	673.1	673.1
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	3900.0	300.0	230.0	230.0
CO ₃ ²⁻ mg/kg	1058.0			
HSiO ₃ ⁻ mg/kg		0.03	0.02	0.02
小計	15006.5	10573.53	10390.12	10390.12
通計	22770.9	16957.63	16704.42	16692.22
HA s O ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	63.2	60.7	62.8	62.8
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg		501.0	483.0	483.0
H ₂ S mg/kg				
総計	22834.1	17519.33	17250.22	17238.02
利用施設 又は依頼者	千石荘 長谷川 栄	長山旅館 長山 仁十郎	万福荘 立石 光美	平山旅館 平山 泰

湯ノ本温泉分析結果 (その3)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	壱岐郡勝本町 湯野本浦106	壱岐郡勝本町 湯野本浦91-5	壱岐郡勝本町 湯野本浦91-5	壱岐郡勝本町 湯野本浦59
泉質	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)
採水年月日	S34.12.16	S34.12.16	S34.12.16	S34.12.16
外観				
pH	6.0	6.2	6.4	6.1
泉温(気温) °C	53.0	56.2	57.0	54.0
湧出量 l/min	8 l/min(自噴)	7 l/min(自噴)	11 l/min(自噴)	— (自噴)
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	17.060	17.200	17.340	16.580
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	244.3	232.3	265.1	248.7
Na ⁺ mg/kg	5250.0	5286.0	5327.0	5119.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	13.7	13.2	13.7	13.1
Ca ²⁺ mg/kg	680.4		686.8	598.3
Mg ²⁺ mg/kg	263.6	244.0	264.0	249.6
Fe ²⁺ mg/kg	4.7(T)	4.0(T)	3.7(T)	3.9(T)
Mn ²⁺ mg/kg	0.2	0.2	0.2	0.2
Al ³⁺ mg/kg	tr	tr	tr	tr
小計	6456.9	5779.7	6560.5	6232.8
Cl ⁻ mg/kg	9672.0	9671.0	9766.0	9309.0
Br ⁻ mg/kg	32.6	32.6	32.6	34.1
I ⁻ mg/kg	0.4	0.4	0.4	0.4
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	696.6	673.1	700.0	650.3
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	208.0	288.0	369.0	283.0
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
HSiO ₃ ⁻ mg/kg	0.01	0.02	0.02	0.01
小計	10609.61	10665.12	10868.02	10276.81
通計	17066.51	16444.82	17428.52	16509.61
HAsO ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	61.3	63.6	67.2	54.4
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	694.0	606.0	493.0	755.0
H ₂ S mg/kg				
総計	17821.81	17114.42	17988.72	17319.01
利用施設 又は依頼者	松永 武	海老館 長谷川 久吉	海老館 長谷川 久吉	東屋 長谷川 静子

湯ノ本温泉分析結果 (その4)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町 湯野本浦 1 2 1 - 1	沓岐郡勝本町 湯野本浦 5 8	沓岐郡勝本町 湯野本浦	沓岐郡勝本町本宮 南触字白滝 4 2 0
泉質	含臭素食塩泉 (Na-Cl 温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl 温泉)	食塩泉 (Na-Cl 温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl 温泉)
採水年月日	S34.12.17	S34.12.17	S34.12.17	S37.8.28
外観				
pH	6.6	6.2	6.4	6.2
泉温(気温) °C	62.0	61.0	51.0	71.0°C(27.0°C)
湧出量 l/min		72 l/min		11 l/min(自噴)
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	17.230	16.730	14.890	17.180
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	249.8	247.4	195.2	214.7
Na ⁺ mg/kg	5300.0	5141.0	4598.0	5178.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	13.2	13.7	11.1	14.3
Ca ²⁺ mg/kg	651.6	598.2	527.9	681.2
Mg ²⁺ mg/kg	263.8	250.5	225.3	291.0
Fe ²⁺ mg/kg	4.1(T)	3.7(T)	4.4(T)	3.6(T)
Mn ²⁺ mg/kg	0.1	0.2	0.2	0.2
Al ³⁺ mg/kg	tr	tr	tr	
小計	6482.6	6254.7	5562.1	6383.0
Cl ⁻ mg/kg	9688.0	9382.0	8312.0	9547.0
Br ⁻ mg/kg	31.6	31.9	28.1	32.3
I ⁻ mg/kg	0.4	0.4	0.3	tr
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	700.8	661.0	586.0	699.5
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	353.0	277.0	344.0	387.3
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
HSiO ₃ ⁻ mg/kg	0.05	0.02	0.03	0.02
小計	10773.85	10352.32	9270.43	10666.12
通計	17256.45	16607.02	14832.53	17049.12
HAsO ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	59.0	60.6	67.7	57.7
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	286.0	582.0	471.0	587.5
H ₂ S mg/kg				
総計	17601.45	17249.62	15371.23	17694.32
利用施設 又は依頼者	辻川温泉 辻川 徳衛	千石荘 長谷川 栄	高峰温泉 白川 キク	白滝温泉 松本 国正

湯ノ本温泉分析結果 (その5)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町本宮 南触字大久保378	沓岐郡勝本町本宮 南触松崎236	沓岐郡勝本町立石 西触78番地第2	沓岐郡勝本町 湯野本浦43-2
泉質	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl強塩温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)
採水年月日	S41.1.25	S42.11.14	S42.11.14	S42.11.14
外観	無色透明・食塩味	無色透明・食塩味 鉄味	無色透明・食塩味 鉄味	無色透明・食塩味 鉄味
pH	6.1	6.4	6.20	6.30
泉温(気温)°C	59.5°C(8.0°C)	60.5°C(13.8°C)	67.5°C(15.5°C)	67.5°C(21.0°C)
湧出量 l/min	58 l/min(自噴)	25 l/min(自噴)	15 l/min	30 l/min
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	16.360	17.990	17.370	17.500
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	192.1	232.5	232.5	235.0
Na ⁺ mg/kg	5013.0	5500.0	5300.0	5350.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	tr	1.3	1.3	1.4
Ca ²⁺ mg/kg	667.3	716.6	631.8	633.8
Mg ²⁺ mg/kg	237.5	271.3	252.4	271.3
Fe ²⁺ mg/kg	4.0(T)	4.3(T)	3.8(T)	4.2(T)
Mn ²⁺ mg/kg	0.2	0.2	0.2	0.2
Al ³⁺ mg/kg		tr	tr	tr
小計	6114.1	6726.2	6422.0	6495.9
Cl ⁻ mg/kg	9240.0	9771.0	9416.0	9505.0
Br ⁻ mg/kg	30.7	31.8	30.1	31.2
I ⁻ mg/kg		0.5	0.5	0.5
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	541.0	871.1	716.8	856.1
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	189.0	438.3	400.9	413.5
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
HSiO ₃ ⁻ mg/kg	0.1	0.03	0.02	0.03
小計	10000.8	1112.73	10564.32	10806.33
通計	16114.9	17838.93	16986.32	17302.23
HA s O ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	62.2	65.0	72.8	67.6
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	455.0	419.5	608.3	495.0
H ₂ S mg/kg				
総計	16632.1	18323.43	17667.42	17864.83
利用施設 又は依頼者	公立沓岐老人ホーム	品川クリニック 前田 礼子	平山旅館 平山 長利	長山旅館 長山 仁十郎

湯ノ本温泉分析結果 (その6)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町立石 西触107	沓岐郡勝本町本宮 南触大久保304-2	沓岐郡勝本町湯本 浦字潮川20-2	沓岐郡勝本町本宮 南触字松崎236-1
泉質	含塩化土類食塩泉 (Na-Cl強塩温泉)	純食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)	含臭素食塩泉 (Na-Cl温泉)
採水年月日	S44.4.24	S46.4.27	S47.6.27	S52.11.14
外観	無色透明・食塩味 鉄味	無色透明・無臭 塩味	黄濁沈あり・塩味	無色透明・塩味 鉄味
pH	6.04	5.8	6.20	6.20
泉温(気温)°C	69.2°C(23°C)	55°C(22°C)	59.0°C(21.5°C)	62.8°C(21.1°C)
湧出量 l/min	54.5 l/min(自噴)	30 l/min(自噴)	33 l/min(自噴)	
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	21.320	10.020	17.240	16.875
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	696.4	190.0	240.0 (Cu ²⁺)	343.0
Na ⁺ mg/kg	6367.0	2713.0	5203.0 (0.02)	4716.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	1.4		13.1 (Sr ²⁺)	0.9
Ca ²⁺ mg/kg	751.1	464.4	581.4 (30.0)	750.0
Mg ²⁺ mg/kg	296.5	282.1	217.7	262.0
Fe ²⁺ mg/kg	4.2(T)	1.8(T)	2.5(T)	5.3(T)
Mn ²⁺ mg/kg	tr	0.3	0.5 (Zn ²⁺)	0.2
Al ³⁺ mg/kg	tr		0.03 (0.2)	
小計	8116.6	3651.6	6288.45	6077.4
Cl ⁻ mg/kg	11740.0	4659.0 (F ⁻)	9003.0 (F ⁻)	8780.0
Br ⁻ mg/kg	29.4	(1.6)	30.5 (1.7)	30.3
I ⁻ mg/kg	0.3		0.5	0.5
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	875.5	768.0	826.0 (HPO ₄ ²⁻)	800.0
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg			0.1 (0.1)	
HCO ₃ ⁻ mg/kg	408.9	404.6	539.5	512.7
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
HSiO ₃ ⁻ mg/kg	0.01		0.02	
小計	13054.11	5833.2	10401.42	10123.5
通計	21170.71	9484.8	16689.87	16200.9
HAso ₂ mg/kg			0.001	
H ₂ SiO ₃ mg/kg	62.4	230.0	61.1	92.0
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	600.5	375.2	431.4	184.8
H ₂ S mg/kg				
総計	21833.61	10090.0	17182.371	16477.7
利用施設 又は依頼者	沓岐島荘 勝本町長	沓岐広域圏 町村組合長	保養温泉センター 勝本町長	医療法人協会 順天医院 品川 信久

湯ノ本温泉分析結果 (その7)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	老岐郡勝本町立石 西触字大園200-3	老岐郡勝本町立石 西触121	老岐郡勝本町立石 西触121	老岐郡勝本町 湯本浦43番地
泉質	ナリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)	ナリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)	Na-Cl温泉 (純食塩泉)	Na-Cl温泉 (純食塩泉)
採水年月日	S53.10.23	S54.3.5	S54.3.5	S56.7.9
外観	微濁・塩味・鉄味 無臭		無色透明・塩味 苦味・無臭	無色透明・無臭 強い塩味
pH	6.5	6.4(7.3)	6.4(6.9)	6.5(8.4)
泉温(気温)°C	53.2°C(18.7°C)	62.1°C(10.0°C)	62.1°C(10.0°C)	68.5°C(26.5°C)
湧出量 l/min	5.4 l/min(自噴)	10 l/min(自噴)	10 l/min	28 l/min(自噴)
比重 20/4°C			1.0110	1.0127
蒸発残留物 g/kg	16.000	17.79(180°C)	17.79(180°C)	16.90(180°C)
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	241.1	279.9 (Li ⁺ 6.4)	270.2	250.8 (Li ⁺ 6.6)
Na ⁺ mg/kg	4613.0	5454.0	5260.0	5204.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	2.2	17.7	10.4	11.1
Ca ²⁺ mg/kg	397.2	756.4 (Sr ²⁺)	407.8	661.6 (Sr ²⁺)
Mg ²⁺ mg/kg	245.1	280.6 (5.2)	273.2	254.8 (33.9)
Fe ²⁺ mg/kg	2.5(T)	3.6(T)	3.6(T)	3.9(T)
Mn ²⁺ mg/kg		0.2	0.2	0.2
Al ³⁺ mg/kg				-
小計	5501.1	6804.0	6225.4	6426.9
Cl ⁻ mg/kg	8299.0 (F ⁻)	9669.0 (F ⁻)	9669.0 (F ⁻)	9209.0
Br ⁻ mg/kg	26.3 (0.3)	25.9 (0.6)	25.9 (0.6)	29.70
I ⁻ mg/kg	0.3		0.3	0.2
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	563.7	619.0	619.0	720.8
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	457.0	566.0	566.0	555.0
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ ⁻ mg/kg				
小計	9346.6	10880.5	10880.8	10514.7
通計	14847.7	17684.5	17106.2	16941.6
HA ₂ SO ₂ mg/kg			ND	
H ₂ SiO ₃ mg/kg	80.3	87.4 (HBO ₂ 14.2)	87.41	74.5 (HBO ₂ 13.5)
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	384.0	191.5	191.5	131.7
H ₂ S mg/kg			ND	
総計	15312.0	17977.6	17385.1	17161.3
利用施設 又は依頼者	高峰温泉 白川 敬子	辻川温泉 辻川 亥一郎	辻川温泉 辻川 亥一郎	長山旅館 長山 秀徳

湯ノ本温泉分析結果（その8）

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町立石 西触78番地第2	沓岐郡勝本町立石 西触91番地2	沓岐郡勝本町 湯野本浦43番地	沓岐郡勝本町本宮 南触字白滝400
泉質	Na-Cl温泉 (純食塩泉)	Na-Cl温泉 (純食塩泉)	ナトリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)	ナトリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)
採水年月日	S56.7.9	S57.2.22	S59.1.30	S62.1.19
外観	無色透明・無臭 強い塩味	無色透明・無臭 強い塩味	無色透明・無臭 塩味	
pH	6.7(8.5)	6.8(7.1)	6.4(6.6)	6.3(6.6)
泉温(気温)°C	65.0°C(28.2°C)	66.2°C(11.0°C)	64.2°C(9.0°C)	74.0°C(8.0°C)
湧出量 l/min	27 l/min(自噴)	30 l/min(自噴)	1.9 l/min	
比重 20/4°C	1.0127	1.0128		
蒸発残留物 g/kg	16.87(180°C)	17.16(180°C)	17.134(180°C)	18.12(180°C)
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	250.9 (Li ⁺ 6.2)	252.0 (Li ⁺ 5.6)	286.0 (Li ⁺ 5.9)	261.0 (Li ⁺ 6.6)
Na ⁺ mg/kg	5085.0	5086.0	5240.0	5184.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	10.6	9.5		12.0
Ca ²⁺ mg/kg	661.6 (Sr ²⁺ 33.0)	686.6 (Sr ²⁺ 32.0)	591.0 (Sr ²⁺ 29.3)	676.5 (Sr ²⁺ 80.0)
Mg ²⁺ mg/kg	251.8 (33.0)	252.5 (32.0)	252.0 (29.3)	270.0 (80.0)
Fe ²⁺ mg/kg	3.8(T)	4.4(T)	4.0(T)	5.3(T)
Mn ²⁺ mg/kg	0.2	0.2	0.2	0.1
Al ³⁺ mg/kg				N.D
小計	6303.1	6328.8	6408.4	6495.5
Cl ⁻ mg/kg	9295.0	9119.0 (F ⁻ 0.5)	9600.0 (F ⁻ 2.5)	9839.0 (F ⁻ 0.1)
Br ⁻ mg/kg	30.4	25.9 (0.5)	32.6 (2.5)	30.5 (0.1)
I ⁻ mg/kg	0.1	0.5	0.5	0.6
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	701.1	681.3	610.0	720.0
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	552.0	514.5	552.0	516.8
CO ₃ ²⁻ mg/kg				N.D
HSiO ₃ ⁻ mg/kg				
小計	10578.6	10341.7	10797.6	11107.0
通計	16881.7	16670.5	17206.0	17602.5
HAsO ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	68.3 (HBO ₂ 16.8)	63.2 (HBO ₂ 25.1)	72.9 (HBO ₂ 4.0)	68.6 (HBO ₂ 14.8)
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	63.2	187.7	271.0	116.6
H ₂ S mg/kg				
総計	17030.0	16946.5	17553.9	17802.5
利用施設 又は依頼者	平山旅館 平山 敏一郎	(有)海老館 長谷川福和	長山旅館 長山 秀徳	山口 由隆 松本 富子

湯ノ本温泉分析結果 (その9)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町 湯野本浦58番地	沓岐郡勝本町本宮 南触大久保304-2	沓岐郡勝本町 湯野本浦59番地	沓岐郡勝本町湯野 本大字潮川26-5
泉質	ナトリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)	ナトリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)	ナトリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)	ナトリウム-塩化物温泉 (高張性中性高温泉)
採水年月日	S62.1.20	S62.1.20	S62.1.20	S62.1.20
外観				
pH	6.8(6.6)	6.8(6.8)	6.0(6.7)	6.8(6.6)
泉温(気温) °C	65.5°C(8.0°C)	61.0°C(8.0°C)	60.0°C(8.0°C)	62.5°C(13.0°C)
湧出量 l/min	24.5 l/min		26.8 l/min	57.5 l/min
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	16.76(180°C)	16.44(180°C)	16.95(180°C)	15.78(180°C)
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	251.5 (Li ⁺ 6.5)	234.0 (Li ⁺ 6.4)	254.5 (Li ⁺ 6.5)	243.5 (Li ⁺ 6.6)
Na ⁺ mg/kg	4728.0	4760.0	5008.0	4928.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	10.6	11.3	11.0	10.6
Ca ²⁺ mg/kg	584.0 (Sr ²⁺)	659.0 (Sr ²⁺)	598.5 (Sr ²⁺)	586.5 (Sr ²⁺)
Mg ²⁺ mg/kg	245.0 (65.6)	263.0 (70.6)	252.0 (65.8)	251.0 (67.4)
Fe ²⁺ mg/kg	4.2(T)	7.8(T)	4.5(T)	5.1(T)
Mn ²⁺ mg/kg	0.1	0.3	0.2	0.2
Al ³⁺ mg/kg	N.D	N.D	N.D	N.D
小計	5895.5	6012.4	6201.0	6098.9
Cl ⁻ mg/kg	9041.0 (F ⁻)	9041.0 (F ⁻)	9271.0 (F ⁻)	9307.0 (F ⁻)
Br ⁻ mg/kg	26.3 (0.1)	26.0 (0.2)	27.8 (0.1)	27.3 (0.1)
I ⁻ mg/kg	0.8	0.5	0.9	0.6
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	652.0	652.0	680.0	676.0
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	558.3	473.5	568.7	570.5
CO ₃ ²⁻ mg/kg	N.D	N.D	N.D	N.D
HSiO ₃ ⁻ mg/kg				
小計	10278.5	10193.2	10548.5	10581.4
通計	16174.0	16205.6	16749.5	16680.3
HAsO ₂ mg/kg				0.01
H ₂ SiO ₃ mg/kg	70.2 (HBO ₂ 14.2)	79.0 (HBO ₂ 12.5)	69.4 (HBO ₂ 16.4)	65.0
H ₂ SO ₄ mg/kg				(HBO ₂)
H ₃ PO ₄ mg/kg				(14.8)
CO ₂ mg/kg	204.6	105.6	224.4	185.7
H ₂ S mg/kg				
総計	16463.0	16402.7	17059.7	16945.81
利用施設 又は依頼者	千石荘 長谷川 初子	沓岐広域圏 町村組合長	あづま屋旅館 長谷川 静子	保養温泉センター 勝本町長

湯ノ本温泉分析結果 (その10)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町 湯本浦41	沓岐郡勝本町 立石西触107	沓岐郡勝本町本宮 南触字松崎236	沓岐郡勝本町立石 西触大園200番3
泉質	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)
採水年月日	S62. 1.20	S62. 1.20	H3. 8.28	H3. 8.28
外観			赤褐色、混濁、塩味、臭	赤褐色、混濁、塩味、臭
pH	6.1(6.6)	6.8(6.8)	6.3	6.3
泉温(気温)°C	67.5(8)	68.0(8)	53.5(29.0)	52.8(26.1)
湧出量 l/min	51.4 l/min	4.2 l/min	— (自噴)	8.4 l/min (自噴)
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	17.27(180°C)	17.84(180°C)	17.761(180°C)	14.453(180°C)
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	248.5	253.0	248.8	219.6
Na ⁺ mg/kg	5008.0 (Li ⁺)	5064.0 (Li ⁺)	4785.3 (Li ⁺)	4137.0 (Li ⁺)
NH ₄ ⁺ mg/kg	10.7 (6.8)	11.1 (6.7)	16.6 (4.4)	13.3 (4.1)
Ca ²⁺ mg/kg	604.0 (Sr ²⁺)	663.5 (Sr ²⁺)	693.5 (Sr ²⁺)	509.9 (Sr ²⁺)
Mg ²⁺ mg/kg	256.0 (68.8)	277.0 (74.8)	256.7 (33.1)	200.2 (24.7)
Fe ²⁺ mg/kg	4.7(T)	4.3	3.5 (Ba ²⁺)	3.6 (Ba ²⁺)
Mn ²⁺ mg/kg	0.2	0.1	0.2 (747.7)	0.2 (494.7)
Al ³⁺ mg/kg	ND	ND		
小計	6207.7	6354.5	6789.8	5607.3
Cl ⁻ mg/kg	9343.0 (F ⁻)	9697.0 (F ⁻)	9574.0 (F ⁻)	7683.0 (F ⁻)
Br ⁻ mg/kg	27.1 (0.1)	28.6 (0.1)	22.5 (1.8)	22.3 (1.5)
I ⁻ mg/kg	0.4	0.5	2.3	1.6
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	672.0	696.0	720.6	584.6
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	570.5	534.5	490.9	498.1
CO ₃ ²⁻ mg/kg	ND	ND		
HSiO ₃ ⁻ mg/kg				
小計	10613.1	10956.7	10812.1	8791.1
通計	16820.8	17311.2	17601.9	14398.4
HAsO ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	68.6 (HBO ₂)	66.6 (HBO ₂)	62.9 (HBO ₂)	67.1 (HBO ₂)
H ₂ SO ₄ mg/kg	(14.5)	(16.8)	(9.9)	(10.8)
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	204.2	81.4	184.6	111.0
H ₂ S mg/kg				
総計	17108.1	17476.0	17859.3	14587.3
利用施設 又は依頼者	万福荘 立石 光美	沓岐島荘 (勝本町長)	品川クリニック 品川 晃一郎	高峰温泉 白川 敬子

湯ノ本温泉分析結果 (その11)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉
湧出地	沓岐郡勝本町 立石西触91-5	沓岐郡勝本町 湯本浦43	沓岐郡勝本町 立石西触121-1	沓岐郡勝本町湯本
泉質	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)
採水年月日	H3. 8.29	H3. 8.29	H3. 8.29	H3. 8.29
外観	茶褐色、微混濁、無臭、塩味	茶褐色、微混濁、無臭、塩味	茶褐色、微混濁、無臭、塩味	茶褐色、微混濁、無臭、塩味
pH	6.2	6.3	6.3	6.6
泉温(気温) °C	65.2 (28.6)	65.0 (27.6)	61.0 (27.0)	59.2 (27.5)
湧出量 l/min	12.6l/min (自噴)	9.0l/min (自噴)	9.9l/min (自噴)	— (自噴)
比重 20/4°C				
蒸発残留物 g/kg	17.693(180°C)	16.709(180°C)	17.174(180°C)	16.713(180°C)
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	259.6	256.1	267.9	259.9
Na ⁺ mg/kg	4885.0 (Li ⁺)	4840.0 (Li ⁺)	5028.0 (Li ⁺)	4970.0 (Li ⁺)
NH ₄ ⁺ mg/kg	15.8 (4.5)	14.1 (4.4)	15.1 (4.6)	15.7 (4.6)
Ca ²⁺ mg/kg	635.5 (Sr ²⁺)	569.7 (Sr ²⁺)	616.2 (Sr ²⁺)	580.7 (Sr ²⁺)
Mg ²⁺ mg/kg	251.0 (30.9)	231.9 (29.2)	250.1 (30.3)	234.2 (28.1)
Fe ²⁺ mg/kg	3.3 (Br ²⁺)	3.7 (Br ²⁺)	3.4 (Br ²⁺)	2.6 (Br ²⁺)
Mn ²⁺ mg/kg	0.2 (621.9)	0.2 (613.6)	0.2 (607.4)	0.2 (587.9)
Al ³⁺ mg/kg				
小計	6707.7	6562.9	6823.2	6683.9
Cl ⁻ mg/kg	9434.0 (F ⁻)	9101.0 (F ⁻)	9439.0 (F ⁻)	9170.0 (F ⁻)
Br ⁻ mg/kg	24.7 (1.7)	26.3 (1.6)	26.9 (1.6)	28.4 (1.6)
I ⁻ mg/kg	1.2	2.0	2.1	0.9
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	709.1	702.0	729.0	705.8
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	524.1	540.8	542.4	566.7
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
HSiO ₃ ⁻ mg/kg				
小計	10694.8	10373.7	10741.0	10473.4
通計	17402.5	16936.6	17564.2	17157.3
HAsO ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	65.5 (HBO ₂)	65.1 (HBO ₂)	66.4 (HBO ₂)	66.0 (HBO ₂)
H ₂ SO ₄ mg/kg	(9.2)	(8.9)	(13.0)	(10.4)
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	4.3	105.0	106.5	63.0
H ₂ S mg/kg				
総計	17481.5	17115.6	17750.1	17296.7
利用施設 又は依頼者	(有)海老館 長谷川 福和	旅館長山 長山 秀徳	辻川温泉 辻川 亥一郎	(有)平山旅館 平山 敏一郎

湯ノ本温泉分析結果 (その12)

泉名	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	湯ノ本温泉	
湧出地	沓岐郡勝本町立石 南触字八水903番1	沓岐郡勝本町 立石西触119-2	沓岐郡勝本町 本宮南触400	
泉質	ナトリウム塩化物泉 (低張性、中性、 高温泉)	ナトリウム塩化物泉 (高張性、中性、 高温泉)	食塩泉 (ナトリウム塩化物泉) (高張性、中性、高温泉)	
採水年月日	H5. 6. 1	H6. 1. 24	H7. 6. 7	
外観	無色、透明、無臭、塩味	無色、透明、微酸化水素、塩味、苦味	黄褐色、微酸化水素、塩味	
pH	6.6	6.2	6.9	
泉温(気温) °C	59.0 (26.5)	64.0(4.5)	74.0	
湧出量 l/min	53.0l/min (動力)	39.0l/min (自噴)	150.0l/min (自噴)	
比重 20/4°C			1.0112	
蒸発残留物 g/kg	5.534(180°C)	16.02(180°C)	18.19	
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	99.6 (Li ⁺)	264.7 (Li ⁺)	263.0	
Na ⁺ mg/kg	1892.0	5135.0	5202.0	
NH ₄ ⁺ mg/kg	12.5	16.7	16.8	
Ca ²⁺ mg/kg	92.6 (Sr ²⁺)	589.6 (Sr ²⁺)	682.0	
Mg ²⁺ mg/kg	45.5 (5.0)	242.5 (29.6)	278.0	
Fe ²⁺ mg/kg	1.0	10.7	8.69	
Mn ²⁺ mg/kg		0.2	0.18	
Al ³⁺ mg/kg			0.19	
小計	2150.6	6294.8	6450.86	
Cl ⁻ mg/kg	2742.0 (F ⁻)	9225.0 (F ⁻)	9800.0	
Br ⁻ mg/kg	8.2 (1.8)	27.9 (1.2)	30.86	
I ⁻ mg/kg	0.4	0.3	0.04	
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	59.1	688.0	715.0	
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	1002.0	584.5	524.8	
CO ₃ ²⁻ mg/kg				
HSiO ₃ ⁻ mg/kg				
小計	3813.5	10526.9	11070.70	
通計	5964.1	16821.7	17521.56	
HAsO ₂ mg/kg				
H ₂ SiO ₃ mg/kg	43.6 (HBO ₂)	67.0 (HBO ₂)	65.5	
H ₂ SO ₄ mg/kg		(12.4)	(15.4)	
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	277.3	65.2	154.0	
H ₂ S mg/kg	0.6	0.2		
総計	6298.0	16969.5	17741.06	
利用施設 又は依頼者	勝本町長	(株)ユートピアランド平山 平山 宏美	山口旅館 山口 由隆	

郷ノ浦温泉分析結果 (その1)

泉名	郷ノ浦温泉	郷ノ浦温泉	郷ノ浦温泉	郷ノ浦温泉
湧出地	老岐郡郷ノ浦町 下ル町塞神社	老岐郡郷ノ浦町 下ル町	老岐郡郷ノ浦町 向町辻川石油店	老岐郡郷ノ浦町字 下ル122-2
泉質	冷鉱泉	冷鉱泉	冷鉱泉	単純温泉
採水年月日	S37.8.28	S37.8.28	S37.8.28	S38.12.3
外観	無色澄明	無色澄明	無色澄明	無色透明
pH	7.4	7.4	7.4	7.6
泉温(気温) °C	23.4°C	24.2°C	23.5°C	25.0°C(16.5°C)
湧出量 l/min				139 l/min(自噴)
比重 20/4°C				1.000
蒸発残留物 g/kg	0.2586	0.337	0.2661	0.3215
H ⁺ mg/kg				
K ⁺ mg/kg	6.4	8.0	6.7	8.0
Na ⁺ mg/kg	29.9	40.3	33.5	42.1
NH ₄ ⁺ mg/kg				
Ca ²⁺ mg/kg	16.2	20.6	17.0	18.2
Mg ²⁺ mg/kg	19.2	26.7	20.1	27.4
Fe ²⁺ mg/kg	0.1(T)	0.1(T)	0.1(T)	0.2(T)
Mn ²⁺ mg/kg	tr	tr	tr	0.04
Al ³⁺ mg/kg				
小計	71.8	95.7	77.4	95.94
Cl ⁻ mg/kg	24.6	23.9	24.1	21.2
Br ⁻ mg/kg				
I ⁻ mg/kg				
HSO ₄ ⁻ mg/kg				
SO ₄ ²⁻ mg/kg	0.7	1.0	0.8	0.5
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg				
HCO ₃ ⁻ mg/kg	192.1	272.3	205.8	278.0
CO ₃ ²⁻ mg/kg	0.3	0.4	0.3	0.6
HSiO ₃ ⁻ mg/kg	0.4	0.5	0.5	0.8
小計	218.1	298.1	231.5	301.1
通計	289.9	393.8	308.9	397.04
HA s O ₂ mg/kg				tr
H ₂ SiO ₃ mg/kg	88.0	92.5	92.5	98.0
H ₂ SO ₄ mg/kg				
H ₃ PO ₄ mg/kg				
CO ₂ mg/kg	18.4	27.0	19.7	16.8
H ₂ S mg/kg				
総計	396.3	513.3	421.1	511.84
利用施設 又は依頼者	郷ノ浦町	郷ノ浦町	郷ノ浦町	郷ノ浦町

郷ノ浦温泉分析結果 (その2)

泉名	郷ノ浦温泉	郷ノ浦温泉
湧出地	沓岐郡郷ノ浦町坪触	沓岐郡郷ノ浦町坪触
泉質	含塩化土類食塩泉 (Mg・(Ca)・Na-Cl温泉)	字中尾2019-2 マグネシウム・カルシウム-塩化物泉
採水年月日	S52.11.14	H3.8.28
外観	無色透明・塩味 苦味	微濁・無臭・苦味 無色
pH	7.2	7.3
泉温(気温)°C	30.6°C(18.5°C)	30.6°C(26.1°C)
湧出量 l/min		92 l/min(動力)
比重 20/4°C	1.0073	1.0063
蒸発残留物 g/kg	9.805	9.6348
H ⁺ mg/kg		
K ⁺ mg/kg	71.5	40.4 (Li ⁺)
Na ⁺ mg/kg	862.5	674.6 (0.3)
NH ₄ ⁺ mg/kg		1.6
Ca ²⁺ mg/kg	1112.0	952.5 (Sr ²⁺)
Mg ²⁺ mg/kg	972.3	781.2 (2.9)
Fe ²⁺ mg/kg	1.8(T)	(Zn ²⁺) 2.6 (Ba ²⁺)
Mn ²⁺ mg/kg	2.8	(1.2) 1.8 (1440)
Al ³⁺ mg/kg		
小計	3022.9	3899.1
Cl ⁻ mg/kg	5603	5018
Br ⁻ mg/kg	9.9	12.7
I ⁻ mg/kg	0.2	0.9
HSO ₄ ⁻ mg/kg		
SO ₄ ²⁻ mg/kg	704.7	525.2
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg		
HCO ₃ ⁻ mg/kg	128.1	103.1
CO ₃ ²⁻ mg/kg		
HSiO ₃ ⁻ mg/kg		
小計	6445.9	5659.9
通計	9468.8	9559.0
HAsO ₂ mg/kg		
H ₂ SiO ₃ mg/kg	71.4	66.5
H ₂ SO ₄ mg/kg		(HBO ₂)
H ₃ PO ₄ mg/kg		(3.9)
CO ₂ mg/kg	6.2	4.4
H ₂ S mg/kg		
総計	9546.4	9633.8
利用施設 又は依頼者	山本 礼子	山本 義人

男岳温泉分析結果

泉名	男岳温泉
湧出地	老岐郡芦辺町箱崎江 角触字江角1545
泉質	ナトリウム・カルシ ウム一塩化物強塩泉
採水年月日	H5.8.3
外観	無色・澄明・塩味・ 苦味・無臭
pH	6.3
泉温(気温)°C	65.0°C(25.0)°C
湧出量 l/min	測定不能(能力)
比重 20/4°C	1.0192
蒸発残留物 g/kg	24.52(180°C)
H ⁺ mg/kg	(Li)
K ⁺ mg/kg	199.2 (4.0)
Na ⁺ mg/kg	6347.0
NH ₄ ⁺ mg/kg	16.5
Ca ²⁺ mg/kg	1817.0
Mg ²⁺ mg/kg	620.1
Fe ²⁺ , Fe ³⁺ mg/kg	12.2 (Sr ²⁺)
Mn ²⁺ mg/kg	1.4 (49.1)
Al ³⁺ mg/kg	
小計	9066.5
Cl ⁻ mg/kg	14050.0
Br ⁻ mg/kg	42.6 (F ⁻)
I ⁻ mg/kg	0.3 (2.3)
HSO ₄ ⁻ mg/kg	
SO ₄ ²⁻ mg/kg	1240.0
H ₂ PO ₄ ⁻ mg/kg	
HCO ₃ ⁻ mg/kg	207.1
CO ₃ ²⁻ mg/kg	
HSiO ₃ ⁻ mg/kg	
小計	15542.3
通計	24608.8
HAsO ₂ mg/kg	
H ₂ SiO ₃ mg/kg	56.6 (HBO ₂)
H ₂ SO ₄ mg/kg	(8.3)
H ₃ PO ₄ mg/kg	
CO ₂ mg/kg	60.4
H ₂ S mg/kg	0.3
総計	24734.4
利用施設 又は依頼者	男岳温泉 山本 澄子

対馬の温泉

Only One Hot Spring in Tsushima Island

長崎県衛生公害研究所

山口道雄・吉村賢一郎・谷村義則・白井玄爾

長崎県厳原保健所

仁位敏明・山崎 清・吉川尚利

対馬の温泉

[Only One Hot Spring in Tsushima Island]

1995年（平成7年） 5月15日に対馬の中央部にある美津島町は同町難知の西高浜地区で温泉掘削に成功したと発表した。深さ1,000m, 泉温33℃, 湧出量130m³/日。

これまで対馬全島は5,000mにも及ぶ対州層群（2,000～3,000万年前の古第三紀漸新世）と呼ばれる水成岩が主体であり温泉の湧出は絶望視されていた。以下に掘削の経過を述べる。

1991年（平成3年） 美津島町では町の活性化を図る為に温泉の調査に着手した。松村町長は3月町議会の予算編成方針で「ランドサット衛星の資源探査画像による温泉源の調査委託料1,570万円」を計上し可決された。美津島町に温泉を開発し観光保養地として売出す構想であった。一尺下は真暗闇の温度掘削は億円単位の事業予算となり大冒険であった。以下に温泉開発の経過を示した。

温泉開発事業資料（美津島町企画管理課）

1. 総事業費 15,068.9万円

（調査・試掘事業 5,005.8万円, 本掘 1億63.1万円）

2. 事業の経過

1991年（平成3年度）温泉開発調査委託（アジア航測株式会社）

事業費 1,524.4万円

事業内容 ランドサットからの衛星画像判読・空中写真判読, 地化学探査（鉍石分析・地中水銀ガス濃度測定）

MT調査（電磁波による地下構造探査）

上記調査により重点調査地区を選定（5地区）

1992年（平成4年度）地質調査等委託（アジア航測株式会社）

事業費 545.9万円

事業内容 重点調査地区の中から最適候補地選定（西高浜地区に決定）

地化学探査・重力探査（MT調査の代替調査）

1993年（平成5年度）温泉試掘工事（株式会社 ニチポー長崎支店）

事業費 2,935.5万円

事業内容 試掘深度 500m

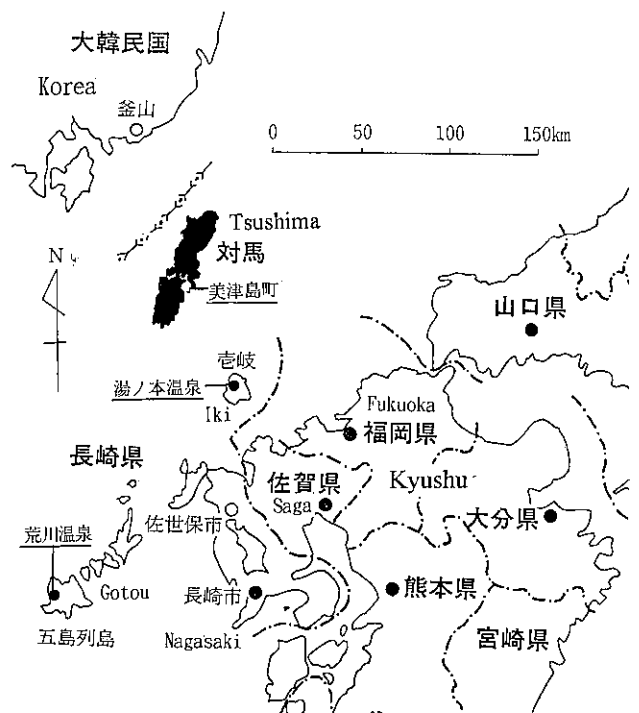
地質の状況	0.00～ 4.50	表土
	44.50～ 99.80	泥岩
	99.80～175.00	岩英斑岩
	175.00～219.50	砂岩・泥岩の互層
	219.50～388.00	石英斑岩
	388.00～500.00	砂岩・泥岩の互層

500m孔底温度 31.2℃ 温度上昇率 3℃/100m

1994年（平成6年度）温度掘削工事（本掘）

事業費 1億63.1万円

図36 対馬・美津島町の位置



事業内容 掘削深度 1,000m 最終孔明管口径 100mm
 1,000m低温度 44.4℃ 湧出温度 33.9℃
 揚湯試験結果 約90ℓ/分, 約130t/日
 温泉成分・アルカリ性単純温泉,
 効能・神経痛, リューマチ, 脳溢血のリハビリ,
 運動障害

3. 温泉利用計画

福祉健康センター等の福祉施設に利用するほか, 多方面への活用について検討中

1992年(平成4年) 12月の町議会で, 温泉探査委託料550万円の説明では第1次ランドサット等による温泉調査結果で難知周辺に4カ所の望みをつないだ場所があった。そのうちの1カ所を精密調査する。それは重力探査と断層を見つける為に地中水銀濃度探査を各50地点行うことであった。

この地点は将来, 温泉が湧出したら人々の利用しやすい所を考慮に入れた。

1993年(平成5年) 3月の町議会で, 「工事請負費に温泉試掘調査費2,000万円」が計上され可決された。更に6月町議会で次の説明がある。

「3月16日に温泉試掘調査の結果が出され, 現在1カ所に場所をしぼって7月1日付で県温泉審議会に掘削許可申請を出すことにしている。8月中旬に同審議会が開催されると9月中には県から許可が来るものと期待をしている」

温泉掘さく許可申請書

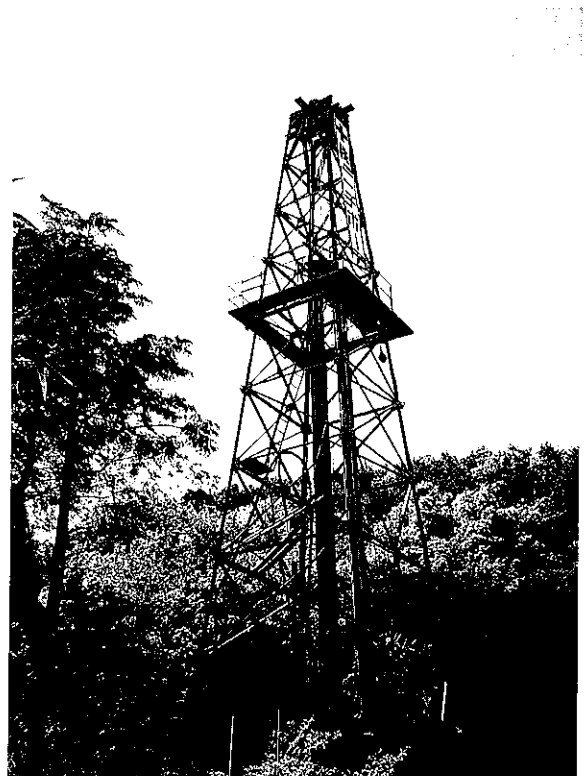
名称 美津島町役場
 所在地 下県郡美津島町大字難知550番地2
 代表者 松村良幸
 温泉利用の目的 住民の福祉, 健康増進のため
 掘削地 下県郡美津島町大字難知濱ノ原陽甲292番地1
 掘削口径 口元 311.2mm, 孔底 98.4mm, 深さ予定 1,500m,
 方法 ロータリー
 総工事費 1億6,120万円
 内訳
 ボーリング工事 1億300万円
 ケーシング工事 910万円
 各揚湯試験, 他 380万円
 仕上, 土木工事 300万円
 運搬, 仮設他 1,300万円
 現場管理, 一般管理 2,930万円
 合計 1億6,120万円
 平成5年7月1日 美津島町長

長崎県知事様

図37 温泉の掘削場所



写真75 温泉の掘削機



高さ25m (写真は何れも仁位敏明が撮影)

長崎県指令 5 自保第260号

平成 5 年 9 月 22 日 長崎県知事

住所 下県郡美津島町大字雑知甲550番地 2

氏名 美津島町長 松村 良幸

平成 5 年 7 月 1 日付で申請のあった下記の温泉掘削については温泉法第 3 条の規定により許可する。

記

掘削場所 下県郡美津島町大字雑知字濱ノ原陽甲292番地第 1

深度 1,500m, 口径 311.2mm~98.4mm

1994年(平成 6 年) 1 月の町議会で次の如く説明がある。

『温泉の試掘に関して平成 5 年の当初予算で 2,000 万円の議決をいただきました。その後、6 月議会等でも若干ふれましたが、予定どおり県の審議会等を通り試掘をしております。12 月には 300m の試掘が終わりましたが、今後どうすべきかの協議をいたしております。』

300m 試掘の時点で岩は石英斑岩が出ております。地中の温度が停止後 48 時間で約 27℃ であります。溢水量が毎分 30ℓ という報告であります。今回 950 万円の補正予算は後 200m の試掘を予定するものです。もちろん 200m の予定ですが、100m で終わる場合もあろうかと思えます。掘削がどういふふうにこれから変わるかといいますと、先ほど申し上げました石英斑岩で終わると温泉として出てきませんので、更に掘り下げ花崗岩に到達させたい考えであります。地上の今までのデータ等を見ますと、400m ぐらいで花崗岩が出るのではなかろうかという希望的な観測があります。そういう意味から現在 300m に、後 200m ぐらい掘る予算をお願いしました。

なお、花崗岩が出ると、花崗岩は熱源を多く含み、温度がかなり上がるようです。ただし、水分は少なくなります。その場合には、今掘っております 300m の途中では毎分 150ℓ 出る箇所もありますので試掘のデータを利用して水の確保をはかりながら、花崗岩に到達し、熱源を求めるといふ形になるそうです。従って、後 200m 分の補正をお願いして、3 月までには今掘っています 300m に追加して試掘を行い熱源の花崗岩に到達するような形にしていきたい予定です。

参考までに申し上げますと、大体あそこは 6m ぐらい掘った時点でもう水は溢水量は 150ℓ ぐらい出ましたし、72m 時点で大体 100ℓ ぐらい出ております。温度は、100m で 21℃、200m で 21.5℃、250m になり 23℃、300m で 27℃ という状況であります。なお、100m ぐらいまでは大体泥岩がつながっており、それから石英斑岩に移り 175m ぐらいまでは石英斑岩でしたが、更にその後 220m までは砂岩と泥岩の交互に交ざった地質です。220m から現在掘っております 300m までは石英斑岩になっています。』

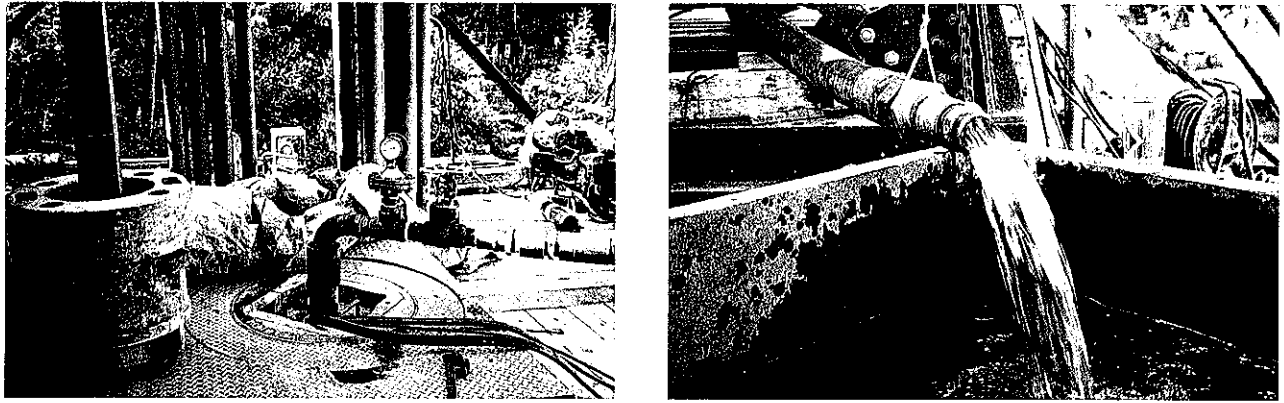
写真 76 掘削現場の様子



高さ 25m の檜の中に立つドリルパイプ



写真77 温泉水の湧出



33.4℃, 1日130㎡, アルカリ性単純温泉

美津島町温泉掘削工事作業経過

(株式会社 ニチボー長崎支店)

作業計画

当初計画は、設営作業26日、0m～10m掘削2日、8"ケーシング挿入2日、10m～450mまでエアハンマー掘削及びトリコンビット掘削で40日、(1日当たり11m) 6"ケーシング挿入2日、450m～1000m掘削50日(1日当たり11m)、検層1日、ケーシング挿入1日揚湯試験12日、解体作業15日、全作業延日数151日と計画した。

作業実績

設営作業開始 平成6年8月23日～9月13日まで(22日間)終了し、9月14日から掘削開始0m～5m着岩まで9 $\frac{5}{8}$ 吋トリコンビットで掘削、8"SGP(200A)ケーシング挿入、フルホールセメンチングを行い9月16日で終了した。

9月17日～9月21日まで(5日)エアハンマー掘削のため、コンプレッサーエア掘削ツールの準備作業等を終了し、9月22日からエアハンマー掘削10月30日(39日)深度172mまで掘削した。

172m間の掘削中、25m、46m、73m、100mで地下水に当り排水量(100ℓ/分)が多いため上水の処理が困難となり掘削出来ずセメンチング作業(止水)を実施しながら掘削を進めた。更に、掘削作業中近くの井戸がエアで濁りエアハンマー掘削を中止した。

172m掘削作業延日数 39日(1日当たりの掘削4.3m) 準掘削日数 11日(1日当たりの掘削15.2m)

付帯作業日数 28日

10月31日から7 $\frac{5}{8}$ 吋トリコンビットで掘削開始1月8日まで(70日間)深度366mまで掘削した。延日数139日となった。

194m掘削作業延日数 70日(1日当たり掘削2.8m) 準掘削日数 50日(1日当たりの掘削3.9m)

付帯作業日数 20日

深度366mから7 $\frac{5}{8}$ 吋トリコンビットにて掘削継続した。深度172～215m(45m間)は、やや軟質であった。210mで10ℓ/分の逸水、215～385mまで硬質岩(石英斑岩)のため掘削速度の低下、トリコンビットの磨耗が激しく掘削に時間を要した。深度388m付近より石英斑岩～砂岩・泥岩互層に変わる。

深度366m～388mまでの掘削日数は(1月9日～1月14日)6日間であった。22m掘削延日数 6日 1日当たりの掘削率は3.7m硬質岩で時間を要した。

深度388mから砂岩・泥岩の互層の岩質に変わり、やや軟質となる。

平成7年1月15日～1月24日まで深度461.5mまで掘削する。管尻セメンチングを行った。73.5m掘削延日数 10日

(株)ニチボー長崎支店、西彼杵郡多良見町化屋名1840。

1日当たりの掘削は7.4mとよくなった。1月25日より6吋ケーシング挿入のため、6¼吋ドリルカラー等の切倒し作業を行い深度461mまでケーシング挿入、セメンチング実施2月4日に終了する。

2月6日より5⅝吋掘削準備作業を行い2月9日から掘削開始する。

2月9日～2月22日まで深度581m順調に掘削した。119.5m掘削延日数 14日 1日当たりの掘削は8.5mであった。
エンジントラブル発生修理（ベアリング破損）

2月27日掘削再開、3月18日深夜766mまで順調に掘削する。705～708mで7ℓ/分の逸水が発生した。深度766m付近より岩質が花崗岩に変わる（花崗岩着）。この時点で対州層群を突抜けたと考えた。185m掘削延日数 20日 1日当たりの掘削は9.3mであった。花崗岩着において割目に当たり毎分8ℓの逸水が発生した。766～780m（14m間）はやゝ軟質であった。

花崗岩層掘削

3月19日～3月26日まで深度814mまで掘削する。48m掘削延日数 8日 1日当たりの掘削は6mと低下した。3月26日までの（延日数216日）実績経過である。掘削継続し予定深度1,001mに達し、電気、温度検層を行った。4吋ケーシングを挿入して仕上げた。

表34 坑底温度検層

深 さ (m)	温 度 (°C)	深 さ (m)	温 度 (°C)
0	11.9	500	31.7
50	22.2	600	33.9
100	23.2	700	36.2
200	25.2	800	38.0
300	27.4	900	40.3
400	29.6	1,000	43.5

(1,000mの掘削終了は平成7年4月23日)

揚湯試験

5月13日～16日、一定量90ℓ/分で48時間の連続揚湯を行い、揚湯に伴う水位低下の状況と安定水位を確認した。

揚湯量 90ℓ/分, 130m³/日

自然水位 地表面, 最終水位 416.9m

温泉水温 33°C

水中ポンプ：位置深さ450m, 18.5KW (440V), 吐出量220ℓ/分, 全揚程470m

揚湯管：2⅞吋 内径 (54.64mm), 450m

揚湯ポンプ停止後約23時間で深さ417mから地表面まで温泉水は上昇して来た。その後は6ℓ/分で自然湧出となった。

温泉の熱源

対州層群の下にあった花崗岩は高温のマグマから派生して来たものであり、断層をマグマが上昇中に固まったものである。表層にある花崗岩は冷えているが地下深所にある花崗岩は温度を当温泉の様に保っている場合がある。

当地域には雲仙岳の様な火山はないので温泉を分類する場合には非火山性の温泉といわれる。現在噴火中の雲仙岳は地下の高温のマグマが直接湧き出しているので山麓の温泉は火山性の温泉といわれる。しかし何れにしても温泉の熱源は高温のマグマに由来する。

温泉水が湧出する為には熱源と地下水の湧出が必要である。熱源があっても地下水量が僅かであれば温泉は湧出しな

い。当温泉は幸にして両者が適合した成功例となった。地底温度が100℃以上あり、地下水の湧出が少なければ蒸気が噴出する。この例は小浜温泉で通産省の地熱開発促進調査が行われた時に同温泉の山嶺上調査坑（深さ1,000m、温度363℃）で見られた。

温泉分析結果

湧出地 下県郡美津島町大字雑知甲292番地1

氏名 美津島町長 松村良幸

分析年月日 1995年（平成7年）5月15日

泉質 アルカリ性単純温泉（低張性低温泉）

泉温 33.4℃（気温16.2℃），湧出量 90ℓ/分（動力揚温，水中ポンプ深さ450m，22KW）

削井の深さ 1,000m，口径（底）10cm～（表）31cm。

性状 pH 9.7（24.0℃），無色透明，微硫黄臭，無味

ラドン（Rn） 8.73×10^{-10} Ci/kg（2.41M・E）

密度 0.9984（20℃），RpH 9.2（21℃）

蒸発残留物 0.11 g/kg

成分（試料1kg中に含有する成分および含量）

陽イオン	mg	ミリバル	ミリバル%
ナトリウムイオン（Na ⁺ ）	32.1	1.40	90.91
カルシウムイオン（Ca ²⁺ ）	1.6	0.08	5.19
鉄イオン（Fe ²⁺ ）	0.5	0.02	1.30
アルミニウムイオン（Al ³⁺ ）	0.4	0.04	2.00
小計	34.6	1.54	100.00
陰イオン	mg	ミリバル	ミリバル%
フッ素イオン（F ⁻ ）	4.7	0.25	11.85
塩素イオン（Cl ⁻ ）	12	0.34	16.11
硫化水素イオン（HS ⁻ ）	1.0	0.03	1.42
硫酸イオン（SO ₄ ²⁻ ）	6	0.12	5.69
炭酸水素イオン（HCO ₃ ⁻ ）	29	0.48	22.75
炭酸イオン（CO ₃ ²⁻ ）	15	0.50	23.70
メタケイ酸イオン（HSiO ₃ ⁻ ）	30	0.39	18.48
小計	97.8	2.11	100.00

遊離成分

二酸化炭素（CO₂）0.1mg未満，硫化水素（H₂S）0.1mg未満

成分合計 0.13 g

分析者 財団法人 九州環境管理協会（福岡市）

アルカリ性単純温泉の効能*

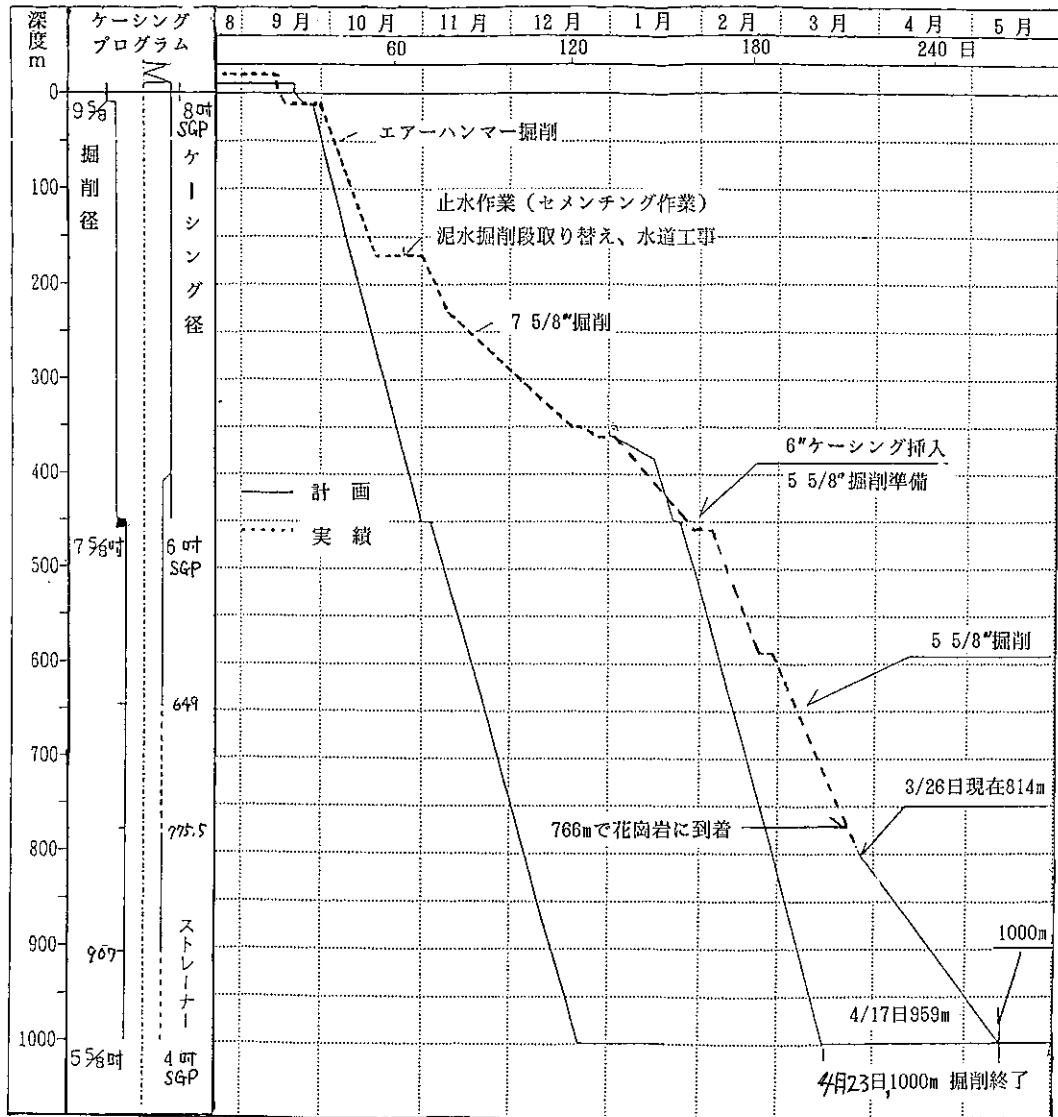
単純温泉とは、温泉水が常に25℃以上であり、遊離炭酸(CO₂)及び溶存物質が1g/kg未満のものをいう。また、pH 8.5以上の単純温泉をアルカリ性単純温泉という。美津島町の温泉はこれに該当する。

全国的に見ると単純温泉数は最も多い。本県では須川、深江、千々石、新魚目、郷ノ浦温泉がこれに該当する。

単純温泉は含有成分が少ない為に温泉成分による効果は期待出来ない。従ってその効果は温度作用と水作用である。温泉の肌合は穏かで柔かい。

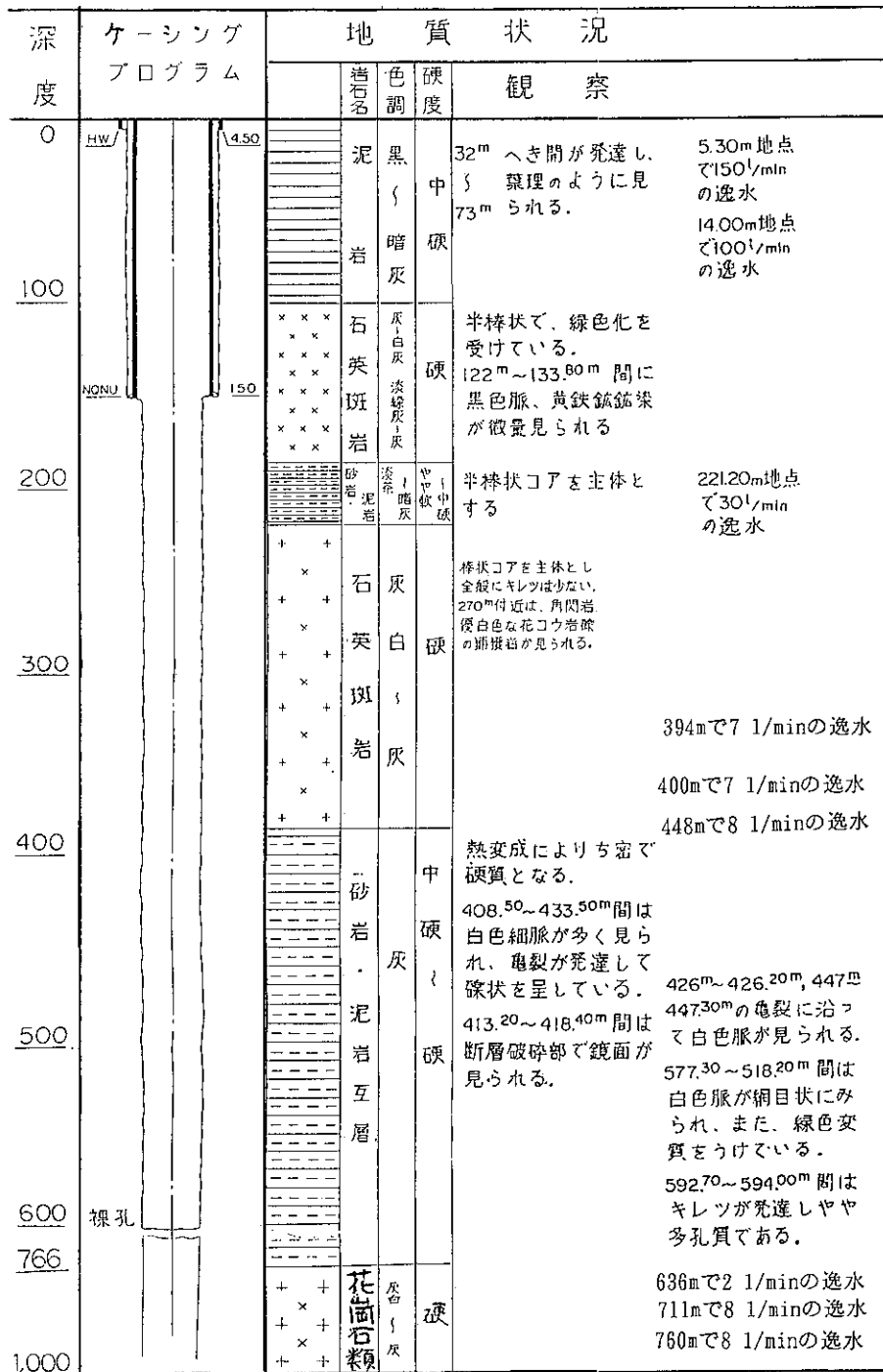
生理的には34~36℃の不感温度の微温泉は鎮静的に作用する。そして、血圧、呼吸数、脈拍数についても変化を与え40~45℃の高温泉は慢性リュウマチ、神経痛の疼痛に対して鎮痛作用の外に、一般的には興奮作用のため発汗、血行の活発化、新陳代謝を亢進させて疲労回復に効果がある。但し急性のリュウマチ、神経痛に高温泉は増悪となることが多いので注意を要する。浴用の適応性としてはリュウマチ、神経痛、骨及び関節等の運動障害、外傷性障害の後治療、疲労回復である。37℃前後の微温浴では神経症、脳溢血の後治療、不眠症、動脈硬化等である。

図36 美津島町温泉掘削工事工程表



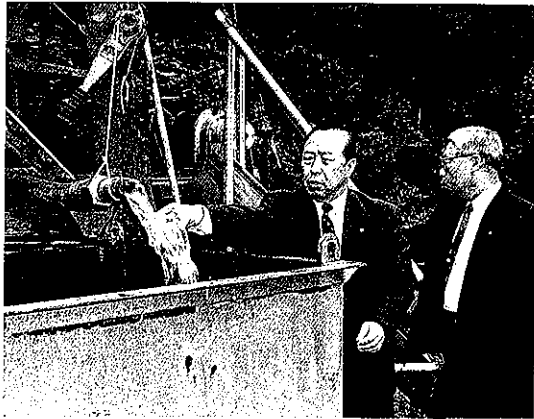
* 山口, 仁位, 他: 雲仙・小浜温泉誌, 29p, 小浜町発行, 1989年(平成元年)

図37 源泉の地質柱状図



1995. 5. 16 長崎新聞

美津島町が掘削成功



美津島町が掘削に成功した温泉
＝対馬美津島町難知＝

温泉だ

対馬で初めて

【対馬】対馬美津島町は十五日、同町難知の西高浜地区で温泉掘削に成功したと発表した。ゆう出温度は三三度。対馬で温泉が出たのは初めてで、島民の保養や滞在型の観光開発に期待がかかる。

島民保養や観光開発に期待

掘削に取り掛かり、四月二十四日、深さ千円で源泉を掘り当てた。ゆう出量は一日百三十リットルで、かすかな硫黄臭がある。成分は財団法人九州環境管理協会（福岡市）に分析を依頼する。総事業費は一億四千五百万円。

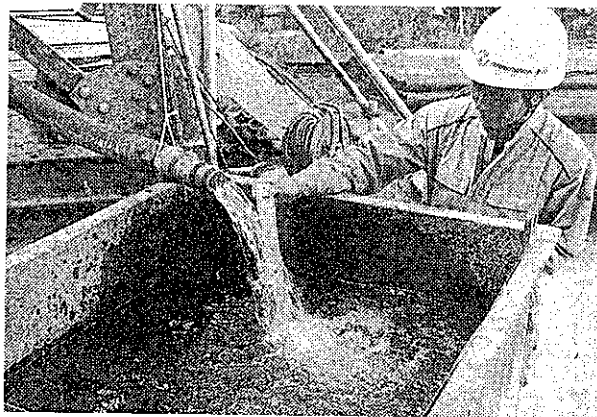
松村良幸町長は「二次産業と観光の融合した街づくりのための基盤整備に弾みがつきそう。今後の利用方法として老人福祉センターなどの施設建設の準備を進めているほか、民間資本や第三セクターによるクアハウスなどの構想も考えられる」と話している。

1995. 5. 16 朝日新聞

観光・福祉に活用のお場

温泉がわき出たぞ

対馬・美津島町



日量130トン、地下1000メートルから

対馬・美津島町で温泉がわき出たと、同町が十五日発表した。これまで、対馬は火山帯が通って来らず、温泉の湧出（ゆきしゅつ）はありえないとされていた。一九九一年からの調査が実り、定説を破つての温泉湧出の朗報だ。観光に福祉に活用のお場は多く、関係者は「これで、島の活性化が図れる」と期待を膨らませている。

島活性化に膨らむ期待

温泉が湧出したのは、美津島町の中でも、海に近い西高浜地区。同地区は、九一年に同町が温泉開発のため、東京の業者に依頼して人工衛星の画像による地質調査を行った。対馬で初めてわき出した温泉

の判断などの調査で、町内で最も温泉湧出の可能性が高いとされていた。

九三年、福岡市内の業者に依頼して温泉試験を始めた。地下五〇〇メートルまで掘り下げた時の地底部の水温が三一・二度あり、温泉湧出の期待が持たれた。

九四年八月に試験を再開。地下一〇〇〇メートルまで掘り下げたところ、底部の水温は四四・四度にまで上がった。これを地上までくみ上げると、約三四度になる。十五日現在、毎分約九十リットル、日量で約百三十リットルがわき出ている。温泉の成分は、現在専門機関で分析中で、約二週間後に結果が出るという。

同町の松村良幸町長は「試験に際しては、近隣の方々にはご迷惑をおかけしました。福祉センター、老人センターのデイサービスなどに利用したい。そして、観光産業の活性化のため、この温泉を使った滞在型の施設建設も考えていきたい」と話している。

附 属 資 料

[Appendix]

I 勝本町税賦課徴収条例（入湯税）〔Katsumoto-cho Bath Tax〕

入湯税の納税義務者等

第116条 入湯税は、鉱泉浴場における入湯に対し入湯客に課する。

入湯税の課税免除

第117条 左に掲げる者に対しては入湯税を課さない。

- 1 年令12才未満の者
- 2 共同浴場又は公衆浴場に入湯する者

入湯税の税率

第118条 入湯税の税率は入湯客一人一泊について150円とする。

- 2 修学旅行を目的とする学生、生徒の団体の入湯客に課する入湯税の税率は一人一泊について20円とする。

入湯税の徴収の方法

第119条 入湯税は特別徴収の方法によって徴収する。

入湯税の特別徴収の手続

第120条 入湯税の特別徴収義務者は、鉱泉浴場の経営者とする。

- 2 前項の特別徴収義務者は、当該鉱泉浴場における入湯客が納付すべき入湯税を徴収しなければならない。
- 3 第1項の特別徴収義務者は、毎月10日までに毎月1日から同月末日までに徴収すべき入湯税に係る課税標準額、税額その他必要な事項を記載した納入申告書を町長に提出し及びその納入金を納入書によって納入しなければならない。

入湯税にかかる不足金額の納入の手続

第121条 入湯税の特別徴収義務者は、法第701条の10、第701条の12又は第701条の13の規定に基く納入の告知を受けた場合においては、当該不足金額又は過少申告加算金額、不申告加算金額若しくは、重加算金額を当該通知書に指定する期限までに納入書によって納入しなければならない。

入湯税に係る特別徴収義務者の経営申告

第122条 鉱泉浴場を営もうとする者は、経営開始の日の前日までに左に掲げる事項を町長に申告しなければならない。申告した事項に異動があった場合においては、直ちにその旨を申告しなければならない。

- 1 住所及び氏名又は名称
- 2 鉱泉浴場施設の所在地
- 3 前各号に掲げるものを除く外、町長において必要と認める事項

入湯税の特別徴収義務者に係る帳簿の記載義務等

第123条 入湯税の特別徴収義務者は、毎日の入湯客数、入湯料金及び入湯税額を帳簿に記載しなければならない。

- 2 前項の帳簿はその記載した日から1年間これを保存しなければならない。

入湯税の特別徴収義務者に係る帳簿記載の義務違反等に関する罪

第124条 前条第1項の規定によって、帳簿に記載すべき事項について正当な事由がなく記載せず、若しくは虚偽の記載をした場合又は同条第2項の規定によって保存すべき帳簿を1年間保存しなかった場合においては、その者に対し3万円以下の罰金刑を科する。

- 2 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者がその法人又は人の業務に関して、前項の違反行為をした場合においては、その行為者を罰する外、その法人又は人に対し同項の罰金刑を科する。

附 則

- 1 この条件は、公布の日から施行し昭和37年度分の町税から適用する。
- 4 勝本町々税賦課徴収条例（昭和30年勝本町条例第4号）は廃止する。

II 長崎県温泉審議会委員名簿〔Nominal List of Nagasaki Prefectural Concil Members for Hot Spring〕

担当 熊野 眞佐代

第1回 昭和24年3月28日、小浜町会議場

会長・登本 喜壽一（製塩業、業者側委員）

草野 禎（長崎県衛生部長、官庁側）

塩塚 重蔵（長崎県土木部長、官庁側）

本多 武夫（長崎県経済部長、官庁側）

馬渡 謙蔵（小浜町長）

斉藤 大助（通産省、S24年8月20日山地八郎へ変更）

松下 久道（九州大学理学部教授、学識経験者）

川上 登喜二（長崎大学薬学部長、学識経験者）

加藤 元和（雲仙湯元、業者側委員）

林田 末三（製塩組合長、業者側委員）

木村 澤治（一角楼、業者側委員）

山口 亮一（清川荘、業者側委員）

山上 依網（旅館湯屋、業者側委員）

第2回 昭和25年1月7日、小浜町

登本 喜壽一

草野 禎

塩塚 重蔵

馬渡 謙蔵

川上 登喜二

林田 末三

木村 澤治

山口 亮一

第3回 昭和25年4月21日、島原市 九十九ホテル

登本 喜壽一

草野 禎

馬渡 謙蔵

川上 登喜二

松下 久道

本多 武夫

山地 八郎（商工事務官）

林田 末三

加藤 元和（湯元旅館）

木村 澤治（一角楼）

山口 亮一（清水荘）

第4回 昭和25年8月8日、小浜町 春陽館

登本 喜壽一（小浜町町会議長）

草野 禎（長崎県衛生部長）

馬渡 謙蔵（小浜町長）

高城 元（福岡通産局長）

松下 久道

川上 登喜二（長崎大学薬学部、代理秋山恒雄）

加藤 元和

林田 末三

木村 澤治

山口 亮一

山上 依網

石川鉄弥・長崎県専門委員出席，小浜温泉の製塩による温泉枯渇問題で。

第5回 昭和25年10月17日、小浜町 清川荘

第6回 昭和26年1月24日、小浜町 一角楼

登本 喜壽一

草野 禎

馬渡 謙蔵

林田 末三

木村 澤二

山口 亮一

加藤 元和

武田 邦雄（通産局代理）

第7回 昭和26年7月10日

草野 禎

登本 喜壽一

林田 末三

木村 澤治

山口 亮一

第8回 昭和26年11月27日、小浜町 一角楼

登本 喜壽一

馬渡 謙蔵

林田 末三

山口 亮一

高城 元

塩塚 重蔵

一瀬 忠行

加藤 元和

第9回 昭和27年2月19日、春陽館

石田 次

倉成 正

第10回 昭和27年10月15日、一角楼

堀田 正隆

登本 喜壽一

一瀬 忠行

山口 亮一

馬渡 謙蔵

木村 澤治

第15回 昭和30年10月17日、書類審査

松下 久道

一瀬 忠行

山上 依綱

第16回 昭和30年11月11日、長崎県庁 自由党議員控室

佐藤 勝也(長崎県副知事)

第11回 昭和28年11月11日付、書類審査

一瀬 忠行(

小溝 (代理長谷川)

第12回 昭和29年3月12日、県庁3階会議室

堀田 正隆(商工部長)(代理大野長崎県観光課長)

山口 亮一

高取 治輔(新任 長崎大学学部長)

倉成 正(長崎県企画室次長)

馬渡 謙蔵

一瀬 忠行(長崎県衛生部長)

本多大一

松下 久道

林田 末三

岩本 健一郎

七條 達夫(新任 九州ホテル)

小澤 樹夫

山口 亮一

馬渡 謙蔵

第17回 昭和30年12月23日、長崎県庁 衛生部長室

本多大一

一瀬 忠行(長崎県衛生部長)

望月 健太郎(通産局)

高取 治輔

石田 次

岩本 健一郎

林田 末三

馬渡 謙蔵

都野 技師(商工部長代理)

山口 亮一

第13回 昭和29年11月16日、小浜町 春陽館

七條 達夫

一瀬 忠行(長崎県衛生部長)

水産商工部長代理(大野)

倉成 正(長崎県企画室次長)

企画室長代理(中野)

堀田 正隆(長崎県商工部長)

企画室長 山元 精吉(創成のあと)

松下 久道

水産商工部長 山本 三郎(堀田のあと)

小澤 樹夫

第18回 昭和31年3月12日付、答申のみ

馬渡 謙蔵

松下 久道

岩本 健一郎

高取 治輔

本多大一

馬渡 謙蔵

石田 次

岩本 健一郎

山口 亮一

山口 亮一

第14回 昭和30年8月19日、書類審査

七條 達夫

本多大一

山元 精吉(長崎県企画室長)

岩本 健一郎

山本 三郎(長崎県商工部長)

松下 久道

一瀬 忠行(長崎県衛生部長)

林田 末三

清川

第19回 昭和31年9月19日付、書類審査

蟹江良長(福岡通産局)
 河野寔敏(企画室長)
 一瀬忠行(衛生部長)
 松下久道
 高取治輔
 山本三郎(水産商工部長)
 馬場謙蔵(県議)
 岩本健一郎
 山口亮一(小浜旅館業)
 七條達夫(雲仙旅館業)

第20回 昭和31年10月29日、長崎市 精洋亭

松下久道
 高取治輔
 蟹江良長
 山本三郎
 山口亮一
 七條達夫
 山元精吉(代理菜川)

臨時委員(温泉熱利用の製塩問題で)

池田辰己(小浜町製塩業、料理屋業)
 宅島満寿美
 小高国雄
 草野三郎
 鈴木謙一

昭和32年4月

一瀬忠行
 蟹江良長
 河野寔敏
 山本三郎
 松下久道
 高取治輔
 岩本健一郎
 山口亮一
 七條達夫

第21回 昭和32年4月1日付、書類審査

9名中8名賛成、1回答なし

第22回 昭和32年5月22日付、書類審査

第23回 昭和33年2月17日、小浜保健所

衛生部長代理(馬場課長)
 松下久道

高取治輔

通産局鉦山部長代理(清水谷)

長崎県水産商工部長代理(梁瀬兆世観光貿易課長)

長崎県企画部長代理(山口忠夫)

桑原忠夫

山口亮一

臨時委員(温泉熱利用の製塩問題で)

小高国雄(小浜町議会代表)

鈴木謙一(日本専売公社肥前小浜出張所長)

草野三郎(小浜温泉地区観光代表)

宅島満寿美(製塩業)

池田辰己(料理屋業)

第24回 昭和33年9月30日、雲仙 旅館一ノ谷

福田千代太(長崎県衛生部長)

長崎県企画部長(代理山口主事)

水産商工部長(代理観光貿易課長)

松下久道

高取治輔

七條達夫

山口亮一

臨時委員(温泉熱利用の製塩問題で)

池田辰己

宅島満寿美

小高国雄

草野三郎

第25回 昭和33年11月 書類審査

七條達夫

岩本健一郎

松下久道

高取治輔

山口亮一

蟹江良長

福田千代太(長崎県衛生部長)

河野寔敏

山崎寛二

企画室長代理(高平)

第26回 昭和34年1月31日付、書類審査

入浜(長崎県企画室長)

水産商工部長

山口亮一

高取治輔

蟹江良長
岩本健一郎
七條達夫
松下久道
福田千代太
山崎寛二

第27回 昭和34年7月24日 午前11時小浜保健所、午後

2時20分雲仙 よろずや旅館

福田千代太
河野寔敏
長崎県企画長（代理山領参事補佐）
山崎寛二

水産商工部長

松下久道（小浜には欠席）
高取治輔
吉川恭三（京大理学部小浜には欠席）
池田辰己（県議会議員）
本多大一（小浜町長）
中村達
小西良一
山口亮一（小浜旅館業組合長）
七條達夫（雲仙旅館組合長）
中島義雄（日本交通公社 長崎案内所長）

第28回 昭和35年1月20日付、書類審査

山口亮一
七條達夫
本多大一
池田辰己
松下久道
吉川恭三
高取治輔
小西良一
中村達
中島義雄
小川孝
蟹江良長
福田千代太
橋本圭二

第29回 昭和35年5月30日、島原市 九十九ホテル

山口亮一（任命S34. 7. 3）
小西良一（任命S34. 7. 3）

七條達夫（任命S34. 7. 3）
中島義雄（任命S34. 7. 3）
松下久道（任命S34. 7. 3）
中野剛（任命S35. 4. 1）
高畠英伍（任命S35. 5. 14）
松本光之（任命S35. 4. 20）
吉川恭三（任命S34. 7. 3）
小川孝（任命S34. 11. 7）
本多大一（任命S34. 7. 3）
池田辰己（任命S34. 7. 3）
中村達（任命S34. 7. 3）
福田千代太（任命S33. 3. 7）

第30回 昭和35年9月、書類審査

池田辰己
山口亮一
中島義雄
本多大一
吉川恭三
中村達
七條達夫
小川孝
小西良一
高畠英伍
松本光之
福田千代太
松下久道
橋本圭二

第31回 昭和36年4月19日付、書類審査

中島義雄
池田辰己
中村達
松下久道
中野剛
小川孝
小西良一
七條達夫
高畠英伍
吉川恭三

第32回 昭和36年6月15日、雲仙 宮崎旅館

福田千代太
松下久道

池田辰己
高島英伍
菜川普照
中島義雄
本多大一(代理森本)
県企画室長中野

第33回 昭和36年10月10日付、書類審査

松下久道
山口亮一
本多大一
池田辰己
小西良一
七條達夫
中村達
高島英伍
中野剛
吉川恭三
樋口次郎
福田千代太
采川普照
小川孝

第34回 昭和36年12月7日付、書類審査

山口亮一
本多大一
池田辰己
吉川恭三
七條達夫
小西良一
中野剛
中村達
高島英伍
松下久道
小川孝
菜川普照
福田千代太
小川孝(商工部長)
福田千代太(衛生部長)

第35回 昭和37年3月8日(長崎県ユースホステル)

山口亮一(小浜旅館業組合長)
七條達夫(雲仙旅館業組合長)
松下久道(九大理学部教授)

高島英伍(長大薬学部教授)
吉川恭三(京大理学部講師)
本多大一(小浜町長)
池田辰己(県議)
中村達(弁護士)
小西良一(医師)
中島義雄(日本交通公社、長崎案内所長)
中野剛(福岡通産局鉱山部長)
草川並昭(企画室長)

第36回 昭和37年10月10日、長崎市 銀嶺

福田千代太
七條達夫
松下久道
吉川恭三
本多大一
池田辰己
森田三重
岩野稔
菜川普照
小川孝

第37回 昭和37年11月20日付、(書類審査)

第38回 昭和38年5月6日

島原市 秩父ヶ浦九十九ホテル

福田千代太
松下久道
中沢與四郎
吉川恭三
小西良一
本多大一
岩野稔
森田三重
七條達夫
西村(商工部長代理)

第39回 昭和38年9月25日付、書類審査

第40回 昭和38年12月16日付、書類審査

第41回 昭和39年1月17日付、書類審査

第42回 昭和39年3月30日付、県庁4階委員会室

松下久道
中沢與四郎
池田辰己

- 森田三重
七條達夫
岩野稔
本多大一
小西良一
吉川恭三
福田千代太（長崎県衛生部長・審議会々長）
- 第43回 昭和39年5月27日、長崎市
昭和39年5月20日現在
松下久道（九州大学理学部教授）
中沢興四郎（長崎大学医学部教授）
高嶋英伍（長崎大学薬学部教授）
吉川恭三（京都大学理学部助教授）
池田辰己（県会議員）
小西良一（県会議員）
本多大一（小浜町長）
岩野稔（弁護士）
森田三重
七條達夫（雲仙旅館業組合長）
高比良博（長崎県企画室長）
福富庄三郎（長崎県商工部長）
福田千代太（長崎県衛生部長）
- 第44回 昭和39年7月6日、島原市 九十九ホテル
委員名不明
- 第45回 昭和39年11月13日、長崎市 ユースホステル
- 第46回 昭和39年12月26日付、書類審査
- 第47回 昭和40年5月28日、長崎県ユースホステル
- 第48回 昭和40年11月25日、島原市下川尻 海望荘
昭和40年10月15日現在名簿
松下久道
高嶋英伍
吉川恭三（京都大学理学部助教授）
池田辰己
前田豊司（県議会議員）
松尾徳義（島原市長）
本多大一（小浜町長）
岩本健一郎（弁護士）
七條達夫（雲仙旅館業組合長）
高木末人（小浜旅館業組合長）
田代一誠（福岡通産局鉱山部長）
高比良博（長崎県企画部長）
- 福富庄三郎（長崎県商工部長）
福田千代太（長崎県衛生部長）
- 第49回 昭和41年2月22日、長崎市 ユースホステル
- 第50回 昭和41年7月5日、長崎市 グランドホテル
松下久道
高嶋英伍
吉川恭三（京都大学理学部助教授）
池田辰己（県会議員）
前田豊司（県会議員）
松尾徳義（島原市長）
本多大一（小浜町長）
岩本健一郎（弁護士）
七條達夫（雲仙旅館業組合長）
高木末人（小浜旅館業組合長）
田代一誠（通産局鉱山部長）
高比良博（県企画部長）
ト部壮一（県商工部長）
福田千代太（県衛生部長）
- 第51回 昭和41年11月22日、町宮小浜温泉保養館
望洋荘
- 第52回 昭和42年5月22日、長崎県漁協会館
- 第53回 昭和42年10月13日、県庁二階会議室
- 第54回 昭和43年5月21日、長崎市 グランドホテル
- 第55回 昭和43年11月12日、長崎市 グランドホテル
- 第56回 昭和44年3月14日、長崎市 グランドホテル
- 第57回 昭和44年10月14日、長崎市 グランドホテル
松下久道
高嶋英伍
吉川恭三（京都大学理学部助教授）
入井村太（県議会議員）
松尾徳義（島原市長）
本多大一（小浜町長）
七條達夫（雲仙旅館業組合長）
高木末人（小浜旅館業組合長）
高橋諒（福岡通産局鉱山部長）
渡辺宗人（県企画部長）
高比良博（県商工部長）
福田千代太（県衛生部長）
- 第58回 昭和45年3月11日、長崎市 ハイツホテル
松下久道
高嶋英伍

吉川 恭三
 入井 村太
 本多 大一 (小浜町長)
 松尾 徳義 (島原市長)
 七条 達夫 (雲仙旅館業組合長)
 高木 末人 (小浜旅館業組合長)
 高橋 諒 (福岡通産局鉱山部長)
 渡辺 宗人 (県企画部長)
 高比良 博 (県商工部長)
 福田 千代太 (県衛生部長)

第59回 昭和45年6月15日、長崎市 グランドホテル

松下 久道
 高島 英伍
 吉川 恭三
 入井 村太 (県会議員)
 本多 大一 (県会議員)
 松尾 徳義 (島原市長)
 桑戸 昌丸 (小浜町長)
 藤田 友一 (玉ノ浦町長)
 白川 宇一 (勝本町長)
 七条 達夫
 高木 末人
 高橋 諒 (通産局鉱山部長)
 本田 千代松 (県企画部長)
 山近 寛 (県商工部長)
 岡崎 正太郎 (県衛生部長)

第60回 昭和45年12月3日、長崎 グランドホテル

第61回 昭和46年7月28日、雲仙 九州ホテル

松下 久道
 高島 英伍
 吉川 恭三 (京都大学理学部助教授)
 入井 村太
 本多 大一
 松尾 徳義
 桑戸 昌丸
 白川 宇一
 七条 達夫
 高木 末人
 本田 千代松 (県企画部長)
 渡辺 宗人 (県経済労働部長)
 岡崎 正太郎 (県衛生部長)

第62回 昭和47年2月14日、島原市 南風楼

第63回 昭和47年8月4日、環境保全局

長崎市 グランドホテル

松下 久道 (九州大学理学部教授)
 吉川 恭三 (京都大学理学部教授)
 杉井 通泰 (長崎大学薬学部教授)
 入井 村太 (県会議員)
 本多 大一 (県会議員)
 松尾 徳義 (島原市長)
 桑戸 昌丸 (小浜町長)
 白川 宇一 (勝本町長)
 坂江 忠二 (玉之浦町長)
 七条 達夫 (雲仙旅館業組合長)
 高木 末人 (小浜旅館業組合長)
 村中 茂夫 (島原旅館業組合長)
 本田 千代松 (県企画部長)
 渡辺 宗人 (県経済労働部長)
 鴛 淵 茂 (県保健部長)

第64回 昭和48年3月20日、長崎市 秀明館

会長・本多 大一 (県会議員)
 松下 久道 (九州大学名誉教授)
 吉川 恭三 (京都大学理学部教授)
 杉井 通泰 (長崎大学薬学部教授)
 入井 村太 (県議会議員)
 宮崎 忠夫 (島原市長)
 桑戸 昌丸 (小浜町長)
 白川 宇一 (勝本町長)
 坂江 忠二 (玉之浦町長)
 七条 達夫 (雲仙旅館業組合長)
 高木 末人 (小浜旅館業組合長)
 村中 茂夫 (島原旅館業組合長)
 鴛 淵 茂 (県保健部長)
 荒木 大麓 (県企画部長)
 渡辺 宗人 (県経済労働部長)

第65回 昭和48年11月20日、長崎市 グランドホテル

本多 大一
 松下 久道
 吉川 恭三
 杉井 通泰
 入江 村太
 宮崎 忠夫

桑戸昌丸	第68回 昭和51年2月17日、長崎市	グランドホテル
原田 薫 (勝本町長)	第69回 昭和52年8月31日、長崎市	グランドホテル
坂江忠二 (玉之浦町長)	会長・本 多 大 一	発令49. 10. 15
七条達夫	松 下 久 道	49. 10. 15
高木末人	吉 川 恭 三	49. 10. 15
村中茂夫	杉 井 通 泰	50. 6. 2
荒木大麓	桑 原 信 一 (県会議員)	49. 10. 15
渡辺宗人	宮 崎 忠 夫	51. 2. 5
鴛 洵 茂	桑 戸 昌 丸	49. 10. 15
第66回 昭和49年8月29日、長崎市	原 田 薫	51. 11. 15
グランドホテル	坂 江 忠 二	49. 10. 15
本 多 大 一	七 条 達 夫	49. 10. 15
松 下 久 道	高 木 末 人	49. 10. 15
吉 川 恭 三	村 中 茂 夫	49. 10. 15
杉 井 通 泰	原 田 諄 (県環境部長)	51. 4. 1
入 井 村 太	柴 田 芳 男 (県経済部長)	52. 1. 1
宮 崎 忠 夫	加 藤 智 一 (県保健部長)	51. 7. 21
桑 戸 昌 丸		
原 田 薫		
坂 江 忠 二		
七 条 達 夫	昭和52年10月15日現在	
高 木 末 人	会長 本 多 大 一	発令52. 10. 15
村 中 茂 夫	委員 松 下 久 道 (九州大学名誉教授)	52. 10. 15
佐 藤 達 夫 (県環境部長)	吉 川 恭 三 (京都大学理学部教授)	52. 10. 15
松 園 嘉 定 (県経済部長)	杉 井 通 泰 (長崎大学薬学部教授)	50. 6. 2
小 川 良 治 (県保健部長)	宇 宿 マサ子 (県議会議員)	52. 10. 15
第67回 昭和50年7月25日、長崎市	宮 崎 忠 夫 (島原市長)	51. 2. 5
ハイツホテル	桑 戸 昌 丸 (小浜町長)	52. 10. 15
本 多 大 一	原 田 薫 (勝本町長)	51. 11. 15
松 下 久 道	坂 江 忠 二 (玉之浦町長)	52. 10. 15
吉 川 恭 三	七 条 達 夫 (雲仙旅館業組合長)	52. 10. 15
杉 井 通 泰	高 木 末 人 (小浜旅館業組合長)	52. 10. 15
桑 原 信 一 (県議会議員)	村 中 茂 夫 (島原旅館業組合長)	52. 10. 15
宮 崎 忠 夫	原 田 諄 (県環境部長)	51. 4. 1
桑 戸 昌 丸	柴 田 芳 男 (県経済部長)	52. 1. 1
原 田 薫	加 藤 智 一 (県保健部長)	51. 7. 21
坂 江 忠 二		
七 条 達 夫		
高 木 末 人	昭和53年8月11日、長崎市	グランドホテル
村 中 茂 夫	会長 本 多 大 一	
佐 藤 達 夫	委員 松 下 久 道 (九大名誉教授)	
松 園 嘉 定	吉 川 恭 三 (京大理学部教授)	
小 川 良 治	杉 井 通 泰 (長大薬学部教授)	
	宇 宿 マサ子 (県会議員)	

宮崎 忠 夫 (島原市長)
 桑戸 昌 丸 (小浜町長)
 原田 薫 (勝本町長)
 坂江 忠 二 (玉之浦町長)
 七条 達 夫 (雲仙旅館業組合長)
 高木 末 八 (小浜旅館業組合長)
 村中 茂 夫 (島原旅館業組合長 (欠))
 原田 諄 (県環境部長)
 柴田 芳 男 (県経済部長)
 加藤 智 一 (県保健部長)

昭和55年2月28日、長崎市 グランドホテル

会長 本 多 大 一
 委員 宇 宿 マサ子
 宮崎 忠 夫
 桑戸 昌 丸
 原田 薫
 坂江 忠 二
 七条 達 夫
 村中 茂 夫
 伊藤 昭 六 (県環境部長)
 欠 席
 松 下 久 道 野 田 郷
 吉 川 恭 三 加 藤 智 一
 杉 井 通 泰

昭和56年3月、書類審議

会長 本 多 大 一 任期58. 10. 14
 委員 吉 川 恭 三 (京大理学部教授)
 杉 井 通 泰 (長大薬学部教授) 56. 6. 20
 松 尾 武 彦 (県会議員)
 鐘ヶ江 管 一 (島原市長) 59. 2
 桑 戸 昌 丸 (小浜町長) 58. 10. 14
 原 田 薫 (勝本町長) 58. 10. 14
 坂 江 忠 二 (玉之浦町長) 58. 10. 14
 七 条 達 夫 (雲仙観光協会長) 58. 10. 14
 柿 川 秀 義 (小浜旅館組合長) 58. 3. 31
 村 中 茂 夫 (島原旅館組合長) 58. 10. 14
 伊 藤 昭 六 (環境部長)
 川 嶋 望 (保健部長)
 野 田 郷 (経済部長)

昭和56年11月17日、
 長崎市 ハーバーインナガサキ

昭和57年9月1日

委員 太 田 一 也 (九大島原火山観測所助教授)
 杉 井 通 泰 (長大薬学部教授)
 七 条 達 夫 (雲仙観光協会長)
 柿 川 秀 義 (小浜旅館組合長)
 村 中 茂 夫 (島原旅館組合長)
 高 原 順 子 (県小浜保健所長)
 本 多 繁 希 (県会議員)
 寺 田 精 介 (県衛生公害研究所長)
 鐘ヶ江 管 一 (島原市長)
 桑 戸 昌 丸 (小浜町長)
 原 田 薫 (勝本町長)
 松 尾 常 盤 (県環境部長)
 川 嶋 望 (県保健部長)
 野 田 郷 (県経済部長)

昭和58年9月

委員 七 條 達 夫 (雲仙観光協会長)
 杉 井 通 泰 (長大薬学部教授)
 太 田 一 也 (九大理学部附属島原火山観測所
 助教授)
 柿 川 秀 義 (小浜旅館組合長)
 鐘ヶ江 管 一 (島原市長)
 草 野 壬 二 郎 (小浜町長)
 宗 長 三 (玉之浦町長)
 高 原 順 子 (長崎県大村保健所長)
 寺 田 精 介 (長崎県衛生公害研究所長)
 原 田 薫 (勝本町長)
 村 中 茂 夫 (島原旅館組合長)
 村 山 一 正 (県会議員)
 松 尾 常 盤 (環境部長)
 川 嶋 望 (保健部長)
 野 田 卿 (経済部長)

昭和60年11月

会 長 七 條 達 夫 (櫛九州ホテル 代表取締役社長)
 会長代理 杉 井 通 泰 (長崎大学薬学部教授)
 委 員 太 田 一 也

(九大理学部附属島原地震火山観測所教授)

鐘ヶ江 管 一 (島原市長)
 鎌 田 泰 彦 (長崎大学教育学部教授)
 草 野 壬二郎 (小浜町長)
 宗 長 三 (玉之浦町長)
 高 原 順 子 (長崎県大村保健所長)
 多 田 幸 夫 (長崎県議会厚生委員会副委員長)
 菅 田 一 郎 (勝本町長)
 寺 田 精 介 (長崎県総合保健センター常務理事)
 馬 渡 孝 一 (小浜旅館組合長)
 村 中 勝 美 (島原旅館組合長)

昭和61年4月

会 長 寺 田 精 介 (長崎県総合保健センター)
 会長代理 太 田 一 也

(九大理学部附属島原地震火山観測所教授)

委 員 鐘ヶ江 管 一 (島原市長)
 鎌 田 泰 彦 (長崎大学教育学部教授)
 草 野 壬二郎 (小浜町長)
 宗 長 三 (玉之浦町長)
 高 原 順 子 (長崎県大村保健所長)
 菅 田 一 郎 (勝本町長)
 馬 渡 孝 一 (小浜旅館組合長)
 三 浦 博 史 (長崎大学薬学部助教授)
 宮 崎 幸 康 (雲仙観光協会長)
 村 中 勝 美 (島原旅館組合長)

昭和62年9月

会 長 太 田 一 也

(九州大学理学部附属島原地震火山観測所教授)

会長代理 高 原 順 子 (長崎県大村保健所長)
 委 員 鎌 田 泰 彦 (長崎大学教授教育学部)
 三 浦 博 史 (長崎大学助教授薬学部)
 八 並 信 (八並整形外科医院々長)
 宮 崎 幸 康 (雲仙観光協会々長)
 馬 渡 孝 一 (小浜旅館組合長)
 高 橋 安 人 (医療法人宏善会理事)
 鐘ヶ江 管 一 (島原市長)
 宗 長 三 (玉之浦町長)

昭和63年7月

会 長 太 田 一 也

(九州大学理学部附属島原地震火山観測所教授)

会長代理 高 原 順 子 (長崎県大村保健所長)
 委 員 鎌 田 泰 彦 (長崎大学教授教育学部)
 三 浦 博 史 (長崎大学助教授薬学部)
 八 並 信 (八並整形外科医院々長)
 宮 崎 幸 康 (雲仙観光協会々長)
 馬 渡 孝 一 (小浜旅館組合長)
 高 橋 安 人 (医療法人宏善会理事)
 鐘ヶ江 管 一 (島原市長)
 宗 長 三 (玉之浦町長)

平成元年3月

会 長 太 田 一 也

(九州大学理学部附属島原地震火山観測所教授)

会長代理 高 原 順 子 (長崎県大村保健所長)
 委 員 鎌 田 泰 彦 (長崎大学教授教育学部)
 三 浦 博 史 (長崎大学助教授薬学部)
 八 並 信 (八並整形外科医院々長)
 宮 崎 幸 康 (雲仙観光協会々長)
 馬 渡 孝 一 (小浜旅館組合長)
 高 橋 安 人 (医療法人宏善会理事)
 鐘ヶ江 管 一 (島原市長)
 宗 長 三 (玉之浦町長)

1991年（平成3年）5月21日付、温泉法と自然環境保全法の一部改正が行われた。従来、温泉法第19条で規定されていた都道府県温泉審議会は同法から削除さ自然環境保全法へ移された。そして翌年4月1日付で温泉審議会は長崎県自然環境保全審議の一部会として発足した。なお、長崎県温泉審議会条例は廃止された。

自然環境保全法

第51条 都道府県に、都道府県自然環境保全審議会を置く。

2 都道府県自然環境保全審議会は、鳥獣保護及狩猟に関する法律及び温泉法（昭和23年法律第二百五号）の規定によりその権限に属させられた事項を調査審議するほか、都道府県知事の諮問に応じ、当該都道府県における自然環境の保全に関する重要事項を調査審議する。

3 （略）

長崎県自然環境保全審議会委員（平成4年4月）

区 分	氏 名	職 業	所 属 部 会			
			環境	公園	鳥獣	温泉
会 長	伊 藤 秀 三	長崎大学教授	○	◎		
委 員	太 田 一 也	九州大学教授		○		◎
〃	柿 田 周 造	長崎県野鳥の会々長	○		□	
〃	鎌 田 泰 彦	長崎大学名誉教授	◎			○
〃	兼 松 仁 郎	長崎総合科学大学教授	□	○	○	
会長代理	佐 藤 達 夫	元佐世保商工会議所専務理事		○	◎	
委 員	道 津 喜 衛	長崎大学名誉教授		□		
〃	中 尾 勘 悟	会社顧問		○		
〃	三 浦 博 史	長崎大学助教授				○
〃	八 並 信	八並整形外科医院院長				○
〃	高 橋 安 人	医療法人宏善会理事				○
〃	緒 方 秀 隆	長崎県農協中央会々長	○		○	
〃	久 田 義 春	長崎県森林組合連合会々長		○	○	
〃	松 田 靖 一	長崎県観光連盟会長		○		
〃	横 尾 秀 典	長崎県猟友会々長			○	
〃	秀 島 庄 平	長崎県警察本部防犯部長			○	
〃	高 原 順 子	長崎県諫早保健所長				□
〃	棧 熊 獅	長崎県自然公園協議会々長		○		
〃	七 條 健	雲仙観光協会会長				○
〃	馬 渡 孝 一	小浜旅館組合長				○
〃	藤 原 義 治	若松町長（五島町村会長）	○	○	○	
〃	松 尾 常 盤	波佐見町長				○
〃	宗 長 三	玉之浦町長				○
〃	赤 土 攻	阿蘇くじゅう国立公園管理事務所長		○		
〃	山 田 栄 司	九州農政局長	○	○	○	
〃	玉 川 佐久良	熊本営業林局長	○	○	○	
〃	長 藤 史 郎	九州通商産業局長	○	○		
〃	藤 川 寛 之	九州地方建設局長	○	○		
	計 28 名	◎-一部会長、□-一部会長代理	10	15	10	10

任期2年（平成3年9月5日～平成5年9月4日）*温泉部会は、平成4年4月1日～

長崎県自然環境保全審議会委員 任期2年(平成5年9月5日~平成7年9月4日)

区 分	氏 名	職 業	所 属 部 会				備 考	
			環境	公園	鳥瞰	温泉		
会 長	伊 藤 秀 三	長崎大学教授	○	◎			再任	学識経験者(植物)
委 員	太 田 一 也	九州大学教授		○		◎	〃	学識経験者(地質)
〃	柿 田 周 造	長崎県野鳥の会々長	○		□		〃	学識経験者(野鳥)
〃	鎌 田 泰 彦	長崎大学名誉教授	◎			○	〃	学識経験者(地質)
〃	兼 松 仁 郎	長崎総合科学大学教授	□	○	○		〃	学識経験者(動物)
会長代理	佐 藤 達 夫	元佐世保商工会議所専務理事		○	◎		〃	学 識 経 験 者 (環 境 行 政)
委 員	伊 藤 昭 六	エフエム長崎(株)社長		□	○		新任	学 識 経 験 者 (環 境 行 政)
〃	夏 刈 豊	長崎大学教授		○			新任	学識経験者(水産)
〃	中 尾 勘 悟	会社顧問		○			再任	学識経験者(山岳)
〃	三 浦 博 史	長崎大学助教授				○	〃	学識経験者(薬学)
〃	八 並 信	八並整形外科医院院長				○	〃	学識経験者(医療)
〃	高 橋 安 人	医療法人宏善会理事				○	再任	学識経験者(医療)
〃	井 口 清 人	長崎県農協中央会々長	○		○		〃	(関 係 団 体)
〃	久 田 義 春	長崎県森林組合連合会々長		○	○		〃	(関 係 団 体)
〃	平 井 譲 介	長崎県観光連盟会長		○			〃	(関 係 団 体)
〃	横 尾 秀 典	長崎県猟友会々長			○		〃	(関 係 団 体)
〃	水 上 精 治	長崎県警察本部防犯部長			○		〃	(県 の 機 関)
〃	高 原 順 子	長崎県諫早保健所長				□	〃	(県 の 機 関)
〃	棧 熊 獅	長崎県自然公園協議会々長		○			〃	(関 係 団 体)
〃	七 條 健	雲仙観光協会会長				○	〃	(関 係 団 体)
〃	馬 渡 孝 一	小浜旅館組合長				○	〃	(関 係 団 体)
〃	池 田 優	東彼杵町長(東彼町村会長)	○	○	○		新任	(町村長代表)
〃	松 尾 常 盤	波佐見町長				○	再任	(町村長代表)
〃	宗 長 三	玉之浦町長				○	〃	(町村長代表)
〃	先 名 征 司	阿蘇くじゅう国立公園管理事務所長		○			〃	(国 の 機 関)
〃	岩 村 信	九州農政局長	○	○	○		〃	(国 の 機 関)
〃	田 中 正 則	熊本営林局長	○	○	○		〃	(国 の 機 関)
〃	水 谷 四 郎	九州通商産業局長	○	○			〃	(国 の 機 関)
〃	荒 牧 英 城	九州地方建設局長	○	○			〃	(国 の 機 関)
	計29名(定数35)	◎部会長 □部会長代理	10	16	11	10		

Ⅲ 長崎県自然環境保全審議会関係法令

〔Law and Regulation of Nagasaki Prefecture Natural Environment Conservation Council〕

自然環境保全法

昭和47年6月22日号外

法律第85号

〔総理・法務・農林・自治大臣署名〕

沿革

昭和48年9月1日法律第73号〔自然公園法及び自然環境保全法の一部を改正する法律2条による改正〕

昭和53年7月5日号外法律第87号〔農林省設置法の一部を改正する法律附則12条による改正〕

昭和62年6月2日号外法律第58号〔絶滅のおそれのある野生動植物の譲渡の規制等に関する法律附則2項による改正〕

平成2年6月5日号外法律第26号〔自然環境保全法等の一部を改正する法律1条による改正〕

平成3年5月21日号外法律第79号〔行政事務に関する国と地方の関係等の整理及び合理化に関する法律34条による改正〕

平成4年6月5日号外法律第75号〔絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律附則9・10条による改正〕

平成5年11月19日号外法律第92号〔環境基本法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律5条による改正〕

自然環境保全法をここに公布する。

自然環境保全法

目 次

第1章 総則（第1条－第11条）

第2章 自然環境保全基本方針及び自然環境保全審議会（第12条・第13条）

第3章 原生自然環境保全地域

第1節 指定等（第14条－第16条）

第2節 保全（第17条－第21条）

第4章 自然環境保全地域

第1節 指定等（第22条－第24条）

第2節 保全（第25条－第30条）

第3節 雑則（第31条－第35条）

第5章 雑則（第36条－第44条）

第6章 都道府県自然環境保全地域及び都道府県自然環境保全審議会（第45条－第51条）

第7章 補則（第52条）

第8章 罰則（第53条－第58条）

附則〔1条－9条〕

第1章 総 則

（目 的）

第1条 この法律は、自然公園法（昭和32年法律第161号）その他の自然環境の保全を目的とする法律と相まって、自然環境を保全することが特に必要な区域等の自然環境の適切な保全を総合的に推進することにより、広く国民が自然環境の恵沢を享受するとともに、将来の国民にこれを継承できるようにし、もって現在及び将来に国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

本条……一部改正〔平成5年11月法律92号〕

(国等の責務)

第2条 国、地方公共団体、事業者及び国民は、環境基本法（平成5年法律第91号）第3条から第5条までに定める環境の保全についての基本理念にのっとり、自然環境の適正な保全が図られるように、それぞれの立場において努めなければならない。

本条……全部改正〔平成5年11月法律92号〕

(財産権の尊重及び他の公益との調整)

第3条 自然環境の保全に当たっては、関係者の所有権その他の財産権を尊重するとともに、国土の保全その他の公益との調整に留意しなければならない。

(基礎調査の実施)

第4条 国は、おおむね5年ごとに地形、地質、植生及び野生動物に関する調査その他自然環境の保全のために講ずべき施策の策定に必要な基礎調査を行うよう努めるものとする。

本条……一部改正・旧5条……繰上〔平成5年11月法律92号〕

(地域開発施策等における配慮)

第5条 国は、地域の開発及び整備その他の自然環境に影響を及ぼすと認められる施策の策定及びその実施に当たっては、自然環境の適正な保全について配慮しなければならない。

本条……追加〔平成5年11月法律92号〕

第6条から第11条まで 削除〔平成5年11月法律92号〕

第2章 自然環境保全基本方針及び自然環境保全審議会

(自然環境保全基本方針)

第12条 国は、自然環境の保全を図るための基本方針（以下「自然環境保全基本方針」という。）を定めなければならない。

2 自然環境保全基本方針には、次の各号に掲げる事項を定めるものとする。

- 一 自然環境の保全に関する基本構想
- 二 原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域の指定その他これらの地域に係る自然環境の保全に関する施策に関する基本的な事項
- 三 都道府県自然環境保全地域の指定の基準その他その地域に係る自然環境の保全に関する施策の基準に関する基本的な事項
- 四 前3号に掲げるもののほか、前2号に掲げる地域と自然公園法その他の自然環境の保全を目的とする法律に基づく地域との調整に関する基本方針その他自然環境の保全に関する重要事項

3 内閣総理大臣は、自然環境保全基本方針の案を作成して、閣議の決定を求めなければならない。

4 内閣総理大臣は、自然環境保全基本方針の案を作成する場合には、あらかじめ、自然環境保全審議会の意見をきかなければならない。

5 内閣総理大臣は、第3項の規定による閣議の決定があったときは、遅滞なく、自然環境保全基本方針を公表しなければならない。

6 前3項の規定は、自然環境保全基本方針の変更について準用する。

註 1項の「定め」=自然環境保全基本方針

(自然環境保全審議会)

第13条 環境庁に、自然環境保全審議会を置く。

2 自然環境保全審議会（以下この条において「審議会」という。）は、この法律、自然公園法、鳥獣保護及狩猟ニ関

スル法律（大正7年法律第32号）及び絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）の規定によりその権限に属させられた事項を調査審議するほか、環境庁長官又は関係保全地域における自然環境の保全のための規制又は施設に関する計画をいう。以下同じ。）は、環境庁長官が関係都道府県知事及び自然環境保全審議会の意見をきいて決定する。

3 環境庁長官は、原生自然環境保全地域に関する保全計画を決定したときは、その概要を公示しなければならない。

4 前2項の規定は、原生自然環境保全地域に関する保全計画の廃止及び変更について準用する。

（都道府県自然環境保全審議会）

第51条 都道府県に、都道府県自然環境保全審議会を置く。

2 都道府県自然環境保全審議会は、鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律及び温泉法（昭和23年法律125号）の規定によりその権限に属させられた事項を調査審議するほか、都道府県知事の諮問に応じ、当該都道府県における自然環境の保全に関する重要事項を調査審議する。

3 都道府県自然環境保全審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、都道府県の条例で定める。

2項…一部改正〔平成3年5月法律79号〕温泉に関する審議事項の追加

長崎県自然環境保全条例

昭和48年7月13日 長崎県条例第53号

改正 昭和48年10月8日条例第58号、平成4年3月30日条例第39号

長崎県自然環境保全条例をここに公布する。

長崎県自然環境保全条例

第1章 総 則

(目的)

第1条 この条例は、自然環境の保全に関し、必要な事項を定めることにより、自然環境保全法（昭和47年法律第85号）その他自然環境の保全を目的とする法令と相まって、自然環境の適正な保全を総合的に推進し、もって現在及び将来の県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(基本理念)

第2条 自然環境の保全は、自然環境が人間の健康で文化的な生活に欠くことのできないものであることにかんがみ、広く県民がその恵沢を享受するとともに、将来の県民に自然環境を継承することができるよう適正に行なわなければならない。

(財産権の尊重及び他の公益との調整)

第3条 自然環境の保全に当たっては、関係者の所有権その他の財産権を尊重するとともに、県土の保全その他の公益との調整に留意しなければならない。

(県の責務)

第4条 県は、自然環境を適正に保全するための基本的かつ総合的な施策を策定し、及びこれを実施する責務を有する。

(基礎調査等の実施)

第5条 県は、地形、地質、植生及び野生動物に関する調査その他自然環境の保全のために講ずべき施策の策定に必要な基礎調査を実施するとともに、自然環境の保全に関する試験研究を行なうよう努めるものとする。

(県民の理解を深めるための措置等)

第6条 県は、教育活動、広報活動等を通じて、自然環境の保全に関する知識の普及及び思想の高揚を図るとともに自然環境の保全について県民の自主的な活動の助長に努めるものとする。

(地域開発施策等における配慮)

第7条 県は、地域の開発及び整備その他の自然環境に影響を及ぼすと認められる施策の策定及びその実施に当たっては、自然環境の適正な保全について配慮しなければならない。

(市町村の責務)

第8条 市町村は、国及び県の自然環境の保全に関する施策に協力するとともに、当該市町村の区域の自然的社会的諸条件に応じて自然環境を適正に保全するための施策を策定し、及びこれを実施する責務を有する。

(事業者の責務)

第9条 事業者は、その事業活動の実施に当たって自然環境が適正に保全されるよう必要な措置を講ずるとともに、国、県及び市町村が実施する自然環境の保全に関する施策に協力しなければならない。

(県民の責務)

第10条 県民は、自然環境が適正に保全されるよう自ら努めるとともに、国、県及び市町村が実施する自然環境の保全に関する施策に協力しなければならない。

第2章 長崎県自然環境保全基本方針

(長崎県自然環境保全基本方針)

第11条 知事は、自然環境の保全を図るための基本方針（以下「県自然環境保全基本方針」という。）を定めなければならない。

2 県自然環境保全基本方針には、次の各号に掲げる事項を定めるものとする。

一 自然環境の保全に関する基本構想

二 県自然環境保全地域及び緑地環境保全地域の指定その他これらの地域に係る自然環境の保全のための施策に関する基本的な事項

三 その他自然環境の保全に関する重要な事項

3 知事は、県自然環境保全基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、長崎県自然環境保全審議会の意見をきかなければならない。

4 知事は、県自然環境保全基本方針を定めたときは、遅滞なくこれを公告しなければならない。

5 前2項の規定は、県自然環境保全基本方針の変更について準用する。

第3章 長崎県自然環境保全審議会

（組織）

第12条 長崎県自然環境保全審議会（以下「審議会」という。）は、委員35人以内で組織する。

2 委員は、学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから、知事が任命する。

（委員の任期）

第13条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（会長）

第14条 審議会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第15条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（部会）

第16条 審議会は、必要に応じその所掌事務について、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長を置き、その部会に属する委員の互選によってこれを定める。

4 部会長は、部会の事務を掌理する。

5 部会長に事故があるときは、部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

6 審議会は、その定めるところにより、部会の決議をもって審議会の決議とすることができる。

（専門調査員）

第17条 審議会に、専門の事項を調査するため必要があるときは、専門調査員を置くことができる。

2 専門調査員は、学識経験のある者の中から、知事が任命する。

3 専門調査員は、当該専門の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。

以下省略

長崎県自然環境保全審議会会則

(趣 旨)

第1条 この会則は、長崎県自然環境保全条例（昭和48年長崎県条例第53号）第3章の規定に基づく長崎県自然環境保全審議会（以下「審議会」という。）の運営等について、必要な事項を定めるものとする。

(部会の設定)

第2条 審議会に次の部会を置く。

- (1) 自然環境部会
- (2) 自然公園部会
- (3) 鳥獣部会
- (4) 温泉部会

(部会の会議)

第3条 部会の会議は会長が招集し、部会長が議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 4 部会には、必要に応じ他の部会の委員の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(審 議)

第4条 部会で審議する事項は、次のとおりとする。

- (1) 自然環境部会は、長崎県自然環境保全条例に基づく県自然環境保全地域並びに緑地環境保全地域の指定、解除及び区域の変更、保全計画の決定、廃止及び変更、その他重要事項について審議する。
 - (2) 自然公園部会は、自然公園法に基づく国定公園計画の決定並びに長崎県立自然公園条例に基づく県立自然公園の指定、解除及び区域の変更、公園計画の決定、その他重要事項について審議する。
 - (3) 鳥獣部会は、鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律に基づく鳥獣保護事業計画の策定及び変更、狩猟鳥獣の捕獲禁止又は制限、鳥獣保護区の設定変更及び廃止、特別保護地区の指定、変更及び廃止、その他鳥獣の保護及び狩猟に関する重要事項について審議する。
 - (4) 温泉部会は、温泉法に基づく温泉ゆう出目的の土地掘削、増掘、動力装置の許可、不許可、許可の取消、公益上必要な措置命令並びに温泉採取制限命令、その他重要事項について審議する。
- 3 前各号のうち特に必要と認める事項については、審議会で審議するものとする。

(決 議)

第5条 部会における決議は、審議会の決議とする。

(報 告)

第6条 部会長は、部会開催の都度、決議事項等につき会長に報告するものとする。

(庶 務)

第7条 審議会の庶務は、県保健環境部自然保護課において処理する。

(雑 則)

第8条 前各号に定めるもののほか、必要な事項は会長が審議会に諮って定める。

(附 則)

- 1 この会則は、昭和48年9月14日から施行する。
- 2 この会則は、平成4年4月1日から施行する。

審議会における審議事項一覧表

部会	根拠法令	審議会での審議事項	部会での審議事項
自然環境部会	長崎県自然環境保全条例	県自然環境保全基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・県自然環境保全地域の指定、解除及び区域の変更 ・緑地環境保全地域の指定、解除及び区域の変更 ・保全計画の決定、変更及び廃止
自然公園部会	自然公園法		<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園計画の決定
	長崎県立自然公園条例		<ul style="list-style-type: none"> ・県立自然公園の指定及び解除並びに区域の変更 ・公園計画の決定
鳥獣部会	鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律		<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣保護事業計画の策定並びに変更 ・狩猟鳥獣の捕獲禁止又は制限 ・鳥獣保護区の設定、変更及び廃止、特別保護地区の指定、変更及び廃止 ・鳥獣の保護及び狩猟に関する重要事項
温泉部会	温泉法		<ul style="list-style-type: none"> ・温泉ゆう出目的の土地掘削、増掘、動力装置の許可、不許可、許可の取消、公益上必要な措置命令並びに温泉採取制限命令

あ と が き

{ Post Script }

本誌は島原温泉誌に引続き保健環境部自然保護課の御高配により出版することが出来ました。田部課長、東元総括課長補佐及び実務を担当して戴いた白井総務係長に心から御礼申し上げます。また、温泉関係の各種資料について清水参事、川里課長補佐、磯永係長、山道技師に御協力を戴きました厚く御礼申し上げます。

県職員として「地域に役立つ研究」をと思い、昭和51年より長崎県温泉誌を編纂して来ました。県本土の雲仙、小浜、島原の各温泉誌を終り、離島編の第1部として「壱岐島・湯ノ本温泉、対馬の温泉」を完成させることが出来ました。前回の島原温泉誌発行は雲仙岳噴火災害中でありました。今回はその噴火が4年過ぎてようやく終りそうだとの時期となり降灰の下で執筆した者として時の流れを感じます。

壱岐の島は歴史豊かな国で魏志倭人伝に書かれた一支國の首都と見なされる原の辻遺跡が発掘されつつあります。その全貌が明らかになる時期に発掘現場を歩き、出土品に触れ、更に神宮皇后の伝説に耳をかたむけ、歴史の中の温泉地である湯ノ本温泉の様子を取まとめることが出来たのも人生の巡り合せでありましょう。

更に原稿切直前に、温泉が全く出なかった対馬で5,000mにも及ぶ厚い地層の対州層群(古第三紀漸新世泥岩質)の間隙をぬって美津島町が温泉掘削に成功した事が判明し、その経過を本誌に記載いたしました。本県で唯一の温泉がない地域の対馬でしたが、この朗報により地域が活性化し、また全県下に温泉があることになりました。そして、次は温泉誌離島編の第2部の五島・荒川温泉及び、その他の温泉を上梓し、長崎県温泉誌の大筋を終ることとなります。

本誌の編纂には、壱岐保健所岡本所長、松本総務課長、平田前総務課長、壱岐郷土館横山館長、勝本町山内課長補佐、湯ノ本温泉旅館の皆様、特別寄稿の中上史行氏、貴重な写真を提供いただいた原延一氏、各種資料を作成いただいた長谷川資洋氏、島の科学主宰林徳衛氏、壱岐文化社山本隆夫氏(昨年12月没)、水神社吉野六男宮司、県教育庁文化課、原の辻展示館、対馬美津島町企画課、㈱ニチボー長崎支店長の御協力を戴きました。厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、長期間に渉る当研究に対して深い御理解と御指導を戴いた歴代所長及び所員の皆様方に心からの御礼を申し上げますと共に今後とも御支援をお願いし筆を置くことに致します。

1995年(平成7年)3月 山口道雄

長崎県衛生公害研究所報 第38号

(平成6年度論文集)

1995年(平成7年)3月31日印刷・発行

編集・発行 長崎県衛生公害研究所

(〒852) 長崎市滑石1丁目9番5号

TEL 0958-56-8613, 56-9195

FAX 0958-57-3421

NAGASAKI-KEN EISEI KOGAI KENKYUSHO
9-5, NAMESHI 1-CHOME, NAGASAKI, JAPAN(PC852)

印刷 川口印刷株式会社

長崎市田中町1020-7

TEL 0958-38-2181

FAX 0958-39-5533